
2023年度 授業概要【文化交流学科】

科目コード:14101

科目ナンバリング:CC30A01K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):地球市民論(Introduction to Global Citizenship)

担当者:中山 健一

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜2限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:日本語

AL要素:05即時応答

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要: 現代世界のキーワードの1つに「多様性」というものがあります。私たちは多様性をいかに認識し、いかに生きるのか、講義では「人種」「民族」「多文化主義」などについて学びます。その後、現代日本のグローバル化を「人の移動」という観点から考えています。日本には、観光や短期滞在ではなく、ある程度長い間(場合によっては生涯)地域に住み、生活をしている外国人、および、外国とつながりのある人たちが多く存在します。茨城も例外ではありません。そういった人たちの現状を把握し、そして、真の意味での「多文化共生社会」を作っていくには、何が必要かを考えます。

キーワード: 地球市民 文化交流

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 地球市民としての自覚を持ち、自文化・異文化に対する理解を深める。

評価方法: レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 地球市民としての自覚を持ち、自文化・異文化に対する理解を深める。

評価方法:

レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 第1回 オリエンテーション

第2回 「人種」とはなにか

第3回 「民族」とはなにか

- 第4回 「多文化主義」とはなにか
- 第5回 小総括
- 第6回 現代日本のグローバル化と人の移動
- 第7回 日本国内に住む「外国人」の歴史(1)「在日」の人々
- 第8回 日本国内に住む「外国人」の歴史(2)中国帰国者
- 第9回 日本国内に住む「外国人」の歴史(3)インドシナ難民
- 第10回 日本国内に住む「外国人」の現在(1)難民などの受け入れ
- 第11回 日本国内に住む「外国人」の現在(2)労働者としての外国人
- 第12回 日本国内に住む「外国人」の現在(2)労働者としての外国人～最新の動向～
- 第13回 移民等に対する自国語教育～ヨーロッパの現状～
- 第14回 地域の外国人住民に対する日本語学習支援の現在～茨城県を中心に～
- 第15回 全体のまとめ

使用テキスト: ハンドアウトを配布。必要に応じて文献を指示する。

予習・復習のポイントと 授業で指示された課題は期日までに提出すること。

参考文献・資料等: 授業中に紹介した参考文献を読むこと。
世界の時事問題に関心を持つように心がけること。

障がいのある 可能な限り対応する。

履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー等で対応する。具体的なことは授業にて指示する。

留意事項: なし

科目コード: 14115

科目ナンバリング: CC40C01S

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Project)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次: 4

単位数: 6

授業形式: 卒業研究

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 卒業研究

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型
卒業研究

キーワード: 卒業研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 卒業研究

評価方法: 卒業研究

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 卒業研究

評価方法: 卒業研究

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

卒業研究

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

卒業研究

評価割合: 0%

▼公正性

卒業研究

評価割合:0%

▼その他

卒業研究

評価割合:卒業研究

授業計画: 卒業研究

使用テキスト: 卒業研究

予習・復習のポイントと 卒業研究

参考文献・資料等:

障がいのある 卒業研究

履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 卒業研究

留意事項: 卒業研究

科目コード:14115

科目ナンバリング:CC40C01S

主な使用言語:日本語|

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Project)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次:4

単位数:6

授業形式:演習

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: 15.レポート指導

授業の概要: 履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義や文献研究で学んだ知識を基に、自らの力で地域の社会問題を見出し、独自の視点で社会問題の本質を理解することができる。また、フィールドワークのノウハウを習得する。

評価方法: 卒業論文の作成

評価割合:50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会問題を多面的視点からとらえ、問題解決に向けた議論をすることができる。そのうえで、卒業論文にふさわしい、質の高い論文を作成することができる。

評価方法: 卒業論文の作成

評価割合:50%

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

-

評価割合:0%

▼公正性

-

評価割合:0%

▼その他

評価割合：-

授業計画： -

使用テキスト： -

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： -

障がいのある
履修者への対応： -

授業時間外の連絡手段： -

留意事項： -

科目コード：14115 科目ナンバリング：CC40C01S 主な使用言語：-

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：4 単位数：6 授業形式：-

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻：

関連資格： AL要素： -

授業の概要：履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： -

評価方法： - 評価割合：-

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： -

評価方法： - 評価割合：-

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合：-

▼実践的ボランティア

-

評価割合：-

▼公正性

-

評価割合：-

▼その他

-

評価割合：-

授業計画： -

使用テキスト： -

予習・復習のポイントと -
参考文献・資料等：

障がいのある -
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： -

留意事項： -

科目コード：14115 科目ナンバリング：CC40C01S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：4 単位数：6 授業形式：-

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻：

関連資格： AL要素：-

授業の概要：

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合： -

▼実践的ボランティア

-

評価割合： -

▼公正性

-

評価割合： -

▼その他

-

評価割合： -

授業計画： -

使用テキスト： -

予習・復習のポイントと -
参考文献・資料等：

障がいのある -
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： -

留意事項： -

科目コード：14115 科目ナンバリング：CC40C01S 主な使用言語：-

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

担当者：清水 博之

基本情報

年次：4 単位数：6 授業形式：-

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻：

関連資格： AL要素：-

授業の概要：履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合： -

▼実践的ボランティア

-

評価割合： -

▼公正性

-

評価割合： -

▼その他

-

評価割合： -

授業計画： -

使用テキスト： -

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： -

障がいのある
履修者への対応： -

授業時間外の連絡手段： -

留意事項： -

科目コード：14115 科目ナンバリング：CC40C01S 主な使用言語：-

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

授業の概要:

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード: -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: -

評価方法: -

評価割合: -

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: -

評価方法: -

評価割合: -

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合: -

▼実践的ボランティア

-

評価割合: -

▼公正性

-

評価割合: -

▼その他

-

評価割合: -

授業計画: -

使用テキスト: -

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:

障がいのある
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: -

留意事項: -

科目コード: 14115

科目ナンバリング: CC40C01S

主な使用言語: -

授業名(英文): 卒業研究(Graduation Project)

担当者: 中山 健一

基本情報

年次: 4

単位数: 6

授業形式: -

曜時: 前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素: -

授業の概要:

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合： -

▼実践的ボランティア

-

評価割合： -

▼公正性

-

評価割合： -

▼その他

-

評価割合： -

授業計画： -

使用テキスト： -

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：

障がいのある
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： -

留意事項： -

科目コード：14115

科目ナンバリング：CC40C01S

主な使用言語：-

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

担当者：藤野 真拳

基本情報

年次：4

単位数：6

授業形式：-

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素： -

授業の概要：履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード： -

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： -

評価方法： -

評価割合： -

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：-

評価方法：-

評価割合：-

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合：-

▼実践的ボランティア

-

評価割合：-

▼公正性

-

評価割合：-

▼その他

-

評価割合：-

授業計画：-

使用テキスト：-

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：-

障がいのある
履修者への対応：-

授業時間外の連絡手段：-

留意事項：-

科目コード：14115

科目ナンバリング：CC40C01S

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

担当者：細谷 瑞枝

基本情報

年次：4

単位数：6

授業形式：-

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：-

授業の概要：

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード：-

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：-

評価方法：-

評価割合：-

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：-

評価方法：-

評価割合：-

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合:-

▼実践的ボランティア

-

評価割合:-

▼公正性

-

評価割合:-

▼その他

-

評価割合:-

授業計画: -

使用テキスト: -

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:

障がいのある
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: -

留意事項: -

科目コード:14115 科目ナンバリング:CC40C01S 主な使用言語:日本語

授業名(英文):卒業研究(Graduation Project)

担当者:堀口 悟

基本情報

年次:4

単位数:6

授業形式:演習

曜時:前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻:

関連資格:

AL要素:07発表

10史料調査課題

11討論

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要: 日本の伝統的な文化を中心に担当者と学生とが相談の上でテーマを定め、一年間かけて研究します。

※ご参考に、研究テーマ例を少しあげてみます。

相撲の文化史、比較神話、茶道、華道、日本文学、日本の食文化、日中食文化比較、ひな人形、花火、

風呂と温泉、韓服と和服、日本の庭、三線楽器の系譜と変遷、日本と韓国の婚姻比較

キーワード: 日本文化、日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 新説を提示することを目標とする。

評価方法: 論文のレベルによる

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 論文に現れなかった思考力・判断力・表現力・努力を加味する。

評価方法: 授業中の討論と期末レポートによる **評価割合:** 15%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究態度。

評価割合: 5%

▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合: 0%

▼公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻は、「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合: 遅刻は、「学修に取り組む態度」か

- 授業計画:**
- 1 テーマ確認
 - 2 卒業研究とは(1)
 - 3 卒業研究とは(2)
 - 4 卒業研究調査計画
 - 5 卒業研究執筆計画
 - 6 参考文献調査法(1)
 - 7 参考文献調査法(2)
 - 8 参考文献調査実習
 - 9 研究対象の読み(1)
 - 10 研究対象の読み(2)
 - 11 研究エリアの確定
 - 12 参考文献の読み方(1)
 - 13 参考文献の読み方(2)
 - 14 前期のまとめ
 - 15 夏休みの研究計画
 - 16 図書館調査法(1)
 - 17 図書館調査法(2)
 - 18 論文の構成(1)
 - 19 論文の構成(2)
 - 20 論文の冒頭
 - 21 本文と引用文
 - 22 注と参考文献
 - 23 序文の書き方
 - 24 論文の展開法(1)
 - 25 論文の展開法(2)
 - 26 結論への階梯(1)
 - 27 結論への階梯(2)
 - 28 その後の展開
 - 29 論文提出法
 - 30 後期のまとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと 指導中に適宜指示する。

参考文献・資料等：

障がいのある できる限り対応する。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の最初に公開する。

留意事項： 卒業研究履修者が堀口の文化論演習を履修している場合とそうでない場合とが考えられるので、授業形態等は、履修者と相談して、可能な限り臨機応変の措置を講ずる。

科目コード：14115 科目ナンバリング：CC40C01S 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：卒業研究(Graduation Project)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：4 単位数：6 授業形式：-

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義) 履修可能学科・専攻：

関連資格： AL要素：-

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)および課題研究。

履修要覧『卒業研究規程』該当ページを参照のこと。

キーワード：-

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：-

評価方法：-

評価割合：-

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：-

評価方法：-

評価割合：-

▼学修に主体的に取り組む態度

-

評価割合：-

▼実践的ボランティア

-

評価割合：-

▼公正性

-

評価割合：-

▼その他

-

評価割合：-

授業計画：-

使用テキスト：-

予習・復習のポイントと -

参考文献・資料等：

障がいのある
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: -

留意事項: -

科目コード: 14117 科目ナンバリング: CC10C03J 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 文化交流体験A(Experience in Cultural Exchange A)

担当者: 志賀 市子、鈴木 晋介

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 実習

曜時: 集中講義

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 発表、実地調査、討論

授業の概要: 今年の文化交流体験は、鹿児島県・与論島での体験学習を中心に、経由地の沖縄での聖地見学などを含めた研修旅行を計画しています。

与論島、沖縄を目的地として選んだのは、第一に与論島ではエコツアーガイド連絡協議会に所属する資格を持ったエコツアーガイドが中心となって多様な異文化体験学習のプログラムを提供していることがあります。そうしたプログラムは、単なる観光ツアーではなく、現地の歴史、文化、環境を現地の人々から学ぶことができるように工夫されています。第二に与論島は本学科の清水博之先生を始めとして、多くの民俗研究者が長年調査を行ってきたところであり、こうした民俗学研究者のネットワークを介して島内の村でフィールドワークを行うことが可能であるという点があります。第三に、与論島と沖縄は海外からの観光客も多く、コロナ禍が収束しつつある中で、日本の観光産業がインバウンド需要をいかに回復しようと模索しているのかを実地に学ぶことができます。

日程は未定ですが、2024年2月後半の1週間程度を予定しています。前期初めに説明会を行いますので、希望者は必ず参加し、履修申告をしてください。

キーワード: 与論島、沖縄、離島の歴史と文化、観光、エコツアー、民俗学、フィールドワーク、文化交流

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ①与論島、沖縄の文化の体験学習を通じて、日本の南方文化への理解を深める。
②体験プログラムや村でのフィールドワーク(村民への聞き取り調査など)を通して、アクティブな学びを体験する。

評価方法: 発表・レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 与論島で新しい試みとして行われているエコツアーや観光客参加型のボランティア活動などに積極的に参加し、人々の暮らしやその地に根付いている文化を理解・俯瞰できる知見を養う。
与論島内の人々と様々な交流の機会を自らが率先して企画・運営できる。

評価方法: 発表・レポート

評価割合: 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

課題の発表やレポートの執筆を通して、自ら問いを発見し、解決の方法を模索することができる。積極的に現地の人々と交流できる。そうした態度を高く評価する。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

教師の指示を待たずに、自ら問題を発見し、解決の方法を探る態度。また自らフィールドワークを計画し、

現地の人々と積極的に交流しようとする態度を評価の対象とする。

評価割合：10%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者や現地の人々、また他のツアー参加者に対して、公正な観点を以て対応することが求められる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 与論島の歴史と文化①
 - 第3回 与論島の歴史と文化②
 - 第4回 与論島の人々オンラインで現地の人々と話してみよう
 - 第5回 演習形式での発表
 - 第6回 演習形式での発表
 - 第7回 演習形式での発表
 - 第8回 与論島での実習1
 - 第9回 与論島での実習2
 - 第10回 与論島での実習3
 - 第11回 与論島での実習5
 - 第13回 沖縄での実習6
 - 第14回 沖縄での実習7
 - 第15回 まとめ

使用テキスト： 授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 鹿児島県の離島や沖縄の歴史と文化について、書籍や論文や新聞記事などを通して、事前に調査・研究しておくこと。現地での活動は、エコツアーへの参加、村でのフィールドワークなど、いくつかの選択肢がある。ただ何となく参加するのではなく、訪問先の情報をインターネットやガイドブックなどで自分で調べ、自分がこの研修を通して何を学びたいのかを十分考えて参加してほしい。また旅の注意点や問題点、問題解決の方法などの情報を得ておくこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 個別に連絡してください。

留意事項： 国内であっても、旅は常に危険が伴います。その危険を回避するために、教員から注意事項を種々提示します。それらを守れない、守れそうもない学生には、実習への参加を認めない場合があります。事前の授業は必ず参加してください。前期の説明会には必ず参加すること。ユニパで案内をしますので、見落とさないようにしてください。

科目コード：14118 科目ナンバリング：CC30C08K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：観光学(Introduction to Tourism)

担当者：何 晨

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：発問と回答

授業の概要： コロナ禍が収まらない現在、観光産業は厳しい状況にある。しかし観光産業が無くなることはない。ポストコロナ時代には、観光産業は新しい形で拡大していきだろう。また、観光産業は地域活性化などにおいても重要なツールである。

観光学とは、観光産業を地理学、歴史学、経済学などの幅広い視点から捉える、学際的な学問である。

本講義では、観光学の定義および観光要素を系統的に学習したうえで、観光学の基礎を固めいく。その上で、アジアとヨーロッパを代表する大都市を取り上げ、1) 当該地域の歴史・文化資源および自然資源の整理、2) 観光化のプロセス、3) 地域における都市観光の貢献と課題を、学際的な視点から学ぶ。最後に、地方創生において都市観光が果たし得る役割を検討していく。

キーワード： 観光学, 事例研究, インバウンド, 地域創生

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた観光学に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合： 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合： 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合： 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 直接的な評価対象とはしない。

授業計画：

1. ガイダンス、および観光学の概要紹介
2. 観光学の定義と都市観光の重要性
3. アジアの都市観光①北京市の概要と什刹海の水辺観光
4. アジアの都市観光②北京市什刹海の胡同観光
5. アジアの都市観光③上海市の概要と田子坊
6. アジアの都市観光④江戸の変遷と東京の都市観光
7. ヨーロッパの自然と建築様式
8. ヨーロッパの都市観光ーパリ市の概要と街並み
9. ヨーロッパの都市観光ー中世のパリと近代遺産の保護運動
10. グリーンツーリズムの定義およびイギリスの事例研究

11. エディンバラの歴史と観光による都市再開発
12. 観光開発による都市再生(イギリスと日本の事例)
13. 新たな観光の一形態:バックパッカーによる中国元陽の観光開発
14. 日本におけるインバウンドの現状と諸問題
15. 地域創生における観光の役割

使用テキスト: [使用テキスト]

・特になし

[参考書]

・溝尾良隆著『観光学-基本と実践-』(古今書院)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 1時間程度、授業に関する内容を事前に調べる。(地図で観光地の位置の確認、基礎データの調査など。)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー時間中に対応します。

留意事項: 「旅行業務取扱管理者」資格取得を目指す学生は、観光関連の授業を幅広く受講して下さい。

科目コード: 14120

科目ナンバリング: CC30C04K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 国際協力(International Cooperation)

担当者: 宮崎 晶子

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 日本語

AL要素: 16.質疑と応答

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】遠隔授業(オンデマンド型)および課題研究。

日本は先進国の一員として数多くの国々に対し援助・協力を行ってきた。しかし、日本人がそのことを十分に考慮し、自らの意見を持っているとは言い難い。本講義では、国際協力の枠組みを理解するとともにその課題と問題点を学び、日本人による国際協力の在り方、また外国との接し方について考える。

キーワード: 国際協力、NGOとODA、発展途上国

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 戦後賠償を超えた国際協力の在り方を考えられる人間になる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 隣人のためにできること
 2. NGOとODA
 3. JICAの試みと問題点
 4. 文化協力—住民と文化遺産—
 5. カンボジアの内戦とPKO
 6. 「地雷を踏んだらサヨウナラ」—開発と格差—
 7. 保健・医療協力
 8. 文字が読めるということ
 9. 環境協力
 10. 食糧問題
 11. ジェンダーと開発—グラミン銀行の試み—
 12. 身近な格差と多文化共生
 13. 私たちにできる国際協力
 14. 明日何を買いに行く？
 15. まとめ

使用テキスト：講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと 課題は出さないが、常に途上国と先進国の状況に関心を持つこと。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：14121

科目ナンバリング：CC30C12E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：観光英語(English in Tourism)

担当者：何 晨

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要：外国の皆さんとの交流の場において、英語は重要なコミュニケーション手段です。なかでも、異文化交流が重要な観光業において、英語は切っても切り離せません。「観光英語」という言葉を初めて聞く人も多いでしょう。観光英語とはいわゆるビジネス英語の一部であり、観光業界の専門用語や独特の言い回しなど、観光業務の遂行や海外旅行で必須となる、専門の英語を意味します。観光業界が急成長する中で、観光英語を習得した人材が広く求められています。観光英語に関する有力な資格として、文部科学省認定の観光英語検定があげられます。

●1級：国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力

- 2級:主として海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ観光英語の運用能力
- 3級:主として海外旅行で役立つ観光英語の運用能力

この講義では、観光英語検定2～3級(英検2～3級レベル)の取得を目指します。また、海外旅行をするときのポイントや、海外での面白い風習等も紹介します。

キーワード: 観光英語, 観光関連の基礎知識, 文法問題, リスニング力

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた観光英語に関する知識をおおむね80%は暗記し、回答することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 観光英語に関する知識を基に、観光に対する理解を深める。また、『観光英語検定試験2～3級』に合格できる程度の知識や英語力を身に着ける。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 授業は、1)文法問題, 2)リスニング問題, 3)観光業界の基礎知識, から構成される。授業内容は以下のとおりである。

1. オリエンテーション
2. 基礎知識1:旅行計画① 旅行相談業務
3. 基礎知識2:旅行計画② 航空券の手配
4. 基礎知識3:旅行計画③ 世界の通貨と為替レート
5. 基礎知識4:宿泊施設①:ゲストルーム, ホテル
6. 基礎知識5:宿泊施設②:B&B, 学生寮,
7. 基礎知識6:国内移動① 高速バス
8. 基礎知識7:国内移動② 鉄道, 地下鉄
9. 基礎知識8:国内移動③ レンタカー, タクシー

- 10. 基礎知識8:現地での余暇活動①:パブ
- 11. 基礎知識8:現地での余暇活動②:ミュージカルなど
- 11. 基礎知識9:海外生活の基礎知識①:世界の地理
- 12. 基礎知識10:海外生活の基礎知識②:世界の風習
- 13. 基礎知識11:海外生活の基礎知識③:海外移住の手続きなど
- 14. 試験対策講座:観光英語模擬テスト①
- 14. 試験対策講座:観光英語模擬テスト②
- 15. 試験対策講座:観光英語模擬テスト③

定期試験

使用テキスト: [使用テキスト]

・特になし

[参考書]

・観光英検センター『観光英語検定試験2級, 3級』研究社

予習・復習のポイントと ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。

参考文献・資料等: 毎回の授業内容は、事前に連絡する。

・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに講師控室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: この授業は、おもに「英語は苦手だけれども海外に興味がある」学生を対象にしています。たとえ英語が苦手でも、観光に興味があるならば受講してみてください。なお、本格的な観光英語を学びたい学生は、現代英語学科開設の「観光英語」を受講することをお勧めします。

科目コード: 14122

科目ナンバリング: CC20C01K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): ジャーナリズム研究(Journalism Studies)

担当者: 滝本 政衛

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 17発問と回答

授業の概要: メディアの多様化が進むなか、国民は多くの情報にさらされ、整理できないまま情報に振り回されたり、一方ではフェイクニュースに惑わされたりするなど、真実や進路が見えづらい状況にある。

こうした中で報道の現場、実情を講義のなかで解き明かし、ものの見方や考え方を養い、あわせて民主主義と言論の自由を守るための報道の役割と重要性を学ぶ。

なお、授業担当者は長年メディアに携わってきた。その実務経験を活かし、授業を進めてゆく。

キーワード: メディアと政治、行政、社会

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 報道に関する基本的な事柄を学ぶことによってニュースの表と裏を知る。

こうしたことによりニュースの本質と背景を探り、理解することができる。

評価方法: レポートと出席状況、授業姿勢をもとに判定します。

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 国内外の出来事やニュースをチェックしてその本質を見極め、社会生活を送るうえで物事を判断する能力を高めることができる。

評価方法: 同上

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度を点数化するのは難しいが、目視した中で、評価の対象としたい。
私語など他の学生への迷惑行為は、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 随時

▼実践的ボランティア

問いません。

評価割合: 0%

▼公正性

公正性を欠く行為が認められた場合は評価の対象になる。

評価割合: 0%

▼その他

- ・試験はやりません。
- ・期末レポートと授業3回に一回程度の割合で提出してもらった簡単なミニレポートを基本に採点します。
- ・評価割合はあくまで目安です。「随時」とした項目も加味します。

評価割合: ・試験はやりません。
・期末レポ

授業計画: 第1回:オリエンテーション
第2回:ジャーナリズムの使命
第3回:政治報道の使命
第4回:事件報道の使命
第5回:選挙報道の使命
第6回:新聞社と通信社
第7回:茨城県の地域ジャーナリズム
第8回:新聞社の実際
第9回:記者の日常
第10回:取材の仕方、記事の書き方
第11回:記事を書いてみよう
第12回:ジャーナリズムの未来
第13回:選挙と政治①
第14回:選挙と政治②
第15回:ニュース解説(随時)

内容は変動の可能性があります。

使用テキスト: 教材、資料は、ユニパで資料提供するか、印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ニュースを毎日チェックし、国内外の出来事を考える。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 学務部で対応します。

留意事項: 当科目は教科改編の関係で4年生だけが対象になります。4年生は就活等との関係でスケジュールが制限されることが増えると思いますが、そういった場合は出席扱いにするなど最大限配慮しますのでご安心ください。

科目コード:14129 科目ナンバリング:CC30C03K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):異文化間コミュニケーション(Intercultural Communication)

担当者:鈴木 晋介

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:木曜1限

履修可能学科・専攻: Pe Pc C W F N M

関連資格:日本語

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: グローバル化する世界、そして創造的な多文化協働が希求される今日、異文化間コミュニケーションの重要性はますます高まっています。異文化間コミュニケーションの基礎的概念やさまざまな理論を学ぶことの意義は、実際に異文化との接触を通じてみなさんが経験する様々な事柄や心的状態を、自分自身で客観的に捉える視点を獲得できることにあります。本講義は、具体的なケーススタディを織り交ぜながら、異文化に対する共感的感受性と実践的対応力を培うことを目指します。

キーワード: 文化概念、コミュニケーション論、異文化適応

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 概念や用語、ものの考え方等、授業で学んだ諸事項の概ね80%を理解し解答することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で概説する諸概念を自身の日常の事例を使って適切に説明できる。用語と事例をロジカルに関連づけることができる。

評価方法: リアクションペーパー

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、リアクションペーパー等に著しい偏見や差別的表現がある場合には個別の指導の対象となりうる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンスー異文化間コミュニケーションを学ぶ意義
第2回 グローバル化する現代世界
第3回 異文化間コミュニケーションとは何か(1)「文化」という概念
第4回 異文化間コミュニケーションとは何か(2)文化の多様性
第5回 異文化間コミュニケーションとは何か(3)記号の世界
第6回 異文化間コミュニケーションとは何か(4)コミュニケーションとは何か

- 第7回 言語コミュニケーションと異文化(1)メッセージと場面
- 第8回 言語コミュニケーションと異文化(2)コンテキスト依存性
- 第9回 非言語コミュニケーションと異文化(1)周辺言語と身体所作
- 第10回 非言語コミュニケーションと異文化(2)四つの機能
- 第11回 異文化間コミュニケーションの障壁(1)ステレオタイプと偏見
- 第12回 異文化間コミュニケーションの障壁(2)いくつかのモデル
- 第13回 カルチャーショックとは何か
- 第14回 異文化適応のプロセス
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業で学んだ諸概念を日常生活の場面に適用することで、「異文化」や「コミュニケーション」の実際と理論とを架橋する思考を日々実践することが重要である。身近な問題を学問的概念で考える訓練は、講義時に実施するリアクションペーパーの作成等に活かすことができる。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定して研究室で対応します。

留意事項: なし

科目コード:14131 科目ナンバリング:CC20C04E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 日本語教育演習A(Seminar in Teaching Japanese A)

担当者: 山田 野絵

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C

関連資格:日本語

AL要素: 02模擬実践
07発表
08協同学修
11討論
17発問と回答

授業の概要: 日本語教育の評価とその意義について、指導者の立場を経験し、討論しながら学ぶ。また、実際にテスト問題の作成をする。

キーワード: 日本語教育 評価 テスト作成 自律学習

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 日本語教育における様々な評価方法とその意義についてを学び、適切な評価を行えるようになる。

評価方法: 発表、テスト作成やその他の課題

評価割合: 発表、課題、テスト作成80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価方法: 「知識・技能」と合わせて評価する。

評価割合: 「知識・技能」と合わせて評価する。

▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加態度として、授業に取り組む態度を評価に含める。主体性、協調性、責任感を持って課題に取り組むことが期待される。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別的発言、行為等、著しく公正性を欠く場合や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1) 授業の到達目標と概略
 - 2) 「学習を評価する」とは その1/テストによらない評価
 - 3) 「学習を評価する」とは その2
 - 4) テストによる評価 テストが測るもの その1
 - 5) テストによる評価 テストが測るもの その2
 - 6) テストによる評価 テスト作成の留意点 その1
 - 7) テストによる評価 テスト作成の留意点 その2
 - 8) テストによる評価 テストの問題例一言語知識を測るテストその1
 - 9) テストによる評価 テストの問題例一言語知識を測るテストその2
 - 10) テストによる評価 テストの問題例一総合的な運用を測るテストその1
 - 11) テストによる評価 テストの問題例一総合的な運用を測るテストその2
 - 12) テストによる評価 テストの設計 その1
 - 13) テストによる評価 テストの設計 その2
 - 14) テストによる評価 テスト得点の分析
 - 15) ふりかえり

使用テキスト： 授業が始まるまでに各自購入：『国際交流基金日本語教授法シリーズ12 学習を評価する』ひつじ書房
購入する必要はないが、授業で使用する際には、大学図書館などで事前に当該箇所をよく読んでおくこと：『みんなの日本語初級 I 本冊』スリーエーネットワーク
他、プリント配布

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習：教科書や指示された参考資料を予習すること。
履修者数によっては、グループ作業での授業外学習があるので、複数人で調整して進める必要がある。
参考資料：『みんなの日本語初級 I 本冊』スリーエーネットワーク
国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」<https://ifstandard.jp/top/ja/render.do>

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部などに連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 授業後の休み時間に対応します。また、授業初日に連絡先メールアドレスをお知らせします。

留意事項： 本科目を履修するにあたり、日本語教育の基礎的な知識が必要になります。
授業内容は遠隔授業になる場合等、状況によって変更する場合があります。

科目コード：14132 科目ナンバリング：CC20C05E 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：日本語教育演習B(Seminar in Teaching Japanese B)
担当者：小林 久美子
基本情報
年次：カリキュラム 単位数：2 授業形式：演習

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C

関連資格：日本語

AL要素： 07 発表
08 協同学修

授業の概要： 第二言語習得の理論と最近の研究について学ぶ。教科書を指定し、教師からの講義と学生の発表の2本立てで授業を行う。

キーワード： 第二言語習得、発表、テスト作成

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 第二言語習得の歴史、理論、研究などが理解できる。

評価方法： 中間テスト、期末テスト

評価割合： 中間テスト25%期末テスト25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分が担当する箇所をわかりやすくまとめて発表することができる。

自分が発表したところをよく理解し、テストを作成することができる。

評価方法： 発表

評価割合： 40%

作成した期末テスト

▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

- ・教師から質問された時に、何らかの解答をしたか
- ・協同作業の時、協力しあって行っていたか
- ・私語、居眠り、遅刻などをせず、授業に真剣に取り組んでいたか

などを中心に評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

評価対象とはしない。ただしカンニングなど不正行為があった場合は、何らかの罰則がある。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

1. 授業の到達目標と概略
2. 第二言語習得研究の重要性
3. 第二言語習得研究の歴史
4. 第二言語習得研究の理論1
5. 第二言語習得研究の理論2
6. 第二言語習得研究の理論3
7. 中間テスト、今までのまとめ
8. ～11. 発表
12. ～14. 期末テスト作成
15. 今までのまとめ

16. 期末テスト

使用テキスト: 奥野由紀子ほか『超基礎 第二言語習得研究SLA』くろしお出版

予習・復習のポイントと <予習>(毎回30分)

参考文献・資料等: 教科書を読み、そこに書かれているテーマについて自分の意見をまとめる。

<復習>(毎回30分)

授業で学んだことをノートにまとめる。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。学務部と要相談。

授業時間外の連絡手段: 学務部学務課へ問い合わせる。

留意事項: 日本語教育概論、日本語の構造Aなど、日本語の基礎的な科目を複数履修済みが望ましい。

科目コード:14133 科目ナンバリング:CC20C02K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):日本語学A(Japanese Linguistics A)

担当者:三谷 絵里

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:日本語

AL要素: 15.レポート指導
17.発問と回答

授業の概要: 毎日何気なく話している母語も、非母語話者から見ると不可解なことが数多くある。この授業では「音声学・音韻論」および「文法論」を通して、今まで意識していなかった日本語の面白さや不思議さを考える。授業では、担当教員の日本語教師としての経験を共有することにより、受講生の理解を深めていく。

キーワード: 日本語 音声 音韻 文法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 日本語学の基礎知識・考え方を身につける。

評価方法: ほぼ毎回化される課題とレポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 日本語を先入観にとらわれない相対的な視点からみる力、および学問的な方法で分析する術を身につける。

評価方法: ほぼ毎回課される課題とレポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

評価割合には含めない。学修に主体的に取り組んでほしい。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

もとめない

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画：**
1. 授業ガイダンス 日本語学とは
 2. 母語話者にとっての「日本語」、非母語話者にとっての「日本語」
 3. 日本語の音声(1) 音声学・音韻論とは
 4. 日本語の音声(2) 子音・母音
 5. 日本語の音声 (3) 拍と特殊拍・アクセント・イントネーション
 6. 日本語の方言 分類・地域差・ネオ方言
 7. 日本語の文法(1) 文法論とは
 8. 日本語の文法 (2) 動詞
 9. 日本語の文法 (2) 格
 10. 日本語の文法 (3) 敬語
 11. 日本語の文法 (4) ヴォイス
 12. 日本語の文法 (5) テンス・アスペクト
 13. 日本語の文法 (6) モダリティ
 14. 語用論
 15. 総括、レポート提出

使用テキスト： なし(ハンドアウトを配布する)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 原則として、毎回小課題や疑問について考える時間を設ける。授業後にはより詳しく内容を深めてほしい。
ささいな疑問でも構わないので、日常的に日本語の使用に興味や関心を持って観察してほしい。

参考書

庵功雄 日高水穂 前田直子 山田敏弘 大和シゲミ『やさしい日本語のしくみ 改訂版 日本語学の基本』くろしお出版
この本は日常生活の疑問をもとに日本語の概説が書かれており、入門書としても非常に興味深い内容となっている。授業ですべて扱うことはしないが、興味を持った章を読み進めてほしい。

興味を持った学生は
庵功雄 『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
滝浦真人 『日本語学入門』放送大学
などで理解を深めてほしい。

障がいのある履修者への対応： 申し出があれば対応します。事前に学務に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 初回の授業で指示します。

留意事項： 前期「日本語学A」・後期「日本語B」両方の授業で日本語学全体を扱う。

科目コード：14134 科目ナンバリング：CC20C03K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本語学B (Japanese Linguistics B)

担当者：三谷 絵里

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：日本語

AL要素：15.レポート指導
17.発問と回答

授業の概要： 「日本語学A」の続きとして、この授業では「語彙論」および「文字・表記論」を扱って、引き

続き日本語の面白さや不思議さを考える。
授業では、担当教員の日本語教師としての経験を共有することにより、受講生の理解を深めていく。

キーワード： 日本語 語彙 文字 意味

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本語学の基礎知識・考え方を身につける。

評価方法： ほぼ毎回化される課題とレポート **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 日本語を先入観にとらわれない相対的な視点からみる力、および学問的な方法で分析する術を身につける。

評価方法： ほぼ毎回課される課題とレポート **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

評価割合には含めない。学修に主体的に取り組んでほしい。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

もとめない

評価割合：0%

▼ 公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合：0%

▼ その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画：**
1. 授業ガイダンスー日本語学とは一
 2. 日本語の語彙(1) 単語の意味
 3. 日本語の語彙(2) 品詞
 4. 日本語の語(3) 位相・役割語・オノマトペ
 5. 日本語の語彙(4) 単語の体系
 6. 日本語の語彙(5) 和語・漢語・外来語
 7. 日本語の語 (6) 語構成
 8. 日本語の文字・表記(1) 文字のはたらき
 9. 日本語の文字・表記(2) 日本語の文字
 10. 日本語の文字・表記(3) ひらがな・カタカナの成立と使われ方
 11. 日本語の文字・表記 (4) 漢字の使われ方
 12. 日本語の文と文章
 13. 日本語の談話
 14. コーパス言語学
 15. 総括、レポート提出

使用テキスト： なし(ハンドアウトを配布する)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 原則として、毎回小課題や疑問について考える時間を設ける。授業後にはより詳しく内容を深めてほしい。
ささいな疑問でも構わないので、日常的に日本語の使用に興味や関心を持って観察してほしい。

参考書

庵功雄 日高水穂 前田直子 山田敏弘 大和シゲミ
『やさしい日本語のしくみ 改訂版 日本語学の基本』くろしお出版
この本は日常生活の疑問をもとに日本語の概説が書かれており、入門書としても非常に興味深い内容となっている。授業ですべて扱うことはしないが、興味を持った章を読み進めてほしい。

障がいのある履修者への対応: 申し出があれば対応します。事前に学務に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業で指示します。

留意事項: 前期「日本語学A」・後期「日本語B」両方の授業で日本語学全体を扱う。

科目コード: 14139 科目ナンバリング: CC20C30K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 性的マイノリティの文学(Literature of Sexual Minorities)

担当者: 染谷 智幸

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格: 日本語

AL要素: 11. 討論

授業の概要: 多様な恋愛の世界と言え、LGBTQをはじめ、西欧由来と考えるのが一般的だが、日本も江戸時代までは多様な恋愛の世界が存在していた。そうした世界を知るために、本授業では、日本文学の古典を通して同性同士の恋愛文学について考えたい。主に扱うのは江戸時代に活躍した小説家・井原西鶴の『男色大鑑』だが、それ以外の古典や近現代文学、そして現代の漫画・アニメも重視する。テキストは現代語訳を主に使うが、古典の本文も同時に鑑賞したい。

キーワード: 井原西鶴、『男色大鑑』、武士、衆道、同性愛、LGBTQ、ボーイズラブ、漫画、アニメ

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学ぶ知識を身につけることで自由な表現活動を行うことができる

評価方法: ノート作成

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 差別や偏見がなく、多様性をもった視点を確保する。

評価方法: ノート作成

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

毎回の授業で取るノートの内容はもちろん、授業中に行われる討議で、積極的に発言等をする事は評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合: 0%

▼その他

とくになし。

評価割合：とくになし。

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 日本文学と恋愛、男色1
第3回 日本文学と恋愛、男色2
第4回 マンガ・アニメと同性の恋愛
第5回 日本文学全般について
第6回 井原西鶴について
第7回 『男色大鑑』について
第8回 『男色大鑑』を読む1
第9回 『男色大鑑』を読む2
第10回 『男色大鑑』を読む3
第11回 学生の自由発表1
第12回 学生の自由発表2
第13回 全体討議1
第14回 全体討議2
第15回 まとめ

使用テキスト：『全訳 男色大鑑』(武士編) 染谷智幸・畑中千晶編、2018年12月刊、文学通信

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： テキスト中心に行うので、テキストを事前によく読んでおくこと。とくに全ての作品を取り上げることは時間的に難しいので、時間がある限り、多くの作品に目を通すこと。参考文献等は授業中に指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらった場合があります。

留意事項： 毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらいます。授業が終わったその日のうちにチームスのクラスノートブックに授業の所感を書き込んでもらいます。よって、チームスの使い方について習熟しておいてください。チームスの使い方については授業中に詳しくお話をします。

科目コード：14142

科目ナンバリング：CC20C12K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：東洋史(Eastern History)

担当者：中村 知子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C F

関連資格：教職

AL要素：10 資料調査課題

16
振り返り用紙と応答

(可能であれば 05
即時応答)

授業の概要：

本講義では、東洋史の中でも中国を中心とした近現代史を扱います。シラバスには、学習の目安として通史的項目を掲げましたが、講義内では歴史的な事象を追うだけでなく、現代の日本も含めた東アジアが直面している諸問題の発生要因、また考え方を含めた文化的差異等も学んでいきます。歴史を通じて、物事に対する多角的な視座を獲得し、歴史を学ぶ意義

を考えていきます。

キーワード: 歴史 東洋史 中国 東アジア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 中国を中心とする東アジアの近現代史を自らの言葉で表現できるようにします。

評価方法: 講義内で行われる複数の課題結果で評価する。 **評価割合:** 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 歴史を過去の事象としてのみとらえるのではなく、多角的な視座を得るための一つのツールとして用いることが出来るようにします。

評価方法: 回答時の態度や内容で評価する。 **評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

課題提出など授業前後に行うノルマがあるため、積極的な受講態度が望まれます。主体的な態度は上記の「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の項目に直結します。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特に評価対象とはしません。

評価割合: 0%

▼公正性

本講義内で迷惑行為等が発覚した場合、また人権侵害や差別的発言が見られた場合、受講資格を取り消します。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

- 授業計画:**
- 1 ガイダンス 受講の心得、学習の方法、課題等に関する説明
 - 2 歴史学を学ぶ意義
 - 3 現代中国が抱える諸問題
 - 4 モンゴル帝国の特徴と明代(外交と国内統治)
 - 5 中華と夷狄 明の崩壊
 - 6 清の誕生 現代につながる清
 - 7 清代の人口増加と華と夷
 - 8 海外の圧力と清朝
 - 9 清・朝鮮・日本の関係
 - 10 辛亥革命と中華民国
 - 11 中華民国期の少数民族地域
 - 12 ロシアと中華民国 国共合作
 - 13 日中戦争
 - 14 中華人民共和国 毛沢東と大躍進政策
 - 15 文化大革命、改革開放、そして現代へ

なお、授業計画は上記の通りではあるが、受講者の要望なども汲み、内容は臨機応変に変える。

使用テキスト: 特になし。講義内で使用する資料はteams内でPDFにて配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特に世界史を学んだことがない学生は、その時代の歴史をあらかじめ参考文献を読んでから受講すると良いでしょう(60分)。参考文献に関しては初回講義時にお話します。

また、時折行われる課題は資料収集が必須となることが多いです。普段から中国のニュースや情報にアンテナを張り、雑学的な知識も含めストックしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますのでまずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 学校で開示するメールアドレスに連絡すること。

留意事項： 提出していただいた課題は、講義内にて随時取り上げ補足説明する形でフィードバックしていきます。

科目コード：14146 **科目ナンバリング：**CC20C26K **主な使用言語：**日本語(必要に応
授業名(英文)：北アメリカの歴史と文化(History and Culture of North America)
担当者：佐々木 優

基本情報

年次：カリキュラム **単位数：**2 **授業形式：**講義
曜時：木曜3限 **履修可能学科・専攻：** E Pe Pc C W F M
関連資格： **AL要素：** 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 大統領選挙やハリウッドの情報など、日本においてもアメリカに関連した情報に触れる機会が増えました。では、「アメリカ」と聞くとどんなことを思い浮かべるでしょうか。現代の日本に生きる人々にとって、アメリカはとて身近な国となりましたが、そうした北アメリカの歴史や文化はどのように織りなされてきたのでしょうか。

様々な人種によって構成されてきたアメリカは、とても複雑でダイナミックな歴史と文化を形成してきました。本授業では、歴史的事項を学ぶとともに、その時代を代表する文学や映画作品を扱います。そうした北アメリカの歴史の概略を学んだ後に、北アメリカの多文化社会の中で生み出されてきた文化(スポーツ、映画、音楽)について学び、異文化理解を深めます。さらに、そうした知識・理解をもとに自らの疑問点を解決し論じることができる力を養成することを目標とします。

キーワード： アメリカ、アメリカ文学、アメリカ文化、アメリカ史、歴史、ジェンダー、エスニシティー、人種、マイノリティー

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 北アメリカ(アメリカ合衆国)の歴史の概略と文化について知識を獲得し、正しい歴史認識のもとで解答・論述することができる。

評価方法： 期末試験 **評価割合：** 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で獲得した知識・理解をもとに、分析・考察を行い、自らの所見を表現し、正しい歴史的認識に基づいて論理的に論じることができる。

評価方法： 期末試験 **評価割合：** 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。ただし授業への出席と積極的参加の様子はリアクション・ペーパーなどで確認します。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としません。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし人権侵害・差別的発言などの公正性を欠いた言動や、カンニング等の不正行為、剽窃は減点や嚴重注意の対象となりますので、注意してください。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. イントロダクション：なぜ「アメリカ」を学ぶのか。「アメリカ」とは何か。
 2. 歴史：「新世界」と先住民
 3. 歴史：植民地時代
 4. 歴史：アメリカ独立戦争と合衆国憲法
 5. 歴史：共和国の建設
 6. 歴史：南北戦争と再建の時代
 7. 歴史：金びか時代から革新主義へ
 8. 歴史：第一次世界大戦と黄金の1920年代
 9. 歴史：ニューディール政策と第二次世界大戦
 10. 歴史：冷戦のはじまりと社会変革
 11. 歴史：冷戦後から現代までのアメリカ
 12. 歴史：アメリカにおける人種とジェンダー史
 13. 文化：アメリカのスポーツ
 14. 文化：アメリカの映画
 15. 文化：アメリカの音楽
- 定期試験

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します

予習・復習のポイントと【予習】

参考文献・資料等： 新聞などでアメリカに関する事柄を積極的に学んでみてください。新聞などで見つけた知らない単語などについては下調べをしておく、授業の理解の助けとなります。

【復習】

授業で行った内容について、わからない単語などがあつた場合はそのままにせず、質問をするか調べるなどし、期末試験に備えてください。大統領の名前や戦争名などの重要なキーワードを中心に復習し、その時代性などの特徴もつかめるようにしましょう。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで要予約。必要な連絡先は初回にお知らせします。

留意事項： 特になし。

科目コード：14147 科目ナンバリング：CC20C11K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：西洋史(Western History)

担当者：森下 嘉之

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C F

関連資格：教職

AL要素：なし

授業の概要：【まん延帽子等重点措置期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)
ヨーロッパが世界の歴史の中で、なぜ重要な役割を果たすことになったのか、それによって世界にどのような問題が引き起こされたのか。現代の「グローバル化」に潜む課題をヨーロッパの歴史から考え直す。

キーワード：グローバリズム、資本主義、社会主義、帝国、冷戦、ネーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: (1)世界史という広い視野に立って、ヨーロッパの社会を理解できるようになる。(2)ヨーロッパ近現代史を学ぶことによって、歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける。(3)ヨーロッパ近現代史の最近の研究動向について理解できるようになる。

評価方法: 毎回の授業時に知識確認のためのコメントを求める。 **評価割合:** 各回のコメントの割合は全体の30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 21世紀のグローバル世界がどのように形成され、どのような問題が生じているのかを知るとともに、歴史的な大事件だけでなく、地域に生きる人々の歴史と文化を学ぶことで、「世界の俯瞰的理解」を得る

評価方法: 総合的な思考力を確認するために期末レポートを課す。 **評価割合:** 期末レポートの比率は70%とする。

▼ 学修に主体的に取り組む態度

20分以上の遅刻は出席とは認めない。

評価割合: 特になし

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合: 特になし

▼ 公正性

特になし

評価割合: 特になし

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. ガイダンス:「ヨーロッパ」とはなにか
 2. 16-17世紀ヨーロッパ「大航海/大交易」時代
 3. 17-18世紀ヨーロッパ「環大西洋革命」の時代
 4. 18世紀後半ヨーロッパ「フランス革命」の時代
 5. 19世紀ヨーロッパ「帝国主義」の時代
 6. 19-20世紀ヨーロッパ「ナショナリズム」の時代
 7. 第一次世界大戦勃発と「ロシア革命」の時代
 8. 第一次世界大戦終結と「ヴェルサイユ体制」の時代
 9. 1920-30年代ヨーロッパ「両大戦間期」という時代
 10. 1930-40年代ヨーロッパ「ナチス・ドイツ」台頭の時代
 11. 第二次世界大戦と「ホロコースト」
 12. 第二次世界大戦の終結とヤルタ会談
 13. 1950-60年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代1」
 14. 1970-80年代ヨーロッパ「東西冷戦の時代2」
 15. 授業のまとめと21世紀のヨーロッパ

使用テキスト: 教科書は用いない。授業レジュメを毎回配信する。
授業を理解するための参考書としては、以下を挙げておく。
北村厚『教養のグローバル・ヒストリー：大人のための世界史入門』ミネルヴェ書房、2018年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 毎回の授業レジュメを事前に配信するので、ダウンロードの上確認すること。また、授業後の確認コメントについても、提出を怠らないこと。

障がいのある履修者への対応： 受講希望者がいた場合には適宜対応する。

授業時間外の連絡手段： UNIPAの記載に準ずる。

留意事項： 特になし

科目コード：14152 科目ナンバリング：CC20C32K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ものがたりの世界(World of Tales)

担当者：細谷 瑞枝

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：16.振り返り用紙と応答

授業の概要： ここでいう「ものがたり」とは、神話・伝説・昔話といった口承文芸や個人によって創作された小説などを広く含みます。人間は「物語る動物」であるとも言われ、古来、世界各地に様々なものがたりが存在します。その中から同じテーマやモチーフを持つ「ものがたり」を選び、ジャンルごとの特性や時代による変化、文化の違いを探ってきます。
なお、取り上げるのは主に日本とヨーロッパのものがたりです。

キーワード： 神話、伝説、昔話、ファンタジー小説、異類婚姻譚、異文化理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 口承文芸の各ジャンルについての知識を持ち、ヨーロッパと日本のものがたりの特徴について理解する。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 「ものがたり」について、授業や自主学習によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回の出欠確認において、授業内容についての質問や考察などの主体的な取り組みがみられる場合、それを積極的に評価する。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

1. ガイダンス
2. 昔話を比較する
3. 異界とはどんなところか

4. 異類を夫にするものがたり(1) 世界各地の昔話
5. 異類を夫にするものがたり(2) 神話
6. 異類を夫にするものがたり(3) 小説
7. 異類を夫にするものがたり(4) アニメ
8. 異類を妻にするものがたり(1) 世界各地の昔話
9. 異類を妻にするものがたり(2) 伝説
10. 異類を妻にするものがたり(3) 小説
11. 異類を妻にするものがたり(4) ファンタジー小説
12. 異類を妻にするものがたり(5) アニメ
13. 文化とものがたり(1)
14. 文化とものがたり(2)
15. まとめ

以上は大まかな予定なので、適宜変更する場合があります。

使用テキスト: なし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 色々な神話、昔話や伝説を改めて読んだり、思い出しておくことで授業が分かりやすくなります。授業の前に前回のノートを読み返して、講義全体の流れをつかむようにしましょう。授業後は、ノートをまとめ、分からない点は出欠確認のFormsで質問してください。予習・復習には1~2時間程度が必要です。参考文献は、授業中に適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限については初回にお知らせします。

留意事項: 毎回、出欠確認をTeamsで提出してもらいますので、Teamsにはあらかじめ登録しておくこと。

科目コード: 14153 **科目ナンバリング:** CC30C06K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 国際関係論(Theory of International Relations)

担当者: Yodtomorn Pimprapa

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 教職 日本語

AL要素: 発問と回答
振り返り用紙と応答

授業の概要: 国際関係論は国境を越える様々な形態の社会的・経済的関係を学ぶ学問である。「国際関係論 I」ではASEAN諸国に焦点を当て、日本の対外関係、環境問題と国際関係の相互の影響を学ぶ。さらに、ASEAN主要な国の工業化と経済発展における日本の役割を理解し、現在のアジア諸国の社会・経済の問題等に気づき、関連付けて考察する。

キーワード: 国際関係論、対外関係、社会的関係、経済的関係、ASEAN諸国

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 外国の視点から見た日本を理解することができ、国際関係に関わる環境問題や労働移動等の新たな課題について考察する。また最近の世界の問題に関わるニュースを読む力を養う。

評価方法: 小テスト・期末試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 経済学の観点から、日本とASEAN諸国の国際関係とのかかわりについて具体的に説明できるようにする。

評価方法: グループディスカッション

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見が強化され、その成果等がレポートや試験の記述内容により認められる場合には、上記の項目「思考力、判断力、表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第01回 ガイダンス

第02回 国際関係論を学ぶ:国家・国連・地域(1)

第03回 国際関係論を学ぶ:国家・国連・地域(2)

第04回 経済協力と地域統合:ASEAN諸国(1)

第05回 経済協力と地域統合:ASEAN諸国(2)

第06回 経済協力と地域統合:ASEAN諸国(3)

第07回 日本・ASEANの対外関係

第08回 日本・中国・ASEANの対外関係

第09回 地域研究①:日本とタイ

第10回 地域研究②:日本とフィリピン

第11回 地域研究②:日本とインドネシア

第12回 地域研究③:日本とラオス

第13回 ケーススタディ①:地球温暖化への国際的対応

第14回 ケーススタディ②:地球温暖化への国際的対応

第15回 まとめ

(定期試験)

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと ・授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる。

参考文献・資料等: ・授業後には、その回の内容を復習するとともに、その関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。参考文献として次の2点を推薦する。

参考書:

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールで対応します。アドレスは学務部に照会願います。

留意事項: 初回の授業にはやむを得ない事情がある場合を除き必ず出席してください。

科目コード:14155

科目ナンバリング:CC10B05K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 歴史学A(History A)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 日本語

AL要素: 17 発問と回答
08 協同学修

授業の概要: この授業では江戸時代から幕末維新期までの歴史を「近世社会の異文化交流」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながらより深く学んでいく授業です。日本の歴史は、異文化との対峙なかで展開していきました。授業ではこれらの事例を学びながら、「文化交流」の実践に不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。

キーワード: 文化交流の歴史、近世史、幕末維新史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で解説を受けた歴史の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

講義中の教員からの発問や実践指示(史料読解)に積極的に取り組んでいると認められる場合は、右の評価割合を加算する。

評価割合: 10%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回: ガイダンスー「近世日本の異文化接触」ー
第2回: 江戸時代の対外関係と「鎖国」①ー日本は「鎖国」していたのか?ー
第3回: 江戸時代の対外関係と「鎖国」②ー地図から読み解く「日本」意識ー
第4回: 朝鮮通信史と「文化交流」①ー朝鮮通信使は何を見た/どう見られたか?ー
第5回: 朝鮮通信史と「文化交流」②ー雨森芳洲の異文化交流実践ー

- 第6回: ペリー来航の衝撃力① -ロシア問題からペリー来航まで概説-
- 第7回: ペリー来航の衝撃力② -蘭学から英学へ-
- 第8回: 江戸後期の学問と対外観① -洋学-
- 第9回: 江戸後期の学問と対外観② -儒学-
- 第10回: 江戸後期の学問と対外観③ -国学-
- 第11回: 江戸後期の学問と対外観④ -水戸学-
- 第12回: 幕末政局と維新動乱① -徳川政権と対外関係-
- 第13回: 幕末政局と維新動乱② -「攘夷」とは何か?-
- 第14回: 幕末政局と維新動乱③ -民衆は維新動乱をどう生きたか?-
- 第15回: まとめ
- ※学期末テスト

使用テキスト: レジュメを配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 各回ごとの参考文献をレジュメに記載する。
全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』(山川出版社、2017年)を参照し復習してください。(90分)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。

留意事項: 特になし。

科目コード: 14159 **科目ナンバリング:** CC20C36K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 比較文化論B(Comparative Studies of Cultures B)

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜1限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 社教 日本語

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 本講義は大きく3部構成である。第1部は「他界観」の比較文化論と題して、「あの世」的なものあるいは人智を超えたものに対する人類の想像力に焦点を当てる。第2部は「時間」の比較文化論である。均質で数量化された、そして一方向に直線的に進む「時間」。果たしてそれは普遍的なものなのか? 私たちの認識・イメージとは「異なる時間」に目を向けていく。第3部は異文化の認識・表象の在り方に対する批判的思考としてのエドワード・サイードによる「オリエンタリズム批判」というテーマを取り上げる。講義を通じて文化の多様性に対する視野を広げると同時に、そうした多様性の認識・表象に潜む諸問題に目を向けていく。

キーワード: 「他界観」の比較文化論、「時間」の比較文化論、オリエンタリズム

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学ぶ諸概念・用語や各トピックの要点を概ね80%以上理解し解答することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学ぶ個々のトピックに関して、自ら問題意識を深め、自分なりの考察と表現を行うことができる。

評価方法: リアクションペーパー

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、学期末試験やリアクションペーパーに著しい偏見や差別的表現がある場合、個別の注意・指導の対象となりうる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 「他界観」の比較文化論(1)～現代日本人にとっての「あの世」？
第3回 「他界観」の比較文化論(2)～キリスト教世界における「他界観」
第4回 「他界観」の比較文化論(3)～上座部仏教「輪廻の思想」
第5回 「他界観」の比較文化論(4)～日本の他界観－祖先崇拜と浄土思想
第6回 「他界観」の比較文化論(5)～不思議なものの世界、その融合と現代文化
第7回 「時間」の比較文化論(1)～質的思考と数量的思考
第8回 「時間」の比較文化論(2)～数量化する思考の席捲
第9回 「時間」の比較文化論(3)～時間の社会的レジーム
第10回 「時間」の比較文化論(4)～異なる時間
第11回 「オリエンタリズム」(1)～オリエンタリズムとは何か
第12回 「オリエンタリズム」(2)～オリエンタリズムをめぐるいくつかの要点
第13回 「オリエンタリズム」(3)～映像資料で考えるオリエンタリズム
第14回 「オリエンタリズム」(4)～身近に蔓延するオリエンタリズム
第15回 まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は印刷し配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業時に提示する参考論文や文献に自主的に目を通すことはもちろん、身近な生活のなか
に存する異文化性に対する鋭敏な感受性を養ってほしい。そのためにもニュースやネット記事などの論調を自分なりに批判的に検討する習慣を身に着けることを推奨する。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項： なし

科目コード：14160 科目ナンバリング：CC20C31K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：アジアの大衆文学(Asian Popular Literature)

担当者：染谷 智幸

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：日本語

AL要素：討論

授業の概要： 日本と韓国は隣同士でありながら、知らないことが多い。たとえば韓国を代表する古典で、日

本の『源氏物語』に匹敵する恋愛物語とは何か。また、社会への反発から盗賊になって貧しい民を救い、国を飛び出して南の島の王になる、英雄の一生を描いた物語とは何か。これに答えられる日本人が何人いるだろうか。しかし、韓国人ならほとんどの人間がわかるはずである。それは、日本人で『源氏物語』や源義経を知らない人がいないのと同じだからである。相手の文化を理解するには、長い時間と、きめ細かい関心が必要である。韓国の文化をその本質から理解するにはどうしたら良いか。

今年度は、両国の映画、映像、芸術、絵画、音楽、文学などを踏まえながら、特に日韓の古典文学を取り上げる。その両国の文学に展開される様々な問題を通して、日韓両国、両文化の置かれた状況の違いに目をこらしてみたい。

授業は日々の研鑽が重要、毎回の授業のショートレポートをチームスのノートにきちんと書くこと。

最後に全体のレポートを課す。

キーワード： 日本、韓国、アジア、大衆文化、大衆文学、文化交流

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： ノート・発表・レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： ノート・発表・レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等がレポートやノート等の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

とくになし

評価割合： とくになし

- 授業計画：**
- ① 授業概要の説明+日韓認識度チェック
 - ② 日韓の違いと環境問題①—東アジアの視点
 - ③ 日韓の違いと環境問題②—日本は野蛮か
 - ④ 日韓の古典と風刺
 - ⑤ 金萬重『謝氏南征記』と『九雲夢』
 - ⑥ 『九雲夢図』と『安楽国太子経変相図』
 - ⑦ 日韓の誤解と古典の誤訳—韓国での『一代男』翻訳をめぐる
 - ⑧ 日韓の古典と性の世界①—春香伝の世界
 - ⑨ 日韓の古典と性の世界②—朝鮮半島に男色は蔓延していたか
 - ⑩ 朝鮮時代のエロ・グロ・ナンセンス
 - ⑪ 日韓の古典と怪談—朝鮮半島になぜ妖怪が少ないか
 - ⑫ 中国の四大奇書と日韓—『三国志演義』の朝鮮、『水滸伝』の日本

- ⑬ 朝鮮通信使と日韓
- ⑭ 東アジアの古典と女性—かなとハンゲル
- ⑮ まとめ

使用テキスト： とくになし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業に関する文献や資料、本等をよく読むこと。その具体的な内容については授業中に指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 授業のリアクションペーパーは毎回チームスのクラスノートブックに上げてもらいます。チームスの使い方に習熟しておくこと。

科目コード：14161 科目ナンバリング：CC20C37K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：比較社会論A(Comparative Studies of Societies A)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：社教

AL要素：特になし

授業の概要： 比較社会論とは、時間的、空間的に異なる社会や集団、制度を対象として、その構造や機能がどのような事情において一致ないし相違しているかを分析する社会学の一分野です。異なる社会の仕組みを比較して、似ているところ、違うところを探ることによって、人間社会の共通性や個別性が明らかになります。そしてこうした差異や類似を生み出す条件を知ることによって、社会そのものの本質に迫ることができるのです。この授業では、さまざまな観点から日本とドイツの社会の仕組みやあり方を比べ、違うところや共通点を探っていきます。

キーワード： 日本とドイツ、社会の仕組み、労働、コロナ禍、エネルギー問題、環境

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 異なる社会(主に日本とドイツ)の諸構造について理解し、社会学に基づいた知見を獲得することを目標とします。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で得た知識をもとに、自身の考えを整理し、明確に表現できることを目標とします。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回、自分が何を学び理解したかを意識しながら取り組んでください。リアクションペーパー、レポート課題では、得た知見を整理できているかをみるとともに、自分の視点を持って考えられているかを評価します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ドイツについて
 - 第3回 ペットの飼い方—ドイツと日本の飼い犬事情
 - 第4回 ドイツの教育と日本の教育
 - 第5回 移民と社会—ドイツの移民問題
 - 第6回 ドイツの中のトルコ人—映画『おじいちゃんの里帰り』
 - 第7回 ドイツの中のトルコ人—映画『おじいちゃんの里帰り』
 - 第8回 コロナをめぐる各国の状況と対応の比較
 - 第9回 コロナへの対応—日本、ドイツ、台湾
 - 第10回 福祉と社会①—世界の社会福祉
 - 第11回 各国の引きこもり事情と社会の対策
 - 第12回 福祉と社会②—ドイツと日本の社会福祉
 - 第13回 ドイツ人と環境(1)
 - 第14回 ドイツ人と環境(2)
 - 第15回 講義の振り返りとまとめ

使用テキスト： 授業の中で指示します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料としてパワーポイントをUNIPAにアップします。
各自ダウンロードして授業に臨んでください。
【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。
【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：14163 科目ナンバリング：CC20C41K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：比較宗教論(Comparative Studies of Religions)

担当者：山中 利美

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職

AL要素：16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 宗教を理解することは、その宗教を生んだ地域や民族や時代を理解することにつながりま

す。本講義では、宗教という「人間の営み」の多様な姿や世界観を理解することを目標とし、そのための方法を学び、重要となるいくつかの宗教的テーマを手掛かりにしながら、いくつかの具体的な宗教事例を学んでゆきます。

キーワード：宗教学、比較、神話、儀礼、聖と俗

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で学んだ内容に関して、概ね的確な説明が出来るようになることを目標とする。

評価方法：期末試験に代わるレポート課題

評価割合：90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：多様な諸宗教を学ぶことによって、自分の宗教文化への思い込みを見直し、自分以外の宗教文化に対する偏見をなくして、より広い視野を持つことが出来るようになること、および、それを通じて、宗教について自分なりに考え、それを説明することが出来るようになることを目標とする。

評価方法：期末試験に代わるレポート課題

評価割合：10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：直接的な評価の対象とはしない。

授業計画：

- 第1回 授業の目的と概要
- 第2回 宗教を学ぶ方法について
- 第3回 「人間の営み」としての宗教の諸側面
- 第4回 重要な宗教的テーマ(神々、儀礼、聖と俗)
- 第5回 神々と神話の役割
- 第6回 「世界」の起源神話
- 第7回 「産業」の起源神話(1)
- 第8回 「産業」の起源神話(2)
- 第9回 儀礼の役割
- 第10回 新年祭
- 第11回 通過儀礼(1)成人儀礼
- 第12回 通過儀礼(2)結婚儀礼
- 第13回 「聖と俗」の区別と社会の関係
- 第14回 日本の宗教における「聖と俗」
- 第15回 西欧の宗教における「聖と俗」

期末試験に代わるレポート課題を出題する。

使用テキスト：特に指定しない。授業中に資料を配布する。

予習・復習のポイントと 授業前に、前回の授業の内容を復習して、授業に備える。

参考文献・資料等：授業後、ノートと配布資料を見直し、疑問があればメモして、次の授業で質問したり、下記の参考文献などを使って理解を深めることが望ましい。
参考文献

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAで対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：14164 **科目ナンバリング：**CC20C27K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：アジアの宗教(Asia of Religions)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F M

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 東アジア、東南アジアにおける華僑華人が実践する宗教に関する知見を深めることによって、中国人の自然／超自然観、死生観、行動規範などについて理解を深める。また当該地域における中国宗教文化の普及とその影響力を理解し、宗教文化の伝播や交流、相互交渉のありようを理解する。授業では、神霊観や占い、シャーマニズム、風水など、東アジアや東南アジアにおける中国系の民俗宗教文化に通底する基本的な観念や実践について、写真や動画、あるいは実際のモノに触れながら学ぶ。後半には、授業で学んだ内容についてさらに理解を深めるために、各自関連するテーマを設定し、レポートとしてまとめ、提出する。

キーワード： 東アジア、東南アジア、中国系、民俗宗教、風水、占い、シャーマニズム、葬送儀礼、神霊観

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだアジアの宗教に関する種々の概念や思想を概ね80%理解し、解答することができる。

評価方法： リアクションペーパー、授業への参加態度 **評価割合：**20%
や貢献度から評価する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ概念やトピックを適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

評価方法： 個人またはグループ発表、期末レポート **評価割合：**80%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修が発表やレポートの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 中国の神さま
第2回 中国人の神霊観—神、祖先、鬼
第3回 中国の占い① 中国人の運命観
第4回 中国の占い② 占いの方法と実践 ポエ、おみくじ、暦、八字
第5回 中国のシャーマニズム①
第6回 中国のシャーマニズム②
第7回 風水の思想と実践①
第8回 風水の思想と実践②
第9回 中国の葬送儀礼①
第10回 中国の葬送儀礼②
第11回 中国の冥界観 地獄の観念①
第12回 中国の冥界観 地獄の観念②
第13回 慈善の観念と実践①
第14回 慈善の観念と実践②
第15回 まとめ

使用テキスト： とくに指定しない。授業中に適宜、レジュメや資料を配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は積極的にそうした資料や文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項： 「中国の歴史と文化A」または「中国の歴史と文化B」を履修していることが望ましい。

科目コード：14165 科目ナンバリング：CC20C42K 主な使用言語：日本語
授業名(英文)：日本語教員育成演習A(Japanese as a Foreign Language Teacher Training Seminar A)
担当者：森下 雅子

基本情報

年次：2 単位数：2 授業形式：講義
曜時：集中講義 履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M
関連資格：日本語 AL要素：07発表
08協同学習
10資料調査課題

授業の概要： この授業では、世界の様々な文化や言語、そして教育のあり方について比較することを通して、国際人としての知識を得ることを目標としています。ディスカッションや発表を通して、みんなで共に楽しく学び、視野を広げていきます。私は今まで102の国々へ行き、様々な教育現場を視察したり、異文化に触れたりしてきました。真の国際人になるためには、世界中のいろんな地域について興味を持つことはもちろん、日本の伝統文化や日本語に関する知識も必要です。「世界にはどんな国があり、どのような文化を持っているのか?」「異文化コミュニケーションにおいて大切な要素とは?」「これからの教育において何が必要なのか?」といったことについて、クラス全体で楽しく議論しながら深めていきましょう。

キーワード： 比較言語、比較文化、日本語教育、国際人、世界

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだ内容や、発表のために自分で調べた知識について理解を深め、身につける。

評価方法： 参加度、発表、レポート

評価割合：20%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容や、発表のために自分で調べたことについて分析・考察し、それを上手にプレゼンしたり、レポートにまとめたりできるようにする。

評価方法： 参加度、発表、レポート

評価割合：60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業に出席し、積極的・論理的に自分の意見を述べる。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

第1回	オリエンテーション・自己紹介・グループ決定
第2回	教師の役割 テーマ・分担・スケジュール話し合い
第3回	異文化コミュニケーション
第4回	比較言語文化・日本事情(1)
第5回	比較言語文化・日本事情(2)
第6回	比較言語文化・日本事情(3)
第7回	比較言語文化・日本事情(4)
第8回	世界の教育(1)
第9回	世界の教育(2)
第10回	世界の教育(3)
第11回	世界の教育(4)
第12回	発表・ディスカッション
第13回	発表・ディスカッション
第14回	発表・ディスカッション
第15回	まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと 参考文 献・資料等： ・その日の授業内容について、配布資料を見たり、自分でさらに調べたりして復習する。

・最終日のプレゼンの準備をする。

障 がい の ある 履 修 者 へ の 対 応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メール(アドレスはオリエンテーションの時にお知らせします)

留 意 事 項： 特になし。

科目コード：14166

科目ナンバリング：CC20C33K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：アジアの映画(Asia of Movies)

担当者： 染谷 智幸

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：討論

授業の概要： 取り上げるのは、黒澤明や小津安二郎などの日本映画の巨匠、中国のウォン・カーウアイ、韓国のチャン・フン、日本のアニメーションを代表する宮崎駿、りんたろう、新海誠など。その世界がどのような世界観や方法で成り立っているのかを考える。また、アジアの映画も取り上げる。

履修上の注意としては、授業中に若干の鑑賞を行うが、基本的には図書館やネット配信などで、少なくとも映画を5本は見てもらうことになるので、費用その他を十分に考えた上で履修すること。

詳しいことは第一回の授業で話すので必ず参加すること。

授業は毎回リアクションペーパーを提出してもらうことになる。最後にレポートを書いてもらう。

キーワード： 黒澤明、宮崎駿、映画、アニメ、環境、東アジア、文化交流、日本、中国、韓国、台湾

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： ノート・発表・レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： ノート・発表・レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等がレポートやノート等の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

とくになし

評価割合： とくになし

授業計画：

- 1 授業概要の説明
- 2 映画とは何か。
- 3 黒澤映画の世界(1)
- 4 黒澤映画の世界(2)
- 5 小津安二郎の世界
- 6 アニメーションとは何か
- 7 宮崎駿の世界
- 8 新海誠の世界

- 9りんたろうの世界
- 10アジア映画・発表と討論(1)
- 11アジア映画・発表と討論(2)
- 12アジア映画・発表と討論(3)
- 13アジア映画・発表と討論(4)
- 14まとめと討論
- 15まとめと討論(レポートについて)

使用テキスト: ここに注意!!

今回は、大学の教室でビデオ上映ができない関係から、各自、指定した映画をネット等で鑑賞してもらうことになる。そのための「費用が必要になる」ので注意すること。詳しくは初回の授業で指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業に関する文献や資料、本等をよく読むこと。その具体的な内容については授業中に指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: リアクションペーパーはチームスのクラスノートブックに毎回提出してもらいます。チームスの使い方に習熟しておくこと。

科目コード: 14167 **科目ナンバリング:** CC20C34K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 現代の映像文化B (Modern Visual Culture B)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 講義と討論

授業の概要: 【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ 課題研究型】

- 1) ヨーロッパとアメリカの映画を、著名な作品の理解をとおして歴史的、文化的に把握します(映画はいつ、どんなふうになり、どんな歴史をたどってきたのか?)。
- 2) それらの作品が製作された時代背景についての知識を深めます(それはどんな時代だったのか?)。
- 3) ぜひ知っておいたほうがよいクラシックな作品を紹介します(それはどんな話を、どんなふうにした作品なのか?)。
- 4) 映画の歴史をつくりあげた影響力のある監督たちをとりあげ、その作品群を総体として理解します(それはどんな監督だったのか?)。
- 5) その作品が及ぼした影響などを学びます。映像文化がその発端から抱え込んでいた差別意識も検討します。
- 6) 学生は授業で紹介されたそれらの作品を、じっさいに鑑賞してみることがつよく推奨されます。映画に関心のある人なら大歓迎です。

キーワード: 映画の見方 映画の誕生 リュミエール兄弟 エジソン メリエス グリフィス メトロポリス
チャップリン エイゼンシュテイン ハリウッド ミュージカル フィルム・ノワール 西部劇 ネオ
レアリズモ 新しい波

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。 **評価割合:** 100%

出席点はありませんが、授業での活躍、また課題の提出状況は考慮します。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：上記に含まれます。

評価方法：上記に準じます。

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 01 ガイダンス
02 映画の見方(『ロッキー』)
03 映画の見方2(『ロッキー』)
04 映画の誕生～エジソンとリュミエール
05 三大喜劇王、偉大なるチャップリン！
06 サイレントの巨匠たち～ドライヤー
07 ドイツ映画の黄金時代～『メトロポリス』の時代
08 天才エイゼンシュテイン～戦艦ポチョムキン(ロシア)
09 ハリウッドとミュージカル、犯罪映画
10 みんな西部劇をみてオトナになった
11 ルノワールとフランス映画黄金時代
12 戦後の「新しい波」～イタリア(『自転車泥棒』、『鉄道員』)
13 戦後の「新しい波」～フランス(『勝手にしやがれ』、『大人は判ってくれない』)
14 戦後の「新しい波」～アメリカ(『イージー・ライダー』、『卒業』)
15 まとめとチェック
授業の進行状況、また学生のリクエスト等により、上記のテーマ・作品・順番は変更の可能性がります。

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中にその都度指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある まずは教務部窓口にご相談しましょう。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

留意事項： (ほぼ)毎回、ごくかんたんな課題を出します。提出は任意ですが、きちんと書いてあれば高く評価します。

作品の性質上、暴力的な、あるいは性的な描写が出てくることもあります。そういう場合は事前に注意を喚起しますが、それを不快に思う人は受講しないでください。

受講者が多すぎるときは初回に抽選します。この場合、初回欠席者の追加登録はできません。

科目コード：14171

科目ナンバリング：CC10C17J

主な使用言語：日本語

授業名(英文): インターンシップ(Internship)

担当者: 志賀 市子

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:実習

曜時:実習

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 01.実地訓練

授業の概要: 最近では企業もインターンシップの体験を重要視し、就職の時にこの体験の有無を聞かれることが多くなりました。学生にとってもその職種や業界が自分にあったものかどうかを実際に確かめる貴重な機会です。

実習先では、それぞれの仕事全体を展望し、体験できるように配慮されています。過去の日誌を読むと具体的な内容が分かりますので、希望者は担当者に問い合わせてください。

キーワード: マスコミ、観光、ホテル業

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 実習(インターン)前の企業研究を通して、マスコミやホテル業に対する幅広い知識を習得する。また、実習の経験を通して、業務内容を体験的に理解する。

評価方法: インターンの活動内容(インターン日誌, 受け入れ先の評価), および事後レポート **評価割合: 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: インターンを通して、マスコミやホテル業が社会で果たしている役割を深く理解する。また、インターンの経験を就職活動に生かす。

評価方法: インターンの活動内容(インターン日誌, 受け入れ先の評価), および事後レポート **評価割合: 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

インターンとして受け入れてもらっていることに感謝した上で率先して業務をこなし、インターンの学びを深める。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1) 4月の履修ガイダンスで一般的な説明をします。
また、4月中に希望者を募集します。
 - (2) インターンシップの履修登録は、実習に参加することが決まってから後期科目として9月に追加登録します。事前に勝手に登録してはいけません。
 - (3) インターンシップに応募する際に、「インターンシップを希望する理由(あるいは動機)」について文書を書き、担当者に提出します。
希望者が多い場合は、この文書も選考の資料とします。
 - (4) 参加が確定したら、「履歴書」を書き、担当者とともに実習先に赴いて事前準備と打ち合わせをします。

- (5) インターンシップ中は、日誌を書きます。実習期間は2週間
(10日×8時間=80時間)を標準とし、基本的に土日は休みとなります。
- (6) 終了後にまず「お礼状」を送り、その後「インターンシップで体験したこと、
考えたこと」についてのレポートを提出します。

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・実習前に業界研究を十分に進めておくこと。
・実習中の活動内容やそこでの日々の学びを、インターン日誌に毎日記述すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室またはオンラインで対応します。

留意事項: キャリア支援センターで行っているインターンシップに関するセミナーを受けておくことが望ましいです。

科目コード: 14172 **科目ナンバリング:** CC30C09K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 観光地理学(Geography of Tourism)

担当者: 薄井 晴

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 7.発表
17.発問と回答

授業の概要: 当授業は、『旅行業務取扱管理者』試験における観光地理の対策講座です。観光業界に就職するには、国家試験である『旅行業務取扱管理者』に合格し、当該資格を取得しておくことが望ましいです。

当授業では、『国内旅行業務取扱管理者』の試験を見据えた暗記と模擬テストに特化した内容になります。

日本国内における膨大な数の観光地や観光イベントの概略、位置、イベント開催時期などを、暗記せねばなりません。試験対策のため、暗記が中心となります。『旅行業務取扱管理者』の取得を目指す学生に、受講してもらいたいと思います。

キーワード: 旅行業務取扱管理者, 観光地理, 観光資源

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学習した観光地理に関する事項をおおむね80%は暗記し、回答することができる。また、習得した知識をもとに、他者に伝えられることができる。

評価方法: 課題・期末試験

評価割合: 80%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 『旅行業務取扱管理者』試験に出題される問題を正確に解くことができる。

評価方法: 課題・期末試験

評価割合: 20%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

特になし

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし課題・期末試験等において不正行為や剽窃などが見受けられた場合、授業中の私語や他の受講者に迷惑をかける行為を行った場合、著しい減点や厳重注意を行います。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1.ガイダンス(資格試験内容と学習視点の説明)
 - 2.主要観光地の学習(1)
 - 3.主要観光地の学習(2)
 - 4.主要観光地の学習(3)
 - 5.主要観光地の学習(4)
 - 6.主要観光地の学習(5)
 - 7.主要観光地の学習(6)
 - 8.主要観光地の学習(7)
 - 9.主要観光地の学習(8)
 - 10.主要観光地の学習(9)
 - 11.主要観光地の学習(10)
 - 12.主要観光地の学習(11)
 - 13.主要観光地の学習(12)
 - 14.主要観光地の学習(13)
 - 15.主要観光地の学習(14)

使用テキスト：

- ・中学、高校などで使用した地図帳や、昭文社の『旅地図(日本)』など、地名や観光資源が調べられる地図帳がある場合は持参すること。
- ・『国内観光地理サブノート(第13版)』株式会社JTB総合研究所

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：

- ・授業の学習内容は、最低でも1時間をかけて予習・復習を繰り返す。
- ・授業の最終目標は、暗記学習のみならず、自分の頭で観光地を理解・説明できることです。そのため、通常の講義に加えて、授業課題を通じて、観光地を「自分で調べる」機会を重視します。
- ・毎回の詳細な授業内容は、事前に連絡します。

参考文献

- ・U-CAN『旅行業務取扱管理者 観光資源(国内・海外)ポケット問題集&要点まとめ』ユーキャン学び出版
- ・『旅地図 日本』昭文社

障がいのある履修者への対応： まずは教務部窓口に相談してください。

授業時間外の連絡手段： Eメール: usui.harui.sd@alumni.tsukuba.ac.jpにて対応します

留意事項： 特になし

科目コード：14173 **科目ナンバリング：CC30C10K** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：旅行業A(約款・法令)(Travel Agent Business A(Laws and Ordinances))

担当者：小川 裕嗣

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：18. その他

授業の概要： 旅行業は日本では古くから発展していた産業ですが、旅行業法と旅行業約款が整備された

ことにより近代的な業態へと大きく変化しました。この授業では、前半は、旅行業法の中身を詳しく解説します。後半は、標準旅行業約款について「旅行者の責任」という消費者保護の考え方が導入されたことを中心に説明します。なお、旅行業協会での実務経験を活かし、問題の再発防止のために旅行業法が整備されていった経緯、旅行業約款の整備が旅行業界に与えた影響などについて具体的な事例を紹介して、消費者として係わることの多い旅行商品購入時の注意点を深く理解できるような授業にしていきます。

キーワード： 登録制度、営業保証金、旅程管理、旅行者の責任、旅行業務取扱管理者

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：「旅行業法」と「旅行業約款」は、旅行業関連の国家試験の科目です。授業で受けた解説により、この国家試験の問題の概ね80%を解くことができる。

評価方法： 学期末
筆記試験 **評価割合：90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた内容について、これまでに身に着けている知見や経験を踏まえて考察し、簡潔に自らの所見を表現することができる

評価方法： 学期末
筆記試験 **評価割合：10%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	旅行会社とは 旅行業法の目的 登録制度(1)
	第2回	旅行業法 登録制度(2) 営業保証金制度
	第3回	旅行業法 旅行業務取扱管理者 外務員 旅行業務取扱料金 契約の流れ
	第4回	旅行業法 契約書面 旅行業約款 標識
	第5回	旅行業法 広告の記載事項 旅程管理業務 旅程管理主任者 受託契約
	第6回	旅行業法 旅行者代理業 禁止行為 業務停止と登録の取消し
	第7回	旅行業法 旅行サービス手配業
	第8回	旅行業法 旅行業協会
	第9回	旅行業約款 約款の適用範囲 通信契約 契約の申込み 契約内容の変更
	第10回	旅行業約款 契約の解除 団体・グループ契約 旅程管理の業務内容
	第11回	旅行業約款 旅行代金の変更 契約の解除
	第12回	旅行業約款 旅行者の責任(1) 旅程保証、損害賠償
	第13回	旅行業約款 旅行者の責任(2) 特別補償

第14回 受注型企画旅行契約の部 手配旅行契約の部
第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は全てUNIPAの「授業資料」に掲載する。授業に出席する際には各回の資料を印刷して持参すること。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: UNIPAに掲載されている各回分の資料を印刷して、
・授業前には、その回に分からない用語を調べる。
・授業後は、講義で解説された例題をもう一度解き直し、解法の理解を深める。参考資料として次の著作を推薦する。
『旅行業務取扱管理者試験 一発合格テキスト 2. 旅行業法・約款』(大原出版株式会社)

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールアドレスでのアクセス可とします。学務部等に照会してください。

留意事項: 科目コード12091「旅行業務資格講座(Tourism Certificate Test Preparation)」と内容的に重複する部分が多いです。この科目と重複履修することは止めてください。

科目コード:14174 科目ナンバリング:CC20C43K 主な使用言語:日本語
授業名(英文): 情報処理関連資格対策講座(Preparing for System Administrator Level One Exam)
担当者: 三ツ堀 裕太

基本情報

年次:2 単位数:2 授業形式:講義
曜時:金曜5限 履修可能学科・専攻: C
関連資格: AL要素: 17. 発問と回答

授業の概要: 「あなたはパソコンを使えますか？」
このような問いに、あなたならどのように答えますか？
目的に応じてコンピュータを使いこなす能力は、現代社会においてはもはや必須のスキルと言えます。
このスキルを証明するための国家資格として、情報処理技術者試験があります。
ITパスポート試験はその入り口であり、上位試験の基礎とも言えるものです。

本講義では「ITパスポート試験対策」を通じ、コンピュータに関する広い知識を身に付けることを目指します。

キーワード: ITパスポート 合格 過去問

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「ITパスポート試験」の合格水準に相当する知識を身に付ける。

評価方法: ミニテスト **評価割合:** 100%
期末テスト

COVID-19対策に伴い、期末テストは期末レポートへ変更する可能性があります。

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 直接的な評価対象とはしません。

評価方法: 特になし **評価割合:** 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 情報処理技術者試験の概要
第2回 基礎学習(1)ハードウェア1
第3回 基礎学習(2)ハードウェア2
第4回 基礎学習(3)ソフトウェア
第5回 基礎学習(4)システム構成
第6回 基礎学習(5)ネットワーク
第7回 基礎学習(6)セキュリティ1
第8回 基礎学習(7)セキュリティ2
第9回 基礎学習(8)アルゴリズムとプログラミング
第10回 基礎学習(9)企業活動と法務1
第11回 基礎学習(10)企業活動と法務2
第12回 基礎学習(11)経営戦略とシステム戦略1
第13回 基礎学習(12)経営戦略とシステム戦略2
第14回 基礎学習(13)マネジメント1
第15回 基礎学習(14)マネジメント2
定期試験

使用テキスト： 栢木 厚 著『令和05年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』(技術評論社 出版)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 実際にITパスポート試験を受験したい方は、下記の書籍も併せて購入されることを推奨します。

五十嵐 聡 著『令和05年【上半期】ITパスポート パーフェクトラーニング過去問題集』(技術評論社 出版)

障がいのある履修者への対応： 自力で受講できることを条件に受け入れます。詳細は学務部等にご確認下さい。

授業時間外の連絡手段： 電子メールおよびSNSでの連絡手段を提供します。

留意事項： ITパスポート試験は出題範囲が非常に広いため、授業の限られた時間内だけではカバーできません。
試験合格に向けて、自主的に学習する姿勢を期待します。

科目コード：14175

科目ナンバリング：CC30C16K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：日本語教員試験対策講座(実践) (Preparing for Japanese as a Foreign Language Tea

担当者：堀口 悟

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜6限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C

関連資格：日本語

AL要素： 05即時応答
13役割演技
15レポート指導
16振り返り用紙と応答

授業の概要： 日本語教育能力検定試験合格のための、実践的授業。

キーワード： 日本語教育能力検定試験

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本語教育能力検定試験合格のための、実践的知識を持つ。

評価方法： 授業中の小テストと期末試験による。 評価割合：45%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 日本語教育能力検定試験合格のための、思考力・判断力・表現力を持つ。

評価方法： 授業中の小テストと期末試験による。 評価割合：45%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への参加、授業中の応答などで評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合：0%

▼公正性

加算項目とはしないが、公正性を欠く行為があった場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：0%

▼その他

遅刻は「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：遅刻は「学修に取り組む態度」の項

- 授業計画：
- 01 授業紹介、参考文献紹介
 - 02 ①検定試験の実際 ②出題範囲の重点と自己チェック
出題範囲別対策1：社会・文化・地域
 - 03 出題範囲別対策2：言語と社会①社会言語学
 - 04 出題範囲別対策3：言語と社会②多文化・多言語主義
 - 05 出題範囲別対策4：言語と心理
 - 06 出題範囲別対策5：言語と教育①教授法中心
 - 07 出題範囲別対策6：言語と教育②コミュニケーションの教育と能力
 - 08 出題範囲別対策7：言語一般①世界の言語・言語学
 - 09 出題範囲別対策8：言語一般②日本語
 - 10 中間まとめ
 - 11 試験Ⅰのコツと対策
 - 12 試験Ⅲのコツと対策
 - 13 聴解問題(試験Ⅱ)の概要 聴解問題のコツ①
 - 14 聴解問題(試験Ⅱ)のコツ②
 - 15 夏休みの勉強法と模擬試験について
 - 16 筆記試験

▼公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為があった場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：0%

▼その他

遅刻は「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：遅刻は「学修に取り組む態度」の項

- 授業計画：
- 01 授業紹介、参考文献紹介
 - 02 語の構成・語の意味関係・文字と表記
 - 03 言語と言語学
 - 04 文法1
 - 05 文法2
 - 06 文法3
 - 07 地域方言と社会方言
 - 08 中間まとめ
 - 09 記憶のメカニズム・第二言語習得の流れ
 - 10 異文化理解と異文化適応、異文化間教育
 - 11 ニーズ分析とコースデザイン、文法訳読法からコミュニカティブ・アプローチへ
 - 12 日本語の発音について
 - 13 冬休みと春休みとの勉強法
 - 14 学習活動と学習者タイプ、評価法1、評価法2
 - 15 昭和前期までの日本語教育、戦後復興から現代まで
 - 16 筆記試験

使用テキスト：岡田英夫『改訂版 日本語教育能力検定試験に合格するための 基礎知識』(2019年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献で、各自自習をしなければ、日本語教育能力検定試験合格は望めません。授業初回で指示する参考文献を各自できるだけ多く自習してください。

障がいのある履修者への対応： できる限り対応します。

授業時間外の連絡手段： ICメールによって24時間受付、近日中に回答します。堀口のメールアドレスは、初回の授業の時公開します。

留意事項： 授業外の自主学習が必須です。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須です。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めません(マスク着用や背景のぼかしは認めます)。

科目コード：14178 科目ナンバリング：CC10A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習II a(Underclassmen Seminar II a)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：15.レポート指導

授業の概要： 最初に、「多文化協働」、「観光」、「地域貢献」、「日本語教育」という学科の4本柱について学びます。次に、レポートを書く技術の基本をしっかりと身につけます。レポートは、大学の授業においてきわめて重要で、様々な授業の課題として提出が求められると共に、最終的には卒業研究(論文)にまで結びつくものです。各自、文化交流に関する新書を選び、その報告

文、意見文、批評・論文の書き方を実践的に学び、レポートに仕上げます。あわせて、授業の後半からタイピングの練習も集中的に行います。

キーワード： 文化交流、多文化協働、観光、地域貢献、日本語教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 文化交流学科が何をめざしているのかを知り、2年次以降の演習を始めとする授業に備える。

評価方法： 学期末
レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末
レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 1.基礎演習 I の概要説明
 - 2.学科は何を目指すのか ①多文化協働・日本語教育
 - 3.学科は何を目指すのか ②観光・地域貢献
 - 4.文化交流に関するレポートを作成する①
図書館OPAC、ネットを使っての本の探し方
 - 5.文化交流に関するレポートを作成する②
大学図書館での実習
 - 6.文化交流に関するレポートを作成する③
レポートの書き方(ワード基礎)
 - 7.文化交流に関するレポートを作成する④
選書リストの発表
 - 8.文化交流に関するレポートを作成する⑤
タイピング基礎
 - 9.文化交流に関するレポートを作成する⑥
資料の読み方・要約の仕方
 - 10.文化交流に関するレポートを作成する⑦
資料の読み方・要約文の比較
 - 11.文化交流に関するレポートを作成する
報告文の書き方
 - 12.文化交流に関するレポートを作成する⑧
エクセル基礎

- 13.文化交流に関するレポートを作成する⑨
意見文・論文の書き方
- 14.タイピング最終テスト
- 15.レポート提出

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 後半で新書を選んでもらうので、夏休み中に世界や日本の文化や文化交流に関する新書を1、2冊読んでおくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：14178 科目ナンバリング：CC10A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習II b(Underclassmen Seminar II b)

担当者：中山 健一

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：15.レポート指導

授業の概要： 最初に、「多文化協働」、「観光」、「地域貢献」、「日本語教育」という学科の4本柱について学びます。次に、レポートを書く技術の基本をしっかりと身につけます。レポートは、大学の授業においてきわめて重要で、様々な授業の課題として提出が求められると共に、最終的には卒業研究(論文)にまで結びつくものです。各自、文化交流に関する新書を選び、その報告文、意見文、批評・論文の書き方を実践的に学び、レポートに仕上げます。あわせて、授業の後半からタイピングの練習も集中的に行います。

キーワード： 文化交流、多文化協働、観光、地域貢献、日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 文化交流学科が何をめざしているのかを知り、2年次以降の演習を始めとする授業に備える。

評価方法： 学期末
レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末
レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1.基礎演習IIの概要説明
 - 2.学科は何を目指すのか ①多文化協働・日本語教育
 - 3.学科は何を目指すのか ②観光・地域貢献
 - 4.本の探し方
図書館OPAC、ネットを使っての本の探し方
 - 5.タイピング基礎
 - 6.新書リストの発表
 - 7.資料の読み方
 - 8.要約文の書き方①
 - 9.要約文の書き方②(個別指導)
 - 10.講演会
 - 11.レポートの書き方①
 - 12.レポートの書き方②
 - 13.レポートの書き方③
 - 14.要約文の返却と指導(個別指導)
 - 15.レポート提出、タイピング最終テスト

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 後半で新書を選んでもらうので、夏休み中に世界や日本の文化や文化交流に関する新書を1、2冊読んでおくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：14178 科目ナンバリング：CC10A02E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習II c(Underclassmen Seminar II c)

担当者：藤野 真拳

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：15.レポート指導

授業の概要： 最初に、「多文化協働」、「観光」、「地域貢献」、「日本語教育」という学科の4本柱について学びます。次に、レポートを書く技術の基本をしっかりと身につけます。レポートは、大学の授業においてきわめて重要で、様々な授業の課題として提出が求められると共に、最終的には卒業研究(論文)にまで結びつくものです。各自、文化交流に関する新書を選び、その報告文、意見文、批評・論文の書き方を実践的に学び、レポートに仕上げます。あわせて、授業の後半からタイピングの練習も集中的に行います。

キーワード： 文化交流、多文化協働、観光、地域貢献、日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 文化交流学科が何をめざしているのかを知り、2年次以降の演習を始めとする授業に備える。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1.基礎演習IIの概要説明
 - 2.学科は何を目指すのか ①多文化協働・日本語教育
 - 3.学科は何を目指すのか ②観光・地域貢献
 - 4.本の探し方
図書館OPAC、ネットを使っての本の探し方
 - 5.タイピング基礎
 - 6.新書リストの発表
 - 7.資料の読み方
 - 8.要約文の書き方①
 - 9.要約文の書き方②(個別指導)
 - 10.講演会
 - 11.レポートの書き方①
 - 12.レポートの書き方②
 - 13.レポートの書き方③
 - 14.要約文の返却と指導(個別指導)
 - 15.レポート提出、タイピング最終テスト

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 後半で新書を選んでもらうので、夏休み中に世界や日本の文化や文化交流に関する新書を1、2冊読んでおくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード:14178

科目ナンバリング:CC10A02E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):基礎演習II d(Underclassmen Seminar II d)

担当者:宮崎 晶子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型・オンデマンド型)、課題研究型を組み合わせて実施する。

使うアプリケーション:teams

最初に、「多文化協働」、「観光」、「地域貢献」、「日本語教育」という学科の4本柱について学びます。次に、レポートを書く技術の基本をしっかりと身につけます。レポートは、大学の授業においてきわめて重要で、様々な授業の課題として提出が求められると共に、最終的には卒業研究(論文)にまで結びつくものです。各自、文化交流に関する新書を選び、その報告文、意見文、批評・論文の書き方を実践的に学び、レポートに仕上げます。

あわせて、授業の後半からタイピングの練習も集中的に行います。

キーワード：文化交流、多文化協働、観光、地域貢献、日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：文化交流学科が何をめざしているのかを知り、2年次以降の演習を始めとする授業に備える。

評価方法：学期末

評価割合：50%

レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：学期末

評価割合：50%

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 1.基礎演習Ⅰの概要説明
- 2.学科は何を目指すのか ①観光・地域貢献
- 3.学科は何を目指すのか ②多文化協働(多文化共生)・日本語教育
- 4.特別講演会
- 5.本の探し方
- 6.タイピング基礎
- 7.新書リストの発表

- 8.資料の読み方
- 9.要約文の書き方①
10. 要約文書き方②(個別指導)
- 11.Word基礎
- 12.Excel基礎
- 13.レポートの書き方
- 14.要約文の返却(個別指導)
- 15.レポート提出, タイピング最終テスト

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 後半で新書を選んでもらうので、夏休み中に世界や日本の文化や文化交流に関する新書を1、2冊読んでおくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 14179 **科目ナンバリング:** CC21A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習III a(Underclassmen Seminar III a)

担当者: 勝山 紘子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07発表

11討論

15レポート指導

授業の概要: この授業では、3、4年生に向けて、研究テーマを決めて発表・論文にまとめられるようになるためのトレーニングをします。まずは、「自分の好きなこと・関心のあること」を考えましょう。また、プレゼンテーションのトレーニングとして、パワーポイント作成の練習をします。20分程度の発表時間で、自分の調べたこと、テーマについて発表できるようにしましょう。そして自分の関心に沿った論文の探し方、読み方も練習します。

キーワード: 社会 文化 文学 ヨーロッパ 日本 現代

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 興味を持って取り組めるテーマを決め、テーマ探究に必要な論文を見つけることができる。またその論文を引用しながら考察を深めることができる。

評価方法: 発表・討論

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: パワーポイントに発表資料としてまとめ、自分のテーマについて発表ができる。

評価方法: 発表・討論・レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

発表の内容に加え、他の受講者の発表についてのコメントや討論などへの積極的な参加が求められる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 テーマの絞り方、文献の探り方、発表の仕方について
 - 3 テーマの決定と発表の順番決め
 - 4 テーマについての資料収集
 - 5 テーマについての資料収集
 - 6 学生の発表①
 - 7 学生の発表②
 - 8 学生の発表③
 - 9 学生の発表④
 - 10 学生の発表⑤
 - 11 学生の発表⑥
 - 12 学生の発表⑦
 - 13 学生の発表⑧
 - 14 学生の発表⑨
 - 15 総括

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究発表の内容をより良いものにするよう、真摯に取り組んでください。発表内容を充実させるための資料集めも各自積極的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 授業では他のひとの発表、レポートについて、積極的にコメントしてください。他者の意見に対して、批判・あらさがしするのではなく、活発な議論を展開するトレーニングをしましょう。

科目コード：14179 科目ナンバリング：CC21A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習Ⅲ b(Underclassmen Seminar III b)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：11. 発表
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： 2019年4月、外国人労働者の受け入れを拡大する改正入国管理法が施行され、日本で働く外国人は現在にも増して増えていくことが予想されています。また訪日外国人旅行者の数も年々増加しています。多様なルーツを持つ人々と共に暮らし、共に支えあって生きていくために、私たちは現在日本や世界において、文化的衝撃から起きている摩擦や葛藤や紛争についてもっとよく知り、他者との対話を通して、相互理解を深めていく必要があります。この授業では、日本や世界における移民や難民の多様な実態をまず知り、望ましい「多文化共生」

のありかたについて議論ができる知識、思考力、対話力を養うことを目指します。

キーワード： 人の移動 移民 難民 多文化社会 多文化共生 外国人労働者 技能実習生 在日外国人
人 エスニシティ エスニックコミュニティ 国際結婚 日本語教育 マイノリティ マジョリティ
団地

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で講読するテキストの内容を十分理解し、内容を適切に発表することができる。そのうえで、問題意識を持って、自主学習に取り組み、自分自身で考える研究テーマにつなげていくことができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、課題へ取り組む姿勢など)から評価する。 **評価割合：40パーセント**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。具体的には、授業で扱った内容を踏まえて研究テーマを設定し、考察に必要な資料を集め、資料を批判的に読み、適切に参照して自分の主張や意見をまとめていくことができる。

評価方法： グループ発表と個人発表、さらに期末レポートの内容から評価する。 **評価割合：60%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業での発表や期末レポートの記述内容により著しく認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし地域貢献やボランティア活動への参加により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 オリエンテーション
第2回 文献講読 グループ発表 ①
第3回 文献講読 グループ発表 ②
第4回 文献講読 グループ発表 ③
第5回 文献講読 グループ発表 ④
第6回 文献講読 グループ発表 ⑤
第7回 文献講読 グループ発表 ⑥
第8回 文献講読 グループ発表 ⑦
第9回 文献講読 グループ発表 ⑧
第10回 まとめ

- 第11回 レポートの書き方① テーマを決める、資料をさがす
 第12回 レポートの書き方② レポートと感想文の違い、章立て、註、参考文献の書き方
 第13回 ディベート①
 第14回 ディベート②
 第15回 ディベート③

使用テキスト: 指定教科書:
 高谷幸編著『移民政策とは何かー日本の現実から考える』人文書院、2019年

副読本:
 プレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社、2019年
 望月優大『ふたつの日本:「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書、2019年
 安田浩一『団地と移民』角川書店、2019年

**予習・復習のポイントと
 参考文献・資料等:**

指定テキストをよく読み、テキストや授業中に紹介された参考文献を積極的に講読することが求められる。この他、新聞やテレビの時事ニュースを日常的にチェックし、わからない概念や用語は自主的に調べることを。

**障がいのある
 履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室、またはオンラインで対応するほか、緊急時にはメールでも対応します(オフィスアワーの曜日・時限、メールアドレスについては初回にお知らせします)。

留意事項: 特になし

科目コード: 14179 **科目ナンバリング:** CC21A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習III c(Underclassmen Seminar III c)

担当者: 染谷 智幸

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 火曜2限 **履修可能学科・専攻:** C

関連資格: **AL要素:** 発表・討論

授業の概要: テーマは「茨城・巴水・アート・街歩き」。アートの感覚を芸術の入門書や川瀬巴水等の作品から学び、養いながら、茨城という土地でどう豊かに生きていくべきかを考える。一人一人の情報発信を重視する。3年次以降の本格的な演習に備えて、基本的なフィールド調査や発表方法を身につけることを第一にして、研鑽をかさねてゆく。

キーワード: 茨城、川瀬巴水、アート、街歩き、小旅行、インスタ、ブログ、Twitter

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論 **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入

れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究発表(20分)の内容はもちろん、他者の発表について積極的に異見や質問をする態度は評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1) 前期授業概要説明
 - 2) アートと茨城
 - 3) 川瀬巴水について
 - 4) 川瀬巴水作品の鑑賞
 - 5) 学生の発表①
 - 6) 学生の発表?
 - 7) 学生の発表③
 - 8) 学生の発表④
 - 9) 学生の発表⑤
 - 10) フィールドワーク①
 - 11) フィールドワーク?
 - 12) フィールドワーク③
 - 13) フィールドワーク(まとめ)
 - 14) 授業のまとめ①
 - 15) 授業のまとめ?

使用テキスト: テキスト:川瀬巴水とその時代を知る会編『川瀬巴水探索』(文学通信)
参考文献:青い日記帳編『いちばんやさしい美術鑑賞』(ちくま新書)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表(20分)の準備とそのまとめに力を入れること

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらう場合があります。

留意事項: 後期にフィールドワークを行います。調査先は県北の日立周辺、県央の澗沼周辺です。日帰りを予定しています。費用が5000円~10000円程度かかります。前期はそれに備えて水木、河原子の調査を行います。費用はかかりません。

科目コード:14179

科目ナンバリング:CC21A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):基礎演習III d(Underclassmen Seminar III d)

担当者:細谷 瑞枝

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻： C

関連資格：

AL要素： 10資料調査課題

11討論

14輪読活動

15レポート指導

授業の概要： 異文化やカルチャーショックを体験するのは海外で、というのはひと昔前の話。今や日本国内で暮らす、学ぶ、働く外国人の人は大勢います。交流の機会はどこにでもあり、文化の違いによる軋轢や問題も避けられないかもしれません。この授業では身近にある「異」体験について考え、ディスカッションを通じて自分の見方の地平線を広げましょう。
テキストを正確に読む、関連資料を集める、発表する、レポートにまとめるという大学生に必須の能力を磨いて、3、4年生のゼミ研究につなげます。

キーワード： 自文化、異文化、コミュニケーション、アイデンティティ、ステレオタイプ、共生社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 異文化コミュニケーションに関する基本的な知識をもち、文献を正確に読み取り、簡潔にまとめることができる。

評価方法： 発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らの関心に合わせて適切なテーマを設定し、文献を集めて、それを批判的に読み、自分の考えを根拠をもって表現することができる。

評価方法： 発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって深められた知識、考察を、発表および期末レポートにおいて十分かつ適切に表現することができる。

また、他の受講生の発表に対して積極的に関与し、建設的な意見を述べることができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にしない。ただし、他の受講生の発表テーマに関して有意義な意見や知見を積極的に述べるなどの姿勢が著しい場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 1 ガイダンス
- 2 各自のテーマ発表・輪読発表担当決め
- 3 文献輪読・ディスカッション(1)
- 4 文献輪読・ディスカッション(2)
- 5 文献輪読・ディスカッション(3)
- 6 文献輪読・ディスカッション(4)

- 7 文献輪読・デスカッション(5)
- 8 文献輪読・デスカッション(6)
- 9 受講生による研究発表(1)
- 10 受講生による研究発表(2)
- 11 受講生による研究発表(3)
- 12 受講生による研究発表(4)
- 13 受講生による研究発表(5)
- 13 受講生による研究発表(6)
- 15 まとめ

使用テキスト: 池田理知子・埴幸枝編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション』三修社 2019年
2000円+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 輪読に関しては、必ずテキストを一読して授業に臨んでください。復習ではテキストを読み返して、全体の流れを把握することに努めてください。
自分の発表に関しては、十分な時間をかけて、簡潔なレジュメを作成すること。発表後は、受講生のコメントに目を通し、次回の発表に役立ててください。
他の受講生の発表に関しては、必ずレジュメに目を通し、分からない点をチェックしておくようにします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者にお話してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受けつけます。

留意事項: 毎回、小グループに分かれて話し合う時間を設けます。自分の意見を積極的に述べるのも大切ですが、他のメンバーの意見に耳を傾けることも心がけましょう。
また、発表に対するコメントをTeamsのチャンネルに書くことは毎回の課題です。

科目コード: 14179 **科目ナンバリング:** CC21A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習III e(Underclassmen Seminar III e)

担当者: 堀口 悟

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07発表
11討論
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要:

日本語・日本語教育・日本の伝統文化などをテーマにして、ゼミ員相互で発表し合い、考え合う授業。

キーワード: 日本語・日本文化・日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 日本語・日本文化について、自分で調査し、調査結果をまとめ、効果的な方法で発表することができる。

評価方法: 授業中の質疑応答と自分の発表とによる。 **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 他人の発表を理解し、評価し、自分の発表やレポートに十分に生かせる能力を持つ。

評価方法: 授業での発表と学期末レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質疑応答、他の発表者に対する評価カードによる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合: 0%

▼公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合: 0%

▼その他

遅刻は「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合: 遅刻は「学修に取り組む態度」から

授業計画:

- 第1回 自己紹介(他己紹介)
- 第2回 発表内容と発表順決定
- 第3回 レポートの作成方法
- 第4回 発表と討論①
- 第5回 発表と討論②
- 第6回 発表と討論③
- 第7回 発表と討論④
- 第8回 発表と討論⑤
- 第9回 発表と討論⑥
- 第10回 発表と討論⑦
- 第11回 発表と討論⑧
- 第12回 発表と討論⑨
- 第13回 日本文化体験
- 第14回 レポート作成の指導
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応する。

授業時間外の連絡手段: ICメールにより、24時間受付、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の初めに公開する。

留意事項: 出席重視。
受講人数によって、授業計画を適宜変更する場合がある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード: 14180

科目ナンバリング: CC22A01E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 基礎演習IV a(Underclassmen Seminar IV a)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07発表

11討論

15レポート指導

授業の概要： この授業では、3, 4年生に向けて、研究テーマを決めて発表・論文にまとめられるようになるためのトレーニングをします。

前期で発表した内容について、レポートにまとめる練習をします。その際、論の考察に必要な論文を複数本読み、どのように自分の論に組み込めるか、引用・参照の仕方を学びます。

キーワード： 社会 文化 文学 ヨーロッパ 日本 現代

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： テーマ探究に必要な論文を見つけることができる。またその論文を自身の考察の論証に用いながら、テーマについてのレポートをまとめられる。

評価方法： 発表・討論・レポート

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： テーマ探究に必要な論文を見つけることができる。またその論文を自身の考察の論証に用いながら、テーマについてのレポートをまとめられる。

評価方法： 発表・討論・レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

発表の内容に加え、他の受講者の発表についてのコメントや討論などへの積極的な参加が求められる。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 1 ガイダンス

2 レポート作成に向けての準備作業①

3 レポート作成に向けての準備作業②

4 学生のレポート発表①

5 学生のレポート発表②

6 学生のレポート発表③

7 学生のレポート発表④

8 学生のレポート発表⑤

9 学生のレポート発表⑥

10 学生のレポート発表⑦

11 学生のレポート発表⑧

12 学生のレポート発表⑨

- 13 レポート完成のための作業
- 14 レポート完成のための作業
- 15 総括

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表の内容をより良いものにするよう、真摯に取り組んでください。発表内容を充実させるための資料集めも各自積極的に行ってください。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項: 授業では他のひとの発表、レポートについて、積極的にコメントしてください。他者の意見に対して、批判・あらさがしするのではなく、活発な議論を展開するトレーニングをしましょう。

科目コード: 14180 **科目ナンバリング:** CC22A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習IV b(Underclassmen Seminar IV b)

担当者: 志賀 市子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 11. 発表
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要: 2019年4月、外国人労働者の受け入れを拡大する改正入国管理法が施工され、日本で働く外国人は現在にも増して増えていくことが予想されています。また訪日外国人旅行者の数も年々増加しています。多様なルーツを持つ人々と共に暮らし、共に支えあって生きていくために、私たちは現在日本や世界において、文化的衝撃から起きている摩擦や葛藤や紛争についてもっとよく知り、他者との対話を通して、相互理解を深めていく必要があります。後期は日本で生活する多様な移民のコミュニティに焦点をあてて、「多文化共生」のありかたを考えます。

キーワード: 人の移動 移民コミュニティ 在日外国人 難民 多文化社会 多文化共生

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で講読するテキストの内容を十分理解し、内容を適切に発表することができる。そのうえで、問題意識を持って、自主学習に取り組み、自分自身で考える研究テーマにつなげていくことができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)から評価する。 **評価割合:** 40パーセント

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。具体的には、授業で扱った内容を踏まえて研究テーマを設定し、考察に必要な資料を集め、資料を批判的に読み、適切に参照して自分の主張や意見をまとめていくことができる。

評価方法: グループ発表と個人発表、さらに期末レポートの内容から評価する。 **評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業での発表や期末レポートの記述内容により著しく認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし地域貢献やボランティア活動への参加により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 文献講読 グループ発表①
 - 第3回 文献講読 グループ発表②
 - 第4回 文献講読 グループ発表③
 - 第5回 文献講読 グループ発表④
 - 第6回 文献講読 グループ発表⑤
 - 第7回 文献講読 グループ発表⑥
 - 第8回 文献講読 グループ発表⑦
 - 第9回 文献講読 グループ発表⑧
 - 第10回 関連DVD鑑賞
 - 第11回 関連DVD鑑賞
 - 第12回 個人発表①
 - 第13回 個人発表②
 - 第14回 個人発表③
 - 第15回 まとめ

使用テキスト： 指定教科書：

駒井洋監修、小林真生編著『変容する移民コミュニティー時間・空間・階層』明石書店、2020年

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等： 指定テキストをよく読み、テキストや授業中に紹介された参考文献を積極的に講読することが求められる。この他、新聞やテレビの時事ニュースを日常的にチェックし、わからない概念や用語は自主的に調べる。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室やオンラインで対応するほか、緊急時にはメールでも対応します（オフィスアワーの曜日・時限、メールアドレスについては初回にお知らせします）。

留意事項： 特になし

科目コード : 14180

科目ナンバリング : CC22A01E

主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 基礎演習IV c(Underclassmen Seminar IV c)

担当者 : 染谷 智幸

基本情報

年次 : 2

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜2限

履修可能学科・専攻 : C

関連資格 :

AL要素 : 発表・討論

授業の概要 : テーマは「茨城・巴水・アート・街歩き」。アートの感覚を芸術の入門書や川瀬巴水等の作品から学び、養いながら、茨城という土地でどう豊かに生きていくべきかを考える。一人一人の情報発信を重視する。3年次以降の本格的な演習に備えて、基本的なフィールド調査や発表方法を身につけることを第一にして、研鑽をかさねてゆく。

キーワード : 茨城、川瀬巴水、アート、街歩き、小旅行、インスタ、ブログ、Twitter

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法 : 発表・討論

評価割合 : 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法 : 発表・討論

評価割合 : 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

研究発表(20分)の内容はもちろん、他者の発表について積極的に異見や質問をする態度は評価の対象とする。

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし

評価割合 : 特になし

授業計画 :

- 1) 後期授業概要説明
- 2) アートと日本
- 3) 新版画について
- 4) 新版画の鑑賞
- 5) 学生の発表①
- 6) 学生の発表②
- 7) 学生の発表③
- 8) 学生の発表④
- 9) 学生の発表⑤

- 10) フィールドワーク①
- 11) フィールドワーク?
- 12) フィールドワーク③
- 13) フィールドワーク(まとめ)
- 14) 授業のまとめ①
- 15) 授業のまとめ?

使用テキスト: テキスト:川瀬巴水とその時代を知る会編『川瀬巴水探索』(文学通信)
参考文献:青い日記帳編『いちばんやさしい美術鑑賞』(ちくま新書)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表(20分)の準備とそのまとめに力を入れること

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらう場合があります。

留意事項: フィールドワークとして、県北の日立周辺、県央の涸沼周辺の日帰り調査旅行を行います。費用が5000円~10000円程度かかります。

科目コード: 14180 **科目ナンバリング:** CC22A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習IV d(Underclassmen Seminar IV d)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 10資料調査課題
11討論
14輪読活動
15レポート指導

授業の概要: 異文化やカルチャーショックを体験するのは海外で、というのはひと昔前の話。今や日本国内で暮らす、学ぶ、働く外国の人は大勢います。交流の機会はどこにでもあり、文化の違いによる軋轢や問題も避けられないかもしれません。この授業では身近にある「異」体験について考え、ディスカッションを通じて自分の見方の地平線を広げましょう。
テキストを正確に読む、関連資料を集める、発表する、レポートにまとめるという作業を繰り返しながら、基礎演習IIで取り上げた自分のテーマを深化・発展させて、3,4年生のゼミ研究につなげます。

キーワード: 自文化、異文化、コミュニケーション、アイデンティティ、ステレオタイプ、共生社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 異文化コミュニケーションに関する基本的な知識をもち、文献を正確に読み取り、簡潔にまとめることができる。

評価方法: 発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らの関心に合わせて適切なテーマを設定し、文献を集めて、それを批判的に読み、自分の考えを根拠をもって表現することができる。

評価方法: 発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって深められた知識、考察を、発表および期末レポートにおいて十分かつ適切に表現することができる。

また、他の受講生の発表に対して積極的に関与し、建設的な意見を述べるができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にしない。ただし、他の受講生の発表テーマに関して有意義な意見や知見を積極的に述べるなどの姿勢が著しい場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 各自のテーマ発表・輪読発表担当決め
 - 3 文献輪読・ディスカッション(1)
 - 4 文献輪読・ディスカッション(2)
 - 5 文献輪読・ディスカッション(3)
 - 6 文献輪読・ディスカッション(4)
 - 7 文献輪読・ディスカッション(5)
 - 8 文献輪読・ディスカッション(6)
 - 9 受講生による研究発表(1)
 - 10 受講生による研究発表(2)
 - 11 受講生による研究発表(3)
 - 12 受講生による研究発表(4)
 - 13 受講生による研究発表(5)
 - 13 受講生による研究発表(6)
 - 15 まとめ

使用テキスト： 池田理知子・塙幸枝編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション』三修社 2019年
2000円+税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 輪読に関しては、必ずテキストを一読して授業に臨んでください。復習ではテキストを読み返して、全体の流れを把握することに努めてください。
自分の発表に関しては、十分な時間をかけて、簡潔なレジュメを作成すること。発表後は、受講生のコメントに目を通し、次の発表に役立ててください。
他の受講生の発表に関しては、必ずレジュメに目を通し、分からない点をチェックしておくようにします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者にお話してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受け付けます。

留意事項： 毎回、小グループに分かれて話し合う時間を設けます。自分の意見を積極的に述べるのも大切ですが、他のメンバーの意見に耳を傾けることも心がけましょう。
また、発表に対するコメントをTeamsのチャンネルに書くことは毎回の課題です。

科目コード：14180

科目ナンバリング：CC22A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習IV e(Underclassmen Seminar IV e)

担当者：堀口 悟

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07発表

11討論

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要： 日本語・日本語教育・日本の伝統文化などをテーマにして、日本文化やその発表の仕方を学びます。

発表のテーマは、教員と相談しながら、各人が決定します。ご参考に、過去のテーマ例を示します。

*日本語教育について*相撲の文化*世界の神話を比較する*茶道*華道*香道
*陶磁器文化*日本文学*和菓子*人形*花火*温泉*韓服*アクセサリ*日韓食文化比較

*日本の庭*城の文化史*琴と三味線*日本と海外の結婚式*アジアの正月文化

以上は、ほんの一例です。自分なりのテーマを探すことから始めます。

キーワード： 日本語・日本文化・日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本語・日本文化について、自分で調査し、調査結果をまとめ、効果的な方法で発表することができる。

評価方法： 授業中の質疑応答と自分の発表とによる。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 他人の発表を理解し、評価し、自分の発表やレポートに十分に生かせる能力を持つ。

評価方法： 授業での発表と学期末レポート **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質疑応答、他の発表者に対する評価カードによる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に主体的に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合：0%

▼公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：0%

▼その他

遅刻は「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合：遅刻は「学修に取り組む態度」から

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 日本文化発表法(1)
第3回 日本文化発表法(2)
第4回 発表と討論①

- 第5回 発表と討論②
- 第6回 発表と討論③
- 第7回 発表と討論④
- 第8回 発表と討論⑤
- 第9回 発表と討論⑥
- 第10回 発表と討論⑦
- 第11回 発表と討論⑧
- 第12回 発表と討論⑨
- 第13回 レポート作成の指導
- 第14回 日本文化体験
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に適宜指示する。

障がいのある履修者への対応: できる限り対応する。

授業時間外の連絡手段: ICメールにより、24時間受付、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の初めに公開する。

留意事項: 出席重視。
受講人数によって、授業計画を適宜変更する場合がある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード: 14182 **科目ナンバリング:** CC31A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習I a(Seminar in Cross-cultural Studies I a)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 火曜3限 **履修可能学科・専攻:** C

関連資格: **AL要素:** 演習

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

- 1) 現代ヨーロッパ(とりわけフランス)の現代を特徴づけるさまざまな諸問題を理解します。
- 2) 政治や経済、歴史、思想といった硬派な面のみならず、家族や男女関係、教育、若者の失業、映画や文学、など、皆さんと同世代の学生たちがどのような事柄に関心をもっているのかを探ります。
- 3) これらの問題に目を配ることで、世界史の新たな頁を開きつつあるヨーロッパとフランスの現状をトータルに理解できることを目指します。
- 4) 個々の課題をこなすことで、専門書などの文献をどのように読み込むか、また調査したことをどのようにまとめ、発表するかといったノウハウを身につけることも目標となります。
- 5) ある特定の書物を輪読し、その内容について皆で議論します。
- 6) どのような書物を選ぶかは、まずは教員が複数タイトルを推薦し、受講生の意見や要望を出してもらって決めます。
- 7) 学んだことは結果として形に残しましょう。昨年度は全員で画家ルノワールの詳細年譜を作成しました。作家や画家や映画監督や思想家の作品案内など、卒研のテーマにもなるでしょう。

キーワード: 現代ヨーロッパ フランス 社会 経済 政治 思想 文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法：レポート

評価割合：100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：上記に含まれます。

評価方法：上記に準じます。

評価割合：0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 01 ガイダンス
02 ガイダンス2（自分のテーマを考える）
03 テキストの輪読と討議
04 テキストの輪読と討議
05 テキストの輪読と討議
06 テキストの輪読と討議
07 テキストの輪読と討議
08 テキストの輪読と討議
09 テキストの輪読と討議
10 テキストの輪読と討議
11 テキストの輪読と討議
12 テキストの輪読と討議
13 テキストの輪読と討議
14 発表
15 発表2

使用テキスト：プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

- 留意事項： 1)出席を重視します。
2)学科専門科目「フランスの歴史と文化(ヨーロッパの歴史と文化B)」の履修が必須です。まだの人は同時に履修してください。
3)卒業研究を前提とします。

科目コード：14182

科目ナンバリング：CC31A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 文化論演習I b(Seminar in Cross-cultural Studies I b)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜5限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 9.実地調査

授業の概要: この演習では、地域調査(地理学)のスキルの習得、および地域活性化活動の経験獲得を目指します。

日立市をはじめとした全国の地方都市は、人口の少子高齢化や基幹産業の停滞に伴い、多くの社会課題が山積しています。雇用機会の減少とそれに伴う若年層の流出、商店街・医療機関といった生活インフラの減少、農業の衰退と耕作放棄地の増加などです。しかし今、こうした社会課題がチャンスに変わろうとしています。実際に、社会課題を新しいビジネスと結びつけて起業する若者が増えています。全国が注目する面白い政策を展開する、熱い市町村もあります。私たちは、こうした熱い変革の最前線に立っているのです。丹念なフィールドワークによって社会の構造を理解し、地域活性化に向けた政策を具体的に考える点こそが、地理学の醍醐味です。地理学にとっても茨城県北部は大変興味深い地域です。

文化論演習Ibでは、地域調査の基礎的なスキルを学ぶとともに、実際に地域活性化事業に参加し、街づくりの現場を体験します。2023年度は、小美玉市でのシティプロモーション活動、および多文化交流活動への参加を予定しています。

キーワード: 地域に対する理解の深化、地域調査(地理学)のスキルの習得、地域活性化の現場体験、アントレプレナーシップ、シティプロモーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 講義や文献研究で学んだ知識を基に、自らにの力で地域の社会問題を見出し、独自の視点で社会問題の本質を理解することができる。また、フィールドワークのノウハウを習得する。

評価方法: 「授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)およびレポート等により総合的に評価する」
評価割合: 30%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会問題を多面的視点からとらえ、問題解決に向けた議論をすることができる。

評価方法: 「授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)およびレポート等により総合的に評価する」
評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

フィールドワークを実施することで、社会調査に主体的に取り組むことができる。また、問題解決に向けて、自らが行動を起こすことができる。

評価割合: 20%

▼ 実践的ボランティア

地域の方々と協同しつつ、地域活性化事業に積極的・主体的に参加し、貢献することができる。

評価割合: 20%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回：地域調査(地理学)とは
第2回：調査方法1(文献収集1)
第3回：調査方法2(統計データの収集・分析)
第4回：調査方法3(論文の読み方1)
第5回：調査方法4(論文の読み方2)
第6回：地域の現状と地域活性化の重要性
第7回：サンドアートフェスティバルの企画・準備
第8回：地域の現状と地域活性化の重要性
第9回：プレゼンテーション①
第10回：プレゼンテーション②
第11回：プレゼンテーション③
第12回：プレゼンテーション④
第13回：プレゼンテーション⑤
第14回：後期レポート課題の決定
15回：夏休みにおけるフィールドワーク調査の確認

使用テキスト： [使用テキスト]
・特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。
・事前準備も含め、地域活性化事業に積極的に参加すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項： ・このゼミはフィールドワークを前提としています。街づくりやアントレプレナーシップ、シティプロモーションなどに興味のある学生を募集しています。
・地域調査は、現地でのフィールドワークが基本です。体力とコミュニケーション力が重要となります。地域活性化事業も同様です。地域に対する基礎知識の習得しておくとともに、体力とコミュニケーション力を磨いておいて下さい。
・論文紹介やレポート作成など、課題も多いです。毎週最低5時間は、論文読解や発表の準備、レポート作成に充ててください。分からないことがあったら、いつでも聞きに来て下さい。
・このゼミは、地域活性化の現場に飛び込むため、授業時間以外の活動が多いです。

科目コード：14182 科目ナンバリング：CC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習I c(Seminar in Cross-cultural Studies I c)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07発表

11討論

15レポート指導

授業の概要： この授業では、ヨーロッパ(主にドイツ)の社会や文化について知り、自分なりの考察を深めることを目的とします。まずは文化や習慣、社会のシステムや教育、環境問題など、自分の関心のあるテーマを決めましょう。そのうえで、独自の視点を持って発表をし、発表後は参加者

全員でディスカッションを行います。発表した内容は、発表後のコメントをもとにレポートにまとめます。レポートの書き方、論文の書き方の基礎を身につけることが目標です。

キーワード：ドイツ ヨーロッパ 社会 文化 文学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法：発表・討論・レポート

評価割合：40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法：発表・討論・レポート

評価割合：40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

発表の内容に加え、他の受講者の発表についてのコメントや討論などへの積極的な参加が求められる。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1 ガイダンス
 - 2 テーマの絞り方、文献の探り方、発表の仕方について
 - 3 テキストの講読と発表準備のためのアドバイス
 - 4 テーマの決定と発表の順番決め
 - 5 学生の発表(1)
 - 6 レポート研究(1)
 - 7 学生の発表(2)
 - 8 レポート研究(2)
 - 9 学生の発表(3)
 - 10 レポート研究(3)
 - 11 学生の発表(4)
 - 12 レポート研究(4)
 - 13 学生の発表(5)
 - 14 レポート研究(5)
 - 15 総括

使用テキスト： 必要に応じ、授業内で指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究発表の内容をより良いものにするよう、真摯に取り組んでください。発表内容を充実させるための資料集めも各自積極的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 授業では他のひとの発表、レポートについて、積極的にコメントしてください。他者の意見に対して、批判・あらさがしするのではなく、活発な議論を展開するトレーニングをしましょう。

科目コード：14182 科目ナンバリング：CC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習I d(Seminar in Cross-cultural Studies I d)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：11. 発表
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： このゼミでは、近現代社会において加速度的に進行したグローバリゼーションに伴う人、物、金、情報のフロー(流れ)とその渦の中から生み出されるさまざまな文化現象について、歴史人類学的な角度や方法(史料、フィールドワーク、ライフヒストリーなど)から考えていきます。ゼミの目標は以下の通りです。①文化人類学的方法の実践を通して、文化をめぐるグローバルな問題について知見を深めるとともに、フィールドワークの方法を体験的に学び、異文化や自文化を相対化することのできる知識や考え方を身につける。②自分自身の関心を文化人類学的な研究へと発展させ、自分自身のフィールドワーク(インタビュー、参与観察など)を計画し、実践する。大学3年生、4年生という、大学生活において最も重要な2年間に取り組むべき研究対象を見出し、その研究対象に全力で向き合い、研究成果を挙げる。その成果をわかりやすく、多くの人が関心を持ってもらえるように発表し、最終的に研究レポート(卒論)を完成させる。

キーワード： グローバリゼーション、歴史人類学、フィールドワーク、ライフヒストリー、オーラル・ヒストリー、移民史、文化、宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で講読するテキストの内容を十分理解し、内容を適切に発表することができる。そのうえで、問題意識を持って、自主学習に取り組み、自分自身で考える研究テーマにつなげていくことができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)から評価する。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。具体的には、授業で扱った内容を踏まえて研究テーマを設定し、考察に必要な資料を集め、資料を批判的に読み、適切に参照して自分の主張や意見をまとめていくことができる。

評価方法： 個人発表、と期末レポートの内容から評価する。 **評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業での発表や期末レポートの記述内容により著しく認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし地域貢献や異文化体験への参加により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

とくに無し

評価割合：とくに無し

授業計画： 今年のゼミは昨年に続き、①前期、後期を通して、全員が一貫したテーマに基づくいくつかの文献を講読する、②各自、自分の関心に沿ってテーマを決め、最終的にまとめたレポート(卒論)を完成させる、という二本立てで進めていきます。①については、「ライフストーリーの手法を用いた移民史」をとりあげます。たとえば昨年講読した朴沙羅著『家(チベ)の歴史を書く』は、在日コリアン三世である著者がライフストーリー調査を通して紡ぎあげた、自分の家族の歴史的記録です。②については、各自、自分の興味に従ってテーマを決める(3年、4年と継続して取り組むことのできるテーマが望ましい)→問い、仮説を立てる→資料を集める→分析する→結論を導き出すという研究のプロセスを学びます。また毎年1回学外研修(ゼミ旅行)として、アニメ聖地巡礼や横浜の華人廟、新大久保エスニックタウン巡りなどを行っています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献購読①
- 第3回 文献購読②
- 第4回 文献購読③
- 第5回 文献購読④
- 第6回 文献購読⑤
- 第7回 まとめ、討論
- 第8回 各自テーマを決める
- 第9回 資料や関連論文を集める 専門書、論文の探し方 図書館の使い方
- 第10回 資料や関連論文の読み方、レジュメ、パワーポイントの作り方、プレゼン技法
- 第11回 個人発表①
- 第12回 個人発表②
- 第13回 個人発表③
- 第14回 個人発表④
- 第15回 プレゼンテーションの講評、レポートの書き方

使用テキスト： 今のところ、昨年講読した『家(チベ)の歴史を書く』の著者朴沙羅氏の『記憶を語る、歴史を書く：オーラルヒストリーと社会調査』有斐閣、2023年を講読する予定。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は授業以外に積極的にそうした資料や文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が必要です。また自分が設定したテーマに基づいた研究計画を策定し、その計画に従って、日々研究を積み重ねていくことが求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室またはオンラインで対応するほか、緊急時にはメールでも対応します(オフィスアワーの曜日・時間、メールアドレスについては初回にお知らせします)。

留意事項： 特になし

科目コード：14182 科目ナンバリング：CC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習I e (Seminar in Cross-cultural Studies I e)

担当者：清水 博之

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表、09.実地調査、10.資料調査課題、11.討論、14.輪読活動、15.レポート指導

授業の概要： この演習の目的は、大学生として身に着けるべき思考法や問題解決の能力、そして議論や発表の技術などを修得することにあります。これらの学修の基礎となるのは、これまでに講義科目などで修得した学識と基礎演習で得られた調査・研究の基本的な知識と技術です。履修にあたっては、積極的な意欲をもって自発的に課題へ取り組むことが求められます。

前半では、研究レポートの作成法(調査法を含む)を実践的に学修します。これに並行して、履修生は研究テーマの設定と調査計画を立案します。特に研究テーマの設定と先行研究の洗い出しは、以後の調査・研究を円滑に進める上で欠くことのできない第一の関門です。

後半では、専門書や研究論文をテキストにした輪読により論旨の解釈や議論の方法を学びます。その後、履修生は自らが調査した結果を報告し、他の履修生と質疑応答や議論によって考察を深めることで、調査・研究の軌道修正をします。期末には研究レポートを提出します。

なお、フィールドワークの手法を実践的に学修するために現地演習を実施する場合があります。

キーワード： 民俗学、博物館学、ユネスコ無形文化遺産、文化財保護、地域貢献、地域交流、祭り・行事

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 履修者が自ら設定する課題について、着実な調査と研究をすることができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)および発表・レポートなどにより総合的に評価する。 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 調査・研究の結果を、発表と議論を経て修正し、研究レポートにまとめることができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)および発表・レポートなどにより総合的に評価する。 **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレ

ポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究レポート作成法(実践を含む)(1)
【第03回】研究レポート作成法(実践を含む)(2)
【第04回】研究レポート作成法(実践を含む)(3)
【第05回】図書館ガイダンス(大学図書館)
【第06回】研究計画の発表と議論(1)
【第07回】研究計画の発表と議論(2)
【第08回】研究計画の発表と議論(3)
【第09回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(1)
【第10回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(2)
【第11回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(3)
【第12回】調査の報告と議論(1)
【第13回】調査の報告と議論(2)
【第14回】調査の報告と議論(3)
【第15回】総括

※ 履修生の学修進捗状況に応じて現地演習を実施することがあります。

※ 諸事情により授業計画を変更する場合があります。

使用テキスト： 輪読などで用いる文献および参考となる文献などについては授業内で紹介します。
その他の資料については、その都度配布します。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・演習はレポート発表と議論が主体です。
 - ・ゼミにおける発表とこれに伴う事前のレポート提出は、単位取得の必須条件です。
 - ・発表予定者が合理的な理由なく休むことは認めません。
 - ・調査・研究を含む自主的な学修が、毎日少なくとも1時間以上は必要になります。
- 【参考文献】
- ・井下 千以子著『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』慶応義塾大学出版会、2019年2月、1,200円+税。
 - ・レポート・論文の作成法に関する参考文献は、その都度紹介します。
 - ・履修生自身の研究に関する参考文献は、自らが調査して入手することになります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 基本的にIC-mailとIC-UNIPAを使用します。
履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。
IC-UNIPAによる連絡なども必ず読んでください。

留意事項： この演習では、指導教員の専門分野に関連する下記のジャンルについて研究しようとする学生の履修を期待しています(勿論、これ以外の分野について研究することを希望する学生も受け入れます)。

- ・民俗学(「祭り・行事」を含む)
- ・地域貢献(「地域交流」を含む)
- ・博物館学(「文化財・文化遺産」を含む／学芸員資格に関する科目を履修していなくても可)

このほかに文化交流学科の学生としてふさわしい活動(特技の修練や体験、旅、各種コンテストへの応募、交流事業への参加など)を、目標を持って計画的に挑戦し、その過程をゼミの研究活動として位置付けて報告・発表することも可とします。

※ 履修を希望する学生は、これまでに指導教員が担当する授業(民俗学、博物館実習、地域貢献演習、地域貢献研究など)を履修済みか、あるいは当該年度に履修予定であることが望ましいです。
※ 現地演習を実施する場合の所要費用(旅費、観覧料など)は、履修生の自己負担になります。

科目コード:14182 科目ナンバリング:CC31A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習I f(Seminar in Cross-cultural Studies I f)

担当者:鈴木 晋介

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素:7.発表、11.討論、15.レポート指導

授業の概要: 受講者それぞれが身のまわりの題材から研究テーマを設定し、自らフィールドワークを行い、論文の形にまとめ上げることが演習の主目標です。テーマは自由ですが、自分で何らかの形の調査研究(フィールドワークやアンケート調査等)を行うことを前提とします(調査方法については指導・助言を行います)。演習では各自の研究発表と討論を通じて、相互に問題意識を深めることを目指します。

キーワード: フィールドワーク、文化人類学、論文・レポート執筆

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自らテーマを設定し、問題の所在を明らかにし、調査研究を通じて論文にまとめることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 思考力、判断力、表現力は上記項目と合わせて評価する。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

他者の発表時に積極的に質問やコメントを発し、建設的にゼミ運営に貢献する者についてはその主体性を評価対象とする。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、不公正な研究態度については個別的に注意・指導の対象となる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス

第2回～4回 受講者による研究関心の発表と討論および個別研究指導

第5回～8回 受講者による研究テーマおよび研究計画発表

- 第9回～12回 受講者による研究成果発表
- 第13回 論文・レポート執筆のルール
- 第14回 個別執筆指導
- 第15回 まとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表の準備や論文の執筆作業は、演習時間外に各自が個別に行うものである。各自の研究に資する参考文献や資料は個別的に提示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応しますので、まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項: 4年次の後期末に「ゼミ論文」(1万2千字以上)を提出してもらいます。この最終成果物の作成に向けて各自2年間研究を重ねます。

科目コード: 14182 **科目ナンバリング:** CC31A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習I g (Seminar in Cross-cultural Studies I g)

担当者: 染谷 智幸

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 火曜3限 **履修可能学科・専攻:** C

関連資格: **AL要素:** 発表・討論

授業の概要: テーマは「茨城・巴水・アート・街歩き」。アートの感覚を芸術の入門書や川瀬巴水等の作品から学び、養いながら、茨城という土地でどう豊かに生きていくべきかを考える。一人一人の情報発信を重視する。

キーワード: 茨城、川瀬巴水、アート、街歩き、小旅行、インスタ、ブログ、Twitter

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論 **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論 **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究発表(20分)の内容はもちろん、他者の発表について積極的に異見や質問をする態度は評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:
- 1) 前期授業概要説明
 - 2) アートと茨城
 - 3) 川瀬巴水について
 - 4) 川瀬巴水作品の鑑賞
 - 5) 学生の発表①
 - 6) 学生の発表?
 - 7) 学生の発表③
 - 8) 学生の発表④
 - 9) 学生の発表⑤
 - 10) フィールドワーク①
 - 11) フィールドワーク?
 - 12) フィールドワーク③
 - 13) フィールドワーク(まとめ)
 - 14) 授業のまとめ①
 - 15) 授業のまとめ?

使用テキスト: テキスト:川瀬巴水とその時代を知る会編『川瀬巴水探索』(文学通信)
参考文献:青い日記帳編『いちばんやさしい美術鑑賞』(ちくま新書)

予習・復習のポイントと 研究発表(20分)の準備とそのまとめに力を入れること
参考文献・資料等:

障がいのある 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらう場合があります。

留意事項: フィールドワークとして、県南の潮来・牛堀・浮島への日帰り旅行を行います。費用が5000円~10000円程度かかります。

科目コード:14182 科目ナンバリング:CC31A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習I h(Seminar in Cross-cultural Studies I h)

担当者:中山 健一

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素: 07発表
08協働学修
09実地調査
10資料調査課題
11討論
14読活動
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要: 「ことば」の研究をするゼミである。この演習で受講生が取り組む課題は、次の3つすべてにあてはまるようなことを想定している。

1. 「ことば」にかかわる課題であること。
2. 実例収集、アンケート、インタビュー、教科書分析、その他、実証的な方法で解明できるこ

- と。
3. あまり壮大な問題ではなく、具体的なことがらであること。

キーワード: 言語 日本語 外国語 言語教育 コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 言語・言語教育にかかわる具体的な問題を自ら設定し、文献調査、データ収集を行う。

評価方法: 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分が調べたことを分析し、結果を学術的な形式にのっとり、他者にもわかる形でまとめ報告する。
他者の発表に対して建設的なコメントを述べる。
特定のテーマについて議論する。

評価方法: 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

もとめない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 【前期】まず、全員が授業担当教員が用意した「例題タスク」に取り組むことを通じて、言語研究の方法、データの収集・分析の方法を学ぶ。2023年度は、昨年度何人かの学生が取り組んだ「曲の歌詞の分析」を例題タスクとしてとりあげる。その過程で、受講生は自らの課題をより具体的に絞っていく。前期終了時には、最低限、自分の課題を決定し、研究方法を明確にるところまでを目標とする。各回の内容は次の通り。

- 1 授業概要説明
- 2 受講生による簡単なテーマ(興味があること)報告
- 3 例題タスク「曲の歌詞の分析」趣旨説明
- 4～6 例題タスク「曲の歌詞の分析」
- 7 文献調査の方法
- 8～14 後期に調べたいこと 発表
- 15 総括

使用テキスト: なし

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等:** 授業で指示する。

**障がいのある
履修者への対応:** 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メールにて連絡すること。
nakayama[at]jcc.ac.jp [at]→@

留意事項：【各自の研究テーマについて】日本語に限らず、世界中の何語でもよい。また、音声・語彙・文法など狭い意味での言語研究に限らず、言語教育、言語とコミュニケーション、その他「ことば」に関するテーマなら何でもよい。
【交換留学生の受講】交換留学生の受講を歓迎する。

科目コード：14182 科目ナンバリング：CC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習I i (Seminar in Cross-cultural Studies I i)

担当者：藤野 真拳

基本情報

年次：3 単位数：2 授業形式：演習

曜時：火曜3限 履修可能学科・専攻：C

関連資格： AL要素：07 発表
10 資料調査課題
15 レポート指導

授業の概要：日本の近現代史のなかで学生自身がテーマを設定し研究するゼミです。まずは学生自身が近現代の政治や社会や文化について考えてみたいテーマを決め、そのことについて発表してみましょう。発表のしかたや歴史学の研究方法については、授業などを通して教授します。また、他のゼミ生とのディスカッションを通して、他者に意見を発信し他者の意見を受け止められる、コミュニケーション力の向上も目指しましょう。

キーワード：歴史学・近現代史・明治維新史・人物史・地域社会史・生活史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：適切に課題を設定し、その課題を解決するために必要な知識を有し、先行研究のまとめが適切かをレポートで評価する。

評価方法：発表+期末レポート **評価割合：**40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：発表レジュメや準備状況、質疑応答などの活動状況を評価する。

評価方法：発表+期末レポート **評価割合：**40%

▼学修に主体的に取り組む態度

質疑応答などの活動状況を評価する。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接の評価項目とはしないが、評価状況が発生した場合は、「思考力・判断力・表現力」の項目で評価する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回、オリエンテーション

- 第2回、各自の研究テーマの発表
- 第3回、歴史学研究の方法について
- 第4回、各自の研究計画の発表
- 第5回、教員によるフィードバック
- 第6～15回、学生の研究発表とディスカッション
- ※期末レポート

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表者は教員からのフィードバックを参考に、文献や史料収集を日常的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 大学生活の学業面での醍醐味はゼミでの研究にあると考えています。最初はとまどうことが多いと思いますが、しっかりとサポートしていきます。ともに学ぶ仲間とともに一緒にがんばりましょう。

科目コード：14182 **科目ナンバリング：**CC31A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：文化論演習I j (Seminar in Cross-cultural Studies I j)

担当者：細谷 瑞枝

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：10資料調査課題
11討論
14輪読活動
15レポート指導

授業の概要：前半では、文献の輪読を通じて、民話の多様性と普遍性、研究の方法などを学びます。後半は、神話、昔話などの口承文芸、またはそれと関わりのある文学作品や作家の中から各自がテーマを決め、文献を集め、発表し、後期の研究への結びつけます。

キーワード：昔話、神話、伝説、ファンタジー小説、児童文学、文学研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：口承文芸研究に関する基本的な知識をもち、文献を正確に読み取り、簡潔にまとめることができる。

評価方法：発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合：**40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：自らの関心に合わせて適切なテーマを設定し、文献を集めて、それを批判的に読み、自分の考えを根拠をもって表現することができる。

評価方法：発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって深められた知識、考察を、発表および期末レポートにおいて十分かつ適切に表現することができる。

また、他の受講生の発表に対して積極的に関与し、建設的な意見を述べることができる。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にしない。ただし、他の受講生の発表テーマに関して有意義な意見や知見を積極的に述べるなどの姿勢が著しい場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 各自のテーマ発表・輪読発表担当決め
 - 3 文献輪読・ディスカッション(1)
 - 4 文献輪読・ディスカッション(2)
 - 5 文献輪読・ディスカッション(3)
 - 6 文献輪読・ディスカッション(4)
 - 7 文献輪読・ディスカッション(5)
 - 8 文献輪読・ディスカッション(6)
 - 9 受講生による研究発表(1)
 - 10 受講生による研究発表(2)
 - 11 受講生による研究発表(3)
 - 12 受講生による研究発表(4)
 - 13 受講生による研究発表(5)
 - 13 受講生による研究発表(6)
 - 15 まとめ

使用テキスト： 開講時に指示

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 輪読に関しては、必ずテキストを一読して授業に臨んでください。復習ではテキストを読み返して、全体の流れを把握することに努めてください。
自分の発表に関しては、十分な時間をかけて、簡潔なレジュメを作成すること。発表後は、受講生のコメントに目を通し、次回の発表に役立ててください。
他の受講生の発表に関しては、必ずレジュメに目を通し、分からない点をチェックしておくようにします。
毎回の授業時には、小グループに分かれて意見交換をし、それを持ち寄って全体で議論します。また、発表に対してのコメントを毎回必ずTeamsのチャンネルに書き込んでください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者にお話してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受け付けます。

留意事項： 後期開講の「ものがたりの世界」を履修することが望ましい。

科目コード：14182 科目ナンバリング：CC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習I k(Seminar in Cross-cultural Studies I k)

担当者：堀口 悟

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：**AL要素：** 07発表

- 10史料調査課題
- 11討論
- 15レポート指導
- 16振り返り用紙と応答
- 17発問と回答

授業の概要： 日本文化とその情報発信方法を考えるゼミです。海外との交流の重要なツールである日本語を含めて、日本文化伝達の内容や方法を考えます。具体的には、日本の伝統的な文化を中心に担当者と学生とが相談の上でテーマを定め、ゼミの時間に発表する方式です。

※ご参考に、発表テーマ例を少しあげてみます。

- * 外国人から日本語を見るとー日本語教育実習の実践で体験した日本語の不思議ー
- * 日本語って面白いー役割語ワールド・新方言とネオ方言・ギャグの世界に迫るー
- * 相撲の文化史ー平安時代の文化行事から現代の国技へー
- * 比較神話ー古事記とギリシャ神話・韓国神話はとても似ているー
- * 茶道を伝えるー全員で茶を点てて実際に飲んでみようー
- * 華道ー日本的な美の世界を求めてー
- * 陶磁器の世界ー焼き物なんでも鑑定団ー
- * 日本文学ー『源氏物語』に見る恋と社会生活ー
- * 和菓子と洋菓子ー和菓子の伝統から和スイーツ・NEW和菓子までー
- * 人形が語る諸民族の文化と伝統ーひな人形・浄瑠璃・各国の人形とぬいぐるみー
- * 花火ー日本と東アジア・欧米の花火との比較を通してみる日本人の心ー
- * 風呂と温泉ー古代ローマからスパリゾートハワイアンズまでー
- * 韓服(チマ・チョゴリ)と和服ー源流の共通性とそれぞれの発展ー
- * アクセサリーに見る古今東西の文化比較ー指輪の文化・鼻輪の文化ー
- * 日中食文化比較ー天津には天津丼はないー
- * 日本の庭ー日本の池は、なぜ四角ではないのかー
- * 城の文化史ー古今東西、城の意味と意義ー
- * 三線楽器の系譜と変遷ー日本列島・沖縄・韓国・中国ー
- * 日本と韓国の婚姻比較ー習慣・宗教の比較考察ー
- * 日本の思想ー剣の歴史と武士道精神ー
- * アジアの正月文化ーベトナム・インドネシア・日本を比較してー

キーワード： 日本文化、日本語教育

学位授与方針との関係**▼ 知識・技能**

到達目標： 日本文化に対する幅広い知識を持つことができる。

評価方法： 演習での発表・期末レポート **評価割合：40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分がテーマとした日本文化について深く理解し、異文化を持つ人に伝えられる能力を持つ。

評価方法： 授業中の討論と期末レポートによる **評価割合：40%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質疑応答、他の発表者に対する評価カードによる。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合：0%

▼ 公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点す

る。

評価割合：0%

▼その他

遅刻は、「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合：遅刻は、「学修に取り組む態度」か

- 授業計画：【第01回】他己紹介の方法と実践
【第02回】授業概要説明
【第03回】自分が発信しうる日本文化は何か、発表方法
【第04回】参考文献・日本文化の調査法・発表内容決定
【第05回】日本の伝統文化体験
【第06回】ゼミ発表と質疑応答(1)
【第07回】ゼミ発表と質疑応答(2)
【第08回】これまでの発表のまとめと発展
【第09回】ゼミ発表と質疑応答(3)
【第10回】ゼミ発表と質疑応答(4)
【第11回】ゼミ発表と質疑応答(5)
【第12回】これまでの発表のまとめと発展
【第13回】ゼミ発表と質疑応答(6)
【第14回】ゼミ発表と質疑応答(7)
【第15回】これまでの発表まとめ

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 授業中に適宜指示する。
参考文献・資料等：

障がいのある できる限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の最初に公開する。

留意事項： 出席重視。
受講人数によって、授業計画を適宜変更する場合がある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード：14182 科目ナンバリング：CC31A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習I I (Seminar in Cross-cultural Studies I I)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表

15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)と課題研究を組み合わせる。

この授業では、より広範囲に、そして深く物事を調べ形にしていくことを目的としている。受講生には、自らの関心を持って取り組んでもらい、発表をしてもらう。その後、発表時にもらった

様々な意見を踏まえ、レポートを提出してもらおう。

キーワード： レポート、テーマ選択、文献講読

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 文献を読んで、要点をまとめることができ、それを発表で生かし自分の言葉で語るができる。

評価方法： 発表と期末レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 発表と期末レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ その他

直接的な評価対象としない。

評価割合： 直接的な評価対象としない。

- 授業計画：**
1. オリエンテーション
 2. テーマ設定(1)
 3. テーマ設定(2)
 4. 文献講読(1)
 5. 文献講読(2)
 6. 資料収集と調査方法
 7. パソコンの使い方
 8. プレゼンテーション(1)
 9. プレゼンテーション(2)
 10. プレゼンテーション(3)
 11. プレゼンテーション(4)
 12. プレゼンテーション(5)
 13. プレゼンテーション(6)
 14. レポートの書き方(1)
 15. レポートの書き方(2)

使用テキスト： 講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと コメントはレポートで生かすこと。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード:14183

科目ナンバリング:CC32A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習II a(Seminar in Cross-cultural Studies II a)

担当者:和泉 涼一

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素:演習

授業の概要:【特例期間中の授業形態】課題研究型

- 1) 現代ヨーロッパ(とりわけフランス)の現代を特徴づけるさまざまな諸問題を理解します。
- 2) 政治や経済、歴史、思想といった硬派な面のみならず、家族や男女関係、教育、若者の失業、映画や文学、など、皆さんと同世代の学生たちがどのような事柄に関心をもっているのかを探ります。
- 3) これらの問題に目を配ることで、世界史の新たな頁を開きつつあるヨーロッパとフランスの現状をトータルに理解できることを目指します。
- 4) 個々の課題をこなすことで、専門書などの文献をどのように読み込むか、また調査したことをどのようにまとめ、発表するかといったノウハウを身につけることも目標となります。
- 5) ある特定の書物を輪読し、その内容について皆で議論します。
- 6) どのような書物を選ぶかは、まずは教員が複数タイトルを推薦し、受講生の意見や要望を出してもらって決めます。
- 7) 学んだことは結果として形に残しましょう。昨年度は全員で画家ルノワールの詳細年譜を作成しました。作家や画家や映画監督や思想家の作品案内など、卒研のテーマにもなるでしょう。

キーワード: 現代ヨーロッパ フランス 社会 経済 政治 思想 文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: レポート

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記に含まれます。

評価方法: 上記に準じます。

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

特になし。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 01 ガイダンス

02 ガイダンス2 (自分のテーマを考える)

- 03 テキストの輪読と討議
- 04 テキストの輪読と討議
- 05 テキストの輪読と討議
- 06 テキストの輪読と討議
- 07 テキストの輪読と討議
- 08 テキストの輪読と討議
- 09 テキストの輪読と討議
- 10 テキストの輪読と討議
- 11 テキストの輪読と討議
- 12 テキストの輪読と討議
- 13 テキストの輪読と討議
- 14 発表
- 15 発表2

使用テキスト: プリントを準備します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業中に指示します。

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー

- 留意事項:**
- 1) 出席を重視します。
 - 2) 学科専門科目「フランスの歴史と文化(ヨーロッパの歴史と文化B)」の履修が必須です。まだの人は同時に履修してください。
 - 3) 卒業研究を前提とします。

科目コード: 14183 **科目ナンバリング:** CC32A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習II b (Seminar in Cross-cultural Studies II b)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 月曜5限 **履修可能学科・専攻:** C
関連資格: **AL要素:** 9.実地調査

授業の概要: この演習では、地域調査(地理学)のスキルの習得、および地域活性化活動の経験獲得を目指します。

日立市をはじめとした全国の地方都市は、人口の少子高齢化や基幹産業の停滞に伴い、多くの社会課題が山積しています。雇用機会の減少とそれに伴う若年層の流出、商店街・医療機関といった生活インフラの減少、農業の衰退と耕作放棄地の増加などです。しかし今、こうした社会課題がチャンスに変わろうとしています。実際に、社会課題を新しいビジネスと結びつけて起業する若者が増えています。全国が注目する面白い政策を展開する、熱い市町村もあります。私たちは、こうした熱い変革の最前線に立っているのです。丹念なフィールドワークによって社会の構造を理解し、地域活性化に向けた政策を具体的に考える点こそが、地理学の醍醐味です。地理学にとっても茨城県北部は大変興味深い地域です。

文化論演習II bでは、地域活性化に資するテーマを各人が設定し、調査・研究を行います。学期末にはレポートを提出してもらいます。なお、ゼミで参加する地域活性化活動(2023年は小美玉市でのシティプロモーションまたは多文化交流事業を予定)に主体的に参加する学生は、活動報告書をもってレポートとみなします。

キーワード: フィールドワーク, レポート作成, 地域貢献

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 講義や文献研究で学んだ知識を基に、自らの力で地域の社会問題を見出し、独自の視点で社会問題の本質を理解することができる。また、フィールドワークのノウハウを習得する。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会問題を多面的視点からとらえ、問題解決に向けた議論をすることができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

フィールドワークを実施することで、社会調査に主体的に取り組むことができる。また、問題解決に向けて、自らが行動を起こすことができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

地域の方々と協同しつつ、地域活性化事業に積極的・主体的に参加し、貢献することができる。

評価割合: 20%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 第1回:フィールドワークのやり方1
- 第2回:フィールドワークのやり方2
- 第3回:フィールドワークのやり方3
- 第4回:地域活性化事業への参加
- 第5回:地域活性化事業への参加
- 第6回:研究報告①
- 第7回:研究報告②
- 第8回:研究報告③
- 第9回:研究報告④
- 第10回:研究報告⑤
- 第11回:研究報告⑥
- 第12回:研究報告⑦
- 第13回:研究報告⑧
- 第14回:レポートの書き方
- 第15回:レポートの提出

使用テキスト: [使用テキスト]

・特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
- ・毎回の授業内容は、事前に連絡する。
- ・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。
- ・事前準備も含め、地域活性化事業に積極的に参加すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: “このゼミはフィールドワークを前提としています。街づくりやアントレプレナーシップ、シティプロモーションなどに興味のある学生を募集しています。

- ・地域調査は、現地でのフィールドワークが基本です。体力とコミュニケーション力が重要となります。地域活性化事業も同様です。地域に対する基礎知識の習得しておくとともに、体力とコミュニケーション力を磨いておいて下さい。
- ・論文紹介やレポート作成など、課題も多いです。毎週最低5時間は、論文読解や発表の準備、レポート作成に充ててください。分からないことがあったら、いつでも聞きに来て下さい。
- ・このゼミは、地域活性化の現場に飛び込むため、授業時間以外の活動が多いです。”

科目コード：14183 科目ナンバリング：CC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習II c(Seminar in Cross-cultural Studies II c)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：3	単位数：2	授業形式：演習
曜時：火曜3限		履修可能学科・専攻：C
関連資格：		AL要素：07発表 11討論 15レポート指導

授業の概要： 前期の授業での発表・レポートの経験をもとに、自分でテーマを探し、発表します。テーマの大きな枠組みは「ヨーロッパと日本」とします。前期のテーマを膨らませるのでもかまいません。日常生活での気づきを元に、新たなテーマに取り組むのも大いにけっこうです。前期同様、それぞれが順番にテーマについての発表とレポート作成を行い、全体のディスカッションを通して、内容をブラッシュアップします。

キーワード： ドイツ ヨーロッパ 社会 文化 文学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法： 発表・討論・レポート **評価割合：** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法： 発表・討論・レポート **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

発表の内容に加え、他の受講者の発表についてのコメントや討論などへの積極的な参加が求められる。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 1 ガイダンス

- 2 テーマの探し方、決め方について
- 3 テーマの決定と発表の順番決め
- 4 学生の発表(1)
- 5 レポート研究(1)
- 6 学生の発表(2)
- 7 レポート研究(2)
- 8 学生の発表(3)
- 9 レポート研究(3)
- 10 学生の発表(4)
- 11 レポート研究(4)
- 12 学生の発表(5)
- 13 レポート研究(5)
- 14 全体討議
- 15 総括

使用テキスト： 授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究発表の内容をより良いものにするよう、真摯に取り組んでください。発表内容を充実させるための資料集めも各自積極的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 授業では他のひとの発表、レポートについて、積極的にコメントしてください。他者の意見に対して、批判・あらさがしするのではなく、活発な議論を展開するトレーニングをしましょう。

科目コード： 14183

科目ナンバリング： CC32A01E

主な使用言語： 日本語

授業名(英文)： 文化論演習II d (Seminar in Cross-cultural Studies II d)

担当者： 志賀 市子

基本情報

年次： 3

単位数： 2

授業形式： 演習

曜時： 火曜3限

履修可能学科・専攻： C

関連資格：

AL要素： 11. 発表
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： このゼミでは、近現代社会において加速度的に進行したグローバリゼーションに伴う人、物、金、情報のフロー（流れ）とその渦の中から生み出されるさまざまな文化現象について、歴史人類学的な角度や方法（史料、フィールドワーク、ライフヒストリーなど）から考えていきます。ゼミの目標は以下の通りです。①文化人類学的方法の実践を通して、文化をめぐるグローバルな問題について知見を深めるとともに、フィールドワークの方法を体験的に学び、異文化や自文化を相対化することのできる知識や考え方を身につける。②自分自身の関心を文化人類学的な研究へと発展させ、自分自身のフィールドワーク（インタビュー、参与観察など）を計画し、実践する。大学3年生、4年生という、大学生活において最も重要な2年間に取り組むべき研究対象を見出し、その研究対象に全力で向き合い、研究成果を挙げる。その成果をわかりやすく、多くの人が関心を持ってもらえるように発表し、最終的に研究レポート（卒論）を完成させる。

キーワード： グローバリゼーション、歴史人類学、フィールドワーク、ライフヒストリー、オーラル・ヒストリー、移民史、文化、宗教

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で講読するテキストの内容を十分理解し、内容を適切に発表することができる。そのうえで、問題意識を持って、自主学習に取り組み、自分自身で考える研究テーマにつなげていくことができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)から評価する。 **評価割合: 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。具体的には、授業で扱った内容を踏まえて研究テーマを設定し、考察に必要な資料を集め、資料を批判的に読み、適切に参照して自分の主張や意見をまとめていくことができる。

評価方法: 個人発表、と期末レポートの内容から評価する。 **評価割合: 60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業での発表や期末レポートの記述内容により著しく認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし地域貢献や異文化体験への参加により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

とくに無し

評価割合: とくに無し

授業計画: 今年のゼミは昨年に続き、①前期、後期を通して、全員が一貫したテーマに基づきいくつかの文献を講読する、②各自、自分の関心に沿ってテーマを決め、最終的にまとまったレポート(卒論)を完成させる、という二本立てで進めていきます。①については、「ライフストーリーの手法を用いた移民史」をとりあげます。たとえば昨年講読した朴沙羅著『家(チベ)の歴史を書く』は、在日コリアン三世である著者がライフストーリー調査を通して紡ぎあげた、自分の家族の歴史的記録です。②については、各自、自分の興味に従ってテーマを決める(3年、4年と継続して取り組むことのできるテーマが望ましい)→問い、仮説を立てる→資料を集める→分析する→結論を導き出すという研究のプロセスを学びます。また毎年1回学外研修(ゼミ旅行)として、アニメ聖地巡礼や横浜の華人廟、新大久保エスニックタウン巡りなどを行っています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献購読①
- 第3回 文献購読②
- 第4回 文献購読③
- 第5回 文献購読④
- 第6回 文献購読⑤

- 第7回 まとめ、討論
- 第8回 各自テーマを決める
- 第9回 資料や関連論文を集める 専門書、論文の探し方 図書館の使い方
- 第10回 資料や関連論文の読み方、レジュメ、パワーポイントの作り方、プレゼン技法
- 第11回 個人発表①
- 第12回 個人発表②
- 第13回 個人発表③
- 第14回 個人発表④
- 第15回 プレゼンテーションの講評、レポートの書き方

使用テキスト： 授業中に指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は授業以外に積極的にそうした資料や文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が必要です。また自分が設定したテーマに基づいた研究計画を策定し、その計画に従って、日々研究を積み重ねていくことが求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室またはオンラインで対応するほか、緊急時にはメールでも対応します(オフィスアワーの曜日・時限、メールアドレスについては初回にお知らせします)。

留意事項： 特になし

科目コード：14183 **科目ナンバリング：**CC32A01E **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：文化論演習II e (Seminar in Cross-cultural Studies II e)

担当者：清水 博之

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表、09.実地調査、10.資料調査課題、11.討論、14.輪読活動、15.レポート指導

授業の概要： 後期には、前期で達成した調査・研究の成果を基礎として、より深化した研究をめざします。

調査の進め方は、実際に現場へ出向いて、自ら聞き書きやアンケートなどを実施する直接的な方法を重視します。できるだけ履修生ならではのオリジナルな考え方や方法を取り入れるように努めましょう。

前半では、レポートのテーマの決め方や書き方についてしっかりと学修します。これと並行して履修生は研究計画を発表します。ここでは特に研究テーマに関する論文や文献などをどれだけ読み込んでいるかを重視します。なぜならば研究テーマに関する基本的な学識が研究の基礎となるからです。そして研究する者にとって肝心なことは最新の学識を有していることです。学問は日進月歩です。昨日までの常識が今日は通用しないこともあります。インターネットや最新の学術雑誌などを渉猟して、常に自分の研究テーマに関連する事柄に注意を払うようにしましょう。

後半では、履修生が自ら調査・研究した結果をレポートにまとめて発表します。ゼミにおける質疑応答や議論によってさらに自らの考察を深めて、調査・研究の軌道修正します。期末には研究成果となる完成したレポートを提出します。

なお、フィールドワークの手法を実践的に学修するために現地演習を実施する場合があります。

キーワード： 民俗学、博物館学、ユネスコ無形文化遺産、文化財保護、地域貢献、地域交流、祭り・行事

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 履修生が自ら設定する課題について、着実な調査と研究をすることができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、課題へ取り組む姿勢など)および
発表・レポートなどにより総合的に評価す
る。 **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 調査・研究の結果を、発表と議論を経て修正し、研究レポートにまとめることができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、課題へ取り組む姿勢など)および
発表・レポートなどにより総合的に評価す
る。 **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究レポート作成法(実践を含む)(1)
【第03回】研究レポート作成法(実践を含む)(2)
【第04回】研究レポート作成法(実践を含む)(3)
【第05回】図書館ガイダンス(大学図書館)
【第06回】研究計画の発表と議論(1)
【第07回】研究計画の発表と議論(2)
【第08回】研究計画の発表と議論(3)
【第09回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(1)
【第10回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(2)
【第11回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(3)
【第12回】調査の報告と議論(1)
【第13回】調査の報告と議論(2)
【第14回】調査の報告と議論(3)
【第15回】総括

※ 履修生の学修進捗状況に応じて現地演習を実施することがあります。

※ 諸事情により授業計画を変更する場合があります。

使用テキスト: 輪読などで用いる文献および参考となる文献等については授業内で紹介します。
その他の資料については、その都度配布します。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

- ・演習は、発表と議論が主体です。
- ・ゼミにおける発表とこれに伴う事前のレポート提出は、単位取得の必須条件です。
- ・発表予定者が合理的な理由なく休むことは認めません。
- ・調査・研究を含む自主的な学修が、毎日少なくとも1時間以上は必要になります。

【参考文献】

- ・レポート・論文の作成法に関する参考文献は、その都度紹介します。
- ・履修生自身の研究に関する参考文献は、自らが調査して入手することになります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 基本的にIC-mailとIC-UNIPAを使用します。

履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。

IC-UNIPAによる連絡なども必ず読んでください。

留意事項: 前期の演習を基礎として、夏期休暇中に後期の演習に向けての準備(特に研究論文の精読や現地調査など)を遅滞なく進めましょう。後期の演習が始まる時には、基本的な調査が済んでおり具体的な研究計画が整っていることが理想的です。

前期・後期を通して、研究の基礎データの収集は、履修生のオリジナルなデータの取得を重視します。インターネット上の出所不明な言説やデータのみで論述することは基本的に認められません。つまりは自分自身で観察したり現地調査した結果が大切になります。

現地演習を実施する場合の所要費用(旅費、観覧料など)は、履修生の自己負担になります。

科目コード:14183 科目ナンバリング:CC32A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習Ⅱf(Seminar in Cross-cultural Studies Ⅱf)

担当者:鈴木 晋介

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素:7.発表、11.討論、15.レポート指導

授業の概要: 受講者それぞれが身のまわりの題材から研究テーマを設定し、自らフィールドワークを行い、論文の形にまとめ上げることが演習の主目標です。テーマは自由ですが、自分で何らかの形の調査研究(フィールドワークやアンケート調査等)を行うことを前提とします(調査方法については指導・助言を行います)。後期は特に論文執筆の実践的指導を授業内で行います。

キーワード: フィールドワーク、文化人類学、論文・レポート執筆

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自らテーマを設定し、問題の所在を明らかにし、調査研究を通じて論文にまとめることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 思考力、判断力、表現力は上記項目と合わせて評価する。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

他者の発表時に積極的に質問やコメントを返し、建設的にゼミ運営に貢献する者についてはその主体性を評価対象とする。

評価割合：30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、不公正な研究態度については個別的に注意・指導の対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 論文・レポートとは何か
第3回～6回 受講者による研究中間報告と討論
第7回～10回 受講者による研究最終報告と討論
第11回～14回 最終成果論文執筆の実践的指導
第15回 まとめ

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等： 研究発表の準備や論文の執筆作業は、演習時間外に各自が個別に行うものである。各自の研究に資する参考文献や資料は個別的に提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応しますので、まずは学務部に相談してください

授業時間外の連絡手段：

必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項： 4年次の後期末に「ゼミ論文」(1万2千字以上)を提出してもらいます。この最終成果物の作成に向けて各自2年間研究を重ねます。

科目コード：14183

科目ナンバリング：CC32A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習II g(Seminar in Cross-cultural Studies II g)

担当者：染谷 智幸

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：発表・討論

授業の概要： テーマは「茨城・巴水・アート・街歩き」。アートの感覚を芸術の入門書や川瀬巴水等の作品から学び、養いながら、茨城という土地でどう豊かに生きていくべきかを考える。一人一人の情報発信を重視する。

キーワード： 茨城、川瀬巴水、アート、街歩き、小旅行、インスタ、ブログ、Twitter

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法： 発表・討論

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究発表(20分)の内容はもちろん、他者の発表について積極的に異見や質問をする態度は評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 1) 後期授業概要説明
 - 2) アートと日本
 - 3) 新版画について
 - 4) 新版画の鑑賞
 - 5) 学生の発表①
 - 6) 学生の発表?
 - 7) 学生の発表③
 - 8) 学生の発表④
 - 9) 学生の発表⑤
 - 10) フィールドワーク①
 - 11) フィールドワーク?
 - 12) フィールドワーク③
 - 13) フィールドワーク(まとめ)
 - 14) 授業のまとめ①
 - 15) 授業のまとめ?

使用テキスト: テキスト:川瀬巴水とその時代を知る会編『川瀬巴水探索』(文学通信)
参考文献:青い日記帳編『いちばんやさしい美術鑑賞』(ちくま新書)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表(20分)の準備とそのまとめに力を入れること

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらう場合があります。

留意事項: 前期に天候その他の理由によりフィールドワークが行えなかった時に、後期に行うことがあります。

科目コード:14183

科目ナンバリング:CC32A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習II h(Seminar in Cross-cultural Studies II h)

担当者:中山 健一

基本情報

年次:3

単位数:2

授業形式:演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻： C

関連資格：

AL要素： 07発表
08協働学修
09実地調査
10資料調査課題
11討論
14読活動
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要：「ことば」の研究をするゼミである。この演習で受講生が取り組む課題は、次の3つすべてにあてはまるようなことを想定している。

1. 「ことば」にかかわる課題であること。
2. 実例収集、アンケート、インタビュー、教科書分析、その他、実証的な方法で解明できること。
3. あまり壮大な問題ではなく、具体的なことがらであること。

キーワード： 言語 日本語 外国語 言語教育 コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標： 言語・言語教育にかかわる具体的な問題を自ら設定し、文献調査、データ収集を行う。

評価方法： 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合：** 50%

▼ **思考力・判断力・表現力**

到達目標： 自分が調べたことを分析し、結果を学術的な形式にのっとり、他者にもわかる形でまとめ報告する。
他者の発表に対して建設的なコメントを述べる。
特定のテーマについて議論する。

評価方法： 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合：** 50%

▼ **学修に主体的に取り組む態度**

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合： 0%

▼ **実践的ボランティア**

もとめない。

評価割合： 0%

▼ **公正性**

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合： 0%

▼ **その他**

なし

評価割合： なし

授業計画： 【後期】：受講生による自分の研究の経過報告と、全員による討議を中心にする。最終的には、レポートの形で自分の研究の成果をまとめる。

- 1 授業概要・発表手順説明・発表順決め
- 2 発表1回め (1)

- 3 発表1回め (2)
- 4 発表1回め (3)
- 5 発表1回め (4)
- 6 発表1回め (5)
- 7 発表1回め (6)
- 8 小総括
- 9 発表2回め (1)
- 10 発表2回め (2)
- 11 発表2回め (3)
- 12 発表2回め (4)
- 13 発表2回め (5)
- 14 発表2回め (6)
- 15 総括

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと 授業で指示する。
参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： メールにて連絡すること。
nakayama[at]jicc.ac.jp [at]→@

留意事項：【各自の研究テーマについて】日本語に限らず、世界中の何語でもよい。また、音声・語彙・文法など狭い意味での言語研究に限らず、言語教育、言語とコミュニケーション、その他「ことば」に関するテーマなら何でもよい。
【交換留学生の受講】交換留学生の受講を歓迎する。

科目コード：14183 科目ナンバリング：CC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習II i (Seminar in Cross-cultural Studies II i)

担当者：藤野 真挙

基本情報

年次：3	単位数：2	授業形式：演習
曜時：火曜3限		履修可能学科・専攻：C
関連資格：		AL要素：07 発表 10 資料調査課題 15 レポート指導

授業の概要：日本の近現代史のなかで学生自身がテーマを設定し研究するゼミです。研究の完成に向けて、文献リストや史料リストをまとめ、発表してもらいます。1学期のフィードバックを活かしながら、自身が選んだ近現代史のテーマについて、考えをまとめていきましょう。また、ディスカッションや意見交換を積極的に行う協働活動を通して、より視野の広い視野から歴史を評価する目を獲得していきましょう。

キーワード：歴史学・近現代史・明治維新史・人物史・地域社会史・生活史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：適切に課題を設定し、その課題を解決するために必要な知識を有し、先行研究のまとめが適切かをレポートで評価する。

評価方法：発表+期末レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発表レジュメや準備状況、質疑応答などの活動状況进行评估する。

評価方法: 発表+期末レポート

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

質疑応答などの活動状況进行评估する。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接の評価項目とはしないが、評価状況が発生した場合は、「思考力・判断力・表現力」の項目で評価する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回、オリエンテーション
第2回、文献リストの発表(4年生)
第3回、文献リストの発表(3年生)
第4回～第8回、学生の研究発表とディスカッション(4年生)
第9～第10回、教員によるフィードバック
第11～第15回、学生の研究発表とディスカッション(3年生)
※学年配分等の日程は卒業研究の提出日などにより変動する可能性があります。

使用テキスト: 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 発表者は教員からのフィードバックを参考に、文献や史料収集を日常的に行ってください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 大学生活の学業面での醍醐味はゼミでの研究にあると考えています。最初はとまどうことが多いと思いますが、しっかりとサポートしていきます。ともに学ぶ仲間とともに一緒にがんばりましょう。

科目コード: 14183 **科目ナンバリング:** CC32A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習II j (Seminar in Cross-cultural Studies II j)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要: 前期に決めた各自のテーマについてさらに考察と発表を重ね、最終レポートを完成させます。

キーワード: 昔話、神話、伝説、ファンタジー小説、児童文学、文学研究

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 文献を正確に読み取り、簡潔にまとめることができる。

評価方法: 発表、学期末レポート

評価割合: 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らの関心に合わせて適切なテーマを設定し、文献を集めて、それを批判的に読み、自分の考えを根拠をもって表現することができる。

評価方法: 発表、学期末レポート

評価割合: 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって深められた知識、考察を、発表および期末レポートにおいて十分かつ適切に表現することができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にしない。ただし、他の受講生の発表テーマに関して有意義な意見や知見を積極的に述べるなどの姿勢が著しい場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
1. ガイダンス
 2. 第1回発表とディスカッション①
 3. 第1回発表とディスカッション②
 4. 第1回発表とディスカッション③
 5. 第1回発表とディスカッション④
 6. 第1回発表とディスカッション⑤
 7. 第1回発表とディスカッション⑥
 8. 中間のまとめ
 9. 第2回発表とディスカッション①
 10. 第2回発表とディスカッション②
 11. 第2回発表とディスカッション③
 12. 第2回発表とディスカッション④
 13. 第2回発表とディスカッション⑤
 14. 第2回発表とディスカッション⑥
 15. まとめ

使用テキスト: 使用しない

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 自分の発表に関しては、十分な時間をかけて、簡潔なレジюмеを作成すること。発表後は、受講生のコメントに目を通し、次回の発表に役立ててください。
他の受講生の発表に関しては、必ずレジюмеに目を通し、分からない点をチェックしておくようにします。
前期と同じく、発表に対するコメントを毎回必ずチャンネルに書き込んでください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者にお話してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 後期開講の「ものがたりの世界」を履修することが望ましい。

科目コード：14183 科目ナンバリング：CC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習II k(Seminar in Cross-cultural Studies II k)

担当者：堀口 悟

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07発表

10史料調査課題

11討論

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要： 日本文化とその情報発信方法を考えるゼミです。海外との交流の重要なツールである日本語を含めて、日本文化伝達の内容や方法を考えます。具体的には、日本の伝統的な文化を中心に担当者と学生とが相談の上でテーマを定め、ゼミの時間に発表する方式です。

※ご参考に、発表テーマ例を少しあげてみます。

*外国人から日本語を見るとー日本語教育実習の実践で体験した日本語の不思議ー

*日本語って面白いー役割語ワールド・新方言とネオ方言・ギャグの世界に迫るー

*相撲の文化史ー平安時代の文化行事から現代の国技へー

*比較神話ー古事記とギリシャ神話・韓国神話とはとても似ているー

*茶道を伝えるー全員で茶を点てて実際に飲んでみようー

*華道ー日本的な美の世界を求めてー

*陶磁器の世界ー焼き物なんでも鑑定団ー

*日本文学『源氏物語』に見る恋と社会生活ー

*和菓子和洋菓子ー和菓子の伝統から和スイーツ・NEW和菓子までー

*人形が語る諸民族の文化と伝統ーひな人形・浄瑠璃・各国の人形とぬいぐるみー

*花火ー日本と東アジア・欧米の花火との比較を通してみる日本人の心ー

*風呂と温泉ー古代ローマからスパリゾートハワイアンズまでー

*韓服(チマ・チョゴリ)と和服ー源流の共通性とそれぞれの発展ー

*アクセサリーに見る古今東西の文化比較ー指輪の文化・鼻輪の文化ー

*日中食文化比較ー天津には天津丼はないー

*日本の庭ー日本の池は、なぜ四角ではないのかー

*城の文化史ー古今東西、城の意味と意義ー

*三線楽器の系譜と変遷ー日本列島・沖縄・韓国・中国ー

*日本と韓国の婚姻比較ー習慣・宗教の比較考察ー

*日本の思想ー剣の歴史と武士道精神ー

*アジアの正月文化ーベトナム・インドネシア・日本を比較してー

キーワード： 日本文化、日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本文化に対する幅広い知識を持つことができる。

評価方法： 演習での発表・期末レポート

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分がテーマとした日本文化について深く理解し、異文化を持つ人に伝えられる能力を持つ。

評価方法： 授業中の討論と期末レポートによる

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質疑応答、他の発表者に対する評価カードによる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合：0%

▼公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：0%

▼その他

遅刻は、「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合：遅刻は、「学修に取り組む態度」か

- 授業計画：
- 【第01回】 テーマ決定のために
 - 【第02回】 テーマ相談
 - 【第03回】 自分が発信しうる日本文化は何か、発表方法
 - 【第04回】 参考文献・日本文化の調査法・発表内容決定
 - 【第05回】 日本の伝統文化体験
 - 【第06回】 ゼミ発表と質疑応答(1)
 - 【第07回】 ゼミ発表と質疑応答(2)
 - 【第08回】 これまでの発表のまとめと発展
 - 【第09回】 ゼミ発表と質疑応答(3)
 - 【第10回】 ゼミ発表と質疑応答(4)
 - 【第11回】 ゼミ発表と質疑応答(5)
 - 【第12回】 これまでの発表のまとめと発展
 - 【第13回】 ゼミ発表と質疑応答(6)
 - 【第14回】 ゼミ発表と質疑応答(7)
 - 【第15回】 これまでの発表まとめ

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 授業中に適宜指示する。
参考文献・資料等：

障がいのある できる限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の最初に公開する。

留意事項： 出席重視。
受講人数によって、授業計画を適宜変更する場合がある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード：14183 科目ナンバリング：CC32A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習Ⅱ I (Seminar in Cross-cultural Studies II I)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表

15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型・オンデマンド型)、課題研究型を組み合わせて実施する。

使うアプリケーション:teams

この授業では、より広範囲に、そして深く物事を調べ形にしていくことを目的としている。受講生には、自らの関心を持って取り組んでもらい、発表をしてもらう。その後、発表時にももらった様々な意見を踏まえ、レポートを提出してもらう。

キーワード： レポート、テーマ選択、文献講読

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 文献を読んで、要点をまとめることができ、それを発表で生かし自分の言葉で語るができる。

評価方法： 発表と期末レポート

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 発表と期末レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼その他

直接的な評価対象としない。

評価割合： 直接的な評価対象としない。

授業計画：

1. オリエンテーション
2. テーマ設定(1)
3. テーマ設定(2)
4. 文献講読(1)
5. 文献講読(2)
6. 資料収集と調査方法
7. パソコンの使い方
8. プレゼンテーション(1)
9. プレゼンテーション(2)
10. プレゼンテーション(3)
11. プレゼンテーション(4)
12. プレゼンテーション(5)
13. プレゼンテーション(6)

14. レポートの書き方(1)
15. レポートの書き方(2)

使用テキスト: 講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと コメントはレポートで生かすこと。

参考文献・資料等:

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 14184

科目ナンバリング: CC41A01E

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 文化論演習III a (Seminar in Cross-cultural Studies III a)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 演習

授業の概要: 【特例期間中の授業形態】課題研究型

- 1) 現代ヨーロッパ(とりわけフランス)の現代を特徴づけるさまざまな諸問題を理解します。
- 2) 政治や経済、歴史、思想といった硬派な面のみならず、家族や男女関係、教育、若者の失業、映画や文学、など、皆さんと同世代の学生たちがどのような事柄に関心をもっているのかを探ります。
- 3) これらの問題に目を配ることで、世界史の新たな頁を開きつつあるヨーロッパとフランスの現状をトータルに理解できることを目指します。
- 4) 個々の課題をこなすことで、専門書などの文献をどのように読み込むか、また調査したことをどのようにまとめ、発表するかといったノウハウを身につけることも目標となります。
- 5) ある特定の書物を輪読し、その内容について皆で議論します。
- 6) どのような書物を選ぶかは、まずは教員が複数タイトルを推薦し、受講生の意見や要望を出してもらって決めます。
- 7) 学んだことは結果として形に残しましょう。昨年度は全員で画家ルノワールの詳細年譜を作成しました。作家や画家や映画監督や思想家の作品案内など、卒研のテーマにもなるでしょう。

キーワード: 現代ヨーロッパ フランス 社会 経済 政治 思想 文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: レポート

評価割合: 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記に含まれます。

評価方法: 上記に準じます。

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合：0%

▼公正性

特になし。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画： 01 ガイダンス
02 ガイダンス2（自分のテーマを考える）
03 テキストの輪読と討議
04 テキストの輪読と討議
05 テキストの輪読と討議
06 テキストの輪読と討議
07 テキストの輪読と討議
08 テキストの輪読と討議
09 テキストの輪読と討議
10 テキストの輪読と討議
11 テキストの輪読と討議
12 テキストの輪読と討議
13 テキストの輪読と討議
14 発表
15 発表2

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある まずは教務部窓口に相談しましょう。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

- 留意事項： 1)出席を重視します。
2)専門科目「フランスの歴史と文化(ヨーロッパの歴史と文化B)」の履修が必須です。まだの人は同時に履修してください。
3)「卒業研究」を前提とします。

科目コード：14184 科目ナンバリング：CC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習III b(Seminar in Cross-cultural Studies III b)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜5限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：9.実地調査

授業の概要： この演習では、地域調査(地理学)のスキルの習得、および地域活性化活動の経験獲得を目指します。

日立市をはじめとした全国の地方都市は、人口の少子高齢化や基幹産業の停滞に伴い、多くの社会課題が山積しています。雇用機会の減少とそれに伴う若年層の流出、商店街・医療機関といった生活インフラの減少、農業の衰退と耕作放棄地の増加などです。しかし今、こうした社会課題がチャンスに変わろうとしています。実際に、社会課題を新しいビジネスと

結びつけて起業する若者が増えています。全国が注目する面白い政策を展開する、熱い市町村もあります。私たちは、こうした熱い変革の最前線に立っているのです。丹念なフィールドワークによって社会の構造を理解し、地域活性化に向けた政策を具体的に考える点こそが、地理学の醍醐味です。地理学にとっても茨城県北部は大変興味深い地域です。

文化論演習Ⅲbでは、地域調査の基礎的なスキルを学ぶとともに、実際に地域活性化事業に参加し、街づくりの現場を体験します。2023年度は、小美玉市でのシティープロモーション活動、および多文化交流活動への参加を予定しています。

キーワード： フィールドワーク, レポート作成, 地域貢献

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 講義や文献研究で学んだ知識を基に、自らの力で地域の社会問題を見出し、独自の視点で社会問題の本質を理解することができる。また、フィールドワークのノウハウを習得する。

評価方法： 「授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)およびレポート等により総合的に評価する **評価割合：30%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会問題を多面的視点からとらえ、問題解決に向けた議論をすることができる。

評価方法： 「授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)およびレポート等により総合的に評価する **評価割合：30%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

フィールドワークを実施することで、社会調査に主体的に取り組むことができる。また、問題解決に向けて、自らが行動を起こすことができる。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

地域の方々と協同しつつ、地域活性化事業に積極的・主体的に参加し、貢献することができる。

評価割合：20%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:地域調査(地理学)とは
第2回:調査方法1(文献収集1)
第3回:調査方法2(統計データの収集・分析)
第4回:調査方法3(論文の読み方1)
第5回:調査方法4(論文の読み方2)
第6回:地域の現状と地域活性化の重要性
第7回:サンドアートフェスティバルの企画・準備
第8回:地域の現状と地域活性化の重要性
第9回:プレゼンテーション①
第10回:プレゼンテーション②
第11回:プレゼンテーション③
第12回:プレゼンテーション④
第13回:プレゼンテーション⑤
第14回:後期レポート課題の決定
15回:夏休みにおけるフィールドワーク調査の確認

使用テキスト： [使用テキスト]
・特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。
・事前準備も含め、地域活性化事業に積極的に参加すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項：・このゼミはフィールドワークを前提としています。街づくりやアントレプレナーシップ、シティプロモーションなどに興味のある学生を募集しています。
・地域調査は、現地でのフィールドワークが基本です。体力とコミュニケーション力が重要となります。地域活性化事業も同様です。地域に対する基礎知識の習得しておくとともに、体力とコミュニケーション力を磨いておいて下さい。
・論文紹介やレポート作成など、課題も多いです。毎週最低5時間は、論文読解や発表の準備、レポート作成に充ててください。分からないことがあったら、いつでも聞きに来て下さい。
・このゼミは、地域活性化の現場に飛び込むため、授業時間以外の活動が多いです。

科目コード：14184 科目ナンバリング：CC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習III c(Seminar in Cross-cultural Studies III c)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07発表
11討論
15レポート指導

授業の概要： この授業では、ヨーロッパ(主にドイツ)の社会や文化について知り、自分なりの考察を深めることを目的とします。まずは文化や習慣、社会のシステムや教育、環境問題など、自分の関心のあるテーマを決めましょう。そのうえで、独自の視点を持って発表をし、発表後は参加者全員でディスカッションを行います。発表した内容は、発表後のコメントをもとにレポートにまとめます。レポートの書き方、論文の書き方の基礎を身につけることが目標です。

キーワード： ドイツ ヨーロッパ 社会 文化 文学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法： 発表・討論・レポート

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法： 発表・討論・レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

発表の内容に加え、他の受講者の発表についてのコメントや討論などへの積極的な参加が求められる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 テーマの絞り方、文献の探り方、発表の仕方について
 - 3 テキストの講読と発表準備のためのアドバイス
 - 4 テーマの決定と発表の順番決め
 - 5 学生の発表(1)
 - 6 レポート研究(1)
 - 7 学生の発表(2)
 - 8 レポート研究(2)
 - 9 学生の発表(3)
 - 10 レポート研究(3)
 - 11 学生の発表(4)
 - 12 レポート研究(4)
 - 13 学生の発表(5)
 - 14 レポート研究(5)
 - 15 総括

使用テキスト： 必要に応じて授業内で指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究発表の内容をより良いものにするよう、真摯に取り組んでください。発表内容を充実させるための資料集めも各自積極的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 授業では他のひとの発表、レポートについて、積極的にコメントしてください。他者の意見に対して、批判・あらさがしするのではなく、活発な議論を展開するトレーニングをしましょう。

科目コード：14184 科目ナンバリング：CC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習III d(Seminar in Cross-cultural Studies III d)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：11. 発表
14. 輪読活動
15. レポート指導

授業の概要： このゼミでは、近現代社会において加速度的に進行したグローバリゼーションに伴う人、物、金、情報のフロー（流れ）とその渦の中から生み出されるさまざまな文化現象について、歴史人類学的な角度や方法（史料、フィールドワーク、ライフヒストリーなど）から考えていきます。ゼミの目標は以下の通りです。①文化人類学的方法の実践を通して、文化をめぐるグローバルな問題について知見を深めるとともに、フィールドワークの方法を体験的に学び、異文化や自文化を相対化することのできる知識や考え方を身につける。②自分自身の関心を文化人類学的な研究へと発展させ、自分自身のフィールドワーク（インタビュー、参与観察など）を計画し、実践する。大学3年生、4年生という、大学生活において最も重要な2年間に取り組むべき研究対象を見出し、その研究対象に全力で向き合い、研究成果を挙げる。その成果をわかりやすく、多くの人が関心を持ってもらえるように発表し、最終的に研究レポート（卒論）を完成させる。

キーワード： グローバリゼーション、歴史人類学、フィールドワーク、ライフヒストリー、オーラル・ヒストリー、移民史、文化、宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で講読するテキストの内容を十分理解し、内容を適切に発表することができる。そのうえで、問題意識を持って、自主学習に取り組み、自分自身で考える研究テーマにつなげていくことができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）から評価する。 **評価割合：40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。具体的には、授業で扱った内容を踏まえて研究テーマを設定し、考察に必要な資料を集め、資料を批判的に読み、適切に参照して自分の主張や意見をまとめていくことができる。

評価方法： 個人発表、と期末レポートの内容から評価する。 **評価割合：60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業での発表や期末レポートの記述内容により著しく認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし地域貢献や異文化体験への参加により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

とくに無し

評価割合：とくに無し

授業計画： 今年のゼミは昨年に続き、①前期、後期を通して、全員が一貫したテーマに基づくいくつか

の文献を講読する、②各自、自分の関心に沿ってテーマを決め、最終的にまとまったレポート(卒論)を完成させる、という二本立てで進めていきます。①については、「ライフストーリーの手法を用いた移民史」をとりあげます。たとえば昨年講読した朴沙羅著『家(チベ)の歴史を書く』は、在日コリアン三世である著者がライフストーリー調査を通して紡ぎあげた、自分の家族の歴史的記録です。②については、各自、自分の興味に従ってテーマを決める(3年、4年と継続して取り組むことのできるテーマが望ましい)→問い、仮説を立てる→資料を集める→分析する→結論を導き出すという研究のプロセスを学びます。また毎年1回学外研修(ゼミ旅行)として、アニメ聖地巡礼や横浜の華人廟、新大久保エスニックタウン巡りなどを行っています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献購読①
- 第3回 文献購読②
- 第4回 文献購読③
- 第5回 文献購読④
- 第6回 文献購読⑤
- 第7回 まとめ、討論
- 第8回 各自テーマを決める
- 第9回 資料や関連論文を集める 専門書、論文の探し方 図書館の使い方
- 第10回 資料や関連論文の読み方、レジュメ、パワーポイントの作り方、プレゼン技法
- 第11回 個人発表①
- 第12回 個人発表②
- 第13回 個人発表③
- 第14回 個人発表④
- 第15回 プレゼンテーションの講評、レポートの書き方

使用テキスト: 今のところ、昨年講読した『家(チベ)の歴史を書く』の著者朴沙羅氏の『記憶を語る,歴史を書く: オーラルヒストリーと社会調査』有斐閣、2023年を講読する予定。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は授業以外に積極的にそうした資料や文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が必要です。また自分が設定したテーマに基づいた研究計画を策定し、その計画に従って、日々研究を積み重ねていくことが求められます。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室またはオンラインで対応するほか、緊急時にはメールでも対応します(オフィスアワーの曜日・時限、メールアドレスについては初回にお知らせします)。

留意事項: 特になし

科目コード: 14184 科目ナンバリング: CC41A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 文化論演習III e(Seminar in Cross-cultural Studies III e)

担当者: 清水 博之

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07.発表、09.実地調査、10.資料調査課題、11.討論、14.輪読活動、15.レポート指導

授業の概要: この演習の目的は、大学生として身に着けるべき思考法や問題解決の能力、そして議論や発表の技術などを修得することにあります。これらの学修の基礎となるのは、これまでに講

義科目などで修得した学識と基礎演習で得られた調査・研究の基本的な知識と技術です。履修にあたっては、積極的な意欲をもって自発的に課題へ取り組むことが求められます。

前半では、研究レポートの作成法(調査法を含む)を実践的に学修します。これに並行して、履修生は研究テーマの設定と調査計画を立案します。特に研究テーマの設定と先行研究の洗い出しは、以後の調査・研究を円滑に進める上で欠くことのできない第一の関門です。

後半では、専門書や研究論文をテキストにした輪読により論旨の解釈や議論の方法を学びます。その後、履修生は自らが調査した結果を報告し、他の履修生と質疑応答や議論によって考察を深めることで、調査・研究の軌道修正をします。期末には研究レポートを提出します。

なお、フィールドワークの手法を実践的に学修するために現地演習を実施する場合があります。

キーワード： 民俗学、博物館学、ユネスコ無形文化遺産、文化財保護、地域貢献、地域交流、祭り・行事

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 履修者が自ら設定する課題について、着実な調査と研究をすることができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、課題へ取り組む姿勢など)および
発表・レポートなどにより総合的に評価する。
評価割合：50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 調査・研究の結果を、発表と議論を経て修正し、研究レポートにまとめることができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、課題へ取り組む姿勢など)および
発表・レポートなどにより総合的に評価する。
評価割合：50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究レポート作成法(実践を含む)(1)
【第03回】研究レポート作成法(実践を含む)(2)
【第04回】研究レポート作成法(実践を含む)(3)
【第05回】図書館ガイダンス(大学図書館)

- 【第06回】研究計画の発表と議論(1)
- 【第07回】研究計画の発表と議論(2)
- 【第08回】研究計画の発表と議論(3)
- 【第09回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(1)
- 【第10回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(2)
- 【第11回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(3)
- 【第12回】調査の報告と議論(1)
- 【第13回】調査の報告と議論(2)
- 【第14回】調査の報告と議論(3)
- 【第15回】総括

※ 履修生の学修進捗状況に応じて現地演習を実施することがあります。
 ※ 諸事情により授業計画を変更する場合があります。

使用テキスト: 輪読などで用いる文献および参考となる文献などについては授業内で紹介します。
 その他の資料については、その都度配布します。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等:

- ・演習はレポート発表と議論が主体です。
- ・ゼミにおける発表とこれに伴う事前のレポート提出は、単位取得の必須条件です。
- ・発表予定者が合理的な理由なく休むことは認めません。
- ・調査・研究を含む自主的な学修が、毎日少なくとも1時間以上は必要になります。

【参考文献】

- ・井下 千以子著『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版]』慶応義塾大学出版会、2019年2月、1,200円+税。
- ・レポート・論文の作成法に関する参考文献は、その都度紹介します。
- ・履修生自身の研究に関する参考文献は、自らが調査して入手することになります。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 基本的にIC-mailとIC-UNIPAを使用します。
 履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。
 IC-UNIPAによる連絡なども必ず読んでください。

留意事項: この演習では、指導教員の専門分野に関連する下記のジャンルについて研究しようとする学生の履修を期待しています(勿論、これ以外の分野について研究することを希望する学生も受け入れます)。

- ・民俗学(「祭り・行事」を含む)
- ・地域貢献(「地域交流」を含む)
- ・博物館学(「文化財・文化遺産」を含む／学芸員資格に関する科目を履修していなくても可)

このほかに文化交流学科の学生としてふさわしい活動(特技の修練や体験、旅、各種コンテストへの応募、交流事業への参加など)を、目標を持って計画的に挑戦し、その過程をゼミの研究活動として位置付けて報告・発表することも可とします。

※ 履修を希望する学生は、これまでに指導教員が担当する授業(民俗学、博物館実習、地域貢献演習、地域貢献研究など)を履修済みか、あるいは当該年度に履修予定であることが望ましいです。
 ※ 現地演習を実施する場合の所要費用(旅費、観覧料など)は、履修生の自己負担になります。

科目コード: 14184 科目ナンバリング: CC41A01E 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 文化論演習III f(Seminar in Cross-cultural Studies III f)

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次: 4 単位数: 2 授業形式: 演習

曜時: 火曜3限 履修可能学科・専攻: C

関連資格: AL要素: 7. 発表、11. 討論、15. レポート指導

授業の概要： 受講者それぞれが身のまわりの題材から研究テーマを設定し、自らフィールドワークを行い、論文の形にまとめ上げることが演習の主目標です。テーマは自由ですが、自分で何らかの形の調査研究(フィールドワークやアンケート調査等)を行うことを前提とします(調査方法については指導・助言を行います)。演習では各自の研究発表と討論を通じて、相互に問題意識を深めることを目指します。

キーワード： フィールドワーク、文化人類学、論文・レポート執筆

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 自らテーマを設定し、問題の所在を明らかにし、調査研究を通じて論文にまとめることができる。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 思考力、判断力、表現力は上記項目と合わせて評価する。

評価方法： 学期末レポート

評価割合： 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

他者の発表時に積極的に質問やコメントを返し、建設的にゼミ運営に貢献する者についてはその主体性を評価対象とする。

評価割合： 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、不公正な研究態度については個別的に注意・指導の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス

第2回～4回 受講者による研究関心の発表と討論および個別研究指導

第5回～8回 受講者による研究テーマおよび研究計画発表

第9回～12回 受講者による研究成果発表

第13回 論文・レポート執筆のルール

第14回 個別執筆指導

第15回 まとめ

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究発表の準備や論文の執筆作業は、演習時間外に各自が個別に行うものである。各自の研究に資する参考文献や資料は個別的に提示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応しますので、まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項： 4年次の後期末に「ゼミ論文」(1万2千字以上)を提出してもらいます。この最終成果物の作成に向けて各自2年間研究を重ねます。

科目コード：14184

科目ナンバリング：CC41A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習III g(Seminar in Cross-cultural Studies III g)

担当者： 染谷 智幸

基本情報

年次： 4

単位数： 2

授業形式： 演習

曜時： 火曜3限

履修可能学科・専攻： C

関連資格：

AL要素： 発表・討論

授業の概要： テーマは「茨城・巴水・アート・街歩き」。アートの感覚を芸術の入門書や川瀬巴水等の作品から学び、養いながら、茨城という土地でどう豊かに生きていくべきかを考える。一人一人の情報発信を重視する。

キーワード： 茨城、川瀬巴水、アート、街歩き、小旅行、インスタ、ブログ、Twitter

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法： 発表・討論

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法： 発表・討論

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究発表(20分)の内容はもちろん、他者の発表について積極的に異見や質問をする態度は評価の対象とする。

評価割合： 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1) 前期授業概要説明
- 2) アートと茨城
- 3) 川瀬巴水について
- 4) 川瀬巴水作品の鑑賞
- 5) 学生の発表①
- 6) 学生の発表②
- 7) 学生の発表③
- 8) 学生の発表④
- 9) 学生の発表⑤
- 10) フィールドワーク①
- 11) フィールドワーク②
- 12) フィールドワーク③

- 13) フィールドワーク(まとめ)
- 14) 授業のまとめ①
- 15) 授業のまとめ?

使用テキスト: テキスト:川瀬巴水とその時代を知る会編『川瀬巴水探索』(文学通信)
参考文献:青い日記帳編『いちばんやさしい美術鑑賞』(ちくま新書)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表(20分)の準備とそのまとめに力を入れること

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらう場合があります。

留意事項: フィールドワークとして、県南の潮来・牛堀・浮島への日帰り旅行を行います。費用が5000円～10000円程度かかります。

科目コード: 14184 **科目ナンバリング:** CC41A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習III h (Seminar in Cross-cultural Studies III h)

担当者: 中山 健一

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07発表
08協働学修
09実地調査
10資料調査課題
11討論
14読活動
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要: 「ことば」の研究をするゼミである。この演習で受講生が取り組む課題は、次の3つすべてにあてはまるようなことを想定している。

1. 「ことば」にかかわる課題であること。
2. 実例収集、アンケート、インタビュー、教科書分析、その他、実証的な方法で解明できること。
3. あまり壮大な問題ではなく、具体的なことがらであること。

キーワード: 言語 日本語 外国語 言語教育 コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 言語・言語教育にかかわる具体的な問題を自ら設定し、文献調査、データ収集を行う。

評価方法: 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合:** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分が調べたことを分析し、結果を学術的な形式にのっとり、他者にもわかる形でまとめ報告する。
他者の発表に対して建設的なコメントを述べる。
特定のテーマについて議論する。

評価方法: 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

もとめない。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：【前期】まず、全員が授業担当教員が用意した「例題タスク」に取り組むことを通じて、言語研究の方法、データの収集・分析の方法を学ぶ。2023年度は、昨年度何人かの学生が取り組んだ「曲の歌詞の分析」を例題タスクとしてとりあげる。その過程で、受講生は自らの課題をより具体的に絞っていく。前期終了時には、最低限、自分の課題を決定し、研究方法を明確にるところまでを目標とする。各回の内容は次の通り。

- 1 授業概要説明
- 2 受講生による簡単なテーマ(興味があること)報告
- 3 例題タスク「曲の歌詞の分析」趣旨説明
- 4～6 例題タスク「曲の歌詞の分析」
- 7 文献調査の方法
- 8～14 後期に調べたいこと 発表
- 15 総括

使用テキスト： なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業で指示する。

障がいのある履修者への対応： 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段： メールにて連絡すること。
nakayama[at]jicc.ac.jp [at]→@

留意事項：【各自の研究テーマについて】日本語に限らず、世界中の何語でもよい。また、音声・語彙・文法など狭い意味での言語研究に限らず、言語教育、言語とコミュニケーション、その他「ことば」に関するテーマなら何でもよい。
【交換留学生の受講】交換留学生の受講を歓迎する。

科目コード：14184 科目ナンバリング：CC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習III i (Seminar in Cross-cultural Studies III i)

担当者：藤野 真拳

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07 発表

10 資料調査課題

15 レポート指導

授業の概要： 日本の近現代史のなかで学生自身がテーマを設定し研究するゼミです。まずは学生自身が近現代の政治や社会や文化について考えてみたいテーマを決め、そのことについて発表してみましよう。発表のしかたや歴史学の研究方法については、授業などを通して教授します。また、他のゼミ生とのディスカッションを通して、他者に意見を発信し他者の意見を受け止められる、コミュニケーション力の向上も目指しましょう。

キーワード： 歴史学・近現代史・明治維新史・人物史・地域社会史・生活史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 適切に課題を設定し、その課題を解決するために必要な知識を有し、先行研究のまとめが適切かをレポートで評価する。

評価方法： 発表+期末レポート

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 発表レジュメや準備状況、質疑応答などの活動状況进行评估する。

評価方法： 発表+期末レポート

評価割合： 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

質疑応答などの活動状況进行评估する。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価項目とはしないが、評価状況が発生した場合は、「思考力・判断力・表現力」の項目で評価する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画： 第1回、オリエンテーション
第2回、各自の研究テーマの発表
第3回、歴史学研究の方法について
第4回、各自の研究計画の発表
第5回、教員によるフィードバック
第6～15回、学生の研究発表とディスカッション
※期末レポート

使用テキスト： 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 発表者は教員からのフィードバックを参考に、文献や史料収集を日常的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 大学生活の学業面での醍醐味はゼミでの研究にあると考えています。最初はとまどうことが多いと思いますが、しっかりとサポートしていきます。ともに学ぶ仲間とともに一緒にがんばりましょう。

科目コード：14184

科目ナンバリング：CC41A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 文化論演習Ⅲ j (Seminar in Cross-cultural Studies Ⅲ j)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 10資料調査課題
11討論
14輪読活動
15レポート指導

授業の概要: 前半では、文献の輪読を通じて、民話の多様性と普遍性、研究の方法などを学びます。後半は、神話、昔話などの口承文芸、またはそれと関わりのある文学作品や作家の中から各自がテーマを決め、文献を集め、発表し、後期の研究への結びつけます。

キーワード: 昔話、神話、伝説、ファンタジー小説、児童文学、文学研究

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 口承文芸研究に関する基本的な知識をもち、文献を正確に読み取り、簡潔にまとめることができる。

評価方法: 発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合: 40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らの関心に合わせて適切なテーマを設定し、文献を集めて、それを批判的に読み、自分の考えを根拠をもって表現することができる。

評価方法: 発表、ディスカッションにおける発言、コメント、学期末レポート **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって深められた知識、考察を、発表および期末レポートにおいて十分かつ適切に表現することができる。

また、他の受講生の発表に対して積極的に関与し、建設的な意見を述べるができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象にしない。ただし、他の受講生の発表テーマに関して有意義な意見や知見を積極的に述べるなどの姿勢が著しい場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 1 ガイダンス
2 各自のテーマ発表・輪読発表担当決め
3 文献輪読・ディスカッション(1)
4 文献輪読・ディスカッション(2)
5 文献輪読・ディスカッション(3)

- 6 文献輪読・デスカッション(4)
- 7 文献輪読・デスカッション(5)
- 8 文献輪読・デスカッション(6)
- 9 受講生による研究発表(1)
- 10 受講生による研究発表(2)
- 11 受講生による研究発表(3)
- 12 受講生による研究発表(4)
- 13 受講生による研究発表(5)
- 13 受講生による研究発表(6)
- 15 まとめ

使用テキスト: 開講時に指示

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 輪読に関しては、必ずテキストを一読して授業に臨んでください。復習ではテキストを読み返して、全体の流れを把握することに努めてください。
自分の発表に関しては、十分な時間をかけて、簡潔なレジュメを作成すること。発表後は、受講生のコメントに目を通し、次回の発表に役立ててください。
他の受講生の発表に関しては、必ずレジュメに目を通し、分からない点をチェックしておくようにします。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者にお話してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。あらかじめメールなどで連絡をしてくれると、確実です。
メールやTeamsのチャットでの連絡は、随時受けつけます。

留意事項: 後期開講の「欧米の文学」を履修済み、または履修することが望ましい。

科目コード: 14184 **科目ナンバリング:** CC41A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習III k(Seminar in Cross-cultural Studies III k)

担当者: 堀口 悟

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07発表
10史料調査課題
11討論
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要: 日本文化とその情報発信方法を考えるゼミです。海外との交流の重要なツールである日本語を含めて、日本文化伝達の内容や方法を考えます。具体的には、日本の伝統的な文化を中心に担当者と学生とが相談の上でテーマを定め、ゼミの時間に発表する方式です。

※ご参考に、発表テーマ例を少しあげてみます。

- * 外国人から日本語を見るとー日本語教育実習の実践で体験した日本語の不思議ー
- * 日本語って面白いー役割語ワールド・新方言とネオ方言・ギャグの世界に迫るー
- * 相撲の文化史ー平安時代の文化行事から現代の国技へー
- * 比較神話ー古事記とギリシャ神話・韓国神話はとても似ているー
- * 茶道を伝えるー全員で茶を点でて実際に飲んでみようー
- * 華道ー日本的な美の世界を求めてー
- * 陶磁器の世界ー焼き物なんでも鑑定団ー
- * 日本文学ー『源氏物語』に見る恋と社会生活ー
- * 和菓子と洋菓子ー和菓子の伝統から和スイーツ・NEW和菓子までー

- * 人形が語る諸民族の文化と伝統ーひな人形・浄瑠璃・各国の人形とぬいぐるみー
- * 花火ー日本と東アジア・欧米の花火との比較を通してみる日本人の心ー
- * 風呂と温泉ー古代ローマからスパリゾートハワイアンズまでー
- * 韓服(チマ・チョゴリ)と和服ー源流の共通性とそれぞれの発展ー
- * アクセサリーに見る古今東西の文化比較ー指輪の文化・鼻輪の文化ー
- * 日中食文化比較ー天津には天津井はないー
- * 日本の庭ー日本の池は、なぜ四角ではないのかー
- * 城の文化史ー古今東西、城の意味と意義ー
- * 三線楽器の系譜と変遷ー日本列島・沖縄・韓国・中国ー
- * 日本と韓国の婚姻比較ー習慣・宗教の比較考察ー
- * 日本の思想ー剣の歴史と武士道精神ー
- * アジアの正月文化ーベトナム・インドネシア・日本を比較してー

キーワード： 日本文化、日本語教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本文化に対する幅広い知識を持つことができる。

評価方法： 演習での発表・期末レポート **評価割合：40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分がテーマとした日本文化について深く理解し、異文化を持つ人に伝えられる能力を持つ。

評価方法： 授業中の討論と期末レポートによる **評価割合：40%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質疑応答、他の発表者に対する評価カードによる。

評価割合：20%

▼ 実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合：0%

▼ 公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合：0%

▼ その他

遅刻は、「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合：遅刻は、「学修に取り組む態度」か

- 授業計画：**
- 【第01回】 他己紹介の方法と実践
 - 【第02回】 授業概要説明
 - 【第03回】 自分が発信しうる日本文化は何か、発表方法
 - 【第04回】 参考文献・日本文化の調査法・発表内容決定
 - 【第05回】 日本の伝統文化体験
 - 【第06回】 ゼミ発表と質疑応答(1)
 - 【第07回】 ゼミ発表と質疑応答(2)
 - 【第08回】 これまでの発表のまとめと発展
 - 【第09回】 ゼミ発表と質疑応答(3)
 - 【第10回】 ゼミ発表と質疑応答(4)
 - 【第11回】 ゼミ発表と質疑応答(5)
 - 【第12回】 これまでの発表のまとめと発展
 - 【第13回】 ゼミ発表と質疑応答(6)
 - 【第14回】 ゼミ発表と質疑応答(7)

【第15回】これまでの発表まとめ

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 授業中に適宜指示する。
参考文献・資料等：

障がいのある できる限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の最初に公開する。

留意事項： 出席重視。
受講人数によって、授業計画を適宜変更する場合がある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード：14184 科目ナンバリング：CC41A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習ⅢⅠ(Seminar in Cross-cultural Studies ⅢⅠ)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表
15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型)と課題研究を組み合わせる。

この授業では、より広範囲に、そして深く物事を調べ形にしていくことを目的としている。受講生には、自らの関心を持って取り組んでもらい、発表をしてもらう。その後、発表時にももらった様々な意見を踏まえ、レポートを提出してもらう。

キーワード：レポート、テーマ選択、文献講読

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：文献を読んで、要点をまとめることができ、それを発表で生かし自分の言葉で語るができる。

評価方法：発表と期末レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：発表と期末レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象としない。

評価割合：直接的な評価対象としない。

- 授業計画：
1. オリエンテーション
 2. テーマ設定(1)
 3. テーマ設定(2)
 4. 文献講読(1)
 5. 文献講読(2)
 6. 資料収集と調査方法
 7. パソコンの使い方
 8. プレゼンテーション(1)
 9. プレゼンテーション(2)
 10. プレゼンテーション(3)
 11. プレゼンテーション(4)
 12. プレゼンテーション(5)
 13. プレゼンテーション(6)
 14. レポートの書き方(1)
 15. レポートの書き方(2)

使用テキスト：講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：コメントはレポートで生かすこと。

障がいのある
履修者への対応：可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：14185 科目ナンバリング：CC42A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習IV a(Seminar in Cross-cultural Studies IV a)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：演習

授業の概要：【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ課題研究型】

基本的に前期からの継続となります。

- 1) 現代ヨーロッパ(とりわけフランス)の現代を特徴づけるさまざまな諸問題を理解します。
- 2) 政治や経済、歴史、思想といった硬派な面のみならず、家族や男女関係、教育、若者の失業、映画や文学、など、皆さんと同世代の学生たちがどのような事柄に関心を持っているのかを探ります。
- 3) これらの問題に目を配ることで、世界史の新たな頁を開きつつあるヨーロッパとフランスの現状をトータルに理解できることを目指します。
- 4) 個々の課題をこなすことで、専門書などの文献をどのように読み込むか、また調査したことをどのようにまとめ、発表するかといったノウハウを身につけることも目標となります。
- 5) ある特定の書物を輪読し、その内容について皆で議論します。

6)どのような書物を選ぶかは、まずは教員が複数タイトルを推薦し、受講生の意見や要望を出してもらって決めます。

キーワード： 現代ヨーロッパ フランス 社会 経済 政治 思想 文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法： レポート

評価割合： 100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 上記に含まれます。

評価方法： 上記に準じます。

評価割合： 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合： 0%

▼公正性

特になし。

評価割合： 0%

▼その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 01 ガイダンス
- 02 ガイダンス2 (自分のテーマを考える)
- 03 テキストの輪読と討議
- 04 テキストの輪読と討議
- 05 テキストの輪読と討議
- 06 テキストの輪読と討議
- 07 テキストの輪読と討議
- 08 テキストの輪読と討議
- 09 テキストの輪読と討議
- 10 テキストの輪読と討議
- 11 テキストの輪読と討議
- 12 テキストの輪読と討議
- 13 テキストの輪読と討議
- 14 発表
- 15 発表2

使用テキスト： プリントを準備します。

予習・復習のポイントと 授業中に指示します。

参考文献・資料等：

障がいのある まずは教務部窓口にご相談しましょう。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー

留意事項： 前期科目の継続となります。

科目コード:14185 科目ナンバリング:CC42A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習IV b(Seminar in Cross-cultural Studies IV b)

担当者:岩間 信之

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:月曜5限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素:9.実地調査

授業の概要: この演習では、地域調査(地理学)のスキルの習得、および地域活性化活動の経験獲得を目指します。

日立市をはじめとした全国の地方都市は、人口の少子高齢化や基幹産業の停滞に伴い、多くの社会課題が山積しています。雇用機会の減少とそれに伴う若年層の流出、商店街・医療機関といった生活インフラの減少、農業の衰退と耕作放棄地の増加などです。しかし今、こうした社会課題がチャンスに変わろうとしています。実際に、社会課題を新しいビジネスと結びつけて起業する若者が増えています。全国が注目する面白い政策を展開する、熱い市町村もあります。私たちは、こうした熱い変革の最前線に立っているのです。丹念なフィールドワークによって社会の構造を理解し、地域活性化に向けた政策を具体的に考える点こそが、地理学の醍醐味です。地理学にとっても茨城県北部は大変興味深い地域です。

文化論演習IVbでは、地域活性化に資するテーマを各人が設定し、調査・研究を行います。学期末にはレポートを提出してもらいます。なお、ゼミで参加する地域活性化活動(2023年は小美玉市でのシティプロモーションまたは多文化交流事業を予定)に主体的に参加する学生は、活動報告書をもってレポートとみなします。

キーワード: フィールドワーク, レポート作成, 地域貢献

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 講義や文献研究で学んだ知識を基に、自らの力で地域の社会問題を見出し、独自の視点で社会問題の本質を理解することができる。また、フィールドワークのノウハウを習得する。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会問題を多面的視点からとらえ、問題解決に向けた議論をすることができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

フィールドワークを実施することで、社会調査に主体的に取り組むことができる。また、問題解決に向けて、自らが行動を起こすことができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

地域の方々と協同しつつ、地域活性化事業に積極的・主体的に参加し、貢献することができる。

評価割合: 20%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: “第1回:フィールドワークのやり方1

- 第2回:フィールドワークのやり方2
- 第3回:フィールドワークのやり方3
- 第4回:地域活性化事業への参加
- 第5回:地域活性化事業への参加
- 第6回:研究報告①
- 第7回:研究報告②
- 第8回:研究報告③
- 第9回:研究報告④
- 第10回:研究報告⑤
- 第11回:研究報告⑥
- 第12回:研究報告⑦
- 第13回:研究報告⑧
- 第14回:レポートの書き方
- 第15回:レポートの提出

使用テキスト: [使用テキスト]
・特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等:

- ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
- ・毎回の授業内容は、事前に連絡する。
- ・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。
- ・事前準備も含め、地域活性化事業に積極的に参加すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項:

- ・このゼミはフィールドワークを前提としています。街づくりやアントレプレナーシップ、シティプロモーションなどに興味のある学生を募集しています。
- ・地域調査は、現地でのフィールドワークが基本です。体力とコミュニケーション力が重要となります。地域活性化事業も同様です。地域に対する基礎知識の習得しておくとともに、体力とコミュニケーション力を磨いておいて下さい。
- ・論文紹介やレポート作成など、課題も多いです。毎週最低5時間は、論文読解や発表の準備、レポート作成に充ててください。分からないことがあったら、いつでも聞きに来て下さい。
- ・このゼミは、地域活性化の現場に飛び込むため、授業時間以外の活動が多いです。

科目コード: 14185 **科目ナンバリング:** CC42A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習IV c(Seminar in Cross-cultural Studies IV c)

担当者: 勝山 紘子

基本情報

年次: 4 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習

曜時: 火曜3限 **履修可能学科・専攻:** C

関連資格: **AL要素:** 07発表
11討論
15レポート指導

授業の概要: 前期の授業での発表・レポートの経験をもとに、自分でテーマを探し、発表します。テーマの大きな枠組みは「ヨーロッパと日本」とします。前期のテーマを膨らませるのでもかまいません。日常生活での気づきを元に、新たなテーマに取り組むのも大いにけっこうです。前期同様、それぞれが順番にテーマについての発表とレポート作成を行い、全体のディスカッションを通して、内容をブラッシュアップします。

キーワード：ドイツ ヨーロッパ 社会 文化 文学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法：発表・討論・レポート

評価割合：40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：興味を持って取り組めるテーマを見つけ、それについての発表、討論を行うことによって、自分の考え・主張を理論立った文章にまとめることができる。

評価方法：発表・討論・レポート

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

発表の内容に加え、他の受講者の発表についてのコメントや討論などへの積極的な参加が求められる。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1 ガイダンス
 - 2 テーマの探し方、決め方について
 - 3 テーマの決定と発表の順番決め
 - 4 学生の発表(1)
 - 5 レポート研究(1)
 - 6 学生の発表(2)
 - 7 レポート研究(2)
 - 8 学生の発表(3)
 - 9 レポート研究(3)
 - 10 学生の発表(4)
 - 11 レポート研究(4)
 - 12 学生の発表(5)
 - 13 レポート研究(5)
 - 14 全体討議
 - 15 総括

使用テキスト： 授業中に指示します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 研究発表の内容をより良いものにするよう、真摯に取り組んでください。発表内容を充実させるための資料集めも各自積極的に行ってください。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 授業では他のひとの発表、レポートについて、積極的にコメントしてください。他者の意見に対して、批判・あらさがしするのではなく、活発な議論を展開するトレーニングをしましょう。

科目コード:14185

科目ナンバリング:CC42A01E

主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習IV d(Seminar in Cross-cultural Studies IV d)

担当者:志賀 市子

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素:11.発表
14.輪読活動
15.レポート指導

授業の概要: このゼミでは、近現代社会において加速度的に進行したグローバリゼーションに伴う人、物、金、情報のフロー(流れ)とその渦の中から生み出されるさまざまな文化現象について、歴史人類学的な角度や方法(史料、フィールドワーク、ライフヒストリーなど)から考えていきます。ゼミの目標は以下の通りです。①文化人類学的方法の実践を通して、文化をめぐるグローバルな問題について知見を深めるとともに、フィールドワークの方法を体験的に学び、異文化や自文化を相対化することのできる知識や考え方を身につける。②自分自身の関心を文化人類学的な研究へと発展させ、自分自身のフィールドワーク(インタビュー、参与観察など)を計画し、実践する。大学3年生、4年生という、大学生活において最も重要な2年間に取り組むべき研究対象を見出し、その研究対象に全力で向き合い、研究成果を挙げる。その成果をわかりやすく、多くの人が関心を持ってもらえるように発表し、最終的に研究レポート(卒論)を完成させる。

キーワード: グローバリゼーション、歴史人類学、フィールドワーク、ライフヒストリー、オーラル・ヒストリー、移民史、文化、宗教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で講読するテキストの内容を十分理解し、内容を適切に発表することができる。そのうえで、問題意識を持って、自主学習に取り組み、自分自身で考える研究テーマにつなげていくことができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)から評価する。 **評価割合:40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。具体的には、授業で扱った内容を踏まえて研究テーマを設定し、考察に必要な資料を集め、資料を批判的に読み、適切に参照して自分の主張や意見をまとめていくことができる。

評価方法: 個人発表、と期末レポートの内容から評価する。 **評価割合:60%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が、授業での発表や期末レポートの記述内容により著しく認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし地域貢献や異文化体験への参加により深められた知見等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることが

ある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

とくに無し

評価割合：とくに無し

授業計画： 今年のゼミは昨年に続き、①前期、後期を通して、全員が一貫したテーマに基づきいくつかの文献を講読する、②各自、自分の関心に沿ってテーマを決め、最終的にまとめたレポート(卒論)を完成させる、という二本立てで進めていきます。①については、「ライフストーリーの手法を用いた移民史」をとりあげます。たとえば昨年講読した朴沙羅著『家(チベ)の歴史を書く』は、在日コリアン三世である著者がライフストーリー調査を通して紡ぎあげた、自分の家族の歴史的記録です。②については、各自、自分の興味に従ってテーマを決める(3年、4年と継続して取り組むことのできるテーマが望ましい)→問い、仮説を立てる→資料を集める→分析する→結論を導き出すという研究のプロセスを学びます。また毎年1回学外研修(ゼミ旅行)として、アニメ聖地巡礼や横浜の華人廟、新大久保エスニックタウン巡りなどを行っています。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献購読①
- 第3回 文献購読②
- 第4回 文献購読③
- 第5回 文献購読④
- 第6回 文献購読⑤
- 第7回 まとめ、討論
- 第8回 各自テーマを決める
- 第9回 資料や関連論文を集める 専門書、論文の探し方 図書館の使い方
- 第10回 資料や関連論文の読み方、レジュメ、パワーポイントの作り方、プレゼン技法
- 第11回 個人発表①
- 第12回 個人発表②
- 第13回 個人発表③
- 第14回 個人発表④
- 第15回 プレゼンテーションの講評、レポートの書き方

使用テキスト： 授業中に指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は授業以外に積極的にそうした資料や文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が必要です。また自分が設定したテーマに基づいた研究計画を策定し、その計画に従って、日々研究を積み重ねていくことが求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室またはオンラインで対応するほか、緊急時にはメールでも対応します(オフィスアワーの曜日・時限、メールアドレスについては初回にお知らせします)。

留意事項： 特になし

科目コード：14185

科目ナンバリング：CC42A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 文化論演習IV e(Seminar in Cross-cultural Studies IV e)

担当者: 清水 博之

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07.発表、09.実地調査、10.資料調査課題、11.討論、14.輪読活動、15.レポート指導

授業の概要: 後期には、前期で達成した調査・研究の成果を基礎として、より深化した研究をめざします。

調査の進め方は、実際に現場へ出向いて、自ら聞き書きやアンケートなどを実施する直接的な方法を重視します。できるだけ履修生ならではのオリジナルな考え方や方法を取り入れるように努めましょう。

前半では、レポートのテーマの決め方や書き方についてしっかりと学修します。これと並行して履修生は研究計画を発表します。ここでは特に研究テーマに関する論文や文献などをどれだけ読み込んでいるかを重視します。なぜならば研究テーマに関する基本的な学識が研究の基礎となるからです。そして研究する者にとって肝心なことは最新の学識を有していることです。学問は日進月歩です。昨日までの常識が今日は通用しないこともあります。インターネットや最新の学術雑誌などを渉猟して、常に自分の研究テーマに関連する事柄に注意を払うようにしましょう。

後半では、履修生が自ら調査・研究した結果をレポートにまとめて発表します。ゼミにおける質疑応答や議論によってさらに自らの考察を深めて、調査・研究の軌道修正します。期末には研究成果となる完成したレポートを提出します。

なお、フィールドワークの手法を実践的に学修するために現地演習を実施する場合があります。

キーワード: 民俗学、博物館学、ユネスコ無形文化遺産、文化財保護、地域貢献、地域交流、祭り・行事

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 履修生が自ら設定する課題について、着実な調査と研究をすることができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)および発表・レポートなどにより総合的に評価する。 **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 調査・研究の結果を、発表と議論を経て修正し、研究レポートにまとめることができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)および発表・レポートなどにより総合的に評価する。 **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 【第01回】オリエンテーション
【第02回】研究レポート作成法(実践を含む)(1)
【第03回】研究レポート作成法(実践を含む)(2)
【第04回】研究レポート作成法(実践を含む)(3)
【第05回】図書館ガイダンス(大学図書館)
【第06回】研究計画の発表と議論(1)
【第07回】研究計画の発表と議論(2)
【第08回】研究計画の発表と議論(3)
【第09回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(1)
【第10回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(2)
【第11回】テキスト輪読(読書・解釈・議論)(3)
【第12回】調査の報告と議論(1)
【第13回】調査の報告と議論(2)
【第14回】調査の報告と議論(3)
【第15回】総括

※ 履修生の学修進捗状況に応じて現地演習を実施することがあります。

※ 諸事情により授業計画を変更する場合があります。

使用テキスト： 輪読などで用いる文献および参考となる文献等については授業内で紹介します。
その他の資料については、その都度配布します。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等：

- ・演習は、発表と議論が主体です。
- ・ゼミにおける発表とこれに伴う事前のレポート提出は、単位取得の必須条件です。
- ・発表予定者が合理的な理由なく休むことは認めません。
- ・調査・研究を含む自主的な学修が、毎日少なくとも1時間以上は必要になります。

【参考文献】

- ・レポート・論文の作成法に関する参考文献は、その都度紹介します。
- ・履修生自身の研究に関する参考文献は、自らが調査して入手することになります。

障がいのある 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 基本的にIC-mailとIC-UNIPAを使用します。
履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。
IC-UNIPAによる連絡なども必ず読んでください。

留意事項： 前期の演習を基礎として、夏期休暇中に後期の演習に向けての準備(特に研究論文の精読や現地調査など)を遅滞なく進めましょう。後期の演習が始まる時には、基本的な調査が済んでおり具体的な研究計画が整っていることが理想的です。

前期・後期を通して、研究の基礎データの収集は、履修生のオリジナルなデータの取得を重視します。インターネット上の出所不明な言説やデータのみで論述することは基本的に認められません。つまりは自分自身で観察したり現地調査した結果が大切になります。

現地演習を実施する場合の所要費用(旅費、観覧料など)は、履修生の自己負担になります。

科目コード：14185

科目ナンバリング：CC42A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文): 文化論演習IV f(Seminar in Cross-cultural Studies IV f)

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素:

7. 発表、11. 討論、15. レポート指導

授業の概要: 受講者それぞれが身のまわりの題材から研究テーマを設定し、自らフィールドワークを行い、論文の形にまとめ上げることが演習の主目標です。テーマは自由ですが、自分で何らかの形の調査研究(フィールドワークやアンケート調査等)を行うことを前提とします(調査方法については指導・助言を行います)。後期は特に論文執筆の実践的指導を授業内で行います。

キーワード: フィールドワーク、文化人類学、論文・レポート執筆

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 自らテーマを設定し、問題の所在を明らかにし、調査研究を通じて論文にまとめることができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 70%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 思考力、判断力、表現力は上記項目と合わせて評価する。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

他者の発表時に積極的に質問やコメントを発し、建設的にゼミ運営に貢献する者についてはその主体性を評価対象とする。

評価割合: 30%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしないが、不公正な研究態度については個別的に注意・指導の対象となる。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 ガイダンス
第2回 論文・レポートとは何か
第3回～6回 受講者による研究中間報告と討論
第7回～10回 受講者による研究最終報告と討論
第11回～14回 最終成果論文執筆の実践的指導
第15回 まとめ

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表の準備や論文の執筆作業は、演習時間外に各自が個別に行うものである。各自の研究に資する参考文献や資料は個別的に提示する。

**障がいのある
履修者への対応:**

可能な範囲で対応しますので、まずは学務部に相談してください

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項: 4年次の後期末に「ゼミ論文」(1万2千字以上)を提出してもらいます。この最終成果物の作成に向けて各自2年間研究を重ねます。

科目コード:14185 科目ナンバリング:CC42A01E 主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化論演習IV g(Seminar in Cross-cultural Studies IV g)

担当者: 染谷 智幸

基本情報

年次:4

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻:C

関連資格:

AL要素:発表・討論

授業の概要: テーマは「茨城・巴水・アート・街歩き」。アートの感覚を芸術の入門書や川瀬巴水等の作品から学び、養いながら、茨城という土地でどう豊かに生きていくべきかを考える。一人一人の情報発信を重視する。

キーワード: 茨城、川瀬巴水、アート、街歩き、小旅行、インスタ、ブログ、Twitter

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 発表と討論を通して、自己の意見を正確にかつ豊かに表現できると同時に、他の意見を取り入れながら、自らの見解をまとめることができる。

評価方法: 発表・討論

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

研究発表(20分)の内容はもちろん、他者の発表について積極的に異見や質問をする態度は評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 1)後期授業概要説明
2)アートと日本

- 3) 新版画について
- 4) 新版画の鑑賞
- 5) 学生の発表①
- 6) 学生の発表?
- 7) 学生の発表③
- 8) 学生の発表④
- 9) 学生の発表⑤
- 10) フィールドワーク①
- 11) フィールドワーク?
- 12) フィールドワーク③
- 13) フィールドワーク(まとめ)
- 14) 授業のまとめ①
- 15) 授業のまとめ?

使用テキスト: テキスト:川瀬巴水とその時代を知る会編『川瀬巴水探索』(文学通信)
参考文献:青い日記帳編『いちばんやさしい美術鑑賞』(ちくま新書)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 研究発表(20分)の準備とそのまとめに力を入れること

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 個別的に連絡してください。授業課題をメールで提出してもらう場合があります。

留意事項: 前期に天候その他の理由によりフィールドワークが行えなかった時に、後期に行うことがあります。

科目コード: 14185 **科目ナンバリング:** CC42A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習IV h (Seminar in Cross-cultural Studies IV h)

担当者: 中山 健一

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07発表
08協働学修
09実地調査
10資料調査課題
11討論
14読活動
15レポート指導
16振り返り用紙と応答
17発問と回答

授業の概要: 「ことば」の研究をするゼミである。この演習で受講生が取り組む課題は、次の3つすべてにあてはまるようなことを想定している。

1. 「ことば」にかかわる課題であること。
2. 実例収集、アンケート、インタビュー、教科書分析、その他、実証的な方法で解明できること。
3. あまり壮大な問題ではなく、具体的なことがらであること。

キーワード: 言語 日本語 外国語 言語教育 コミュニケーション

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 言語・言語教育にかかわる具体的な問題を自ら設定し、文献調査、データ収集を行う。

評価方法: 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合:** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自分が調べたことを分析し、結果を学術的な形式にのっとり、他者にもわかる形でまとめ報告する。
他者の発表に対して建設的なコメントを述べる。
特定のテーマについて議論する。

評価方法: 課題、発表、レポート、授業への貢献 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

もとめない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 【後期】: 受講生による自分の研究の経過報告と、全員による討議を中心にする。最終的には、レポートの形で自分の研究の成果をまとめる。

- 1 授業概要・発表手順説明・発表順決め
- 2 発表1回め (1)
- 3 発表1回め (2)
- 4 発表1回め (3)
- 5 発表1回め (4)
- 6 発表1回め (5)
- 7 発表1回め (6)
- 8 小総括
- 9 発表2回め (1)
- 10 発表2回め (2)
- 11 発表2回め (3)
- 12 発表2回め (4)
- 13 発表2回め (5)
- 14 発表2回め (6)
- 15 総括

使用テキスト: なし

予習・復習のポイントと 授業で指示する。

参考文献・資料等:

障がいのある履修者への対応: 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メールにて連絡すること。
nakayama[at]icc.ac.jp [at]→@

留意事項: 【各自の研究テーマについて】日本語に限らず、世界中の何語でもよい。また、音声・語彙・文法など狭

い意味での言語研究に限らず、言語教育、言語とコミュニケーション、その他「ことば」に関するテーマなら何でもよい。

【交換留学生の受講】交換留学生の受講を歓迎する。

科目コード : 14185 科目ナンバリング : CC42A01E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 文化論演習IV i (Seminar in Cross-cultural Studies IV i)

担当者 : 藤野 真拳

基本情報

年次 : 4

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 火曜3限

履修可能学科・専攻 : C

関連資格 :

AL要素 : 07 発表

10 資料調査課題

15 レポート指導

授業の概要 : 日本の近現代史のなかで学生自身がテーマを設定し研究するゼミです。研究の完成に向けて、文献リストや史料リストをまとめ、発表してもらいます。1学期のフィードバックを活かしながら、自身が選んだ近現代史のテーマについて、考えをまとめていきましょう。また、ディスカッションや意見交換を積極的に行う協働活動を通して、より視野の広い視野から歴史を評価する目を獲得していきましょう。

キーワード : 歴史学・近現代史・明治維新史・人物史・地域社会史・生活史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標 : 適切に課題を設定し、その課題を解決するために必要な知識を有し、先行研究のまとめが適切かをレポートで評価する。

評価方法 : 発表+期末レポート

評価割合 : 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標 : 発表レジュメや準備状況、質疑応答などの活動状況を評価する。

評価方法 : 発表+期末レポート

評価割合 : 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

質疑応答などの活動状況を評価する。

評価割合 : 20%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価項目とはしないが、評価状況が発生した場合は、「思考力・判断力・表現力」の項目で評価する。

評価割合 : 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合 : 0%

▼ その他

特になし。

評価割合 : 特になし。

授業計画 : 第1回、オリエンテーション
第2回、文献リストの発表(4年生)

第3回、文献リストの発表(3年生)
第4回～第8回、学生の研究発表とディスカッション(4年生)
第9～第10回、教員によるフィードバック
第11～第15回、学生の研究発表とディスカッション(3年生)
※学年配分等の日程は卒業研究の提出日などにより変動する可能性があります。

使用テキスト: 特になし。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 発表者は教員からのフィードバックを参考に、文献や史料収集を日常的に行ってください。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 大学生活の学業面での醍醐味はゼミでの研究にあると考えています。最初はとまどうことが多いと思いますが、しっかりとサポートしていきます。ともに学ぶ仲間とともに一緒にがんばりましょう。

科目コード: 14185 **科目ナンバリング:** CC42A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 文化論演習IV j (Seminar in Cross-cultural Studies IV j)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次: 4

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 10資料調査課題
11討論
15レポート指導

授業の概要: 前期に決めた各自のテーマについてさらに考察と発表を重ね、最終レポートを完成させます。

キーワード: 昔話、神話、伝説、ファンタジー小説、児童文学、文学研究

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 文献を正確に読み取り、簡潔にまとめることができる。

評価方法: 発表、学期末レポート

評価割合: 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 自らの関心に合わせて適切なテーマを設定し、文献を集めて、それを批判的に読み、自分の考えを根拠をもって表現することができる。

評価方法: 発表、学期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

自主的な学修によって深められた知識、考察を、発表および期末レポートにおいて十分かつ適切に表現することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象にしない。ただし、他の受講生の発表テーマに関して有意義な意見や知見を積極的に述べるなどの姿勢が著しい場合は、上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」の評価対象とすることができる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：
1. ガイダンス
 2. 第1回発表とディスカッション①
 3. 第1回発表とディスカッション②
 4. 第1回発表とディスカッション③
 5. 第1回発表とディスカッション④
 6. 第1回発表とディスカッション⑤
 7. 第1回発表とディスカッション⑥
 8. 中間のまとめ
 9. 第2回発表とディスカッション①
 10. 第2回発表とディスカッション②
 11. 第2回発表とディスカッション③
 12. 第2回発表とディスカッション④
 13. 第2回発表とディスカッション⑤
 14. 第2回発表とディスカッション⑥
 15. まとめ

使用テキスト： 使用しない

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 自分の発表に関しては、十分な時間をかけて、簡潔なレジュメを作成すること。発表後は、受講生のコメントに目を通し、次回の発表に役立ててください。
他の受講生の発表に関しては、必ずレジュメに目を通し、分からない点をチェックしておくようにします。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、担当者にお話してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 後期開講の「欧米の文学」を履修済み、または履修することが望ましい。

科目コード：14185 科目ナンバリング：CC42A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習IV k(Seminar in Cross-cultural Studies IV k)

担当者：堀口 悟

基本情報

年次：4

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜3限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07発表

10史料調査課題

11討論

15レポート指導

16振り返り用紙と応答

17発問と回答

授業の概要： 日本文化とその情報発信方法を考えるゼミです。海外との交流の重要なツールである日本語を含めて、日本文化伝達の内容や方法を考えます。具体的には、日本の伝統的な文化を中心に担当者と学生とが相談の上でテーマを定め、ゼミの時間に発表する方式です。

※ご参考に、発表テーマ例を少しあげてみます。

*外国人から日本語を見るとー日本語教育実習の実践で体験した日本語の不思議ー

*日本語って面白いー役割語ワールド・新方言とネオ方言・ギャグの世界に迫るー

- * 相撲の文化史—平安時代の文化行事から現代の国技へ—
- * 比較神話—古事記とギリシャ神話・韓国神話はとても似ている—
- * 茶道を伝える—全員で茶を点てて実際に飲んでみよう—
- * 華道—日本的な美の世界を求めて—
- * 陶磁器の世界—焼き物なんでも鑑定団—
- * 日本文学—『源氏物語』に見る恋と社会生活—
- * 和菓子と洋菓子—和菓子の伝統から和スイーツ・NEW和菓子まで—
- * 人形が語る諸民族の文化と伝統—ひな人形・浄瑠璃・各国の人形とぬいぐるみ—
- * 花火—日本と東アジア・欧米の花火との比較を通してみる日本人の心—
- * 風呂と温泉—古代ローマからスパリゾートハワイアンズまで—
- * 韓服(チマ・チョゴリ)と和服—源流の共通性とそれぞれの発展—
- * アクセサリーに見る古今東西の文化比較—指輪の文化・鼻輪の文化—
- * 日中食文化比較—天津には天津丼はない—
- * 日本の庭—日本の池は、なぜ四角ではないのか—
- * 城の文化史—古今東西、城の意味と意義—
- * 三線楽器の系譜と変遷—日本列島・沖縄・韓国・中国—
- * 日本と韓国の婚姻比較—習慣・宗教の比較考察—
- * 日本の思想—剣の歴史と武士道精神—
- * アジアの正月文化—ベトナム・インドネシア・日本を比較して—

キーワード： 日本文化、日本語教育

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 日本文化に対する幅広い知識を持つことができる。

評価方法： 演習での発表・期末レポート **評価割合：** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 自分がテーマとした日本文化について深く理解し、異文化を持つ人に伝えられる能力を持つ。

評価方法： 授業中の討論と期末レポートによる **評価割合：** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業への出席、質疑応答、他の発表者に対する評価カードによる。

評価割合： 20%

▼ 実践的ボランティア

評価項目としては特立しないが、認定しうる事象が生じた場合は、「学修に取り組む態度」の評価に加味する。

評価割合： 0%

▼ 公正性

加点項目とはしないが、公正性を欠く行為が見られた場合は、「学修に取り組む態度」の項目から減点する。

評価割合： 0%

▼ その他

遅刻は、「学修に取り組む態度」から減点する。

評価割合： 遅刻は、「学修に取り組む態度」か

- 授業計画：**
- 【第01回】 テーマ決定のために
 - 【第02回】 テーマ相談
 - 【第03回】 自分が発信しうる日本文化は何か、発表方法
 - 【第04回】 参考文献・日本文化の調査法・発表内容決定
 - 【第05回】 日本の伝統文化体験
 - 【第06回】 ゼミ発表と質疑応答(1)
 - 【第07回】 ゼミ発表と質疑応答(2)

- 【第08回】 これまでの発表のまとめと発展
- 【第09回】 ゼミ発表と質疑応答(3)
- 【第10回】 ゼミ発表と質疑応答(4)
- 【第11回】 ゼミ発表と質疑応答(5)
- 【第12回】 これまでの発表のまとめと発展
- 【第13回】 ゼミ発表と質疑応答(6)
- 【第14回】 日本文化体験
- 【第15回】 これまでの発表まとめ

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 授業中に適宜指示する。
参考文献・資料等：

障がいのある できる限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： ICメールにより、24時間受け付け、近日中に返答する。堀口のアドレスは、授業の最初に公開する。

留意事項： 出席重視。
受講人数によって、授業計画を適宜変更する場合がある。

リモート授業等に関して

リモート授業やハイブリッド授業でのリモート受講の際、画面上の「顔出し」は必須である。特に、ハイブリッド授業では、面接授業受講者との平等をはかるためにも、「顔出し」がなければ出席とは認めない(マスク着用や背景のぼかしは認める)。

科目コード：14185 科目ナンバリング：CC42A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化論演習IV I(Seminar in Cross-cultural Studies IV I)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：4	単位数：2	授業形式：演習
曜時：火曜3限		履修可能学科・専攻：C
関連資格：		AL要素：07.発表 15.レポート指導

授業の概要：【特例期間中の授業形態】遠隔授業(同時双方向型・オンデマンド型)、課題研究型を組み合わせて実施する。

使うアプリケーション:teams

この授業では、より広範囲に、そして深く物事を調べ形にしていくことを目的としている。受講生には、自らの関心を持って取り組んでもらい、発表をしてもらう。その後、発表時にももらった様々な意見を踏まえ、レポートを提出してもらう。

キーワード：レポート、テーマ選択、文献講読

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：文献を読んで、要点をまとめることができ、それを発表で生かし自分の言葉で語ることができる。

評価方法：発表と期末レポート 評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：発表と期末レポート 評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価対象としない。

評価割合：直接的な評価対象としない。

- 授業計画：
1. オリエンテーション
 2. テーマ設定(1)
 3. テーマ設定(2)
 4. 文献講読(1)
 5. 文献講読(2)
 6. 資料収集と調査方法
 7. パソコンの使い方
 8. プレゼンテーション(1)
 9. プレゼンテーション(2)
 10. プレゼンテーション(3)
 11. プレゼンテーション(4)
 12. プレゼンテーション(5)
 13. プレゼンテーション(6)
 14. レポートの書き方(1)
 15. レポートの書き方(2)

使用テキスト： 講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： コメントはレポートで生かすこと。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：14186 科目ナンバリング：CC10B01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化人類学A(Cultural Anthropology A)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C F N M

関連資格：学芸 日本語

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、初めて文化人類学を学ぶ人のために、入門編として文化人類学の基本的な考え方と研究方法について解説する。さらに文化人類学の広範囲なトピックのうち、最も身近なテーマである、家族や、親族、婚姻、民族、移民、観光についてとりあげる。

キーワード: グローバリゼーション、フィールドワーク、民族誌、移動、移民、家族、親族、観光、民族、エスニシティ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだトピックに関する種々の概念や議論を概ね80%理解し、解答することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ概念やトピックを適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

評価方法: 小レポート

評価割合: 30%

リアクションペーパー

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修が定期試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し

評価割合: 特に無し

授業計画: 第1回 オリエンテーション、文化人類学とは
第2回 文化とは何か
第3回 異文化と自文化、文化相対主義、グローバル化時代の文化人類学
第4回 フィールドワークと民族誌(1) 参与観察、聞き取り調査
第5回 フィールドワークと民族誌(2) 民族誌の記述
第6回 家族と親族(1) 日本の家族、世界の家族
第7回 家族と親族(2) 親族名称、親族集団
第8回 家族と親族(3) 婚姻
第9回 移動と文化(1) 移民とはだれか
第10回 移動と文化(2) 難民とはだれか
第11回 移動と文化(3) エスニック・コミュニティ、ボランティアアソシエーション
第12回 民族と国家(1) 民族とは何か
第13回 民族と国家(2) 民族から国家へ
第14回 民族と国家(2) エスニックアイデンティティ
第15回 まとめ
定期試験

使用テキスト: 『よくわかる文化人類学』(第2版) 綾部恒雄、桑山敬己編、ミネルヴァ書房、2010年
(*「文化人類学B」の授業と同じテキストを使用します)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業では、テキスト以外に副教材として、レジュメや資料を配布します。参考文献については各トピックごとに授業中に適宜紹介します。また受講者は積極的にそうした資料や文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項: 「文化人類学B」と合わせて履修することが望ましい。

科目コード:14187 科目ナンバリング:CC10B02K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):文化人類学B(Cultural Anthropology B)

担当者:鈴木 晋介

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F N M

関連資格:学芸 日本語

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: この講義では主として「宗教」をテーマとして取り上げ、文化人類学的アプローチによって世界の多様な宗教的事象に接近する。講義は大きく三つのパートに分けて行う。第1部(第1回～4回)では文化人類学という学問について概説する。第2部(第5回～11回)は宗教への社会科学的アプローチを主題に、定義や宗教概念そのものの有する問題点を論じる。第3部(第12回～)は宗教文化のすそ野の広がりへと目を向ける。妖怪文化やアニミズム、呪術が講義の題材となる。本講義は全体として、わたしたちがもつ素朴な宗教観の相対化へと向けられるものである。

キーワード: 宗教概念、現代社会と宗教、アニミズム、呪術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ宗教文化に関する種々の概念や議論を概ね80%理解し解答することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ概念や語彙を適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

評価方法: レポート、リアクションペーパー

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別적인指導の対象となりうる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回 インTRODクシヨン
第2回 概説 文化人類学とは何か(1)フィールドワークとエスノグラフィー
第3回 概説 文化人類学とは何か(2)学問の体系

- 第4回 概説 文化人類学とは何か(3)文化概念をめぐって
- 第5回 「宗教的なもの」へのアプローチ
- 第6回 世界の宗教分布
- 第7回 宗教概念について
- 第8回 現代日本人の宗教に対する「曖昧さ」
- 第9回 宗教を社会科学的に研究する
- 第10回 福沢諭吉のいたずらと千里眼事件
- 第11回 宗教という社会現象への視角
- 第12回 妖怪文化
- 第13回 アニミズム
- 第14回 呪術の世界
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 『よくわかる文化人類学』(第2版)、綾部恒雄・桑山敬己編、ミネルヴァ書房、2010年。
(*「文化人類学A」の授業と同じテキストを使用します。)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献については各トピックごとに授業中に適宜紹介します。受講者には積極的にそうした文献に目を通し、自ら知見と考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項: 「文化人類学A」と合わせて履修することが望ましい。

科目コード: 14188 **科目ナンバリング:** CC10B03K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 社会学A(Sociology A)

担当者: 勝山 紘子

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C

関連資格: 教職 日本語 福祉主

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード: 人間と社会、個人と集団、家族、性、労働、消費

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法: 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法: 授業への参加態度、毎回の授業でのリアク **評価割合:** 50%

ションペーパーの記述内容、および学期末
課題レポートにより総合的に評価します。

▼学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
- 第1回 社会学とは何か
 - 第2回 社会学の歴史(1)
 - 第3回 社会学の歴史(2)
 - 第4回 社会と「私」(1)－個人と集団、自我と他者
 - 第5回 社会と「私」(2)－社会的人間と社会集団
 - 第6回 家族と社会(1)－家族のあり方と変容
 - 第7回 家族と社会(2)－DV、ケア、新しい家族の形
 - 第8回 出生前診断について
 - 第9回 性と社会(1)－ジェンダーとセクシュアリティ
 - 第10回 性と社会(2)－多様化する性のあり方と東京オリンピック
 - 第11回 労働と産業－AIと人間の共存可能性と日本人の働き方
 - 第12回 消費行動と社会－マクドナルド化する社会とわたしたち
 - 第13回 デジタルメディアと社会学
 - 第14回 環境と社会学－高度経済成長と公害問題
 - 第15回 振り返りと総括

使用テキスト： 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと 【予習】毎回の授業に関わる箇所について、テキストをよく読んでください。

参考文献・資料等： 【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の試験に向けてノート等にまとめておいてください。

【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項： 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード：14189

科目ナンバリング：CC10B04K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：社会学B(Sociology B)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C

関連資格：教職 日本語 福祉主

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。

キーワード： 人間と社会、教育、多文化共生、地域社会、宗教、医療

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：40%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。 **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。

評価割合：10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 教育と社会学(1)－教育と社会学、日本の教育
第3回 教育と社会学(2)－共同体主義と教育、ドイツの教育
第4回 逸脱行動と逸脱者
第5回 世界における移民・難民問題
第6回 多文化共生社会を考える－映画『クラッシュ』①
第7回 多文化共生社会を考える－映画『クラッシュ』②
第8回 格差について－階級と階層、格差社会
第9回 地域と社会－社会集団としてのコミュニティとアソシエーション
第10回 グローバリゼーションとエスニシティ

- 第11回 宗教と社会(1)―世界の宗教と日本人
- 第12回 宗教と社会(2)―新興宗教と宗教2世の問題
- 第13回 医療と社会(1)―病気と医療
- 第14回 医療と社会(2)―社会学からみた医療
- 第15回 振り返り

使用テキスト: 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 【予習】毎回の授業に関わる箇所について、テキストをよく読んでください。
 【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の試験に向けてノート等にまとめておいてください。
 【参考文献および資料】授業内に指示します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

留意事項: 日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をしよう心がけてください。

科目コード: 14190 **科目ナンバリング:** CC10B06K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 歴史学B(History B)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 日本語

AL要素: 17 発問と回答
08 協同学修

授業の概要: この授業では明治時代の歴史を「文化交流と近代化」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながらより深く学んでいく授業です。日本は、異文化交流の中で近代化していきました。授業ではこれらの事例を学びながら、「文化交流」の実践に不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。

キーワード: 文化交流の歴史、明治時代、近代化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた歴史事例の基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 30%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で解説を受けた歴史事例の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。

評価方法: 学期末
筆記試験

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものとみとめられた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

講義中の教員からの発問や実践指示(史料読解)に積極的に取り組んでいると認められる場合は、右の評価割合を加算する。

評価割合：10%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：ガイダンス―「文化交流と近代化」―
第2回：明治維新期の対外関係と「開国」
第3回：岩倉使節団と文明開化① ―文明開化と日本社会の変化―
第4回：岩倉使節団と文明開化② ―岩倉使節団はなにを見たか―
第5回：岩倉使節団と文明開化③ ―岩倉使節団はどう見られたか―
第6回：明治時代の翻訳語① ―自由・権利―
第7回：明治時代の翻訳語② ―愛国・博愛―
第8回：キリスト教と教育① ―明六社知識人の宗教論―
第9回：キリスト教と教育② ―熊本・横浜・札幌バンド―
第10回：明治時代の留学生① ―お雇い外国人とアジア系留学生―
第11回：明治時代の留学生② ―日本人留学生と大陸浪人―
第12回：国際主義と国粋主義の誕生
第13回：二つの対外戦争
第14回：明治時代の非戦論者たち
第15回：まとめ
※定期試験

使用テキスト： レジユメを配布します。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 各回ごとの参考文献をレジユメに記載する。
全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』(山川出版社、2017年)を参照し予習・復習を行って下さい(90分)。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。

留意事項： 特になし。

科目コード：14191 科目ナンバリング：CC10B07K 主な使用言語：日本語|

授業名(英文)：人文地理学I(Human Geography I)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C F

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。

地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか? 観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎:産業遺産、はたまたディズニーランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか? どうしてこのような地域が形成されたのか? 観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか? 観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。

この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Iでは、自然環境と第一次産業(農林水産業)、第二次産業(製造業)との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学IIでは、第三次産業(サービス業、商業、情報産業)と近年の環境問題の視点から、地域を見ていきます。

キーワード： 人文環境, 第一次産業, 第二次産業, 都市地理学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた人文地理地に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合：60%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法： 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合：30%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合：10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自然環境と地域1
- 第3回 自然環境と地域2
- 第4回 地域と農業1 :世界の農業地域
- 第5回 地域と農業2 :アグリビジネスの地域的展開
- 第6回 地域と農業3 :農山村の地域問題とエコツーリズム
- 第7回 地域と農業4 :有機栽培地域の形成と環境負荷軽減問題
- 第8回 地域と工業1 :工業立地論
- 第9回 地域と工業2 :産業革命と世界遺産
- 第10回 地域と工業3 :大手メーカーのネットワーク

- －国内における産業集積と空洞化－
第11回 地域と工業4：中小製造業の集積(1)
－産業集積論－
第12回 地域と工業5：中小製造業の集積(2)
－日本の大都市と周辺の「町工場」の立地－
第13回 地域と工業6：工業化と環境破壊
第14回 地域と都市1：世界の大都市の歴史と構造
第15回 地域と都市2：先進国の都市群システム
定期試験(レポートの提出)

使用テキスト： [使用テキスト]
・特になし

[参考書]
・荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』(古今書院, 2004年発行)
・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』(Arnold: London; Oxford Univ)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項： 「人文地理学Ⅱ」と合わせて受講することが望ましいです。

科目コード：14192 **科目ナンバリング：CC10B08K** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：人文地理学Ⅱ(Human Geography II)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C F

関連資格：教職

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： 人文地理学の講義では、「地域」を読み解く視点を学びます。「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。

地理学とは奥の深い学問です。例えば、みなさんは観光地という言葉から何を連想するでしょうか? 観光地は、スキー場や避暑地、温泉のようなリゾート地ばかりではありません。古代の遺跡や城壁などの歴史遺産、ニューラナークや日立鉱山のような工業の礎:産業遺産、はたまたディズニールランドからお台場のショッピングモールまで、実に多種多様です。最近では、途上国のスラム街でさえ観光地化しています。観光地とは何なのか? どうしてこのような地域が形成されたのか? 観光地の背後には、どのような問題が潜んでいるのか? 観光地を理解するには、表象部分だけでなく、その特徴や形成要因、つまり観光地の背後にある「地域」を深く理解しなければいけません。

この講義では、「地域」を読み解く視点を幅広く学んでいきます。人文地理学Ⅰでは、自然環境と第一次産業(農林水産業)、第二次産業(製造業)との関係から、地域を解説します。つづく人文地理学Ⅱでは、第三次産業(サービス業、商業、情報産業)と近年の環境問題の視点から、地域を見ていきます。

キーワード： 人文環境, 第三次産業, 都市地理学, フードデザート問題

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 授業で解説を受けた人文地理に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合:** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験 **評価割合:** 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回 地域と都市3:先進国の都市群システム
ー美しきヨーロッパの街並みー
 - 第2回 地域と都市4:発展途上国における都市問題
ーごみの山に住む人々ー
 - 第3回 地域と商業1:都市と農村の商業
ー農村にブランドショップは建ちえるか?ー
 - 第4回 地域と商業2:小売業の政策(1)
ー大店法から大店立地法へー
 - 第5回 地域と商業3:小売業の政策(2)
ー商店街の衰退と都市観光による「まちづくり」への挑戦ー
 - 第6回 地域と商業4:Food desert問題1
ー都心に取り残された老人たちー
 - 第7回 地域と商業5:Food desert問題2
ー問題の本質:無縁社会の現状ー
 - 第8回 地域と商業6:近代小売業の礎としての百貨店と近年の百貨店倒産問題
 - 第9回 地域と商業7:コンビニエンスストアの大躍進
 - 第10回 地域と商業8:物流システムの構築
ーコンビニの次は何が流行る?ー
 - 第11回 地域と商業9:小売業の国際化1
ーRetail TNCの海外進出ー
 - 第12回 地域と商業10:小売業の国際化2
ー海外ブランド企業の日本襲来ー
 - 第13回 地域と商業11:欧米の商業空間
ーなぜ欧米の商店街は空洞化していないのか?ー
 - 第14回 地域再生に向けた人文地理学の挑戦1
ー被災地の今:復興を目指す被災地の苦悩ー
 - 第15回 地域再生に向けた人文地理学の挑戦2
ーFood desert 問題への挑戦ー
- 定期試験

使用テキスト: [使用テキスト]

・特になし

[参考書]

- ・荒井良雄・箸本健二編『日本の流通と都市空間』(古今書院, 2004年)
- ・Neil Wrigley・Michelle Lowe著『Reading retail』(Arnold: London; Oxford Univ)
- ・岩間信之編『都市のフードデザート問題』(農林統計協会, 2017年)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: 「人文地理学Ⅰ」と合わせて受講することが望ましいです。

科目コード: 14193 科目ナンバリング: CC30C11K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 旅行業B(ホテル経営)(Travel Agent Business B(Hotel Management))

担当者: 小川 裕嗣

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 18. その他

授業の概要: この授業ではヨーロッパに生まれた「ホテル」の歴史と、日本では幕末の開国から始まる日本のホテルの歴史から学習を始めます。続いて、ホテルの各部門の仕事について基本的なことを解説します。これらを予備知識にして、日本のホテルがどのような経緯で現在のような経営形態に変化していったのかを考えていきます。なお、ホテルでの実務経験を活かし、そうした変化がそれぞれ当時の経済状況の変化に対応したものであったことが分かるように、なるべく具体的な事例を提示したいと考えます。

キーワード: ラグジュアリーホテル、ビジネスホテル、外資系ホテル、宿泊特化型ホテル

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学習した日本のホテルの特色とそれが生まれた歴史的経緯について概ね80%の事項を説明することができる

評価方法: 学期末

評価割合: 90%

筆記試験

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で取り上げた内容について、これまでに身に着けている知見や経験を踏まえて考察し、簡潔に自らの所見を表現することができる

評価方法: 授業中の応答

評価割合: 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：	第1回	ホテルの始まり	欧米のホテルの歴史
	第2回	日本のホテルの始まり	日本のホテルの歴史
	第3回	ホテルビジネスの特徴	ホテルの分類方法
	第4回	経営形態によるホテルの分類	
	第5回	ホテルの各部門の仕事	(1) 宿泊部門の経営
	第6回	ホテルの各部門の仕事	(2) 宿泊部門の仕事
	第7回	ホテルの各部門の仕事	(3) 宴会部門の仕事
	第8回	ホテルの各部門の仕事	(4) 飲食施設の起源 ホテル内レストラン
	第9回	ホテルの宿泊料金プラン	レストランの経営
	第10回	ホテルの各部門の仕事	(5) 料飲部門の仕事
	第11回	日本のホテルの変化	(1) 戦後のホテルブーム
	第12回	日本のホテルの変化	(2) 高度経済成長期、バブル時代のホテル
	第13回	日本のホテルの変化	(3) バブル崩壊後のホテル経営
	第14回	日本のホテルの変化	(4) ビジネスホテル(チェーン)の盛衰
	第15回	まとめ	
		定期試験	

使用テキスト： 授業で使用する資料は全てUNIPAの「授業資料」に掲載する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： UNIPAに掲載されている資料を各回分、事前に印刷して、
・授業前には、その回のわからない用語を調べる。
・授業後、資料をもとに復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。参考資料として次の著作を推薦する。
『ホテル・ビジネス・ブック MMH(Master of Management for Hospitality)』 中谷秀一他 著
(株)中央経済社

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールアドレスへのアクセス可とします。学務部等に照会してください。

留意事項： 特になし

科目コード：14194 科目ナンバリング：CC30C13E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：観光実務(Tourism Business)

担当者：小川 裕嗣

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：18. その他

授業の概要： 観光ビジネスには、さまざまなサービス産業が複合的に結びついた集合体として機能してい

る、という大きな特徴があります。この授業では、そうした観光ビジネスの歴史と現状について解説します。さらに、旅行業協会での実務経験を活かし、観光ビジネスと行政の関わり、旅に対する人々の関心の変化などについてできるだけ具体的な事例を提供し、観光ビジネスを総合的に理解できるような授業にしていきたいと考えます。

キーワード： ツーリズム、ホスピタリティー産業、観光立国推進基本法、グリーンツーリズム、ニューツーリズム

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で説明を受けた観光ビジネスの特徴、日本の観光ビジネスの現状と課題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。

評価方法： 学期末
筆記試験

評価割合： 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で取り上げた内容について、これまでに身に付けている知見や経験を踏まえて考察し、簡潔に自らの所見を表現することができる

評価方法： 授業中の応答

評価割合： 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：	第1回	観光ビジネスとレジャー産業
	第2回	日本の観光の歴史
	第3回	日本の観光の歴史(2) 高度経済成長期以降、欧米の観光の歴史
	第4回	旅行業ビジネス
	第5回	旅行業ビジネス(2)
	第6回	宿泊業ビジネス
	第7回	宿泊業ビジネス(2)
	第8回	観光交通ビジネス
	第9回	航空交通ビジネス
	第10回	観光施設ビジネス テーマパークビジネス
	第11回	観光ビジネスの特徴
	第12回	国の観光行政
	第13回	国の観光行政(2) 観光ビジネスに係わる法律
	第14回	旅に対する関心の変化
	第15回	まとめ

定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料は全てUNIPAの「授業資料」に掲載する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: UNIPAに掲載されている、各回の講義資料を印刷して、
・授業前には、その回のわからない用語を調べる。
・授業後、資料をもとに復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: メールアドレスへのアクセス可とします。学務部等に照会してください。

留意事項: 特になし

科目コード: 14195 **科目ナンバリング:** CC10C08K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ひたち学(Hitachi-lore)

担当者: 岩間 信之、清水 博之、田中 裕

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 火曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: この授業では、茨城県北部地域を、地理学、民俗学、および歴史学の視点から学際的に考察することを目的とする。授業は3人の講師によるオムニバス形式で進める。

第1～5回の講義では、地理学の視点から〈ひたち〉を再確認する。まず、〈ひたち〉が抱える社会問題や、現在取り組まれている地域活性化事業の成果と課題を考察する。また、全国の特筆すべき地域活性化の事例なども紹介する。次に、〈ひたち〉の地形や気象、都市の構造などを解説していく。全ての人文現象は、自然環境のもとで展開される。地域の文化や歴史を学ぶためには、まずは地理を理解する必要がある。

第6～10回の講義では、民俗文化の視点から〈ひたち〉を再確認する。そのために、近世から継承されてきたユネスコ無形文化遺産「日立風流物」について学修する。はじめに日立風流物の現在の姿を解説する。そして、その起源から発展、戦禍による消滅の危機、戦後の復興と国の指定文化財へという歴史をたどる。次に、日本の文化財保護行政とユネスコの無形文化遺産保護活動の間で、揺れ動く継承の実態とその課題を取り上げる。あわせて、他の都市における「山・鉾・屋台行事」の事例と比較検討することにより、将来に向けての保存・継承のあり方についても言及する。まとめとして、伝統的な「祭り・行事」が、現代においてもなお人びとの心を結びつける紐帯(ちゅうたい)であることを確認する。担当教員は学芸員としての実務経験を活かして、現地における調査と研究の成果を分かりやすく解き明かす。

第11～15回の講義では、歴史の視点から〈ひたち〉を再確認する。はじめに常陸国一之宮である鹿島神宮の起こりと中臣鎌足の関係について解説する。つぎに『常陸国風土記』などの古代の史料をもとにして、当時の人々にとっていかにこの地方が豊かで住みやすい土地であったのかということに思いを馳せる。また、常陸の国には、数多くの古墳が残されているが、その理由について考察する。奈良時代になると都から延びる街道と駅家が整備されるようになったが、その遺跡をいまでも見ることができる。人々はその由緒を忘れ、駅家の跡地を長者の屋敷であったという伝説として各地に伝えられてきた。この古代の道に関する調査研究の現状と活用について解説する。

なお、「ひたち学(前期開講)」および「地域貢献研究(後期開講)」、「地域貢献演習Ⅰ・Ⅱ(前期・後期)」は、茨城県北部地域の歴史や文化を再評価するとともに、そこから地域活性化の在り方を考えていく、アクティブラーニング形式の授業である。

キーワード: 茨城県北部地域、地理学、民俗学、歴史学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ①〈ひたち〉が置かれている現状を学んだ上で、「ひたち学」の重要性を理解する。また、「ひたち学」を学ぶための基礎知識である、茨城県北部地域の地理的条件を学ぶ。②近世から継承されてきた国指定重要有形・無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産の代表一覧表に記載された「日立風流物」を通して、〈ひたち〉の民俗文化を理解する。③〈ひたち〉の古代・中世から近世・近現代にかけての歴史と文化に対する理解を深め、その理解をもとにひたち地域の歴史的な特徴について、身近な事例や史料に基づいて説明することができる知識を修得する。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 10%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. オリエンテーション (岩間)
 2. 「ひたち学」の定義—茨城県北部地域が抱える諸問題— (岩間)
 3. 「ひたち学」の基礎:地域の歴史や文化、地理を学ぶ重要性 (岩間)
 4. 「ひたち学」が必要とされる理由:若者による地域活性化の事例 (岩間)
 5. 茨城県北部地域の地理:気候、海流、植生、地理的位置 (岩間)
 6. 日立風流物の概要と歴史 (清水)
 7. 日立風流物と文化財保護 (清水)
 8. 日立風流物を継承する人たち (清水)
 9. 日立風流物の現状と課題 (清水)
 10. 日立風流物を継承する意義 (清水)
 11. 常陸国の成立と鹿島 鹿島神宮と中臣鎌足(動画視聴をもとに質疑応答) (田中)
 12. 常陸国風土記にみる常陸の豊かさ 国造の国から常陸国へ (田中)
 13. 常陸の古墳群 前方後円墳数全国第2位の茨城県 (田中)
 14. 常陸の古代道 東海道常陸路と駅家 (田中)
 15. 古代常陸と「長者」伝説 史跡「長者山官衙遺跡及び常陸海道跡」(日立市)の取組み (田中)

使用テキスト: [使用テキスト]

・特になし(毎時次の授業の授業資料を配布する)

予習・復習のポイントと ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。

参考文献・資料等: 毎回の授業内容は、事前に連絡する。

・課題を出すこともある。その場合には自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。まずは学務部に連絡すること。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応する。曜日や時間帯は、初回の授業で連絡する。

留意事項: ①この授業に継続して「地域貢献研究(後期)」を履修することが望ましい。
②「地域貢献演習Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)」も、あわせて履修することを勧める。
③民俗文化の講義で取り上げる「日立風流物」は、毎年4月に催される「日立さくらまつり」で実演される。本学では、地域貢献の一環としてこの公開事業に学生のボランティア参加を受け入れていただいている。ユネスコ無形文化遺産を実際に体験し、身近に鑑賞できる貴重な機会なので、できるだけ参加することが望ましい。(なお、諸般の事情により公開事業が変更・延期・中止になる場合がある)。

科目コード:14196 科目ナンバリング:CC10C09E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 地域貢献研究(Studies for Local Contribution)

担当者: 岩間 信之、清水 博之

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:火曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: この講義では、自分自身で「故郷」を学び・支える重要性を体験的に学びます。具体的には、郷土学の基礎を学んだうえで、茨城県北部地域を事例に「地域の伝統文化の継承」や「街づくり活動」の現状と課題を現場のリアルな視点から学びます。また、ゲストスピーカーによる話をもとに参加者全員で討論をします。この授業は、茨城県北部地域を学術的な視点から学ぶ前期開講科目「ひたち学」と対を成すものです。授業は3つの内容から構成されます。

1. 自分自身の「故郷」を持つ意味、自分自身で「故郷」を作り・支える重要性。
岩間および清水が担当
2. 「伝統文化の継承」および「地域活性化事業」の具体的な事例紹介と討論。
茨城県北部地域で実際に活動する9名をゲストスピーカーとして迎え、演習形式で授業を進める。
3. フィールドワークによる地域貢献活動の観察。岩間および清水が担当。

なお、「ひたち学(前期開講)」および「地域貢献研究(後期開講)」、「地域貢献演習Ⅰ・Ⅱ(前期・後期)」は、茨城県北部地域の歴史や文化を再評価するとともに、そこから地域活性化の在り方を考えていく、アクティブラーニング形式の授業です。担当教員の実務経験を活かして、実践的な文化事業の進め方や発信の手法などを学ぶことができます。

キーワード: 茨城県北部地域、現場の視点、伝統文化の継承、地域活性化事業

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 「ひたち学」を実践的な視点から学ぶことで、地域活性化事業の意義と課題を理解し、地域の担い手としての自覚を醸成する。

評価方法: 授業での討論とリアクションペーパーの内容、学期末レポート **評価割合:** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業での討論とリアクションペーパーの内容、学期末レポート **評価割合:** 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. ガイダンス(岩間・清水)
 2. 地方都市の現状と地域貢献の重要性(岩間)
 3. ゲストスピーカー①
記録という仕事[「日立鉱山」の終焉を撮影したフォトグラファー](オーガナイザー：清水)
 4. フィールドワーク①(清水)
「日立市の原点を探訪する」
 5. ゲストスピーカー②
自分が主役のまちづくり[「日立を愛した男」の軌跡](オーガナイザー：清水)
 6. 祭りは継承されるのかー地域貢献の意義ー(清水)
 7. ゲストスピーカー③
ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」を保存・継承する(オーガナイザー：清水)
 8. フィールドワーク②(清水)
「密筑(みつぎ)の里の浄泉」
 9. ゲストスピーカー④
夢を実現するーマコレレの歩みー[ウクレレビルダー](オーガナイザー：清水)
 10. ゲストスピーカー⑤
地元市役所の熱い挑戦(オーガナイザー：岩間)
 11. ゲストスピーカー⑥
青年会議所による地域貢献事業の現状と課題(オーガナイザー：岩間)
 12. ゲストスピーカー⑦
タウンマネージャーが語る街づくりの新たな潮流(オーガナイザー：岩間)
 13. ゲストスピーカー⑧
若者による地元起業の意義と想い(オーガナイザー：岩間)
 14. フィールドワーク③(岩間)
「宿魂石(しゆくこんせき)と大甕神社」
 15. まとめ(岩間・清水)

*ゲストスピーカーの都合により、授業の順番を変更する場合があります。

使用テキスト： [使用テキスト]

・特になし(毎時次の授業の授業資料を配布する)

予習・復習のポイントと ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。

参考文献・資料等： 毎回の授業内容は、事前に連絡する。

・課題を出すこともある。その場合には自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項： ①この授業に関連する「ひたち学(前期)」も履修することが望ましい。

②「地域貢献演習Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)」も、あわせて履修することを勧める。

③授業後は期限内に必ずアクションペーパーを提出すること(授業時間内の記載は不可)。

④民俗文化の講義で取り上げる「日立風流物」は、毎年4月に催される「日立さくらまつり」で実演され

る。本学では、地域貢献の一環としてこの公開事業に学生のボランティア参加を受け入れていただいている。ユネスコ無形文化遺産を実際に体験し、身近に鑑賞できる貴重な機会なので、できるだけ参加することが望ましい。(なお、諸般の事情により公開事業が変更・延期・中止になる場合がある)。

科目コード : 14200 科目ナンバリング : CC30C15E 主な使用言語 : 日本語

授業名(英文) : 地域メディア研究(Local Media Studies)

担当者 : 滝本 政衛

基本情報

年次 : 3

単位数 : 2

授業形式 : 演習

曜時 : 金曜4限

履修可能学科・専攻 : E Pe Pc C W F M

関連資格 :

AL要素 : 16、振り返り用紙と応答

授業の概要 : 地域メディアは日々刻々の地域の動きを地域住民に伝え、地域の歴史として記録していく重要な使命・役割を担っている。過去の蓄積なくして地域の未来は見えない。そうした視点に立って、茨城県の地方紙である茨城新聞の記事をもとに、茨城県の地域メディアの現在と過去、未来、さらに地域メディアの担い手である記者の使命と日常など地域メディアの現状を多角的に検証する。同時に戦後の茨城が辿ってきた道のりをさまざまな出来事を通して振り返り、なぜそんなことが起きたのか？その動きにどんな意味や背景があったのか？等を探りながら、茨城県の発達の歴史を縦軸に、地域メディアが果たした役割を横軸に考察を加える。地域の歴史に目を向けることは、将来の地域社会の担い手となる学生にとって非常に有益となるはずである。

担当講師は茨城新聞記者として長く茨城県の歴史の現場に立ち会った経験がある。その実践経験を活かしながら歴史の証言者として、地域メディア報道の実践者として授業を進めてゆく。

また、主権者教育の一環として、選挙の意義や仕組み、地域メディアの伝え方なども随時、授業に取り入れていく。

キーワード : 地域メディアと茨城県の歴史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標 : 地域の歴史と地域メディアの役割を振り返りながら、今後の地域社会に果たしていく自分たちの役割を知ることができる。

評価方法 : ミニレポートや出席状況を基本に授業態度等を加味する **評価割合 : 40%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標 : 随時提出してもらったミニレポートの執筆によって、思考力や表現力を養うことができる。

評価方法 : 同上 **評価割合 : 40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業態度を点数化するのは難しいが、目視した中で、評価の対象としたい。私語など他の学生への迷惑行為は、嚴重注意の対象とする。

評価割合 : 20%

▼実践的ボランティア

問わない

評価割合 : 0%

▼公正性

欠席者への代返・代筆など公正性を欠く行為が認められた場合は評価の対象になる。

評価割合：0%

▼その他

- ・試験はやりません。
- ・期末レポートと授業3回に一回程度の割合で提出してもらい簡単なミニレポートを基本に採点します。
- ・評価割合はあくまで目安です。「随時」とした項目も加味します。

評価割合：・試験はやりません。
・期末レポ

- 授業計画：
- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：茨城県の地域メディア
 - 第3回：地域メディアの使命・役割
 - 第4回：地方新聞の組織と機能
 - 第5回：取材記者の日常①政治・行政
 - 第6回：取材記者の日常②事件・事故
 - 第7回：国内・海外ニュースの伝え方
 - 第8回：地域メディアの歴史と現在
 - 第9回：地域メディアの将来
 - 第10回：新聞は地域の歴史をどう伝えたか①終戦直後の混乱から復興へ
 - 第11回：新聞は地域の歴史をどう伝えたか②経済成長と社会のひずみ
 - 第12回：新聞は地域の歴史をどう伝えたか③竹内知事誕生、華やかな開発行政
 - 第13回：新聞は地域の歴史をどう伝えたか④竹内知事逮捕、開発行政の終焉と新時代
 - 第14回：選挙を学ぶ①
 - 第15回：選挙を学ぶ②

内容は変動の可能性があります。

使用テキスト： 教材、資料は、ユニパで資料提供するか、印刷して配布します。

予習・復習のポイントと 自主性にお任せします。
参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 学務部対応です。

留意事項： 当科目は教科改編の関係で4年生だけが対象になります。4年生は就活等との関係でスケジュールが制限されることが増えると思いますが、そういった場合は出席扱いにするなど最大限配慮しますのでご安心ください。

科目コード：14202

科目ナンバリング：CC20C07K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：言語学A(Linguistics A)

担当者：中山 健一

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：日本語

AL要素：17発問と回答

授業の概要： この授業では、言語学の分野のうち、とくに、「音声学・音韻論」「形態論」「構文論」を学ぶ。一般的知識だけではなく、日本語や世界の諸言語の特徴を具体的にみていく。また授業では、担当教員の日本語教師としての経験を共有することにより、受講生の理解を深めていく。

キーワード： 言語 人間の言語の特徴 音声学 音韻論 形態論 構文論

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本語、および、他の言語の具体的な現象を通じて、人間の「言語」の特徴を理解する。人文科学（「人間」が研究対象の学問）の一分野としての「言語学」の一般的な知識を得る。

評価方法： 課題

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 世界の諸言語にふれることで自分の視野を広め、日本語を見直す。

評価方法： 課題

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

もとめない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合： 0%

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画：

1. 授業ガイダンス
2. 人間の言語の特徴
3. 言語学の考え方
4. 音声学・音韻論(ことばの音の分析) 1
5. 音声学・音韻論(ことばの音の分析) 2
6. 音声学・音韻論(ことばの音の分析) 3
7. 音声学・音韻論(ことばの音の分析) 4
8. ブレイクー普段なじみのない外国語を見てみようー
9. 形態論(単語、単語の形) 1
10. 形態論(単語、単語の形) 2
11. 形態論(単語、単語の形) 3
12. 構文論(単語を使って文を作る) 1
13. 構文論(単語を使って文を作る) 2
14. 構文論(単語を使って文を作る) 3
15. 総括

使用テキスト： なし(ハンドアウトを配布する)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業の復習はしっかりすること。また、授業にて小課題を課すので、それをきちんと行なうこと。

日ごろから、日本語や外国語(英語や、そのほか自分が勉強している言葉)に興味関心をも

つこと。

参考書:黒田龍之助『外国語を学ぶための言語学の考え方』(中公新書)

障がいのある履修者への対応: 申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段: メールにて連絡すること。
nakayama[at]jicc.ac.jp [at]→@

留意事項: 前期「言語学A」・後期「言語学B」、両方の授業で言語学全体を扱う。
交換留学生の受講も歓迎する。

科目コード:14203 科目ナンバリング:CC20C08K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):言語学B(Linguistics B)

担当者:中山 健一

基本情報

年次:カリキュラム

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:日本語

AL要素:17発問と回答

授業の概要: この授業では、言語学の分野のうち、とくに、「語彙・意味論」「語用論」「文字・表記論」「言語類型論」「比較言語学」を学ぶ。一般的知識だけではなく、日本語や世界の諸言語の特徴を具体的に見ていく。
また授業では、担当教員の日本語教師としての経験を共有することにより、受講生の理解を深めていく。

キーワード: 言語 語彙 意味 語用論 文字 表記 言語類型論 比較言語学

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 日本語、および、他の言語の具体的な現象を通じて、人間の「言語」の特徴を理解する。
人文科学(「人間」が研究対象の学問)の一分野としての「言語学」の一般的な知識を得る。

評価方法: 課題

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 世界の諸言語にふれることで自分の視野を広め、日本語を見直す。

評価方法: 課題

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

大前提であるため、評価割合には含めない。当然ながら、学修に主体的に取り組む態度がなければ単位の取得は極めて困難である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

もとめない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしないが、不正行為があった場合は規則にのっとり厳正に対処する。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画：
1. 授業ガイダンス
 2. 語彙・意味論(ことばの意味)1
 3. 語彙・意味論(ことばの意味)2
 4. 語彙・意味論(ことばの意味)3
 5. 語彙・意味論(ことばの意味)4
 6. 語用論(ことばの使い方)1
 7. 語用論(ことばの使い方)2
 8. 語用論(ことばの使い方)3
 9. ブレイクー普段なじみのない外国語を見てみようー
 10. 文字・表記論(どうやって書くか)1
 11. 文字・表記論(どうやって書くか)2
 12. 文字・表記論(どうやって書くか)3
 13. 言語類型論・比較言語学(世界のことば)1
 14. 言語類型論・比較言語学(世界のことば)2
 15. 総括

使用テキスト：なし(ハンドアウトを配布する)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等：授業の復習はしっかりすること。また、授業にて小課題を課すので、それをきちんと行なうこと。
日ごろから、日本語や外国語(英語や、そのほか自分が勉強している言葉)に興味関心をもつこと。

参考書：黒田龍之助『外国語を学ぶための言語学の考え方』(中公新書)

障がいのある履修者への対応：申し出があれば対応する。事前に学務部に相談すること。

授業時間外の連絡手段：メールにて連絡すること。
nakayama[at]icc.ac.jp [at]→@

留意事項：前期「言語学A」・後期「言語学B」、両方の授業で言語学全体を扱う。
交換留学生の受講も歓迎する。

科目コード：14204 科目ナンバリング：CC20C09K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：民俗学(Folklore)

担当者：清水 博之

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：学芸

AL要素：16.振り返りと応答

授業の概要：民俗学は「内省の学」ともいわれています。私たちの生活の中で伝えられてきたさまざまな事象を掘り下げて考察し、現代を生きる私たち自身の思考や行動の根源を探求しようとする学問です。

この授業のテーマは、民俗学という学問を通して「日本人とは何か」を解明することです。具体的には、私たちが日常生活の中で経験するさまざまな物事を民俗学ならではの視点と方法で考究します。

とはいっても、民俗学は私たちが日頃から当たり前と思っていることの本来の意味を解き明かしてくれる身近な学問でもあります。自分自身の幼い頃からの経験を思い出しながら楽しく学修しましょう。

授業では、毎回テーマに沿って講義をしますが、時には履修生と質疑応答をすることもあります。毎回の授業終了後にはリアクションペーパーを課します。これらは成績評価の対象となります。

茨城県内はもとより、日本のみならず海外のさまざまな民俗事象も紹介します。

キーワード： 日本民俗学、柳田國男、沖縄、移民、マチとムラ、口承伝承、通過儀礼、年中行事、お祭り、結婚、つきあい、学校の怪談、生と死、日本人

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 民俗学の基本的な知識と考え方を理解して、説明することができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)およびリアクションペーパー、定期試験などにより総合的に評価する。 **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 授業への参加態度や貢献度(発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など)およびリアクションペーパー、定期試験などにより総合的に評価する。 **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やリアクションペーパーの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることができる。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることができる。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼ その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

- 【第01回】オリエンテーション: 民俗学への招待
- 【第02回】民俗の心を探る(民俗学史)
- 【第03回】装飾と入れ墨
- 【第04回】沖縄の民俗
- 【第05回】移民の民俗
- 【第06回】マチとムラの祭り
- 【第07回】学校の怪談
- 【第08回】結婚と親戚
- 【第09回】通過儀礼と俗信
- 【第10回】墓参りと先祖供養
- 【第11回】地区のつきあい・職場のつきあい
- 【第12回】ムラの過疎化
- 【第13回】コンビニで知る年中行事
- 【第14回】あの世への旅立ちといのちの誕生

【第15回】まとめ:日本人とは
定期試験

※ 諸般の事情により、授業計画の日程や内容を変更する場合があります。

使用テキスト: 特になし。

予習・復習のポイントと

参考文献・資料等:

【予習】1時間以上

・あらかじめ、当日の授業テーマについて主体的に学修しておく。

【復習】1時間以上

・毎回のリアクションペーパーは、成績評価の対象なので必ず期限内に提出する。

・定期試験に備えて授業で取り上げた事柄をノートなどにまとめる。

【参考文献】

・市川秀之・中野紀和・篠原徹・常光徹・福田アジオ編著『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ

書房、2015年、2,800円＋税

・その他の参考文献については、授業時に紹介する。

【資料】

その都度、配布する。

障がいのある
履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 別途、お知らせします。

留意事項: ・毎回のリアクションペーパーは、定期試験とともに成績評価の対象となるので、しっかりと取り組んで期限までに提出してください。

科目コード:14206

科目ナンバリング:CC20C13K

主な使用言語:日本語

授業名(英文):日本史A(Japanese History A)

担当者:藤野 真挙

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F

関連資格:教職

AL要素:07、発表

08、協同学修

10、資料調査課題

14、輪読活動

授業の概要: 明治初期の文明開化期の思想について、詳しく学んでいきます。

日本が近代化しようとする時期、当時の知識人たちはどのような未来像を語っていたのでしょうか。現代の日本の基盤を1から作っていった先人の思想や社会構想を学ぶことで、いまの常識にとらわれない「社会を見る目」を歴史から学んでみましょう。

受講人数にもよりますが、授業では教員による講義だけでなく、学生同士の協同学修(課題解決のための準備と発表)を実施します。

キーワード: 明治維新、文明開化、明六社、福澤諭吉、加藤弘之、西周、中村正直、阪谷素

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。

評価方法: 発表

評価割合:30%

学期末レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。

評価方法: 発表
学期末レポート

評価割合: 70%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回: ガイダンス
第2回: 明六社と『明六雑誌』について
第3回: 福澤諭吉と加藤弘之について
第4回: 西周と津田真道について
第5回: 中村正直と阪谷素について
第6回: グループ設定と課題設定
第7回-第9回: グループ別ミーティングと発表準備
第10回: ポスター発表会①
第11回: ポスター発表会②
第12回: 発表会のまとめと討論会
第13回: フィードバック講義①
第14回: フィードバック講義②
第15回: まとめ
※学期末レポート

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと 授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する(90分)
参考文献・資料等: 参考文献は授業内で指示する。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
履修者への対応:

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 日本史の知識よりも日本語の読解力のほうが要求される授業です。

科目コード: 14207 科目ナンバリング: CC20C14K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 日本史B(Japanese History B)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F

関連資格: 教職

AL要素: 07、発表

授業の概要： 五カ条誓文の発布から帝国議会開院、大日本帝国憲法発布までの歴史を学びます。江戸時代までの政治のあり方を変え西洋的な政治体制を作りあげようとした時代が、明治初期という時代です。憲法や国会といった現代にも続く政治システムの基盤は、どのように作りあげられていったのでしょうか。前期の日本史Aと同様に協同学修の方法を取り入れながら授業を進めていきます。

キーワード： 明治維新、五カ条誓文、漸次立憲政体樹立の詔、明治14年政変、自由民権運動、帝国議会、大日本帝国憲法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。

評価方法： 発表
学期末レポート **評価割合：30%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。

評価方法： 発表
学期末レポート **評価割合：70%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回:ガイダンス
第2回:五カ条誓文は何を目指していたのか
第3回:大阪会議と漸次立憲政体樹立の詔
第4回:明治14年政変と国会開設勅諭
第5回:自由民権運動と激化事件
第6回:グループ設定と課題設定
第7回-第9回:グループ別ミーティングと発表準備
第10回:ポスター発表会①
第11回:ポスター発表会②
第12回:発表会のまとめと討論会
第13回:フィードバック講義①-立憲主義における多数決と少数意見-
第14回:フィードバック講義②-大日本帝国憲法と教育勅語の関係-
第15回:まとめ

※レポート

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する(90分)
参考文献は授業内で指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 特になし。

科目コード:14208 科目ナンバリング:CC21C01K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):考古学I(Archaeology I)

担当者:宮崎 晶子

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:教職 学芸

AL要素: 16.質疑と応答

授業の概要: 考古学は決して「トレジャーハンター」の世界ではない。『インディージョーンズ』で描かれるようなスリルはないが、地道な作業の中で古代の人々と対話し、知的興奮を覚えることができる。考古学を学ぶということは、人類の足跡をたどることである。本講義では海外支援の在り方も含めて、考古学の成果と現状を学んでもらう。

キーワード: 遺物と遺構、層位、型式

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 学生が海外に関心を持ち、海外の歴史やそれを培った風土からその地域に住む人を理解しようとする姿勢を身につけることが目標。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末試験

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

- 第1回 世界考古学への招待
- 第2回 考古学の基礎
- 第3回 中国の考古学
- 第4回 東南アジアの考古学(1)
- 第5回 東南アジアの考古学(2)
- 第6回 インドの考古学
- 第7回 西アジアの考古学(1)
- 第8回 西アジアの考古学(2)
- 第9回 エジプトの考古学(1)
- 第10回 エジプトの考古学(2)
- 第11回 イスラームの考古学(1)
- 第12回 イスラームの考古学(2)
- 第13回 インカの考古学(1)
- 第14回 インカの考古学(2)
- 第15回 海外考古学のまとめ
- 定期試験

使用テキスト： 講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと 復習し期末テストに備えること。

参考文献・資料等：

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：14209 科目ナンバリング：CC22C01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：考古学II(Archaeology II)

担当者：関口 慶久

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：集中講義

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 学芸

AL要素：16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 次の3部構成により講義を行い、考古学に関する幅広い知見を獲得する。

【第1部 日本考古学概説】

旧石器時代から近現代まで、日本考古学の調査・研究の成果を概説する。

【第2部 考古学の諸相】

考古学のうち、石造物・銭貨・城・災害など、特徴あるテーマを取り上げ、考古学の研究成果を深く掘り下げる。

【第3部 考古学の実践】

開発・観光・博物館・学校教育・史跡整備等、現代社会において考古学が直面しているテーマを取り上げ、考古学を取り巻く課題や展望を学ぶ。

キーワード： 発掘調査、3つの文化圏、石器、土器、陶磁器、古墳、宮都、官衙、戦争、石塔、墓標、セリエーション、墳墓、人骨、カワラケ、地鎮・埋納、大量一括銭、六道銭、城館、石垣、文化財レスキュー、東日本大震災、文化財保護法、記録保存、地方博物館、埋蔵文化財センター、教科書問題、史跡整備

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 日本考古学の基礎的な知識と、考古学を取り巻く現状を習得することにより、考古学が現代に果たすべき多様な役割を理解することを目標とする。

評価方法: 振り返り用紙への記入、学期末レポート **評価割合:** 60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することを目標とする。

評価方法: 振り返り用紙への記入、学期末レポート **評価割合:** 40%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって深められた知見等が、振り返り用紙・期末レポートの記述内容に認められた場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。ただし発掘調査等の実践により深められた知見等が、振り返り用紙・期末レポートの記述内容に認められた場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 【ガイダンス】

第01回 遺跡の発掘と整理

【第1部 日本考古学概説】

第02回 旧石器時代～縄文時代

第03回 弥生時代～古墳時代

第04回 古代～中世

第05回 近世～近現代

【第2部 考古学の諸相】

第06回 石造物から歴史を読み解く

第07回 中近世の葬送・墓制

第08回 呪術の世界

第09回 錢貨の考古学

第10回 城の調査と歩き方

第11回 災害と文化財

【第3部 考古学の実践】

第12回 考古学と開発

第13回 考古学と観光

第14回 考古学と博物館・学校教育

第15回 遺跡を整備する／講義のまとめ

使用テキスト: 講義で使用する資料は、原則1週間前までにデータで配布する。各自、事前にダウンロードし、印刷して持参するか、デバイス上で資料を開き、講義に臨むこと。

※印刷やデバイス持参が難しい場合は当日資料を配布しますので、事前に相談して下さい。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 配布資料には、講義テーマに沿った参考文献一覧を記載する。
配布資料や参考文献を予習・復習するとともに、考古学に関する展覧会の見学、発掘に関する報道等の見聞、発掘調査への参加(※)等を通して、知見を深めることが望ましい。
※発掘調査に参加希望の方は相談に応じます。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。事前に学務部に連絡・相談すること。

授業時間外の連絡手段：

メールにて連絡すること。
sekiguchi_norihisa@icc.ac.jp

留意事項： デバイス持参を推奨する(必携ではない)。

科目コード：14211 **科目ナンバリング：**CC20C15K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：日本の歴史と文化(History and Culture of Japan)

担当者：田中 裕

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 社教 学芸 日本語

AL要素：17. 発問と回答

授業の概要： 日本考古学のつちがら、日本列島の歴史について、時代区分のなりたちとその問題点、歴史や考古学を学ぶ上で必要な批判的精神とその方法、考古学の研究法の概要とそのなりたちを学ぶとともに、人類誕生以来、連綿と紡がれてきた人類の歩み＝人類史を、日本列島の「物証」に基づいてダイナミックに描きだすことと同時に、現代の身近な文化に受け継がれた伝統について考古学的に考えることにより現在を冷静に見つめ、現在を生きる私たちが将来に向けてなにをなすべきかについて一緒に考える。

キーワード： 歴史、考古学研究法、時代区分、発掘、型式学、文明、文化、伝統

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 日本考古学の基礎知識を身につけるとともに、自ら学ぶ準備ができています。

評価方法： 授業中に課す課題で考古学研究法の生み出されてきた経緯等を説明できる。 **評価割合：**60

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 考古学的、または歴史的な思考法の概要を理解できる。

評価方法： 授業中に出す課題の中に批判的に考え調べた内容を盛り込むことができる。 **評価割合：**10

▼学修に主体的に取り組む態度

講義内容について批判的に考え調べることができる。

評価割合：10

▼実践的ボランティア

講義内容について批判的に考え調べることができる。

評価割合：10

▼公正性

講義内容について批判的に考え調べることができる。

評価割合：10

▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画： 1 シラバスを用いたガイダンス
2 考古学の時代区分と日本の時代区分
3 人類の進化とはなにか

4 「史料批判」と考古学
5 文化財と文化遺産、ほんとの学び
6 考古学の目的・役割・考え方
7 考古学研究法とその歴史1
—型式学の誕生と発展—
8 考古学研究法とその歴史2
—発掘調査の誕生と発展—
9 正倉院の価値
10 「装い」の考古学
11 「食べもの」の考古学1 和食の定義とその成立
12 「食べもの」の考古学2 調理道具と配膳の歴史
13 「住まい」の考古学
14 「死ぬこと」の考古学
15 まとめ～考古学の目的と役割～と課題提出

使用テキスト： 授業内で参考文献を紹介する

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： (1)各授業ではグループディスカッションを行うことがあるため、授業内で予告する内容に沿って下調べを行うこと。
(2)授業に関係する書籍を必ず一冊以上を探して読むこと。
(3)各回の内容を復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡のこと。

授業時間外の連絡手段： yutaka.tanaka.archaeo@vc.ibaraki.ac.jp

留意事項： 課題についてはIC-UNIPAの課題慣例機能を利用する予定であるが、詳細は授業中の指示による。

科目コード：14212 科目ナンバリング：CC20C16K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：中国の歴史と文化A(History and Culture of China A)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 学芸 日本語

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、中国社会についての理解を深めるために、現代に直接つながる過去としての中国近代史に焦点をあてて講義を行う。日本では、戦前から現代に至るまで、中国社会を日本社会や西洋社会の尺度ではかり、しかもその差異を中国の「後進性」や「民族性(国民性)」に結び付けて安易に語る風潮がはびこってきた。だが、このようなオリエンタリズム的な中国理解では、中国の社会や中国の今を客観的かつ冷静に理解できないばかりか、中国や中国人に対する偏見や誤解を増幅させてしまっている。本講義では、グローバルヒストリーの視点を取り入れながら、後期帝政時代における中国社会の構造と経済の仕組みについて理

解を深め、中国社会とはどのような特性を持ち、日本社会とはどのような違いがあったのかを考える。さらにアヘン戦争(1840年)以降、中国がどのような近代を歩んできたのかを、日中関係史とも絡めながらたどる。さらに近代以降それぞれイギリス、日本の植民地となった香港、台湾の歴史とその土地に住む人々のアイデンティティの問題についてとりあげる。

キーワード: 近代中国史、明清社会、アヘン戦争、日中関係史、日清戦争、日中戦争、中国革命、近代日本史

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだトピックに関する種々の概念や議論を概ね80%理解し、解答することができる。

評価方法: 小テスト、リアクションペーパーから評価する。 **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ概念やトピックを適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

評価方法: 期末レポート **評価割合:** 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し

評価割合: 特に無し

授業計画:

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「中国」の統一
- 第4回 中華と外夷 漢化と中国の拡大
- 第5回 中国の人口動態と聚落(しゅうらく)形態
- 第7回 「士と庶」 科挙と官僚制
- 第8回 民間社会 中間団体としての宗族、宗教結社、慈善団体
- 第9回 近代中国のはじまりとしての明清時代
- 第10回 植民地経済システムと中国人移民
- 第11回 アヘン戦争と中国社会
- 第12回 清末の政治、経済、社会
- 第13回 民国期の政治、経済、社会
- 第14回 脱亜論から日清戦争へ
- 第15回 現代日中両国のメディアにみる日本人像、中国人像の変遷

使用テキスト: 岡本隆司『教養としての中国史の読み方』PHP研究所、2020年

岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』東洋経済新報社、2019年
岡本隆司『中国史とつなげて学ぶ日本全史』東洋経済新報社、2021年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』東洋経済新報社、2019年
岡本隆司『中国史とつなげて学ぶ日本全史』東洋経済新報社、2021年

その他の参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は積極的にそうした資料や文献を読み、基本的な歴史的用語や歴史的事実について自ら知識を増やすとともに、考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項： とくに無し

科目コード：14213 **科目ナンバリング：**CC20C17K **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：中国の歴史と文化B(History and Culture of China B)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 学芸 日本語

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業では、中華人民共和国以外の地域に住む華僑・華人と呼ばれる人々の文化や民族意識をとりあげる。華僑・華人とは、海外に移住した中国人とその子孫たちである。彼らは移住先の地に定住しながらも、中国文化を継承し、「我々は中国人である」というエスニック・アイデンティティを持ち続けている。この授業では、華僑・華人についての概要を紹介した後、とくに香港、台湾の歴史と現状を通して、「中国人」や「中国文化」の多様性を知り、それぞれの文化的、民族的アイデンティティがいかに形成されてきたかについての知見を深める。時間があれば、東南アジアの華僑・華人の事例として、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、日本のケースをとりあげ、それぞれの地域における華人系移民の多様性について理解を深める。

キーワード： 華僑・華人、香港、台湾

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で学んだトピックに関する種々の概念や議論を概ね80%理解し、解答することができる。

評価方法： 小テスト、リアクションペーパーから評価する **評価割合：**40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ概念やトピックを適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

評価方法： 期末レポート **評価割合：**60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画： 第1回：オリエンテーション 中国人、華僑、華人とは
第2回：華僑・華人の歴史とアイデンティティ
第3回：香港の概要
第4回：香港の歴史と香港人アイデンティティ(1) 植民地香港の成立
第5回：香港の歴史と香港人アイデンティティ(2) 戦後の香港と香港人アイデンティティの台頭
第6回：香港の歴史と香港人アイデンティティ(3) 返還後の社会変化とアイデンティティの変容
第7回：ドキュメンタリー「香港・家族—永遠のきずな」を見る
第8回：台湾の概要
第9回：台湾の歴史と台湾人アイデンティティ(1) 明清時代から日本統治時代へ
第10回：台湾の歴史と台湾人アイデンティティ(2) 中華民国時代、二二八事件、戒厳令
第11回：映画「悲情城市」を見る
第12回：台湾の歴史と台湾人アイデンティティ(3) 民主化の時代から現代まで
第13回：シンガポール、マレーシアの華人
第14回：タイ、ベトナムの華人
第15回：日本の華人、まとめ

使用テキスト： 倉田徹ほか『香港—中国と向き合う自由都市』岩波新書、2015年
野嶋剛『台湾とは何か』ちくま新書、2016年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 受講者は積極的にそうした資料や文献を読み、基本的な歴史的用語や歴史的事実について自ら知識を増やし、考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：14214 科目ナンバリング：CC20C18K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：東南アジアの歴史と文化A(History and Culture of Southeast Asia A)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：日本語

AL要素：16.質疑と応答

授業の概要: 本講義では、高校の教科書でもほとんど取り上げられないことのない東南アジアに焦点を当て、歴史や文化を通して人々がどのような営みを繰り返してきたのか学ぶことを目的とする。歴史に関しては、世界遺産になっているような遺跡を中心に、王権や宗教に関して学び、遺跡に表現されたレリーフ(浮き彫り)や出土している陶磁器などから当時の人々の生活や文化を勉強し、そこに込められた「メッセージ」を読み解いていく。前期では古代、中世に焦点をあて、後期は近現代を中心に授業をすすめる。

キーワード: 東南アジア、歴史、文化、独立、ASEAN

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 世界の歴史や人々に興味を持ち、異文化理解のできる人間になる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 東南アジア世界の成り立ち
2. インド化と中国の影響
3. 扶南の成り立ち
4. 王権と宗教①ーボロブドゥールー
5. 王権と宗教②ーバガンー
6. 王権と宗教③ーアンコール・ワットー
7. アンコール王朝の拡大と多文化社会
8. 世界遺産と日本人
9. 信仰と美術ー祈りの場と仏像ー
10. 風俗と慣習ーレリーフ(浮き彫り)と中国資料からー
11. 港市国家と交易
12. 上座部仏教社会の形成
13. インドネシアのイスラーム化
14. 大航海時代の中の東南アジア
15. まとめ

使用テキスト: 講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 課題は出さないが、常に東南アジアの状況に関心を持つこと。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項： 特になし

科目コード：14216 科目ナンバリング：CC20C20K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：インドの歴史と文化(History and Culture of India)

担当者：鈴木 晋介

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 本講義で扱う「インド世界」とは、「インド共和国」を内に含む一定の地理的領域、いわゆる「南アジア」を意味しています。流動と混交の歴史の織りなす魅力的なインド世界の文化を映像資料を交えて概説します。講義後半ではとくにインド世界の宗教文化(仏教およびヒンドゥー教)に焦点を当てますが、食文化や音楽、生活習慣等の日常的トピックも随時取り上げ、インド世界の多角的な理解を目指します。

キーワード： 南アジア史、南アジアの文化、仏教、ヒンドゥー教

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学ぶ南アジア史や宗教文化の諸概念や基礎的知識について理解し、適切に論述することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について問題意識を深め、自らの言葉で論理的に表現することができる。

評価方法： リアクションペーパー

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等がレポートやアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、リアクションペーパー等に著しい偏見や差別的表現がなされた場合は個別的な指導・注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 第1回 ガイダンスー近くて遠いインド世界

第2回 インド亜大陸のひろがりー地理的特徴とひとびと

- 第3回 南アジアの国々(1)
- 第4回 南アジアの国々(2)
- 第5回 流動と混交の歴史(1) 古代インダス文明から諸王朝の興亡へ
- 第6回 流動と混交の歴史(2) 中世イスラーム時代
- 第7回 流動と混交の歴史(3) 英国植民地支配の時代
- 第8回 流動と混交の歴史(4) 現代南アジアと国際情勢
- 第9回 南アジアの宗教文化(1) 仏教の源流へ
- 第10回 南アジアの宗教文化(2) ゴータマ・シッダッタの生涯と時代背景
- 第11回 南アジアの宗教文化(3) 仏教の基本思想
- 第12回 南アジアの宗教文化(4) 根本分裂と仏教の展開
- 第13回 南アジアの宗教文化(5) 大乘仏教の登場
- 第14回 現代日本と南アジア
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 授業に使用する資料等はすべて印刷し配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業時に配布する資料を手掛かりに、個々人で関心を深め自ら文献にあたるのが望ましい。参考文献は各トピックごとに授業時に紹介するが、南アジアの歴史については、辛島昇編、『南アジア史』(山川出版社、2004年)をまずは参照されたい。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項: なし

科目コード: 14217 科目ナンバリング: CC20C21K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): イスラムの歴史と文化(History and Culture of Islam)

担当者: 山中 利美

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 教職 学芸

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: イスラーム世界の歴史と文化および社会生活について、イスラームという宗教を通じて理解することを目的とする授業です。彼らの生き方に敬意を払いながら、彼らの生活を支えているイスラームという宗教の根本精神や基礎知識を学ぶことによって、イスラームに対する偏見のない理解を目指します。

キーワード: イスラーム、ムハンマド、唯一神アッラー、クルアーン、イスラーム法、六信五行

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだ内容に関して、概ね的確な説明が出来る。

評価方法: 期末試験に代わるレポート課題

評価割合: 90%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容に関して、何が重要かを自ら理解し、それを論理的かつ簡潔に表現することが出来る。

評価方法: 期末試験に代わるレポート課題

評価割合: 10%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：直接的な評価の対象とはしない。

- 授業計画：
- 第1回 授業の目的と概要
 - 第2回 イスラームの基礎知識(1)創始者
 - 第3回 イスラームの基礎知識(2)崇拝対象
 - 第4回 イスラームの基礎知識(3)教典
 - 第5回 イスラーム法(1)四つの法源と五つの法規定
 - 第6回 イスラーム法(2)二つのカリマと六信五行
 - 第7回 六信
 - 第8回 五行(1)信仰告白、礼拝
 - 第9回 五行(2)喜捨、ラマダーン月の断食
 - 第10回 五行(3)マッカ巡礼
 - 第11回 教祖ムハンマドの生涯(1)クライシュ家と生い立ち
 - 第12回 教祖ムハンマドの生涯(2)マッカ時代
 - 第13回 教祖ムハンマドの生涯(3)マディーナ時代
 - 第14回 イスラームの歴史概略(前)
 - 第15回 イスラームの歴史概略(後)
- 期末試験に代わるレポート課題を出題

使用テキスト：特に指定しない。授業中に資料を配布する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 授業前に前回の内容を復習して授業に備える。
授業後、ノートと配布資料を見直し、疑問があればメモして、次回の授業で質問したり、以下に挙げる参考資料などを使って理解を深めることが望ましい。
『コーラン(上)(中)(下)』(全三冊)井筒俊彦訳、岩波文庫、1957-58年
『イスラームとは何か その宗教・社会・文化』小杉泰著、講談社現代新書、1994年

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： IC-UNIPAで対応します。

留意事項： 特になし。

科目コード：14218 科目ナンバリング：CC20C22K 主な使用言語：日本語|

授業名(英文)：ヨーロッパの歴史と文化A(History and Culture of Europe A)

担当者：細谷 瑞枝

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 学芸

AL要素：16.振り返り用紙と応答

授業の概要：この講義では、中欧の国、ドイツを中心にヨーロッパの歴史と文化について学びます。最初に現代のドイツの1年を歳時記風にたどることによって、キリスト教がヨーロッパの日常に深く

かかわっていることを見ていきましょう。続いて、ローマ帝国とゲルマン民族の関係、「フランク王国」に始まる昔のドイツの歴史や暮らしについて説明していきますが、実は中世には「ドイツ」という国は存在しませんでした。「神聖ローマ帝国」の領土は、現在のドイツ、フランス、イタリアにまたがっていましたが、今のドイツに当たる地域では多くの領邦が割拠している状態だったのです。それが統一され今のドイツに近い形になる19世紀、2度の世界大戦を経て大きく変貌した20世紀、ドイツを中心にして、ヨーロッパの近現代史の大きな流れを理解できるように解説します。

キーワード：ドイツ史、神聖ローマ帝国、宗教改革、プロイセン、ドイツ帝国、ナチス、東西ドイツ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：ドイツの歴史の流れを理解し、主要な出来事に関する基礎的な知識を獲得する。

評価方法：授業中に課す課題、出席確認に書かれた意見・質問、およびまとめの試験 **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：ドイツの歴史と文化について、授業や自主学習によって得た知見をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：授業中に課す課題、出席確認に書かれた意見・質問、およびまとめの試験 **評価割合：40%**

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中に課す課題、リアクションペーパーなどにおいて、発展的な考察や自主的な学修の成果が見られた場合はこれを評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：

1. ガイダンス
2. ドイツ歳時記：四季と年中行事
3. ローマ帝国時代からカール大帝まで
4. 神聖ローマ帝国
5. 教会と信仰
6. 中世ドイツの庶民の暮らし
7. 宗教改革と30年戦争
8. プロイセンの台頭
9. ナポレオンとドイツ
10. ドイツ帝国
11. 第一次世界大戦とワイマール共和国
12. ナチスの時代(第三帝国)
13. 第二次世界大戦と戦争責任
14. 東西ドイツの分裂と再統一

15. 振り返りとまとめ

使用テキスト: 使用しない。必要な資料は、適宜授業中に配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 高校の世界史の教科書のヨーロッパに関する部分を読み返しておく、授業が理解しやすくなります。また、前回の授業のノートを読み返して内容を思い出してから、授業に臨むといいでしょう(1時間)。授業のあとは、ノートを見ながらその回の授業内容を自分のことばでまとめます。また、思いついたことや疑問点を書きとめ、自分で調べたり、担当者に質問することを心がけましょう(1時間)。参考文献は、授業中に適宜紹介します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、担当者に直接お話しください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室に来てください。メールなどであらかじめ連絡をしてけると、確実です。オフィスアワーの曜日と時間は、開講時にお知らせします。メール、あるいはTeamsのチャンネルでの連絡は、随時受け付けます。

留意事項: 毎回、出欠確認をTeamsで提出してもらいますので、Teamsにはあらかじめ登録しておくこと。

科目コード: 14219 **科目ナンバリング:** CC20C23K **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): ヨーロッパの歴史と文化B(History and Culture of Europe B)

担当者: 和泉 涼一

基本情報

年次: カリキュラム

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 教職 学芸

AL要素: 講義と討論

授業の概要: フランスはながいこと「遠くにありて想うもの」でした。日本人にとっては美と文明の「あこがれの国」だったわけで、なにしろ観光客のほうが人口よりも多いくらいです。しかしそんな国でも意外と知られていない側面があったりします。このクラスでは、そういう国であるフランスの歴史と文化をさらに深く理解することを目的としています。具体的には以下のとおりです。

- 1) フランスはながいあいだヨーロッパの主要国のひとつであり続けてきましたが、そのフランスの歴史と文化のおおよその姿を理解します。
- 2) その時代の重要な人物や出来事についての知識を深めます。芸術作品にも目を配ります。
- 3) テーマに応じて世界遺産など有名な場所を紹介します。
- 4) フランスの文化と人間を身近に感じる感覚を身につけます。
- 5) 映像資料を適宜利用します。

キーワード: フランク カペー朝 ゴシック ジャンヌ・ダルク 百年戦争 ルネサンス 宗教戦争 ブルボン朝 ヴェルサイユ宮殿 革命 ロベスピエール マリー・アントワネット ナポレオン 産業革命 消費社会 世紀末とベルエポック、世界大戦 ユダヤ人狩り シャネル 植民地解放 移民 テロ EU

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだことが80%理解できること。

評価方法: 「まとめとチェック」(最終授業)で簡単な確認をおこないます。その点数によります。出席点はありませんが、授業での活躍、課題の提出状況等は考慮します。 **評価割合:** 100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 上記に含まれます。

評価方法: 上記に準じます。

評価割合: 0%

▼学修に主体的に取り組む態度

特になし。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし。

評価割合: 0%

▼公正性

特になし。

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

- 授業計画:**
- 01 ガイダンス
 - 02 現代フランスがもっとも苦しんでいること～大戦中のユダヤ人狩り
 - 03 現代フランスがもっとも苦しんでいること～大戦中のユダヤ人狩り2
 - 04 現代フランスがもっとも苦しんでいること～大戦中のユダヤ人狩り3
 - 05 現代フランスがもっとも苦しんでいること～植民地戦争
 - 06 現代フランスがもっとも苦しんでいること～植民地戦争2
 - 07 現代フランスがもっとも苦しんでいること～植民地戦争3
 - 08 現代フランスがもっとも苦しんでいること～移民
 - 09 現代フランスがもっとも苦しんでいること～移民2
 - 10 現代フランスがもっとも苦しんでいること～移民3
 - 11「フランス」はどのように出来たのか～ローマ帝国、フランク帝国、フランス王国
 - 12「フランス」はどのように出来たのか～ジャンヌ・ダルクとノートルダム
 - 13「フランス」はどのように出来たのか～ヴェルサイユの光と影
 - 14「フランス」はどのように出来たのか～印象派とデパートと戦争
 - 15まとめとチェック

使用テキスト: プリントを準備します。

予習・復習のポイント 授業中に指示します。

参考文献・資料等:

障がいのある履修者への対応: まずは教務部窓口に相談しましょう。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー

留意事項: (ほぼ)毎回、ごく簡単な課題を出します。提出は任意ですが、きちんと書いてあればそれなりに評価します。

和泉のゼミを履修する学生はこの科目も履修すること。

受講者が多すぎるときは初回に抽選します。この場合、初回欠席者の追加登録はできません。

科目コード: 14220

科目ナンバリング: CC20C28K

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): キリスト教思想A(Christian Ideas A)

担当者: 山中 利美

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時：水曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F M

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： キリスト教の母体となった古代ユダヤ教の思想と歴史を学ぶ授業です。キリスト教が受け継いだ古代ユダヤ教の神理解とはどのようなものだったか、また、そのような神理解がなぜ生まれたのか、といった問題を歴史的背景に注目しながら学んでゆきます。

キーワード： 古代ユダヤ教、多神教と一神教、旧約聖書、神との契約、律法

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ内容に関して、概ね的確な説明が出来る。

評価方法： 期末試験に代わるレポート課題 **評価割合：90%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容に関して、何が重要かを自ら理解し、それを論理的かつ簡潔に表現することが出来る。

評価方法： 期末試験に代わるレポート課題 **評価割合：10%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合：直接的な評価の対象とはしない。

授業計画：

- 第1回 授業の目的と概要
- 第2回 キリスト教の基礎知識(三大一神教の比較から)
- 第3回 旧約聖書と新約聖書
- 第4回 旧約聖書時代の歴史概観(1)イスラエルの起源と王国時代
- 第5回 旧約聖書時代の歴史概観(2)バビロン捕囚と神殿の復興
- 第6回 『律法(モーセ五書)』の成立
- 第7回 「創世記」(1)「天地創造神話」と古代オリエントの多神教
- 第8回 「創世記」(2)「族長物語」カナンの神々とイスラエルの神エロヒーム
- 第9回 「創世記」(3)「神の契約」を巡るアブラハムとヤコブの関係
- 第10回 「出エジプト記」(1)モーセ伝承について
- 第11回 「出エジプト記」(2)ヤハウェ神の顕現
- 第12回 「出エジプト記」(3)出エジプトと過越祭
- 第13回 「出エジプト記」(4)十戒と律法
- 第14回 王国時代と申命記書記者の思想
- 第15回 バビロン捕囚時代と預言者の思想

期末試験に代わるレポート課題を出題

使用テキスト： 特に指定しない。授業中に資料を配布する。

予習・復習のポイントと 授業前に前回の内容を復習して授業に備える。

参考文献・資料等： 授業後、ノートと配布資料を見直し、疑問があればメモして、次回の授業で質問したり、以下に挙げる参考資料などを使って理解を深めることが望ましい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAで対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード:14221 科目ナンバリング:CC20C29K 主な使用言語:日本語

授業名(英文):キリスト教思想B(Christian Ideas B)

担当者:山中 利美

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:教職

AL要素: 16.振り返り用紙と応答

授業の概要: イエスの思想と行動、およびその意味を、当時の古代ユダヤ教という歴史的・思想的背景の中で理解することを目的とする授業です。当時のユダヤ教に大きな影響を及ぼしていた周辺のヘレニズム的思想状況も踏まえながら、『新約聖書』のいくつかの箇所を取り上げて、イエスの思想を学んでゆきます。また、イエスの死後、弟子たちによってイエスがどのように理解されていったかについても学びます。

キーワード: イエス、『新約聖書』、ヘレニズム、終末論、隣人愛、イエス理解

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学んだ内容に関して、概ね的確な説明が出来る。

評価方法: 期末試験に代わるレポート課題

評価割合: 90%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容に関して、何が重要かを自ら理解し、それを論理的かつ簡潔に表現することが出来る。

評価方法: 期末試験に代わるレポート課題

評価割合: 10%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

直接的な評価の対象とはしない。

評価割合: 直接的な評価の対象とはしない。

授業計画: 第1回 授業の目的と概要
第2回 旧約聖書時代の歴史概観と神理解

- 第3回 『新約聖書』の成り立ちと構成
 - 第4回 第二神殿時代のユダヤ教とヘレニズム的文化
 - 第5回 ヘレニズム的文化傾向のユダヤ教への影響
 - 第6回 イエス時代のユダヤ教諸派
 - 第7回 イエスの生涯
 - 第8回 「宣教の始め」
 - 第9回 「神の国」について
 - 第10回 「重い皮膚病患者を癒す」に見る共生思想
 - 第11回 「善いサマリア人の譬え」における隣人愛の理解
 - 第12回 「安息日に麦の穂を摘む」における律法理解
 - 第13回 「山上の説教」(1)「腹を立ててはならない」「姦淫してはならない」
 - 第14回 「山上の説教」(2)「復讐してはならない」「敵を愛しなさい」
 - 第15回 原始キリスト教団の成立とイエス理解
- 期末試験に代わるレポート課題を出題する。

使用テキスト: 特に指定しない。授業中に資料を配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前に、前回の内容を復習して、授業に備える。
 授業後、ノートと配布資料を見直し、疑問があればメモして、次回の授業で質問したり、以下に挙げる参考文献などを使って理解を深めることが望ましい。
 参考文献
 『聖書』日本聖書協会
 佐藤研著『聖書時代史 新約篇』岩波現代文庫、2003年

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等へ連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: IC-UNIPAで対応します。

留意事項: 特になし。

科目コード: 14225 科目ナンバリング: CC10C11K 主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 特殊講義B(Special Lecture B)

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次: 1	単位数: 2	授業形式: 講義
曜時: 火曜2限		履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M
関連資格:		AL要素: 07発表 08協働学習 10資料調査課題 11討論 17発問と回答

授業の概要: 履修者は、原則として「日本語教育実習」を履修済(あるいは履修中)の学生(4年生)に限る。留学生の場合は日本語検定2級以上のものが履修できる。
 履修生は留学生とチームを組み、日本語レベル初級の外国人児童(もしくはICHへの留学生)に対し、毎週指定された時間に、日本語学習支援および学科科目学習支援(宿題のサポートなど)を行う。毎回の授業では、支援の記録をもとに改善点や改善案などを話し合う。多文化の中で協働(協力して働く)のスキルを磨くことを目的としている。
 ※この授業は4年生用の授業です。

キーワード: 多文化、協働、共生

学位授与方針との関係

▼ **知識・技能**

到達目標: 留学生と共に課題に取り組み、話し合い、結果を出す、協働のスキルを身につける。

評価方法：レポートと支援の記録

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法：レポートと支援の記録

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合：0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 日本語支援の計画立案
第3回 日本語支援の改善点と改善案①
第4回 日本語支援の改善点と改善案②
第5回 日本語支援の改善点と改善案③
第6回 日本語支援の改善点と改善案④
第7回 日本語支援の改善点と改善案⑤
第8回 日本語支援の改善点と改善案⑥
第9回 日本語支援の改善点と改善案⑦
第10回 日本語支援の改善点と改善案⑧
第11回 日本語支援の改善点と改善案⑨
第12回 日本語支援の改善点と改善案⑩
第13回 日本語支援の改善点と改善案⑪
第14回 日本語支援の改善点と改善案⑫
第15回 振り返りと総括

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 合理的な配慮をします。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 直接あるいはメール等でアポイントメントを取ってください。

留意事項： この授業は、「日本語教育実習」履修済あるいは履修中の4年生を対象とした授業です。ご注意ください。

科目コード：14228

科目ナンバリング：CC10C18J

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：インターンシップB(Internship B)

担当者：志賀 市子

基本情報

年次：カリキュラム

単位数：2

授業形式：実習

曜時：実習

履修可能学科・専攻： C

関連資格：

AL要素： 01.実地訓練

授業の概要： 最近は企業もインターンシップの体験を重要視し、就職の時にこの体験の有無を聞かれることが多くなりました。学生にとってもその職種や業界が自分にあったものかどうかを実際に確かめる貴重な機会です。

実習先では、それぞれの仕事全体を展望し、体験できるように配慮されています。過去の日誌を読むと具体的な内容が分かりますので、希望者は担当者に問い合わせてください。

キーワード： マスコミ、観光、ホテル業

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 実習(インターン)前の企業研究を通して、マスコミやホテル業に対する幅広い知識を習得する。また、実習の経験を通して、業務内容を体験的に理解する。

評価方法： インターンの活動内容(インターン日誌, **評価割合：40%**
受け入れ先の評価), および事後レポート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： インターンを通して、マスコミやホテル業が社会で果たしている役割を深く理解する。また、インターンの経験を就職活動に生かす。

評価方法： インターンの活動内容(インターン日誌, **評価割合：40%**
受け入れ先の評価), および事後レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

インターンとして受け入れてもらっていることに感謝した上で率先して業務をこなし、インターンの学びを深める。

評価割合：20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
- 1) 4月の履修ガイダンスで一般的な説明をします。
また、4月中に希望者を募集します。
 - (2) インターンシップの履修登録は、実習に参加することが決まってから後期科目として9月に追加登録します。事前に勝手に登録してはいけません。
 - (3) インターンシップに応募する際に、「インターンシップを希望する理由(あるいは動機)」について文書を書き、担当者に提出します。
希望者が多い場合は、この文書も選考の資料とします。
 - (4) 参加が確定したら、「履歴書」を書き、担当者とともに実習先に赴いて事前準備と打ち合わせをします。
 - (5) インターンシップ中は、日誌を書きます。実習期間は2週間(10日×8時間=80時間)を標準とし、基本的に土日は休みとなります。
 - (6) 終了後にまず「お礼状」を送り、その後「インターンシップで体験したこと、考えたこと」についてのレポートを提出します。

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・実習前に業界研究を十分に進めておくこと。
・実習中の活動内容やそこでの日々の学びを、インターン日誌に毎日記述すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室またはオンラインで対応します。

留意事項： キャリア支援センターで行っているインターンシップに関するセミナーを受けておくことが望ましいです。

科目コード：14231 科目ナンバリング：CC10C01K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：海外事情(Foreign Affairs)

担当者：鈴木 晋介

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： グローバル化の時代、私たちは観光や留学あるいはスタディーツアーといったさまざまな仕方で海外での経験を積むようになっていきます。そうした経験はどのような仕組みの上に成り立ち、またどのような意味を持っているのでしょうか？本講義では、「観光」と「異文化適応」という二つのテーマでこの問題を考えます。また、海外渡航に関わる基礎知識の概説を通じて、海外に行ってみたくと考えている受講者のみなさんの素朴な疑問に答えていきます。

キーワード： グローバリゼーション、観光、異文化交流、異文化適応

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学ぶ「観光」や「異文化適応」の諸概念や基礎的知識について理解し適切に論述することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について問題意識を深め、自らの言葉で論理的に表現することができる。

評価方法： リアクションペーパー

評価割合： 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等がレポートやアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただしリアクションペーパーやレポートの記述において著しい偏見や差別的表現がある場合は減点対象となりうる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス

- 第2回 海外との交流(1)グローバリゼーションの時代
- 第3回 海外との交流(2)統計数値でみる世界
- 第4回 海外を訪ねようー観光という社会現象
- 第5回 観光の歴史
- 第6回 観光の行動類型と心理
- 第7回 多様化する現代の観光(1)マス・ツーリズムから「持続可能な観光」へ
- 第8回 多様化する現代の観光(2)新たな観光のカタチ
- 第9回 多様化する現代の観光(3)「ウィズ・コロナ」時代の模索
- 第10回 世界遺産とユネスコ
- 第11回 異文化イメージとステレオタイプ
- 第12回 異文化適応とカルチャーショック
- 第13回 海外渡航の基礎知識(1)
- 第14回 海外渡航の基礎知識(2)
- 第15回 まとめ

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業後、配布資料について復習するとともに、インターネット等を通じて関連する諸情報を自ら調べ知識を深めることが望まれる。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 必要があれば個別に相談してください。日時等を確定し、研究室で対応します。

留意事項: なし

科目コード: 14232 **科目ナンバリング:** CC10C04E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 伝統文化と現代アート(Traditional Culture and Contemporary Art)

担当者: 山中 仁美

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 月曜5限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 03実技、04課題解決、07発表、08協同学修、11討論、15レポート指導、16振り返り用紙と応答、17発問と回答

授業の概要: アクティブラーニングとしてのカンボジア舞踊。
本授業担当者は、カンボジアの芸術学校を卒業し、日本で舞踊団体を主宰し様々な舞踊活動を行ってきました。その実務経験を活かし、以下のように授業します。

カンボジアの民衆舞踊(誰もが踊れる踊り)を皮切りに、それを元にしたカンボジアのヒップホップダンス、または、民俗舞踊(ココナツダンス) <https://www.youtube.com/watch?v=gS0hxSGaOzs>

を、踊ってみる。また、関連のあるカンボジアの歴史や文化的背景も学び、身体・知性・心を使って、異文化への知見を深める。

仲間と協同して、自分達の発表機会の企画書を作成し、その計画を実施する。

発表機会を振り返り、グループで成果報告書を作成・発表し、討議を行い、来年度に向けての提案を行う。

最後に今までの活動を振り返り、そこで得た学びと気づきを800字以上1500字までのレポートにまとめる。

ダンスの上手下手は評価しません。

自らの意志で、身体を使って異国の文化を学びながら、ある一つの目標に向かって、各人の尊厳と個性を大切にしつつ、それぞれの強みを持ち寄り仲間と一緒に何かを達成した時の喜びを体験しましょう！

今までやった事のない事に挑戦し、小さな失敗をし、話した事のない人と関わる事こそが、学生時代を豊かにし、やがて社会という大海原を航海する力を育ててゆくのだと、私は信じています。

「ツマラナイ、ハズカシイ、ツライ」時にも、どこかに楽しみを見つけ自らの限界に挑戦する勇氣、チーム内で自らの役割を見つけ協同作業をして得られる気づき、誰かに「ヤラサレル」のではなく主体的に物事に取り組む際の手応え、これらの「生きる力」を一緒に深めてゆきましょう。（「生きる力」は生涯を通して誰もが深めてゆく必要があり、満足感のある人生や仕事の礎であると、私は思っています）

キーワード：カンボジアの伝統舞踊、現代舞踊。履修者の主体性の尊重、育成。発表機会の主催。

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：カンボジアの伝統舞踊に触れ、背景を理解しながら実際に踊ってみる。

不明な点は、周囲の人にさく、何度も復習する、等の工夫をして、発表機会では例え間違っても最後まで踊りきる。

評価方法：実技、振り返り用紙、発表機会、学期末レポート **評価割合：**25%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：進んで意見を発表し、強みを出し合い、弱みに適宜対応する力をつけ、各自が生き生きと活動しながら、チーム全体で協力して一つの物事を達成する。

評価方法：振り返り用紙、発表機会（準備を含む）、グループワークにおける企画書と提案書の作成。学期末レポート。 **評価割合：**25%

▼学修に主体的に取り組む態度

できるだけ休まないようにしてください。馴染みのない文化でも、主体的に、継続的に、仲間と一緒に努力を積み重ねる事で、「何とか達成できる」という経験を、「身体と頭と心」を使って得ることが、授業の狙いです。

評価割合：25%

▼実践的ボランティア

「各自の強みを生かしながら、チーム全体で協力して、一つの発表機会を持つ」という意識を持ち、周囲に貢献し、仲間と協同作業を行う力を養う。

評価割合：20%

▼公正性

皆で協力して、一つの発表機会を持つ際、好き嫌いに関わらず公正な態度で周囲の仲間と関わる力を養う。

人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、個別に話し合う機会を持つ。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回:アイスブレイク。カンボジア文化体験(挨拶)。カンボジア舞踊の概略・DVD鑑賞・実技体験。及び、授業の狙いの周知。
第2回:チームビルディング(カンボジア語のニックネーム作成。ペアリング)、リラックスヨガ。カンボジア民衆舞踊。カンボジアの動画(暮らし)鑑賞。
第3、4回:リラックスヨガ。カンボジア民衆舞踊。民衆舞踊メドレーの完成。カンボジアの動画(社会)鑑賞。
第5～8回:リラックスヨガ、または皆で選んだ好きなダンス。カンボジアのヒップホップまたは、ココナッツダンス(民俗舞踊)。
第9回:発表機会についての協議、企画書作成。カンボジアの衣装の着付け体験。
第10～12回:皆で選んだ好きなダンス。カンボジアのヒップホップまたは、ココナッツダンス(民俗舞踊)。発表機会の役割分担等決定。
第13回:発表会準備。着付け等。(13, 14回は連続して開講できるよう調整)
第14回:発表会本番。本番の確認。グループワークによる振り返り討論。成果報告書作成。
第15回:学期末レポート指導。

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 予習・復習は特に必要ありませんが、必要な方は、動画を撮ってダンスの自習をしてください。
また、発表機会の企画書作成、発表機会本番、提案書作成においては準備やまとめ作業が発生する事もあります。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 質疑等は、大学に滞在する間に対応します。
また、メールアドレスを初回授業時に公開しますので、提出物等はそちらにお願いいたします。

留意事項： 現地では裸足で踊りますが、この授業では靴着用でも問題ありません。ただし、ヒール等の靴は踊りにくいので、各人の判断でご注意ください。

科目コード:14233 科目ナンバリング:CC10C05E 主な使用言語:日本語

授業名(英文): 情報デザイン演習(Seminar of Information Design)

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次:1

単位数:2

授業形式:演習

曜時:水曜1限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 3. 実技、11. 討論

授業の概要： 雑誌やポスター等のレイアウトデザインの基本を学び、高度な編集ソフトの実践的習得を通じてさまざまな課題作品の制作に取り組みます。受講者がつくる作品には、学科広報誌、各種報告書の表紙や他の演習で使用する教材など、実際に使用されるものも含まれます。本授業は実践的なアクティブ・ラーニングを通じて、現代社会の多様な情報を編集し発信するスキルを身につけることを目指します。

キーワード： 刊行物・ポスター等の作品制作、編集・レイアウト・デザイン、編集専用ソフトの操作

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 刊行物等の編集、デザイン、レイアウトの基礎を理解し、編集専用ソフトの基本的な操作に習熟する。

評価方法： 課題作品

評価割合： 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 課題作品の制作において、習得した編集技術やソフト操作を適切に用いて表現することができ、かつ自身の作品に関して多角的にプレゼンテーションできる。

評価方法: 課題作品とプレゼンテーション

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

課題に積極的に取り組み、授業においても建設的に作品評価やコメント、技術的助言を行う等の態度は評価の対象とする。

評価割合: 20%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、他の受講者の課題作品に対して公正な観点から批評し建設的なコメントを行うことが求められる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回 ガイダンス 編集ソフト「InDesign」とは
 - 第2回 InDesignを操作してみよう
 - 第3回 課題作品「自己紹介記事」をつくってみよう
 - 第4回 作品講評会と技術指導
 - 第5回 作品講評会と技術指導
 - 第5回 課題作品「名刺」をつくってみよう
 - 第6回 作品講評会と技術指導
 - 第7回 作品講評会と技術指導
 - 第8回 課題作品「学科ポスター」をつくってみよう
 - 第9回 作品講評会と技術指導
 - 第10回 作品講評会と技術指導
 - 第11回 課題作品「Active Learning Reportの表紙」をデザインしよう
 - 第12回 作品講評会と技術指導
 - 第13回 課題作品「学科広報誌の記事」をレイアウトしよう
 - 第14回 作品講評会と技術指導
 - 第15回 作品講評会と技術指導

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 課題作品は個々の受講者が授業時間外に取り組む必要があります。課題制作には特定のPCソフトが必要となりますが、大学のPC室に一部インストールされています。詳細は初回授業時に説明します。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: UNIPAの掲示あるいはICメールで連絡をします。

留意事項: 授業に使用可能なPCの台数が限られるため、受講者数の上限を12名とします。受講希望者が上限を超えた場合は抽選等を行う可能性があります。

科目コード: 14237

科目ナンバリング: CC30C02J

主な使用言語: 日本語、および、

授業名(英文): 海外フィールドワーク a(International Fieldwork a)

担当者：和泉 涼一

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外、フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

**予習・復習のポイントと
参考文献・資料等：** 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段：別途、指示する。

留意事項：旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、

授業名(英文)：海外フィールドワーク b(International Fieldwork b)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：3 単位数：2 授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習) 履修可能学科・専攻：C

関連資格： AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 指導教員がフィールドワークの実施内容、状況、最終レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 指導教員がフィールドワークの実施内容、状況、最終レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 別途、指示する。

障がいのある
履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、

授業名(英文)：海外フィールドワーク c(International Fieldwork c)

担当者：勝山 紘子

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する 評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する 評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、
授業名(英文)：海外フィールドワーク d(International Fieldwork d)
担当者：志賀 市子

基本情報

年次：3 単位数：2 授業形式：実習
曜時：前期(実習)、後期(実習) 履修可能学科・専攻：C
関連資格： AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法: 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合: 50%**

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 実施時期を次の三つに区分する。
第1期: 計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期: 計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期: 計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト: 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段: 別途、指示する。

留意事項: 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード: 14237 **科目ナンバリング:** CC30C02J **主な使用言語:** 日本語、および、
授業名(英文): 海外フィールドワーク e(International Fieldwork e)
担当者: 清水 博之

基本情報

年次: 3 **単位数:** 2 **授業形式:** 実習
曜時: 前期(実習)、後期(実習) **履修可能学科・専攻:** C
関連資格: **AL要素:** 09実地調査

授業の概要: 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画

書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する。 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する。 **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード： 14237 **科目ナンバリング：** CC30C02J **主な使用言語：** 日本語、および、
授業名(英文)： 海外フィールドワーク f(International Fieldwork f)

担当者： 鈴木 晋介

基本情報

年次： 3

単位数： 2

授業形式： 実習

曜時： 前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻： C

関連資格：

AL要素： 09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外、フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合： 0%

▼ その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと 別途、指示する。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応する。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、

授業名(英文)：海外フィールドワーク g(International Fieldwork g)

担当者： 染谷 智幸

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する
評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する
評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れ

る寛容さは必ず求められる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと 別途、指示する。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り対応する。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、

授業名(英文)：海外フィールドワーク h(International Fieldwork h)

担当者：中山 健一

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する。
評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、
状況、レポートなどから総合的に判断する。
評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、

授業名(英文)：海外フィールドワーク i(International Fieldwork i)

担当者：藤野 真拳

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：実習

曜時：前期(実習)、後期(実習)

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 海外 フィールドワーク

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、 **評価割合：** 50%

状況、レポートなどから総合的に判断する。

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法: 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する。 **評価割合:** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合: 0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合: 0%

▼その他

なし

評価割合: なし

授業計画: 実施時期を次の三つに区分する。
第1期:計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期:計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期:計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト: 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段: 別途、指示する。

留意事項: 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード:14237 科目ナンバリング:CC30C02J 主な使用言語:日本語、および、

授業名(英文): 海外フィールドワーク j(International Fieldwork k)

担当者: 細谷 瑞枝

基本情報

年次:3 単位数:2 授業形式:実習

曜時:前期(実習)、後期(実習) 履修可能学科・専攻:C

関連資格: AL要素:09実地調査

授業の概要: 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。

実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合：0%

▼ その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。

第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。

第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。

第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと 別途、指示する。

参考文献・資料等：

障がいのある 可能な限り配慮する。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 科目ナンバリング：CC30C02J 主な使用言語：日本語、および、
授業名(英文)：海外フィールドワーク k(International Fieldwork k)
担当者：堀口 悟

基本情報

年次：3 単位数：2 授業形式：実習
曜時：前期(実習)、後期(実習) 履修可能学科・専攻：C
関連資格： AL要素：09実地調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：** 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合： 0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合： 0%

▼その他

なし

評価割合： なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14237 **科目ナンバリング：**CC30C02J **主な使用言語：**日本語、および、

授業名(英文)：海外フィールドワーク I(International Fieldwork I)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：3 **単位数：**2 **授業形式：**実習

曜時：前期(実習)、後期(実習) **履修可能学科・専攻：**C

関連資格： **AL要素：**実習調査

授業の概要： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践する。
事前に担当教員に計画の不備や無理がないよう十分に相談し、決められた期日までに計画書を提出する。
実施後、担当教員の指示に従って、決められた期日までにレポートを提出する。

キーワード： 海外 フィールドワーク

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：**50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 学生が自ら計画・準備をし、海外において文化交流を実践することを通して、文化交流の知識・方法を身につける。

評価方法： 担当教員がフィールドワークの実施内容、状況、レポートなどから総合的に判断する **評価割合：**50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、学修に主体的に取り組む態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、自発的に協力する姿勢・態度は必ず求められる。

評価割合：0%

▼公正性

直接の評価対象にしない。ただしフィールドワークにおいて、様々な背景や考えをもった人たちを受け入れる寛容さは必ず求められる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画： 実施時期を次の三つに区分する。
第1期：計画書を5月末までに提出。夏季休暇中に実施。
第2期：計画書を10月末までに提出。冬季休暇中に実施。
第3期：計画書を12月下旬までに提出。春期休暇中に実施。第3期の場合、履修登録は次の年度の4月に行う(卒業年次は不可)。

使用テキスト： 別途、指示する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 別途、指示する。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応する。

授業時間外の連絡手段： 別途、指示する。

留意事項： 旅費や滞在費等は学生自身の負担となります。

科目コード：14238 科目ナンバリング：CC10C07K 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：ボランティア論(Volunteer Studies)

担当者：鈴木 晋介

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 1995年の阪神・淡路大震災、そして2011年の東日本大震災を経て、ボランティア活動の重要性の認識がますます深まるとともに、実践のフィールドも多様な広がりを見せるようになっていきます。本講義では、ボランティア活動の思想の根本にある「自発性」・「非営利性」・「公共性」について歴史的背景とともに学び、国内外のさまざまなボランティア活動の実践事例にふれることで、「わたしたちにできること」について考えていきます。なお、授業では映像資料を用いてボランティアの現場に関する理解を深め、みなさんひとりひとりが自分の力で考え、実践する心構えを養うことを目指します。自分なりの問題意識をもって授業にのぞむことが求められます。

キーワード： ボランティアの歴史・思想・実践、現代ボランティアのフロンティア

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ事項や現代ボランティアをめぐる諸問題に関して概ね80%を理解し解答することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学ぶ個々のトピックに関して、自ら問題意識を深め、自分なりの考察と表現を行うことが

できる。

評価方法:リアクションペーパー

評価割合:20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が定期試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合:0%

▼実践的ボランティア

ボランティア実績を評価対象とすることはない。ただしリアクションペーパーの記述において、授業で学んだことを種々のボランティア活動に活かしていこうとする強い意欲を受講者からうかがうことができる場合、あるいは授業を通じてボランティアの実践に向けた意思の形成が受講者に認められた場合、評価の対象とした(上記リアクションペーパーと合わせて評価する)。

評価割合:10%

▼公正性

リアクションペーパーに極端な偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合:0%

▼その他

特になし

評価割合:特になし

- 授業計画:**
- 第1回 ガイダンスーボランティア論とはなにか
 - 第2回 ボランティアという言葉めぐって
 - 第3回 ボランティアの定義
 - 第4回 ボランティアの条件(1)3つの必要条件
 - 第5回 ボランティアの条件(2)5つの要点
 - 第6回 地域の課題を発見することー参考資料読解
 - 第7回 日本におけるボランティアの歴史(1)歴史に散らばる「ボランティア的なもの」
 - 第8回 日本におけるボランティアの歴史(2)近代以降における展開
 - 第9回 日本におけるボランティアの歴史(3)1995年「ボランティア元年」以降
 - 第10回 さまざまなボランティアの組織と用語
 - 第11回 ボランティアの心理と動機ーひとはなぜボランティアをするのか
 - 第12回 ボランティアの思想(1)「当事者性」の問題
 - 第13回 ボランティアの思想(2)利他主義の向こう側へ
 - 第14回 日本の国際ボランティアー映像資料で考える国際ボランティア(1)
 - 第15回 映像資料で考える国際ボランティア(2)

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 参考文献等は授業時に適宜提示します。ボランティア活動の要点のひとつに自発性というものがあります。ボランティアはひとに言われてやるものではありません。ただ身近なボランティア活動に参加してみる(大学にも様々なボランティアの募集があります)は、この講義を実感として理解することに資するでしょう。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項: なし

科目コード:14239

科目ナンバリング:CC30C14K

主な使用言語:日本語

授業名(英文): 地方行政学(Local Administrative Science)

担当者: 林 寛一

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：16.振り返り用紙と応答

授業の概要： 地方行政は、みなさんの日常生活に深く関わっている分野です。この授業では、日本の地方行政の特徴を理解する上での必要最低限の基礎的知識を身に付けますが、単に知識の修得だけではなく、その知識を活かして身近な地方行政上の諸問題について自ら考えたり、一歩踏み込んで分析したりする力をつけることをも目指しています。

キーワード： 地方公務員、地方自治、分権型社会、大都市行政、まちづくりと条例、市民参加

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた地方行政の基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート

評価割合： 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回：地方行政学とはどのような学問か(授業概要説明を含む)

第2回：首長に関する制度と実際

第3回：地方議会に関する制度と実際

第4回：地方公務員について

第5回：住民による地方行政の統制

第6回：条例の制定過程と実際

第7回：地方自治体の組織編成について

第8回：地方自治体の種類と機能について

第9回：大都市制度について

第10回：地方財政と予算をめぐる問題

第11回：中央政府と地方政府について

第12回: 地方自治体の展開(1) 学校教育
第13回: 地方自治体の展開(2) 子育て行政
第14回: 地方自治体の展開(3) 高齢者福祉
第15回: まとめ
定期試験

使用テキスト: 北村亘・青木栄一・平野淳一『地方自治論 一2つの自律性のはざままで』有斐閣、2017年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前には、その回のテーマの分からない用語を調べる(60分)。
授業後、当日の講義内容について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献及び参考資料については、必要に応じて授業ごとに伝える。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回にお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 14240 **科目ナンバリング:** CC20C06E **主な使用言語:** 日本語
授業名(英文): 日本語教員育成演習B (Japanese as a Foreign Language Teacher Training Seminar B)
担当者: 小林 久美子

基本情報

年次: 2 **単位数:** 2 **授業形式:** 演習
曜時: 木曜2限 **履修可能学科・専攻:** E Pe Pc C
関連資格: 日本語 **AL要素:** 02 模擬実践

授業の概要: 今までの実務経験(日本語学校、大学)を踏まえ、『みんなの日本語I』を使った初級文法の教え方を解説する。学生は勉強したことに基づいて模擬授業を行う。

キーワード: 日本語教育、留学生、初級文法、教え方

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 自分が担当する課の文法項目について留学生に説明ができ、教えることができる。

評価方法: ・模擬授業 **評価割合:** 50%
・教科書分析シート

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 留学生に分かりやすい授業を組み立てることができる。
自分が行った模擬授業を客観的に振り返ることができる。

日本語教師とはどういう存在であるべきか、考えることができる。

評価方法: 教案 **評価割合:** 40%

模擬授業 振り返りシート

レポート

▼学修に主体的に取り組む態度

授業参加度として、授業に取り組む態度を成績に含める。

具体的には、

- ・教師から質問された時に、何らかの回答をしたか
- ・クラスメートと協力しあって模擬授業を作り上げたか
- ・私語、居眠り、遅刻などせずに、授業に真剣に取り組んでいたか

などを中心に評価する。

評価割合：10%

▼実践的ボランティア

評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

評価対象とはしない。ただし自分で考えず、市販されている参考書、インターネット内の記事などをまねた模擬授業をした場合は、何らかの減点対象となる。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

- 授業計画：**
1. この授業の到達目標と概略
 2. 日本語の基礎知識
 3. 模擬授業分担決め、教師による授業デモンストレーション
 4. 教科書分析
 5. コースデザイン、シラバスデザイン
 6. 教案の作り方
 7. パターンプラクティスの練習
 8. 教授法の種類、教具の使い方
 9. 模擬授業
 10. 模擬授業
 11. 模擬授業
 12. 模擬授業
 13. 模擬授業
 14. 模擬授業
 15. まとめ

使用テキスト：『みんなの日本語 初級1 第2版 本冊』スリーエーネットワーク

予習・復習のポイントと <予習>(毎日30分)

参考文献・資料等：教科書を最初からじっくり読む。各課だけでなく、まえがき、使い方、目次なども読み、どのような構成になっているかを知る。

<復習>(毎回40分)

授業で得た文法知識およびクラス運営に関する知識を整理する。

障がいのある履修者への対応：可能な限り対応する。学務部と要相談。

授業時間外の連絡手段：学務部学務課に問い合わせる。

留意事項：日本語教育概論、日本語の構造Aなどの基礎的な日本語科目を、複数履修済みが望ましい。

科目コード：14242

科目ナンバリング：CC10C13E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：特別演習B a(Special Seminar B a)

担当者：山中 仁美

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：16.振り返り用紙と応答(毎回)
03.実技体験(90分1回。残りの回は15分程度)
07.発表(数回)
11.討論(数回)
15.レポート指導(最終回)
17.発問と回答(毎回)

授業の概要： 東南アジア(特にカンボジア)舞踊の、「トン・タエ・モアム(柔和だが堅固)」という民族の心象風景や宇宙観を、講義と実技を通して、知性と身体を使って味わいましょう。カンボジア舞踊とその背景にあるカンボジア文化や、世界のダンスについて学びながら、今まで知っていた自分の世界から一歩外に出、能動的に考える(アクティブラーニング)力を高める事が、この授業の目的です。

本授業担当者は、カンボジアの芸術学校を卒業後、日本でカンボジア舞踊活動を行い、長年現地との文化交流を行ってきました。その実務経験を活かし、以下のように授業します。

第9回(目安)まで、カンボジアの歴史と社会、宗教について講義しながら、カンボジア舞踊の概略を講義と実技体験で学び、それ以降は、世界の舞踊との簡単な比較を行います。カンボジア(東南アジアでも可)または舞踊をキーワードにしつつ、食・衣・風習等の生活を含む講義内容を五感を通して感じ、自らの興味あるテーマを見つけて発表・討議を行うことにより、思考力・判断力・表現力を磨きます。

この授業の目指すところは、単なるトリビア的な知の増幅ではなく、どこか自分の心の琴線に触れる事や興味を持てる事、問題意識を見つける事です。そしてそれを、裏付けのある論拠を元に、自身の知見を加えて発表し、仲間との対話を通して更に新しい物の見方ができるようになる事です。必ずしも答えの出る討論ばかりではないかもしれませんが、それを通じて物事の多様性を知り、同時に簡単には投げ出さず、主体的に物事に取り組み続ける力を養う事を目標としています。

体験や対話による自分の内面と繋がった「実感のある知」を育む習慣が「自分の軸」を作り、地に足を付け心豊かに生きる力を育むと信じ、「心に残る大学授業」を目指して、組み立ててゆきます。

キーワード： カンボジア、ダンス、現代社会における伝統芸能の持つ意味、現代社会におけるアイデンティティ形成

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 授業で解説を受けた内容について、60%以上の理解をしている
(授業内容は、「カンボジアの歴史・社会・宗教・文化・生活」と、「カンボジア舞踊、及び、アジアを中心とした世界のダンス」で構成)

評価方法： 振り返り用紙。発表。学期末レポート(2000 評価割合：30%
字以上)

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容に触発された事柄から、自分の好きなテーマを見つけ、自主学修によって得た知見や経験を元に考察し、自分自身の言葉で自らの所見や問題提起を表現する事がで

きる

評価方法: 振り返り用紙。発表、討論。

評価割合: 30%

学期末レポート(知識、技能と同じレポート)

▼学修に主体的に取り組む態度

毎回、必ず振り返り用紙を提出してください。

授業で得た知見は勿論大切ですが、そこに自身の疑問・感想・意見・知見を追加する事が大切です。

また、特にこの演習では、授業内容に関連した「自らが興味を持てる事、好きな事」を探すことを重要視しています。主体的に何かに取り組む為には、「楽しい、好きだ」という気持ちが不可欠だからです。

それが、発表・討論・学期末レポートにおける、上記の項目「思考力・判断力・表現力」につながり、将来、どんな環境にあっても「主体的に、レジリエンス(立ち直る力)を持って、自分らしく生きる力」を育むと、私は考えています。

評価割合: 30%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が、学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や発表等の中で、人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、個別に話し合う機会を持つ。また、自身の知見が表現されていない、コピーペーストのみの学期末レポートは減点するので、注意してください。

評価割合: 10%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
- 第1回:アイスブレイク。ガイダンス、及び、各自の興味、この授業を選んだ理由等の発表。カンボジア文化体験(挨拶)。カンボジア舞踊の概略・映像鑑賞・実技体験。及び、授業の狙いの周知。
 - 第2回:カンボジア舞踊、まずはちょっと踊ってみましょう。実技体験(90分)。
 - 第3回:カンボジア舞踊について(1)儀式、テーマとモチーフ(題材)、映像鑑賞。実技体験(以降、15分)
 - 第4回:カンボジア舞踊について(2)音楽と歌詞、所作、特徴。実技体験。
 - 第5回:カンボジア舞踊について(3)衣装、フォークダンス(民俗舞踊)。実技体験。
 - 第6回:カンボジア舞踊について、各自が感じた事、興味を持った事を発表。討議。
 - 第7回:カンボジアの歴史・社会 概略。実技体験。
 - 第8回:カンボジアの言語・風習 概略。実技体験。
 - 第9回:カンボジアの宗教・生活 概略、実技体験。
 - 第10回:カンボジアの歴史・社会・言語・風習・宗教・生活について、各自が感じた事、興味を持った事を発表(5分、1500字程度)。討議。
 - 第11回:カンボジア舞踊の伝承方法、芸術学校と芸術大学。時代の変遷による変化。実技体験。
 - 第12回:世界の舞踊との比較(1)タイ、ラオス、インド、ミャンマー、マレーシア、ベトナム。映像鑑賞。
 - 第13回:世界の舞踊との比較(2)日本、欧米、アフリカ、中東。映像鑑賞。
 - 第14回:世界の舞踊について、または、文化芸術の伝承方法について、各自が感じた事、興味を持った事を発表。討議。
 - 第15回:今までの発表に、討議部分を含めた知見を加筆訂正し、学期末レポート作成、最終提出。

使用テキスト: 授業で使用する資料は、すべて印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 発表、学期末レポート前には、それ迄の授業内容を元に、自分が興味を持てる事、あるいは疑問に思う事を探し、自身の考えをまとめてください。それ以外の予習・復習は不要です。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 大学滞在中に、質疑応答にはお答えします。メールアドレスは、初回授業時に公表しますので、そちらにご連絡ください。

留意事項: 特になし

科目コード: 14242 **科目ナンバリング:** CC10C13E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 特別演習B b(Special Seminar B b)

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07発表
08協働学習
10資料調査課題
11討論
17発問と回答

授業の概要: 履修者は、原則として「日本語教育実習」を履修済(あるいは履修中)の学生(4年生)に限る。留学生の場合は日本語検定2級以上のものが履修できる。

履修生は留学生とチームを組み、日本語レベル初級の外国人児童(もしくはICHへの留学生)に対し、毎週指定された時間に、日本語学習支援および学科科目学習支援(宿題のサポートなど)を行う。毎回の授業では、支援の記録をもとに改善点や改善案などを話し合う。多文化の中で協働(協力して働く)のスキルを磨くことを目的としている。

※この授業は4年生用の授業です。

キーワード: 多文化、協働、共生

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 留学生と共に課題に取り組み、話し合い、結果を出す、協働のスキルを身につける。

評価方法: レポートと支援の記録

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法: レポートと支援の記録

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

特になし

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 日本語支援の計画立案
第3回 日本語支援の改善点と改善案①
第4回 日本語支援の改善点と改善案②
第5回 日本語支援の改善点と改善案③
第6回 日本語支援の改善点と改善案④
第7回 日本語支援の改善点と改善案⑤
第8回 日本語支援の改善点と改善案⑥
第9回 日本語支援の改善点と改善案⑦
第10回 日本語支援の改善点と改善案⑧
第11回 日本語支援の改善点と改善案⑨
第12回 日本語支援の改善点と改善案⑩
第13回 日本語支援の改善点と改善案⑪
第14回 日本語支援の改善点と改善案⑫
第15回 振り返りと総括

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 合理的な配慮をします。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 直接あるいはメール等でアポイントメントを取ってください。

留意事項： この授業は、「日本語教育実習」履修済あるいは履修中の4年生を対象とした授業です。ご注意ください。

科目コード：14245 科目ナンバリング：CC10A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習I a(Underclassmen Seminar I a)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：15.レポート指導

授業の概要： 最初に、「多文化協働」、「観光」、「地域貢献」、「日本語教育」という学科の4本柱について学びます。次に、レポートを書く技術の基本をしっかりと身につけます。レポートは、大学の授業においてきわめて重要で、様々な授業の課題として提出が求められると共に、最終的には卒業研究(論文)にまで結びつくものです。各自、文化交流に関する新書を選び、その報告文、意見文、批評・論文の書き方を実践的に学び、レポートに仕上げます。あわせて、授業の後半からタイピングの練習も集中的に行います。

キーワード： 文化交流、多文化協働、観光、地域貢献、日本語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 文化交流学科が何をめざしているのかを知り、2年次以降の演習を始めとする授業に備える。

評価方法： 学期末
レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 自らが取り上げた文献について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末
レポート

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 1.基礎演習Ⅱの概要説明
 - 2.学科は何を目指すのか ①多文化協働・日本語教育
 - 3.学科は何を目指すのか ②観光・地域貢献
 - 4.本の探し方
図書館OPAC、ネットを使っての本の探し方
 - 5.タイピング基礎
 - 6.新書リストの発表
 - 7.資料の読み方
 - 8.要約文の書き方①
 - 9.要約文の書き方②(個別指導)
 - 10.講演会
 - 11.レポートの書き方①
 - 12.レポートの書き方②
 - 13.レポートの書き方③
 - 14.要約文の返却と指導(個別指導)
 - 15.レポート提出、タイピング最終テスト

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 後半で新書を選んでもらうので、夏休み中に世界や日本の文化や文化交流に関する新書を1、2冊読んでおくことが望ましい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 特になし

科目コード：14245

科目ナンバリング：CC10A01E

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習I b(Underclassmen Seminar I b)

担当者：中山 健一

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表

10.資料調査課題

授業の概要：最初の「全体ガイダンスと文化・交流とは何か」では、文化交流学科の全体像を大まかにつかみます。
次に、「新入生交流会への対応と活用」で新入生交流会への準備と参加を通して、日本以外の国や民族の文化を学び、実際の交流を体験します。
続いて、「文化交流の基礎知識を学ぶ」で文化交流の基礎知識、特に地理、歴史、言語、文化・芸術の4つの分野を学び、文化交流の世界がどのようなものであるのかを知り、その中から興味を持ったテーマについてグループで調べて、発表します。同時にパワーポイントの技術も覚えます。
最後に、発表の内容について、各自ショートレポートを書きます。

キーワード：文化交流、地理、歴史、言語、文化・芸術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標：文化交流学科で4年間、様々な科目を学ぶための基礎知識を身につける。

評価方法：学期末
レポート

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法：学期末
レポート

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画：

1. 全体ガイダンス
2. 新入生交流会に向けて①
3. 新入生交流会に向けて②
4. 新入生交流会に向けて③
5. 新入生交流会から学んだこと
6. EQの返却と解説
7. 文化交流の基礎知識 ①地理編

8. 文化交流の基礎知識 ②歴史編
9. 文化交流の基礎知識 ③言語編
10. 文化交流の基礎知識 ④文化・芸術編
11. 文化交流の観点から発表のテーマを決める
11. 調査をする(図書館とネットの使い方)
12. 調査および発表の仕方を学ぶ
13. 発表する①
14. 発表する②
15. ショートレポートを書く

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 10回目あたりで各自(グループごとに)テーマを決めてもらうので、世界や日本の文化に対して幅広く見渡しておくとい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 5月に開催する新入生交流会に必ず参加すること。(詳細は改めて連絡します)

科目コード: 14245 **科目ナンバリング:** CC10A01E **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 基礎演習I c(Underclassmen Seminar I c)

担当者: 藤野 真拳

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: C

関連資格:

AL要素: 07.発表

10.資料調査課題

授業の概要: 最初の「全体ガイダンスと文化・交流とは何か」では、文化交流学科の全体像を大まかにつかみます。
次に、「新入生交流会への対応と活用」で新入生交流会への準備と参加を通して、日本以外の国や民族の文化を学び、実際の交流を体験します。
続いて、「文化交流の基礎知識を学ぶ」で文化交流の基礎知識、特に地理、歴史、言語、文化・芸術の4つの分野を学び、文化交流の世界がどのようなものであるのかを知り、その中から興味を持ったテーマについてグループで調べて、発表します。同時にパワーポイントの技術も覚えます。
最後に、発表の内容について、各自ショートレポートを書きます。

キーワード: 文化交流、地理、歴史、言語、文化・芸術

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 文化交流学科で4年間、様々な科目を学ぶための基礎知識を身につける。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 学期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末レ

ポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
1. 全体ガイダンス
 2. 新入生交流会に向けて①
 3. 新入生交流会に向けて②
 4. 新入生交流会に向けて③
 5. 新入生交流会から学んだこと
 6. EQの返却と解説
 7. 文化交流の基礎知識 ①地理編
 8. 文化交流の基礎知識 ②歴史編
 9. 文化交流の基礎知識 ③言語編
 10. 文化交流の基礎知識 ④文化・芸術編
 11. 文化交流の観点から発表のテーマを決める
 11. 調査をする(図書館とネットの使い方)
 12. 調査および発表の仕方を学ぶ
 13. 発表する①
 14. 発表する②
 15. ショートレポートを書く

使用テキスト： 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 10回目あたりで各自(グループごとに)テーマを決めてもらうので、世界や日本の文化に対して幅広く見渡しておくとい。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： 5月に開催する新入生交流会に必ず参加すること。(詳細は改めて連絡します)

科目コード：14245 科目ナンバリング：CC10A01E 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：基礎演習I d(Underclassmen Seminar I d)

担当者：宮崎 晶子

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：

AL要素：07.発表

10.資料調査課題

授業の概要： 最初の「全体ガイダンスと文化・交流とは何か」では、文化交流学科の全体像を大まかにつかみます。
次に、「新入生交流会への対応と活用」で新入生交流会への準備と参加を通して、日本以

外の国や民族の文化を学び、実際の交流を体験します。
続いて、「文化交流の基礎知識を学ぶ」で文化交流の基礎知識、特に地理、歴史、文化、芸術の四つの分野を学び、文化交流の世界がどのようなものであるのかを知り、その中から興味を持ったテーマについてグループで調べて、発表します。同時にパワーポイントの技術も覚えます。
最後に、発表の内容について、各自ショートレポートを書きます。

キーワード： 文化交流、地理、歴史、文化、芸術

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 文化交流学科で4年間、様々な科目を学ぶための基礎知識を身につける。

評価方法： 学期末
レポート **評価割合：50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 学期末
レポート **評価割合：50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼ その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：**
1. ガイダンス（自己紹介/今後の説明）:EQの配布
 2. 調べ方について :EQの回収
 3. 新入生交流会に向けて①
 4. 新入生交流会に向けて②
 5. 『キャリア講座』:EQの解説
 6. 文化交流の基礎知識 ①歴史編
 7. 文化交流の基礎知識 ②地理編
 8. 文化交流の基礎知識 ③言語編
 9. 文化交流の基礎知識 ④文化・芸術編
 10. 文化交流の観点から発表のテーマを決める
グループごとに、上記①～④の分野から好きなテーマを決める
 11. 調査をする(図書館とネットの使い方)
 12. 発表の仕方を学ぶ (パワーポイントの使い方)
 13. 発表する①
 14. 発表する②
 15. 講演会

使用テキスト: 授業で使用する資料は全て印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 10回目あたりで各自(グループごとに)テーマを決めてもらうので、世界や日本の文化に対し幅広く見渡しておくとい。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項: 5月20日(土)の新入生交流会に必ず参加すること。

科目コード: 14246 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語|

授業名(英文): 自然地理学I(Natural Geography I)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかわりのなかで形成されています。この講義では、地形や気候といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

キーワード: 地形, 地質, 気候, 地域の文化と自然環境

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた自然地理に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 1.自然地理学とは?

- 2.地形図の読解
- 3.地形を形成する作用
- 4.大洋と大山脈
- 5.海・海流
- 6.火山活動
- 7.氷河地形
- 8.浸食地形
- 9.河川の浸食地形
- 10.堆積平野
- 11.海岸地形
- 12.サンゴ礁・カルスト地形
- 13.大学周辺の地形
- 14.気象学の基礎
- 15.世界の気候

定期試験

使用テキスト: [使用テキスト]
・特になし

[参考書]

- ・松岡憲知ほか『地球環境学-地球環境を調査・分析・診断するための30章』(古今書院)
- ・山本正三ほか『自然環境と文化』(大明堂)

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前に最低でも1時間をかけて、授業内容に関する予習をしておくこと。
毎回の授業内容は、事前に連絡する。
・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: 基本的に、高校の地理歴史の教員免許取得を目指す学生が受講する授業です。そのため、内容が難解で課題も多くなります。

科目コード: 14247 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語|

授業名(英文): 自然地理学II(Natural Geography II)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: 「地域」とは、自然環境(気候、地形など)と人文環境(人間の活動:各産業、歴史、文化など)が相互に織り成す、地表上の空間を意味します。私達の生活の場である「地域」は、自然と深いかわりのなかで形成されています。この講義では、地形や気候といった自然地理の基礎を学習するとともに、「地域」と自然環境との関わりを学んでいきます。

キーワード: 地形, 地質, 気候, 地域の文化と自然環境

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で解説を受けた自然地理に関する諸事項について、おおむね80%を暗記し、回答することができる。また、読図のノウハウを習得している。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学修によって得られた知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ端的に所見を説明することができる。

評価方法: 授業ごとの課題と学期末試験

評価割合: 30%

▼学修に主体的に取り組む態度

授業中のディスカッションや課題作成に積極的に参加することができる。

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

1. 自然地理と地域文化の関係
2. 東南アジアの自然と文化1: 概略
3. 東南アジアの自然と文化2: 大陸山地
4. 東南アジアの自然と文化3: デルタ地帯
5. 東南アジアの自然と文化4: 海浜地帯1 (海底に眠る大陸)
6. 東南アジアの自然と文化5: 海浜地帯2 (海の道が構築した文化)
7. 東南アジアの自然と文化6: 火山島
8. 東南アジアの自然と文化7: ウォーレンシア
9. 東南アジアの自然と文化8: イリアンジャヤ
10. ヨーロッパの自然と文化1: ヨーロッパの自然環境
11. ヨーロッパの自然と文化2: イギリスの自然と文化
12. ヨーロッパの自然と文化3: エディンバラの歴史と自然環境の関係性
13. アメリカの自然と文化1: 北アメリカの自然と文化
14. アメリカの自然と文化2: アメリカ先住民の歴史と自然環境の関係性
15. 地図の読み方

定期試験

使用テキスト: [使用テキスト]

・特になし

[参考書]

・松岡憲知ほか『地球環境学-地球環境を調査・分析・診断するための30章』(古今書院)

・山本正三ほか『自然環境と文化』(大明堂)

予習・復習のポイントと ・事前に最低でも1時間かけて、授業内容に関する予習をしておくこと。

参考文献・資料等: 毎回の授業内容は、事前に連絡する。

・講義毎に課題を出す。自宅で課題に取り組み、次回の講義時に提出すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。曜日や時間帯は、初回の授業でお知らせします。

留意事項: 基本的に、高校の地理歴史の教員免許取得を目指す学生が受講する授業です。そのため、内容が難解で課題も多くなります。

科目コード:14248

科目ナンバリング:

主な使用言語:日本語

授業名(英文):地誌(Geology)

担当者:薄井 晴

基本情報

年次:2

単位数:2

授業形式:講義

曜時:水曜4限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F

関連資格:教職

AL要素:7.発表

17.発問と回答

授業の概要: 地誌学とはある特定の地域における地域的な性格を総合的に究明する学問です。当授業では、国内外における様々な地域の自然、産業(特に観光などサービス産業)、風土、人口などを総合的に学習できる機会を提供していく予定です。地誌学を学ぶことで複雑な現代の社会を様々な視点から見ていきましょう。

授業の終盤では、授業で学習した事柄や地理学で用いられる統計情報をもとに、個人課題に取り組む機会を設ける予定です。

キーワード: 地誌学, 系統地理, 地域産業, 統計情報

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学習した知識に関する事項をおおむね80%は正確に回答することができる。また、習得した知識をもとに、特定の地理的現象に関して、表現して伝えられる技能を身につける。

評価方法: 課題・期末試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 習得した知識をもとに、試験や課題において論理的、かつ端的に考察して表現できる。

評価方法: 課題・期末試験

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

上記の項目に含みます

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の私語や著しく公正性を欠く言動やカンニング・剽窃行為等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる場合があるので注意してください。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画:

- 1.ガイダンス(地誌学の学問的視点)
- 2.日本の地域像
- 3.北海道地方の地誌について考える
- 4.東北地方の地誌について考える
- 5.関東地方の地誌について考える
- 6.茨城県の地誌について考える
- 7.中部地方の地誌について考える
- 8.近畿地方の地誌について考える
- 9.中国・四国の地誌について考える

- 10.九州・沖縄地方の地誌について考える
- 11.海外の地誌について考える(1)
- 12.海外の地誌について考える(2)
- 13.地域に関する資料(1) 地域に関する資料について紹介・概説します。
- 14.地域に関する資料(2) 地域に関する資料を整理し、加工する方法について紹介・概説します。
- 15.まとめ

使用テキスト： 中学、高校などで使用した地図帳がある場合は持参をお勧めします

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業の学習内容は、最低でも1時間をかけて復習すること

障がいのある履修者への対応： まずは教務部窓口にご相談してください。

授業時間外の連絡手段： Eメール: usui.harui.sd@alumni.tsukuba.ac.jp で対応します

留意事項： ・社会科の教員免許取得希望者は受講を勧める。
・授業の終盤では、授業を通じて学習した内容をもとに個人で課題に取り組む機会を設ける予定である。

科目コード：14249 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：日本語**

授業名(英文)：法学 a(Law a)

担当者：古屋 等

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜1限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：教職 福祉主

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しないのみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐる、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法：小テスト、期末テスト

評価割合：40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合：5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合：0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合：5%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画：
- 1 ガイダンス
 - 2 法とは何か
 - 3 法の種類と存在形式
 - 4 法の段階的構造
 - 5 罪刑法定主義
 - 6 犯罪の成立要件 I
 - 7 犯罪の成立要件 II
 - 8 刑事手続の基本原理
 - 9 裁判手続の基本構造
 - 10 民法の基本構造 I
 - 11 民法の基本構造 II
 - 12 財産関係と法 I
 - 13 財産関係と法 II
 - 14 家族関係と法 I
 - 15 家族関係と法 II
 - 16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：14249

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：法学 b(Law b)

担当者：古屋 等

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：C

関連資格：教職 福祉主

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。

キーワード： 法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 民法や刑法などの身近な法律をめぐる、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法： 小テスト、期末テスト

評価割合： 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合： 5%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合： 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合： 5%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件 I

- 7 犯罪の成立要件Ⅱ
- 8 刑事手続の基本原理
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造Ⅰ
- 11 民法の基本構造Ⅱ
- 12 財産関係と法Ⅰ
- 13 財産関係と法Ⅱ
- 14 家族関係と法Ⅰ
- 15 家族関係と法Ⅱ
- 16 定期試験

使用テキスト： 上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第4版〕(成文堂)2500円＋税

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業資料のほか、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいでください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分にできなかったところは、繰り返し復習をしておいでください。

障がいのある履修者への対応： 対応可

授業時間外の連絡手段： 第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡

留意事項： 座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード：14249 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：法学 c(Law c)

担当者：森本 敦司

基本情報

年次：2 **単位数：**2 **授業形式：**講義

曜時：月曜3限 **履修可能学科・専攻：**C

関連資格：教職 福祉主 **AL要素：**18その他

授業の概要： 社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことがらについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている民法を通じて学んでいきます。

キーワード： 法、権利、自由、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下の平等

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。

評価方法： 毎回の課題演習 **評価割合：**60%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 民法という身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

評価方法: 期末テスト

評価割合: 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

該当なし

評価割合: 0%

▼公正性

法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 【第01回】オリエンテーション:法とは何か・民法の沿革
【第02回】民法概説:財産法と家族法
【第03回】権利能力・意思能力・行為能力(1)未成年
【第04回】権利能力・意思能力・行為能力(2)成年後見
【第05回】権利の主体と客体
【第06回】代理
【第07回】時効
【第08回】物権と登記制度
【第09回】担保物権・抵当権
【第10回】契約と法(1)契約の種類
【第11回】契約と法(2)債務不履行／不法行為
【第12回】親族
【第13回】婚姻と離婚
【第14回】親子
【第15回】相続
定期試験

使用テキスト: 授業で使用する資料はすべてオンラインで配付する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 次回のプリントは事前に配付するので、授業前に目を通しておくこと(2時間)。
また授業終了後に配布プリントによる演習問題を中心に復習をすること(2時間)。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 講義の前後に教室にて対応します。

留意事項: デバイスを持参すること。

科目コード: 14250 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 生活と政治(Life and Politics)

担当者: 林 寛一

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 月曜2限

履修可能学科・専攻: C

関連資格：教職

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： この授業は、中学校社会科教員を志望する学生のために特別に用意された科目です。講義の具体的内容は以下の原則に則したものとします。

中学校学習指導要綱と中学校社会科教科書の内容に沿ったかたちで講義内容が設定され、授業が進められます。また、受講生が将来中学校の社会科授業を担当することを想定して、「公民」の範囲内の、主に国内外の政治について、教員として必要な基礎的な知識の修得と考え方について講義します。

キーワード： 教職、中学校社会科、公民、現代社会、民主政治、地球社会

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：** 60%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。

評価方法： 学期末筆記試験又は課題・レポート **評価割合：** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしなし。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が、学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしなし。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験の記述において、人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 民主政治の起源(1)
- 第3回 民主政治の起源(2)
- 第4回 民主政治の変容
- 第5回 福祉と政治
- 第6回 民主政治の様々な仕組み
- 第7回 選挙
- 第8回 議会と政党(1)
- 第9回 議会と政党(2)
- 第10回 政策過程と官僚・利益集団
- 第11回 世論とマスメディア

- 第12回 地方自治(1)
- 第13回 地方自治(2)
- 第14回 グローバル化(1)
- 第15回 グローバル化(2)
- 定期試験

使用テキスト: 出川良枝・谷口将紀編『政治学(第2版)』東京大学出版会、2022年。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと(60分)。
授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい(60分)。
参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 初回の授業等でお知らせします。

留意事項: 特になし

科目コード: 14251 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 生活と国際経済(Life and International Economy)

担当者: 飯沼 芳樹

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜4限

履修可能学科・専攻: C

関連資格: 教職

AL要素: 17.発問と回答

授業の概要: この授業では、国際経済が私たちの生活にどのように関わっているかという視点から、国際経済学の基礎を学びます。ミクロ経済学・マクロ経済学の基本ツールをレビューした後、比較生産費説、貿易の利益など貿易の基礎理論を理解し、外国為替の基礎、為替レートの変動要因など国際金融分野の基礎を学びます。また、グローバリズムと呼ばれる問題や、日々の生活に直接影響を与えつつある地球環境問題と貿易の関係などについても考えてみます。

キーワード: 比較優位、貿易の利益、貿易政策、外国為替、為替レート

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 比較生産費説、貿易の利益、貿易政策に係る諸問題、為替決定理論など、国際経済学の基礎と応用について、概ね理解し、解答することができる。

評価方法: 2回の小テスト

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、ニュースや新聞記事を理解して、論理的に自ら所見を表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合には、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 国際経済学とはどのような学問か
第2回 需要と供給
第3回 弾力性、生産者・消費者余剰
第4回 市場経済の光と影
第5回 GDPとマクロ経済
第6回 有効需要の原理と経済循環
第7回 国際収支と開放マクロ経済
第8回 まとめと小テスト
第9回 比較優位と分業利益
第10回 比較優位と国際分業
第11回 比較優位の決定要因
第12回 外国為替の基礎
第13回 為替レートは何故変動するか
第14回 為替介入とマクロ経済政策
第15回 まとめと小テスト

使用テキスト： 石川城太、椋寛、菊池徹著「国際経済学をつかむ[第二版]」有斐閣 2019年
橋本優子、小川英治、熊本方雄著「国際金融論をつかむ【新版】」有斐閣2019年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： ・授業前にテキストの関係箇所を読み、分からない用語などを調べる。
・授業後関連事項について自主学修を通じ知見を深める。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールで連絡願います。

留意事項： なし

科目コード：14252 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：女性学(Women's Studies)

担当者： 蓼沼 康子

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：前期(集中講義)、後期(集中講義)

履修可能学科・専攻： C

関連資格：教職 社教

AL要素：17発問と回答

授業の概要： 日本社会においては、1980年代以降男女の在り方が大きく変化している。男女の在り方について問題提起を行ってきた女性学誕生の必然性から、現代の状況について学ぶ。複雑で多様な現代社会の現状を理解し、自らの対応を考えてもらいたい。
現代は、少子化の傾向は変化せず、結婚する人が減少している。家族の形や意味も変化している。働き方、仕事との向き合い方も変化している。その根底に性別の意味の変化があるのではないか。ここでは、もともと人の生き方は多様である、ことを前提に現代の問題に取り組んでいきたい。

キーワード： ジェンダー、性別役割分業、近代家族、専業主婦、ガラスの天井

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 女性学の内容、歴史について理解できるようになる。日本社会の男女の現状について理解できるようになる。

評価方法： レポートまたは筆記試験

評価割合： 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱う内容について、自らの立場や意見を構築し、表現できるようになる。

評価方法： レポートまたは筆記試験

評価割合： 60%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

主体的に学んだ成果がレポートなどに認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合には、減点や嚴重注意などの対象となるので注意すること。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし。

評価割合： 特になし。

授業計画：

- 第1回 女性学とはどのような学問か
- 第2回 性差と文化・社会とのかかわり
- 第3回 ジェンダーとは何か
- 第4回 『第二の性』「女性とは他者である」
- 第5回 歴史と女性 歴史に登場しない女性たち
- 第6回 社会を変えた女性たち 1
- 第7回 社会を変えた女性たち 2
- 第8回 現代の女性たち 日本のジェンダーギャップ
- 第9回 家族と女性
- 第10回 近代家族と専業主婦
- 第11回 日本の婚姻と女性
- 第12回 「家」と女性
- 第13回 男女雇用均等法と女性
- 第14回 共働きの現在
- 第15回 男性と女性

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業前には、ニュースなどで扱われている男女の問題に興味をもっておいてください。授業後には、授業であつかったテーマについて自らの考えをまとめてみてください。参考文献については、授業中に指示します。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： 連絡方法等については、初回の授業で伝えます。それまでは学務部の方に連絡してください。

留意事項： 特になし

科目コード：14254 **科目ナンバリング：** **主な使用言語：**日本語

授業名(英文)：多文化協働論I(Theory of Multicultural Collaboration I)

担当者：鈴木 晋介、岩間 信之、勝山 紘子

基本情報

年次： **単位数：**2 **授業形式：**講義

曜時：木曜2限 **履修可能学科・専攻：**

関連資格： **AL要素：** 07発表
08協働学習
10資料調査課題
11討論
17発問と回答

授業の概要： 多文化協働とは、「社会的背景の異なる人々(含 外国人)が、互いの違いを理解し認め合いながら、共に生き、共に働くこと」を意味します。グローバル化が進み、かつ近隣住民も多様化する今日、住民間のコンフリクトや社会的排除、社会の分極化などが世界的な問題となっています。これらは、移民問題に揺れる欧米諸国だけの問題ではありません。私たちが暮らす地域社会にも共通した、深刻な社会問題です。これからの時代を生きる若者にとって、多様な隣人たちとの多文化協働社会の構築は必須です。

この授業では、多文化協働を学び実践する上で基礎となる「多文化協働とは何か?」という問いを、地理学、文化人類学、社会学の視点から解説していきます。

キーワード： 多文化共働, 多様性, 社会的統合, 社会的排除, 地理学, 文化人類学, 社会学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： 世界の多様性や社会的統合・排除問題を正しく理解するとともに、多文化協働にむけて積極的に行動する力を身に着ける。

評価方法： 学期末試験および参加学習の成果から総合的に判断します。 **評価割合：** 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法： 学期末試験および参加学習の成果から総合的に判断します。 **評価割合：** 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

- 授業計画： [1.ガイダンス]
- ①多文化協働とは？
- [2.世界の多様性—地理学—]
- ②世界の自然環境(引越すならどこが良い?)
 - ③世界の人文環境(わが家とお隣さん家はなぜこんなに違うのか)
 - ④つながる世界(世界を巡るTシャツの旅)
 - ⑤日本国内の多様性(なぜ、サザエさん家は姿を消したのか?)
- [3.わたしたちの多様性の認識の仕方を再考し多様性を生きる仕方を考える—文化人類学—]
- ⑥多様性の認識(1)文化の多様性とは何か
 - ⑦多様性の認識(2)エスノセントリズムと文化相対主義
 - ⑧多様性の認識(3)多文化主義
 - ⑨多様性の認識(4)ひとは多様性を如何に生きるか
- [4.文化を形作るものは何か—社会学—]
- ⑩異文化を理解するために—文化の構造と文化モデル
 - ⑪コミュニケーションとは何か—アサーティブネスとコミュニケーション
 - ⑫差別と偏見について—アンコンシャス・バイアスを意識する
 - ⑬価値観と思考パターン—文化による「当たり前」の違い
- [5まとめ]
- ⑭ロールプレイによる参加型学習
 - ⑮振り返り

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 合理的な判断をします。

履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 火曜日の昼休みに、授業担当教員の研究室に来てください。

留意事項： この授業は、本学が実施する「多文化協働クリエイター育成講座」の必修科目です。

科目コード：14255 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：多文化協働論II(Theory of Multicultural Collaboration II)

担当者：鈴木 晋介、岩間 信之、勝山 紘子

基本情報

年次：

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜2限

履修可能学科・専攻：

関連資格：

AL要素：07発表
08協働学習
10資料調査課題
11討論
17発問と回答

授業の概要: 多文化協働とは、「社会的背景の異なる人々(含 外国人)が、互いの違いを理解し認め合いながら、共に生き、共に働くこと」を意味します。グローバル化が進み、かつ近隣住民も多様化する今日、住民間のコンフリクトや社会的排除、社会の分極化などが世界的な問題となっています。これらは、移民問題に揺れる欧米諸国だけの問題ではありません。私たちが暮らす地域社会にも共通した、深刻な社会問題です。これからの時代を生きる若者にとって、多様な隣人たちとの多文化協働社会の構築は必須です。

この授業では、多文化協働の実践例(多様化を理解し、克服する試み)を、地理学、文化人類学、社会学の視点から検討します。

キーワード: 多文化共働, 多様性, 社会的統合, 社会的排除, 地理学, 文化人類学, 社会学

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 世界の多様性や社会的統合・排除問題を正しく理解するとともに、多文化協働にむけて積極的に行動する力を身に着ける。

評価方法: 学期末試験および参加学習の成果から総合的に判断します。 **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法: 学期末試験および参加学習の成果から総合的に判断します。 **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: [1. ガイダンス]

① 多文化協働とは?

[2. 社会的統合・排除問題をめぐる日本国内の3つの事例研究—地理学—]

② 社会的排除の一例[地方の排除: 消滅可能性都市]

③ 社会的排除の一例[高齢者の排除: Food Deserts問題]

④ 社会的排除の一例[外国人の排除: 外国にルーツのある子どもたちの健康・発達被害]

⑤ 社会的統合に向けた試み[アントレプレナーシップの薦め]

[3. 他者表象やイメージが現実の差別・抑圧へと結びつく回路を理解する—文化人類学—]

⑥ 多様性と他者表象をめぐる問題(1) ステレオタイプと差別

⑦ 多様性と他者表象をめぐる問題(2) 人種概念をめぐる問題

⑧ 多様性と他者表象をめぐる問題(3) Black Lives Matter運動

⑨ 多様性と他者表象をめぐる問題(4) 映像資料で考えるBLM

[4. 文化背景の違いひとびとが共に暮らす社会のために—社会学—]

? 日本とドイツの言語支援—BICSとCALP

⑩ やさしい日本語について—< 伝わる > 日本語を考える

- ⑫マイノリティとマジョリティーユニバーサルデザインにみる多文化共生
 - ⑬映画の中の多文化共生と異文化コミュニケーション
- [5まとめ]
- ⑭ロールプレイによる参加型学習
 - ⑮振り返り

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと
参考文献・資料等： 特になし

障がいのある
履修者への対応： 合理的な配慮をします。

授業時間外の連絡手段： 火曜日の昼休みに、授業担当教員の研究室に来てください。

留意事項： この授業は、本学が実施する「多文化協働クリエイター育成講座」の必修科目です。

科目コード：14256 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：多文化協働演習(Seminar of Multicultural Collaboration)

担当者：勝山 紘子、藤野 真拳

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜1限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C F M

関連資格：

AL要素： 07発表
08協働学習
11討論
17発問と回答

授業の概要： 本授業の目的は、学生および留学生が、さまざまな国の文化について知見を広め、多文化理解を深めることである。
協働作業を通して、学生と留学生にとって多文化共生社会にむけた主体的な行動につながる学習機会になることを目指す。

- ①グローバル・カフェ(一日限定イベント)を企画、開催する。
 - ・留学生と日本人学生でグループを作る
 - ・その留学生の母国の文化から、テーマと内容を決める。
 - ・国の紹介、〇〇語ではなそう、民族衣装を着てみよう、各国のお茶体験、料理紹介、音楽、ゲーム、〇〇国検定、フリートークなど。
 - ・チラシの作成、文化交流学科のインスタ、LINEなどで、来場者数確保を図る。
- ②<「わたしのイチ推し」を伝え合う>をテーマに、好きなもの、ことについて、その魅力をプレゼンする。
 - ・自分の国ならではのもの、音楽、映画、マンガ、食べ物、流行など。
 - ・おおまかなテーマでグループを作り、グループ発表とする。
 - ・テーマによっては個人発表も可。
 - ・何を、どう見せれば、その魅力を伝えられるか？好きなものへの熱意を込める。
 - ・パワーポイントで発表。
 - ・動画作成も可。

キーワード： 多文化協働、文化交流、異文化理解、推し

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標： さまざまな国の文化について知見を広め、多文化理解を深める
他の文化に触れながら、自分自身のアイデンティティや自国の文化を振り返ることができるように

なる

評価方法: 催しの実行にまつわる準備等とグループ発表および振り返りのレポート **評価割合:** 40%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる
協働作業を通して、多文化共生社会にむけた主体的な行動をとれるようになる

評価方法: 催しの実行にまつわる準備等とグループ発表および振り返りのレポート **評価割合:** 40%

▼学修に主体的に取り組む態度

留学生とともに主体的に課題に取り組むこと

評価割合: 10%

▼実践的ボランティア

全体を俯瞰し、欠けている点を補完することができる

評価割合: 10%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合: 0%

▼その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: 第1回 ガイダンス
第2回 グローバル・カフェに向けた作業:グループわけとテーマ決め
第3回 準備1
第4回 準備2
第5回 準備3
第6回 準備4
第7回 準備5
第8回 振り返り レポート作成
第9回 「わたしのイチ推し」発表に向けた作業:グループわけとテーマ決め
第10回 グループワーク1
第11回 グループワーク2
第12回 グループワーク3
第13回 発表1
第14回 発表2
第15回 総括

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特になし

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは学務部等に相談してください。

授業時間外の連絡手段: メールおよびオフィスアワーに研究室にて対応します。

留意事項: 詳しい内容・予定について、最初の授業で説明をしますので、必ず参加してください。
留学生を含めた受講人数を30人程度とします。人数が多すぎる場合には最初の授業で抽選を行います。

科目コード: 14257

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 外国人教育支援演習I(Seminar of Educational Support for Foreign Residents I)

担当者：岩間 信之

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜2限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C F M

関連資格：

AL要素：07発表
08協働学習
10資料調査課題
11討論
17発問と回答

授業の概要： 履修者は、原則として「日本語教育実習」履修中の学生、あるいは「特別支援課程の履修を許可された学生(いずれも3年生)」に限る。留学生の場合は日本語検定2級以上のものが履修できる。

履修生は留学生とチームを組み、日本語レベル初級の外国人児童(もしくはICHへの留学生)に対し、毎週指定された時間に、日本語学習支援および学科科目学習支援(宿題のサポートなど)を行う。毎回の授業では、支援の記録をもとに改善点や改善案などを話し合う。多文化の中で協働(協力して働く)のスキルを磨くことを目的としている。
※この授業は3年生用の授業です。

キーワード： 多文化、協働、共生

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 留学生と共に課題に取り組み、話し合い、結果を出す、協働のスキルを身につける。

評価方法： レポートと支援の記録

評価割合： 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法： レポートと支援の記録

評価割合： 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

特になし

評価割合： 0%

▼公正性

特になし

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 日本語支援の計画立案
第3回 日本語支援の改善点と改善案①
第4回 日本語支援の改善点と改善案②
第5回 日本語支援の改善点と改善案③
第6回 日本語支援の改善点と改善案④
第7回 日本語支援の改善点と改善案⑤

- 第8回 日本語支援の改善点と改善案⑥
- 第9回 日本語支援の改善点と改善案⑦
- 第10回 日本語支援の改善点と改善案⑧
- 第11回 日本語支援の改善点と改善案⑨
- 第12回 日本語支援の改善点と改善案⑩
- 第13回 日本語支援の改善点と改善案⑪
- 第14回 日本語支援の改善点と改善案⑫
- 第15回 振り返りと総括

使用テキスト: 特になし

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 特になし

障がいのある履修者への対応: 合理的な配慮をします。

授業時間外の連絡手段: 月曜日・水曜日・木曜日のお昼に研究室に来てください。

留意事項: 原則として、次のいずれかに該当する3年生に限定した授業です。ご注意ください。1)「日本語教育実習」履修中の学生、2)特別支援課程の履修を許可された学生、3)日本語検定2級以上の留学生。

科目コード: 14258

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 外国人教育支援演習II(Seminar of Educational Support for Foreign Residents II)

担当者: 岩間 信之

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 火曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C F M

関連資格:

AL要素: 07発表
08協働学習
10資料調査課題
11討論
17発問と回答

授業の概要: 履修者は、原則として「日本語教育実習」履修中の学生、あるいは「特別支援課程の履修を許可された学生(いずれも3年生)」に限る。留学生の場合は日本語検定2級以上のものが履修できる。

履修生は留学生とチームを組み、日本語レベル初級の外国人児童(もしくはICHへの留学生)に対し、毎週指定された時間に、日本語学習支援および学科科目学習支援(宿題のサポートなど)を行う。毎回の授業では、支援の記録をもとに改善点や改善案などを話し合う。多文化の中で協働(協力して働く)のスキルを磨くことを目的としている。
※この授業は3年生用の授業です。

キーワード: 多文化、協働、共生

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 留学生と共に課題に取り組み、話し合い、結果を出す、協働のスキルを身につける。

評価方法: レポートと支援の記録

評価割合: 50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 異文化を尊重し多文化の中で決断、実行することができる。

評価方法: レポートと支援の記録

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末試

験の記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼その他

特になし

評価割合：特になし

授業計画： 第1回 ガイダンス
第2回 日本語支援の計画立案
第3回 日本語支援の改善点と改善案①
第4回 日本語支援の改善点と改善案②
第5回 日本語支援の改善点と改善案③
第6回 日本語支援の改善点と改善案④
第7回 日本語支援の改善点と改善案⑤
第8回 日本語支援の改善点と改善案⑥
第9回 日本語支援の改善点と改善案⑦
第10回 日本語支援の改善点と改善案⑧
第11回 日本語支援の改善点と改善案⑨
第12回 日本語支援の改善点と改善案⑩
第13回 日本語支援の改善点と改善案⑪
第14回 日本語支援の改善点と改善案⑫
第15回 振り返りと総括

使用テキスト： 特になし

予習・復習のポイントと 特になし

参考文献・資料等：

障がいのある 合理的な配慮をします。
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 月曜日・水曜日・木曜日のお昼に研究室に来てください。

留意事項： 原則として、次のいずれかに該当する3年生に限定した授業です。ご注意ください。1)「日本語教育実習」履修中の学生、2)特別支援課程の履修を許可された学生、3)日本語検定2級以上の留学生。

科目コード：14261

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：地域貢献演習I(Seminar of Local Contribution I)

担当者：清水 博之

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：金曜3限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素： 07.発表、09.実地調査、11.討論

授業の概要： 本学における地域貢献の目的は、地域の活性化を支援するだけでなく、自らが生活する地域を慈しみより良くしようとする人材を育てることもあります。

この演習では、自分の故郷とほかの地方の文化を比較検討することによって、自らの文化をより明確に自覚して理解できるようになることをめざします。

そのために、本学が立地する茨城県北地方と他の地方の伝統文化を探訪して、それらを

継承する人たちに出会い交流して、その心意を解き明かします。

前期には、「常陸大津の御船祭(北茨城市)」と「ユネスコ無形文化遺産『佐原の大祭』(千葉県香取市)」の地を巡検する予定です。

この演習の掉尾として、毎年4月に公開される日立風流物の公開に参加することによって地域貢献演習の基本的な学修を完了することになります。

なお、この演習と連携した授業である「ひたち学(前期)」や「地域貢献研究(後期)」も、あわせて受講することでさらに深く理解することができるようになります。

キーワード: 故郷(ふるさと)、地域貢献、地域交流、ユネスコ無形文化遺産、山・鉾・屋台行事、文化財の保護と活用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: ・「地域貢献」の基本的な知識と考え方を理解して、説明することができる。
・「山・鉾・屋台行事」の基本的な知識と技術を理解して説明することができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、現地演習に取り組む姿勢など)お
よび発表・レポートなどにより総合的に評
価する。 **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表明することができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、現地演習に取り組む姿勢など)お
よび発表・レポートなどにより総合的に評価
する。 **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: [01]オリエンテーション
[02]ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の魅力
[03]事前学修:常陸大津の御船祭
[04]
～ 現地演習:常陸大津の御船祭(北茨城市)5/27(土)
[06]
[07]事後学修:常陸大津の御船祭

- [08]事前学修:ユネスコ無形文化遺産「佐原の大祭」
 [09]
 ～ 現地演習:ユネスコ無形文化遺産「佐原の大祭」(千葉県香取市)
 7/15(土)～7/16(日)(1泊2日)
 [13]
 [14]事後学修:ユネスコ無形文化遺産「佐原の大祭」
 [15]まとめ

- ※ 現地演習は、所要時間に相応した複数回の授業としてカウントします。
 ※ 止むを得ない理由で現地演習に参加できない場合は、他の地域貢献に関する事業への参加、あるいは課題レポートで代替することがあります。
 ※ 諸般の事情により、授業計画の日程や内容(現地演習の行き先など)を変更する場合があります。

使用テキスト: 特になし。必要な資料は、その都度、配布します。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

- 参考文献・資料等:**
- ・現地演習を成果あるものとするためには、事前・事後の自己学習が大切です。そのためには毎回の授業で予習・復習とも各1時間以上が必要になります。
 - ・現地演習後のレポートは成績評価の対象になります。必ず期限までに提出しましょう。

【参考文献】

- ・参考文献は、その都度、紹介します。

【資料】

- ・その都度、配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは、学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 基本的にIC-mailを使用します。

留意事項: ・現地演習に係る費用(旅費・宿泊費・観覧料など)は、履修生の自己負担になります。

科目コード: 14262

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 地域貢献演習II(Seminar of Local Contribution II)

担当者: 清水 博之

基本情報

年次: 1

単位数: 2

授業形式: 演習

曜時: 金曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F N M

関連資格:

AL要素: 07.発表、09.実地調査、11.討論

授業の概要: 本学における地域貢献の目的は、地域の活性化を支援するだけでなく、自らが生活する地域を慈しみより良くしようとする人材を育てることもあります。

この演習では、自分の故郷とほかの地方の文化を比較検討することによって、自らの文化をより明確に自覚して理解できるようになることをめざします。

そのために、本学が立地する茨城県北地方と他の地方の伝統文化を探訪して、それらを継承する人たちに出会い交流して、その心意を解き明かします。

後期には、どちらもユネスコ無形文化遺産である「日立風流物(日立市)」と「秩父夜祭の屋台行事(埼玉県秩父市)」の地を巡検する予定です。

この演習の掉尾として、毎年4月に公開される日立風流物の公開に参加することによって地域貢献演習の基本的な学修を完了することになります。

なお、この演習と連携した授業である「ひたち学(前期)」や「地域貢献研究(後期)」も、あわせて受講することでさらに深く理解することができるようになります。

キーワード: 故郷、地域貢献(地域交流)、ユネスコ無形文化遺産、山・鉾・屋台行事、文化財の保護と活用

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 「地域貢献」の基本的な知識と考え方を理解して、説明することができる。
・「山・鉾・屋台行事」の基本的な知識と技術を理解して説明することができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、現地演習に取り組む姿勢など)お
よび発表・レポートなどにより総合的に評
価する。 **評価割合: 50%**

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表明することができる。

評価方法: 授業への参加態度や貢献度(発言の回数
や内容、現地演習に取り組む姿勢など)お
よび発表・レポートなどにより総合的に評価
する。 **評価割合: 50%**

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。

評価割合: 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが発表やレポートの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やレポートの記述などにおいて人権侵害、差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合: 0%

▼ その他

特になし。

評価割合: 特になし。

授業計画: [01]オリエンテーション
[02]現地演習:日立市発展の原点を探访する「日立オリジンパーク」
[03]事前学修:ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」の原点
[04]
～ 現地演習:ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」の原点(日立市)10/14(土)
[06]
[07]事後学修:ユネスコ無形文化遺産「日立風流物」の原点
[08]事前学修:ユネスコ無形文化遺産「秩父夜祭の屋台行事」
[09]
～ 現地演習:ユネスコ無形文化遺産「秩父夜祭の屋台行事」(埼玉県秩父市)
12/3(日)～12/4(月)(1泊2日)
[13]
[14]事後学修:ユネスコ無形文化遺産「秩父夜祭の屋台行事」
[15]まとめ

※ 現地演習は、所要時間に相応した複数回の授業としてカウントします。

※ 止むを得ない理由で現地演習に参加できない場合は、他の地域貢献に関する事業

への参加、あるいは課題レポートで代替することがあります。

※ 諸般の事情により、授業計画の日程や内容(現地演習の行き先など)を変更する場合があります。

使用テキスト: 特になし。必要な資料は、その都度、配布します。

予習・復習のポイントと 【予習・復習のポイント】

参考文献・資料等: ・現地演習を成果あるものとするためには、事前・事後の自己学習が大切です。そのためには毎回の授業で予習・復習とも各1時間以上が必要になります。

・現地演習後のレポートは成績評価の対象になります。必ず期限までに提出しましょう。

【参考文献】

・その都度、紹介します。

【資料】

・その都度、配布します。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応します。まずは、学務部へ連絡してください。

授業時間外の連絡手段: 基本的にIC-mailを使用します。

留意事項: ・現地演習に係る費用(旅費・宿泊費・観覧料等)は、履修生の自己負担になります。
・現地演習の日程が他の授業の実施日と重複している場合は、その授業を休むこととなりますので留意してください。

科目コード: 14263 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): 東アジアの歴史と文化A(History and Culture of East Asia A)

担当者: 志賀 市子

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格: 教職 学芸 日本語

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: この授業では、中国社会についての理解を深めるために、現代に直接つながる過去としての中国近代史に焦点をあてて講義を行う。日本では、戦前から現代に至るまで、中国社会を日本社会や西洋社会の尺度ではかり、しかもその差異を中国の「後進性」や「民族性(国民性)」に結び付けて安易に語る風潮がはびこってきた。だが、このようなオリエンタリズム的な中国理解では、中国の社会や中国の今を客観的かつ冷静に理解できないばかりか、中国や中国人に対する偏見や誤解を増幅させてしまっている。本講義では、グローバルヒストリーの視点を取り入れながら、後期帝政時代における中国社会の構造と経済の仕組みについて理解を深め、中国社会とはどのような特性を持ち、日本社会とはどのような違いがあったのかを考える。さらにアヘン戦争(1840年)以降、中国がどのような近代を歩んできたのかを、日中関係史とも絡めながらたどる。さらに近代以降それぞれイギリス、日本の植民地となった香港、台湾の歴史とその土地に住む人々のアイデンティティの問題についてとりあげる。

キーワード: 近代中国史、明清社会、アヘン戦争、日中関係史、日清戦争、日中戦争、中国革命、近代日本史

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標: 授業で学んだトピックに関する種々の概念や議論を概ね80%理解し、解答することができる。

評価方法: 小テスト、リアクションペーパーから評価する **評価割合:** 40%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学んだ概念やトピックを適切に用いて、自ら問題意識を深め、思考し、表現することができる。

きる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 60%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

レポート等の記述において著しく偏見や差別的表現がある場合、個別的な指導の対象となりうる。

評価割合: 0%

▼その他

特に無し

評価割合: 特に無し

- 授業計画:**
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「中国」の統一
 - 第4回 中華と外夷 漢化と中国の拡大
 - 第5回 中国の人口動態と聚落(しゅうらく)形態
 - 第7回 「士と庶」 科挙と官僚制
 - 第8回 民間社会 中間団体としての宗族、宗教結社、慈善団体
 - 第9回 近代中国のはじまりとしての明清時代
 - 第10回 植民地経済システムと中国人移民
 - 第11回 アヘン戦争と中国社会
 - 第12回 清末の政治、経済、社会
 - 第13回 民国期の政治、経済、社会
 - 第14回 脱亜論から日清戦争へ
 - 第15回 香港と台湾

使用テキスト: 岡本隆司『教養としての中国史の読み方』PHP研究所、2020年

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』東洋経済新報社、2019年
岡本隆司『中国史とつなげて学ぶ日本全史』東洋経済新報社、2021年

その他の参考文献や資料については、授業中、または配布資料により適宜紹介します。受講者は積極的にそうした資料や文献を読み、基本的な歴史的用語や歴史的事実について自ら知識を増やすとともに、考察を深める努力が求められます。

障がいのある履修者への対応: 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段: 必要に応じて個別に連絡してください。日時を確定し、研究室またはオンラインで対応します。

留意事項: とくに無し

科目コード: 14264

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 東アジアの歴史と文化B(History and Culture of East Asia B)

担当者：李 吉魯

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜5限

履修可能学科・専攻： E Pe Pc C W F M

関連資格：教職 学芸 日本語

AL要素：11. 討論、17. 発問と回答

授業の概要： ヒトやモノや情報が国境を越えて交錯するグローバルの時代、日本にもあらゆる分野においてそれらの影響を受けるようになった。この授業では東アジアの諸国、とりわけ中国、韓国、台湾等の人々は歴史と文化をどのような思想に基づいて形成してきたか。また現代の東アジアの社会ではそれらをどのように受け止め、どのようなあり方で理念化しているかを、各回で設定したそれぞれのテーマに基づいて幅広く理解を深めることを目的とする。

キーワード： 東アジア、近代化、大衆文化、教育制度、日韓交流、海外留学、英語教育

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学んだ東アジアの歴史・文化・思想などを通じ、社会人として必要な教養と社会科学の知識に基づいて、自ら共生への道を探ることができる。

評価方法： 学期末筆記試験及び授業内小テスト

評価割合： 70%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学んだ内容について、自主学修等によって得た知見や経験を踏まえて論理的かつ合理的に理解し、説明することができる。

評価方法： 学期末筆記試験

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業を通じて、新たな「知」の成果等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。そのほか、授業中に私語などにより学修に支障をきたすような言動がみられた場合には、厳重注意の対象とする。

評価割合： 10%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし社会・共同体の中で積極的にボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末試験や小テストの内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし授業中の発言や試験等において人権侵害・差別的な言動など、著しく公正性を欠いた場合は、減点や厳重注意の対象となる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画： 第1回：ガイダンス(授業の概要、目的、到達目標、授業の進め方、成績評価など)
第2回：東アジア諸国の歴史はどのように形成されたか(日本・韓国・中国等の関係)
第3回 東アジアと近代化の見方
第4回：東アジアの社会と文化(1)―科挙制度
第5回：東アジアの社会と文化(2)―儒教の世界観
第6回：日韓交流への証(朝鮮通信使の役割)
第7回：東アジア諸国の教育制度

- 第8回:授業内テスト(中間)
- 第9回:海外留学の特徴(1)ー韓国・中国の場合
- 第10回:海外留学の特徴(2)ー日本の場合
- 第11回:英語教育政策の現状(1)ー韓国・中国・台湾の場合
- 第12回:英語教育政策の現状(2)ー日本の場合
- 第13回:東アジアにおける最近の事情(1)大衆文化
- 第14回:東アジアにおける最近の事情(2)少子高齢化、格差の問題など
- 第15回:授業のまとめ(共生への道を探る)
- 定期試験(学修の確認)

使用テキスト: 授業で使用する資料は、毎回配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: ・事前に授業の内容を確認するとともに、その回に分からない概念や用語を調べる(90分)。
 ・授業後、配布資料について復習し、理解を深めることが望ましい(90分)。
 参考文献としては、以下の資料を推薦する。
 『韓国社会の現在』春木育美著、中央公論新社、2020年8月。
 『東アジア近現代史』上原一慶編著、有斐閣、2015年12月。
 『アジアの相互理解のために』金香南編、創土社、2014年12月。
 『アジアの中等教育改革ーグローバル化への対応』馬越徹、大塚豊編、東信堂、2013年4月。
 『アジア人留学生の壁』栖原暁、日本放送出版協会、1996年4月。
 『世界の学校体系』文部科学省、ぎょうせい、2017年4月。
 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、開隆堂、2018年。その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するため、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワー:授業の前後とする。曜日・時限等については初回にお知らせする。
 メールアドレス:i.giro@icc.ac.jp(事前にメールでアポイントメントを取る)

留意事項: オンライン授業を行う場合、授業は時間割に基づいて「同時双方型」と「課題研究型」を組み合わせで行う。その際、大学の「IC-UNIPA」システムより、Microsoft Teamsのチームコードを入手して登録を済ませてください。また、授業関連の資料はMicrosoft Teamsよりダウンロードして事前に目を通してください。これらの授業方法に対応できるよう、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の手法を取り入れ、学生の能動的な学習への参加を促す。

科目コード:14265 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:日本語**

授業名(英文): 東南アジアの歴史と文化B

担当者: 宮崎 晶子

基本情報

年次: **単位数: 2** **授業形式: 講義**

曜時: 木曜5限 **履修可能学科・専攻:**

関連資格: **AL要素: 16.質疑と応答**

授業の概要: 本講義では、東南アジアの近現代を中心にそれぞれの社会の成り立ちや抱えている問題について授業を行う。受講生には海外に関するニュースなどにも興味を持ってもらいたい。また、世界遺産を取り巻く問題(文化遺産とアイデンティティ)、先進国(?)である日本との関係性(援助する側であるNPO、NGOが抱える問題)についても学習する。

キーワード: 東南アジア、開発、ASEAN、近現代

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 海外の文化や社会に興味を持ち、異文化理解のできる人間になる。

評価方法: 期末レポート **評価割合: 50%**

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法: 期末レポート

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

- 授業計画:**
1. ガイダンス
 2. 東南アジア近現代の地域・時代区分
 3. 植民地化と近代化
 4. 「からゆきさん」と東南アジア
 5. 独立・内戦を生き延びて①
 6. 独立・内戦を生き延びて②
 7. 独立、ナショナリズムからASEANへーインドネシア、フィリピンー
 8. 独立、ナショナリズムからASEANへーベトナム、カンボジアー
 9. 「緑の革命」ー稲作と工業化ー
 10. 中国をめぐる状況とASEAN
 11. 世界遺産は誰のもの？ー文化遺産とアイデンティティー
 12. 観光と開発
 13. 今日は「仏教の日」
 14. イスラームとファッション
 15. 身近な東南アジア

使用テキスト: 特になし。資料を配布する。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 課題は出さないが、常に東南アジアの状況に関心を持つこと。
できれば留学生に話しかけてみること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: 対面の場合、オフィスアワーに対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 14266

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 仏像と語る(Talking with Statues of Buddha)

担当者: 宮崎 晶子

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 金曜2限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格：**AL要素：** 16. 質疑と応答

授業の概要： 本講義では仏像が持つ意味を学ぶと同時に、仏教の教えや当時の社会背景を読み解き、「仏像と語る」というモノとの対話をうながす。
「生きることは苦しい」という観点に立つ仏教を知ることは、人間の普遍的な課題を知ることになる。自身が置かれている状況を客観的に把握する機会として捉えてもらいたい。
大乘仏教では理想を理想のままで終わらせないために、日々「菩薩道」を实践する。自己も他者も満たされるような「自利利他円満」とはどういうことなのか、現代社会が抱える課題に置き換えて、受講生にも考えてもらいたい。
※授業担当者自身は仏教徒ではありません。布教のための授業ではないので誤解しないでください。

キーワード： 仏像、美術史、図像学、菩薩**学位授与方針との関係****▼ 知識・技能**

到達目標： 仏像というモノからメッセージを読み解き、現代社会の課題に向き合える人物を目指す。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

評価方法： 期末レポート

評価割合： 50%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が期末レポートの記述内容により認められる場合は、評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ 公正性

直接的な評価対象としない。

評価割合： 0%

▼ その他

特になし

評価割合： 特になし

授業計画：

1. ガイダンス
2. 仏教の流れ
3. 不可視なるものを可視化する
4. 仏像がない時代
5. 原始仏教の経典
6. 各地域における受容のかたち
7. 初期大乘仏教経典と仏像①
8. 初期大乘仏教経典と仏像②
9. 初期大乘仏教経典と仏像③
10. 『華嚴経』における包摂性
11. 『大乘莊嚴法王経』と王権
12. 変化観音と多様化する社会
13. 密教と日本人
14. お寺が果たす役割
15. 衆生とともに

使用テキスト: 講義で使用する資料は印刷・配布する。

予習・復習のポイントと参考文獻・資料等: 課題は出さないが、社会問題にどう向き合え得るのか意識すること。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段: オフィスアワーに研究室で対応します。

留意事項: 特になし

科目コード: 14267 **科目ナンバリング:** **主な使用言語:** 日本語

授業名(英文): グローバルカルチャー論

担当者: 鈴木 晋介

基本情報

年次: 3

単位数: 2

授業形式: 講義

曜時: 木曜3限

履修可能学科・専攻: E Pe Pc C W F M

関連資格:

AL要素: 16. 振り返り用紙と応答

授業の概要: 本講義では、加速するグローバリゼーションがもたらす新たな文化の生成に着目し、そのメカニズムの考察を通じて現代世界の文化変容に関する理解を深めることを目指します。講義は大きく3部に分かれます。第1部(2~5回)では、文化概念や観察者自身のまなざしの位置の問題等、文化研究の基本的アプローチを論じます。第2部(6~9回)ではグローバリゼーションに関する概観ならびに鍵概念としてのグローカリゼーション(Glocalization)について議論します。第3部(10回~)は食文化や音楽を事例として、グローバリゼーションがもたらす文化の生成局面に接近します。また、担当教員の食品流通業界での実務経験をもとに日本における伝統野菜の復興という事例を取り上げ、「グローバルなもの」と「ローカルなもの」をめぐるまなざしの位置の問題を議論します。

キーワード: グローバリゼーション、グローカリゼーション(glocalization)、文化変容、ローカリティ

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標: 授業で学ぶ諸概念・用語や文化の比較をめぐる視点移行のダイナミズムのロジックに関して理解し論述することができる。

評価方法: 定期試験

評価割合: 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標: 授業で学ぶ個々のトピックに関して、自ら問題意識を深め、自分なりの考察と表現を行うことができる。

評価方法: リアクションペーパー

評価割合: 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等がレポートやアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、レポートやアクションペーパーの記述に著しい偏見や差別的表現がある場合は個別の指導ないし注意の対象となりうる。

評価割合：0%

▼その他

なし

評価割合：なし

授業計画：

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文化へのまなざし(1)文化人類学的視点
- 第3回 文化へのまなざし(2)文化概念について
- 第4回 文化へのまなざし(3)視点移行のダイナミズム
- 第5回 文化へのまなざし(4)文脈に潜り込むこと
- 第6回 グローバリゼーション概観-いくつかの定義から
- 第7回 グローバリゼーションはいつ始まったのか
- 第8回 グローバリゼーションを考えるための諸概念と理論(1)
- 第9回 グローバリゼーションを考えるための諸概念と理論(2)
- 第10回 グローバルな文化の生成(1)マクドナルド
- 第11回 グローバルな文化の生成(2)エイジアン・アンダーグラウンド
- 第12回 グローバルな文化の生成(3)ロック・ミュージック
- 第13回 「グローバルなもの」と「ローカルなもの」(1)まなざしの位置の問題
- 第14回 「グローバルなもの」と「ローカルなもの」(2)伝統野菜とローカリティ
- 第15回 まとめ

使用テキスト： 授業で用いる資料は印刷して配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業時に提示する参考論文や文献に自主的に目を通すことはもちろん、身近な生活のなかに存する異文化性や新たな文化の生成に対する鋭敏な感受性を養ってほしい。そのためにもニュースやネット記事などの論調を自分なりに批判的に検討する習慣を身に着けることを推奨する。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項： なし

科目コード：14268 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：文化多様性と現代世界(Cultural Diversity and the Modern World)

担当者：鈴木 晋介

基本情報

年次：3

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜3限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F M

関連資格：

AL要素：16. 振り返り用紙と応答

授業の概要： 本講義は、現代世界における文化の多様性に対する視野を広げるとともに、自らの生きる文化の相対化を通じた世界の再発見に取り組んでいくものです。講義でははじめに文化の多様性に関する認識方法や多様性をまなざす己の「視点の位置」に関する内省的な捉え直しの必要性を議論します。これらは多様性に満ちた現代世界にアプローチするための土台となる議論です。その後、「時間」と「他界観」という二つの具体的主題を順次取り上げます。あなたが「時間の絵」を描くとしたら、どんな絵になるでしょう？そのイメージは果して人類に普遍的でしょうか(そうでないとしたら、あなたの知る時間とは「異なる時間」が存在する?)。あなたは「他界」に関する想像をしたことがありますか？その想像力が構成する時空間もまた文化特長的なものかもしれません。本講義では、さまざまな映像資料なども交えつつ、わたしたちが当たり前のように生きている世界(あるいは、わたしたちの常識や想像力)を文化的、歴史的に相対化し、世界の多様性へと視界を広げていくことを試みます。

キーワード： 文化多様性、自己相対化、「時間」と現代文化、「他界観」と現代文化

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標： 授業で学ぶ諸概念・用語や各トピックの要点を概ね80%以上理解し解答することができる。

評価方法： 定期試験

評価割合： 80%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標： 授業で学ぶ個々のトピックに関して、自ら問題意識を深め、自分なりの考察と表現を行うことができる。

評価方法：リアクションペーパー

評価割合： 20%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修の成果等が学期末試験やリアクションペーパーの記述内容に認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合： 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合： 0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、学期末試験やリアクションペーパーに著しい偏見や差別的表現がある場合、個別の注意・指導の対象となりうる。

評価割合： 0%

▼その他

特になし

評価割合： 特になし

- 授業計画：**
- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文化の多様性とその認識(1) 文化本質主義の向こう側
 - 第3回 文化の多様性とその認識(2) 視点移行のダイナミズム
 - 第4回 「時間」という文化(1) 質的思考と数量的思考
 - 第5回 「時間」という文化(2) 時間の社会的レジーム
 - 第6回 「時間」という文化(3) すすむ、まわる、反復する
 - 第7回 「時間」という文化(4) 異なる時間
 - 第8回 「他界観」をめぐる多様性(1) 現代日本人にとっての「あの世」?
 - 第9回 「他界観」をめぐる多様性(2) キリスト教世界における「他界観」
 - 第10回 「他界観」をめぐる多様性(3) 上座部仏教と「輪廻の思想」
 - 第11回 「他界観」をめぐる多様性(4) 日本の他界観—祖先崇拜と浄土思想
 - 第12回 「他界観」をめぐる多様性(5) 映像資料で考える日本の他界観
 - 第13回 「他界観」をめぐる多様性(6) 不思議なものの世界の融合
 - 第14回 「他界観」をめぐる多様性(7) 不思議なものの世界と現代アニメ
 - 第15回 まとめ

使用テキスト： 授業で使用する資料は印刷し配布します。

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 授業時に提示する参考論文や文献に自主的に目を通すことはもちろん、身近な生活のなか
に存する異文化性に対する鋭敏な感受性を養ってほしい。そのためにもニュースやネット記事などの論調を自分なりに批判的に検討する習慣を身に着けることを推奨する。

障がいのある履修者への対応： 可能な範囲で対応します。まずは学務部に相談してください。

授業時間外の連絡手段： 個別に連絡してください。日時を確定し、研究室で対応します。

留意事項：なし

科目コード：14269 科目ナンバリング： 主な使用言語：日本語

授業名(英文)：旅行業務資格講座(Tourism Certificate Test Preparation)

担当者：何 晨

基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：講義

曜時：金曜2限

履修可能学科・専攻：E Pe Pc C W F N M

関連資格：

AL要素：17.発問と回答

授業の概要： コロナ禍が収まらない現在、観光産業は厳しい状況にある。しかし観光産業が無くなることはない。ポストコロナ時代には、観光産業は新しい形で拡大していこう。また、観光産業は地域活性化などにおいても重要なツールである。観光は将来性のある産業である。

将来観光関係の仕事に就く場合、事前に旅行業に関する基礎知識や資格を事前に有しておくことが求められる。旅行業における代表的な資格が「旅行業務取扱管理者」である。旅行業務資格講座では、まずは「国内旅行業務取扱管理者」の合格を目指し、過去問の練習に重点を置いた授業を行います。

キーワード： 旅行業務資格試験, 旅行業法, 約款, 観光実務

学位授与方針との関係

▼ 知識・技能

到達目標：「国内旅行業務取扱管理者」資格に合格するだけの知識や技能を習得する。

評価方法：授業ごとの課題, および学期末試験

評価割合：100%

▼ 思考力・判断力・表現力

到達目標：特になし

評価方法：特になし

評価割合：0%

▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない

評価割合：0%

▼ その他

直接的な評価対象とはしない

評価割合：直接的な評価対象とはしない

授業計画：

1. ガイダンス
2. 旅行業法①
3. 旅行業法②
4. 旅行業法③
5. 旅行業法④
6. 約款①
7. 約款②
8. 約款③

9. 約款④
10. 旅行実務①
11. 旅行実務②
12. 旅行実務③
13. 旅行実務④
14. 旅行実務⑤
15. まとめ

使用テキスト：・U-CAN 2022『2022年度版 旅行務取扱管理者速習レッスン:国内総合』U-CAN
・U-CAN 2022『2022年度版 旅行務取扱管理者過去問題集:国内』U-CAN

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 資格試験の合格を目指す授業であるため、予習・復習が重要となる。
・授業前に1時間ほど、『速習レッスン』を用いて授業内容の予習しておくこと。
・授業後には『過去問題集』を解き、授業内容を復習すること。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応します。まずは学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワー時間中に対応します。

留意事項： 試験資格の合格を目指す授業です。過去問をドリル方式で解いていきます。そのため、資格試験を目指さない学生の受講はお勧めしません。
なお、観光地に関する知識の習得が必須となります。『観光地理学』の受講をお勧めします。
